

秋 田 市

大 又 Ⅱ 遺 跡

—農地集積加速化基盤整備事業に伴う発掘調査報告書—

2022. 3 秋田市教育委員会

秋 田 市

大 又 Ⅱ 遺 跡


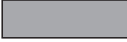
—農地集積加速化基盤整備事業に伴う発掘調査報告書—

2022. 3 秋田市教育委員会

例 言

- 1 本報告は、農地集積加速化基盤整備事業に伴う大又Ⅱ遺跡（秋田市雄和田草川字大又地内）の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本事業は、事業主体者が秋田県秋田地域振興局、調査担当者が秋田市教育委員会（秋田市観光文化スポーツ部文化振興課）となり実施した。本発掘調査経費については、事業主体者である秋田県秋田地域振興局が90.4%を負担し、農家負担分の9.6%は国庫補助金および県費補助金の交付を受けた。秋田市は、発掘作業・整理作業について業務委託し、株式会社イビソク秋田営業所が秋田市の監理のもと業務を受託した。なお、令和2年度に実施した試掘調査は、秋田市教育委員会が調査主体となり、令和2年度国庫補助金ならびに県費補助金の交付を受けて行った。
- 3 本発掘調査は、調査区をA・B区に分けて実施した。
- 4 本報告のうち、第1・2章、第3章第1節および第4章第1・2節の執筆を眞井田宏彰が行い神田和彦が補佐した。第4章第3節の執筆を神田が行った。それ以外を秋田市の指示・監理のもと業務受託者（株式会社イビソク秋田営業所菅井一希・山崎貴之・奥田弘和・佐々木和城）が行った。
- 5 発掘調査写真は、眞井田および業務受託者（株式会社イビソク秋田営業所菅井・山崎・奥田・佐々木）が撮影した。遺物写真は、秋田市の指示のもと業務受託者（株式会社イビソク秋田営業所山崎）が撮影した。
- 6 発掘調査で出土した炭化物および火山灰について、放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所に、テフラ分析を株式会社パレオ・ラボに依頼し、その結果を別編に掲載した。
- 7 出土遺物および記録類は、秋田市教育委員会が一括して保管する。遺物の注記は、遺跡略号の「OMⅡ」と出土グリッド・遺構名・層位を併記した。
- 8 発掘調査、整理作業の過程で下記の各氏より指導、助言を賜った。（敬称略・順不同）
秋田県秋田地域振興局農林部農村整備課、河辺郡芝野堰土地改良区、文化庁、秋田県教育委員会文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センター、小松正夫、高橋学、伊藤武士、利部修、安田忠市、谷地薫、小林克、袴田道郎

凡 例

- 1 図中には下記の略号を用いた。
SA：柱列塀・柱列跡、SB：掘立柱建物跡、SD：溝跡、SI：竪穴状遺構、SK：土坑、
SP：ピット、SX：性格不明遺構
- 2 図中の方位は、各図面に示した。
- 3 図中の地図は、秋田市管内図1/50,000、同1/25,000、都市計画図1/2,500を使用した。
- 4 本文中の遺物については、土器、土製品、石製品、鉄製品の基礎分類ごとに記述した。
- 5 古代の土器の名称は、秋田城跡歴史資料館の分類に基づく。赤褐色土器は成形にロクロを使用し、酸化炎焼成、非内黒の土器を指す。
- 6 土器の断面を黒く塗りつぶしたものが須恵器である。
- 7 遺物実測図中で、内面黒色処理は、煤の付着はの網掛けで図示した。
- 8 遺物実測図の縮尺は1/3、一部は1/6とし、それぞれ各図面に縮尺を示した。

目 次

例言・凡例

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理作業の経過	3
第2章 遺跡の位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の方法と成果	12
第1節 調査の方法	12
第2節 基本層序	14
第3節 遺構と遺物	14
第4章 まとめ	109
第1節 各遺構の年代について	109
第2節 遺構の変遷と特徴について	111
第3節 古代地域社会における大又Ⅱ遺跡の位置づけについて	117
別編 自然科学分析	125
第1節 放射性炭素年代（AMS測定）	125
第2節 テフラ分析	130
写真図版	133

報告書抄録

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

秋田県秋田地域振興局は、秋田市河辺畑谷および雄和田草川周辺で農地集積加速化基盤整備事業を計画していることから、埋蔵文化財保護の対応として秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行い、令和2年8月31日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。これを受けて秋田市教育委員会は、分布調査による現状確認と試掘調査を令和2年11月9～13日、30日に実施した。調査の結果、溝跡をはじめとする複数の遺構を確認した。そこで、新発見の遺跡「大又Ⅱ遺跡」として令和3年1月25日付けで秋田県教育委員会に届出をして登録した。

秋田県秋田地域振興局と秋田市教育委員会は遺跡の保護について協議した結果、事業予定地や設計等の変更は困難であることから発掘調査による記録保存を行うこととし、秋田市教育委員会はこの結果を秋田県教育委員会に報告した。秋田県秋田地域振興局は令和3年3月10日付けで秋田県教育委員会に土木工事等のための発掘に関する通知書（文化財保護法第94条）を提出した。これに対し秋田県教育委員会は、試掘調査の結果に基づき、令和3年3月23日付け教生-2300で発掘調査条件（「工事による掘削が埋蔵文化財に及ぶ場合」に該当）の通知をした。

この通知を受けて、秋田県秋田地域振興局は工事着手前に発掘調査を実施することとし、令和3年3月25日付けで秋田市教育委員会に事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を依頼し、令和3年5月24日付けで秋田県秋田地域振興局と秋田市は県営農地集積加速化基盤整備業務委託 畑谷地区として埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。事業主体者が秋田県秋田地域振興局、調査担当者が秋田市教育委員会（担当課：秋田市観光文化スポーツ部文化振興課）となり、令和3年10月31日までに発掘調査を完了し、引き続き令和4年3月22日まで整理作業を行うこととした。なお、秋田市は発掘作業・整理作業については業務委託することとし、入札の結果、株式会社イビソク秋田営業所が秋田市の指示・監理のもと業務を受託することになり、事業を実施した。

第2節 発掘作業の経過

試掘調査（令和2年度）

令和2年8月31日付けの事前調査依頼に基づき試掘調査を行った。試掘調査については令和2年度国庫補助金および県費補助金を用いて実施し、詳細については秋田市教育委員会 2021『令和2年度 秋田市遺跡確認調査報告書』で報告を行っている。

試掘調査体制（令和2年度）

調査期間 令和2年11月9～13日、30日

調査面積 613 m²（調査対象面積 358,000 m²）

調査担当者 秋田市教育委員会

調査体制 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課

課長 納谷 信広

文化財担当

副参事 岡部 友明

主席主査 神 田 和 彦 (調査担当)

主席主査 眞井田 宏 彰 (調査担当)

主 査 田 中 圭 紅

主 査 斎 藤 和 敏

主 任 堤 絵 莉 子

試掘調査により、溝跡や複数のピット等を検出し、赤褐色土器・フイゴ羽口・鉄滓等が出土したことから、区画溝で囲まれた集落跡で鍛冶等を行っている可能性が高いという所見を得た。このことから、事業実施にあたっては発掘調査が必要となるため事業者と協議し、調査の計画・積算を行った。

発掘作業（令和3年度）

調査区を南北に縦断する排水路の東側をA区、西側をB区として調査を実施した。6月17日、重機を用いて表土および造成土である第Ⅰ・Ⅱ層の除去をA区から開始した。表土除去が終わった場所から、順次グリッド打設と人力による遺構の精査を行った。6月30日、A区西端の排水路に並行する農道が近年の盛土造成によるものと判明し、区画溝の断面を確認するため盛土造成土を断ち割った。7月8日、B区での遺構精査を概ね終了し、調査区全体の遺構分布の概要を把握した。試掘調査では区画溝が調査区の縁辺を弧を描くように巡ると考えたが、遺構精査の結果、既に削平されているものの、調査区外に延びることが分かった。A区の調査を先行し、遺構の一段下げに並行して各遺構の掘り下げを進めることとした。8月2日から、A区に十字に設けた土層観察用ベルトを、小型重機で除去した。8月3日、A区西端から区画溝の掘り下げに着手した。8月4日、区画溝から火山灰様の粒子を検出。共伴する赤褐色土器の年代等から、十和田a火山灰の可能性があると考えた。8月20日、A区南側で検出した数基の方形プランが竪穴住居跡ではなく、現代の畝跡の集合体であることが判明した。8月30日、A区西端の区画溝掘り方底部で、材木が当たっていたと考えられる円形の痕跡が一定の間隔で複数見つかった。9月9日、B区に十字に設けた土層観察用ベルトを人力で除去し、B区で検出した遺構の一段下げおよび掘り下げに着手した。10月16日、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として定員を設けた形で現地説明会を開催し、36名の参加があった。10月26日、遺跡全景の空中写真撮影を行った。10月31日までに検出遺構および土層断面の記録化を終え、現場での調査を完了した。11月8日までにプレハブ・機材等を全て撤収し、全工程を終了した。

発掘作業体制（令和3年度）

調査期間 令和3年6月17日～10月31日

調査面積 約3,720㎡

事業主体者 秋田県秋田地域振興局

調査担当者 秋田市教育委員会

調査体制 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課

課 長 畠 山 健

文化財担当

副 参 事 岡 部 友 明 (調査担当)

主席主査 神 田 和 彦 (調査担当)

主席主査 眞井田 宏 彰 (主務者：調査担当)

主 査 田 中 圭 紅

主 査 齋 藤 和 敏

主 事 齊 藤 志 帆 子

業務受託者 株式会社イビソク秋田営業所

調査支援員 菅井一希

調査補助員 山崎貴之、佐々木和城

計 測 員 奥田弘和

調査作業員 相場武志、伊藤保一、大高晃悦、齊藤金広、齊藤康男、佐藤一夫、鈴木清隆、鈴木寿、鈴木浩慶、津島隆雄、中森一之、奈良孝二、長谷川秀樹、古戸由美、堀井健治、三浦アエ子、三浦正直、三浦喜男

第3節 整理作業の経過

整理作業（令和3年度）

発掘作業に引き続き、令和3年11月4日から、出土遺物等の室内整理作業を実施した。遺物洗浄（令和3年11月）、遺物接合（令和3年11月）、遺物注記（令和3年11月・令和4年2月）、遺構図面スキヤニング（令和3年11月）、遺物実測（令和3年12月～令和4年1月）、遺構図面トレース（令和4年1月）、遺構図面レイアウト（令和4年1月）、遺物写真撮影（令和4年1月下旬）、遺物図面トレース（令和4年1月中旬～2月上旬）、遺物図面レイアウト（令和4年2月上旬）、編集作業（令和4年2月）を実施し、印刷所へ入稿した。令和4年3月22日までに校正・製本・印刷物の送付を行い、全工程を終了した。出土遺物はコンテナ（内寸54×34×15cm）で15箱である。

整理作業体制（令和3年度）

作業期間 令和3年11月4日～令和4年3月22日

事業主体者 秋田県秋田地域振興局

調査担当者 秋田市教育員会

調査体制 秋田市観光文化スポーツ部文化振興課

課 長 畠 山 健

文化財担当

副 参 事 岡 部 友 明

主席主査 神 田 和 彦（整理担当）

主席主査 眞井田 宏 彰（主務者：整理担当）

主 査 田 中 圭 紅

主 査 齋 藤 和 敏

主 事 齊 藤 志 帆 子

業務受託者 株式会社イビソク秋田営業所

調査支援員 菅井一希

調査補助員 山崎貴之、佐々木和城

計 測 員 奥田弘和

整理作業員 齊藤淑子、佐藤摩利、高橋朋子、古戸由美、宮川さおり

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

大又Ⅱ遺跡は、JR奥羽本線四ツ小屋駅の南東約2.6km、雄物川と岩見川の合流点からは東南東に約3kmの岩見川左岸に位置し、北緯39°38′31″、東経140°9′46″（世界測地系：X=-39,530、Y=-57,540）、標高約10.5mの秋田市雄和田草川字大又地内に所在する（第1図）。国道13号線から主要地方道秋田雄和本荘線を南下し、市道本田畑谷線を東へ約800m進んだ場所である。遺跡からは、岩見川を挟んだ北側に御所野台地がよく見え、雄物川河口の先には男鹿半島を遠望できる。なお、岩見川および雄物川を下った北西13km先の高清水丘陵には、古代城柵官衙の秋田城跡がある。

大又Ⅱ遺跡の立地は、地形分類では岩見川低地に位置し、周辺は河川に隣接する低地、高位の台地・段丘地、さらに高い山地・丘陵地に分けられる（経済企画庁総合開発局国土調査課編1966、第2図）。令和2年度に行った遺跡事前調査の結果から、当該地は周辺の水田との比高が約1mある島状の地形であり、岩見川沿いに形成された自然堤防が何らかの理由で分断された場所と考えられる。また、遺跡の中央やや西よりに、水田の排水路が南北に縦断する（第3図）。

第2節 歴史的環境

周辺の遺跡

大又Ⅱ遺跡の北約2kmに御所野台地遺跡群が、東約4.5kmに七曲台遺跡群が位置するなど、周辺には数多くの遺跡が存在する。ここでは、秋田市教育委員会が昭和61年から63年に作成した『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』（秋田市教育委員会1989）および『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書—改訂版—』（秋田市教育委員会2002）、秋田県教育委員会が平成15年に作成した『秋田県遺跡地図（秋田・河辺地区版）』（秋田県教育委員会2004）などに基づいて、大又Ⅱ遺跡周辺の古代遺跡について概観する（第4図、第1・2表）。

岩見川を挟んで大又Ⅱ遺跡の北側（岩見川右岸）にある御所野台地は、秋田新都市開発関係事業に伴い台地の大部分を発掘調査した場所であり、発掘調査をした31遺跡のうち10箇所を超える遺跡で8世紀末から10世紀にかけての遺跡が見ついている。坂ノ上F遺跡（7）と深田沢遺跡（22）では、それぞれ2軒と6軒の竪穴住居跡の他に掘立柱建物跡が見つかった。出土遺物は須恵器が多く、墨書土器も伴う。一般的な集落というよりは、秋田城と密接な関係を持った遺跡と考えられる。下堤C遺跡（30）は、31軒の竪穴住居跡が見つかった特に大きな集落で、御所野台地の中心的なムラであったと考えられる。この遺跡の東西で竪穴住居跡の特徴が異なることは、時期差に加えて、外部から様々な文化が導入されたことや秋田城との関わりの結果とも考えられる。生産に関係する遺跡として、坂ノ上E遺跡（6）・下堤A遺跡（28）・野形遺跡（21）がある。坂ノ上E遺跡では、製鉄関係遺構が見つかった。半地下式竪形製鉄炉で、東側にトンネル式の炭窯が隣接する。下堤A遺跡では、竪穴住居跡4軒が見つかった他、フイゴ羽口が出土した。野形遺跡では、竪穴住居跡3軒の他に土器の焼成遺構が12基見つかった。土壙墓がまとめて確認された遺跡として、湯ノ沢F遺跡（17）がある。土壙墓は40基あり、平面形は多くが隅丸方形で、副葬品として鉄刀や銭貨・石帯・銅製帯金具などが出土した。秋田城に密接に関係した集団の墓地と考えられる。以上の他に、地藏田A遺跡（10）では竪穴住居跡5軒と掘立柱建物跡、湯ノ

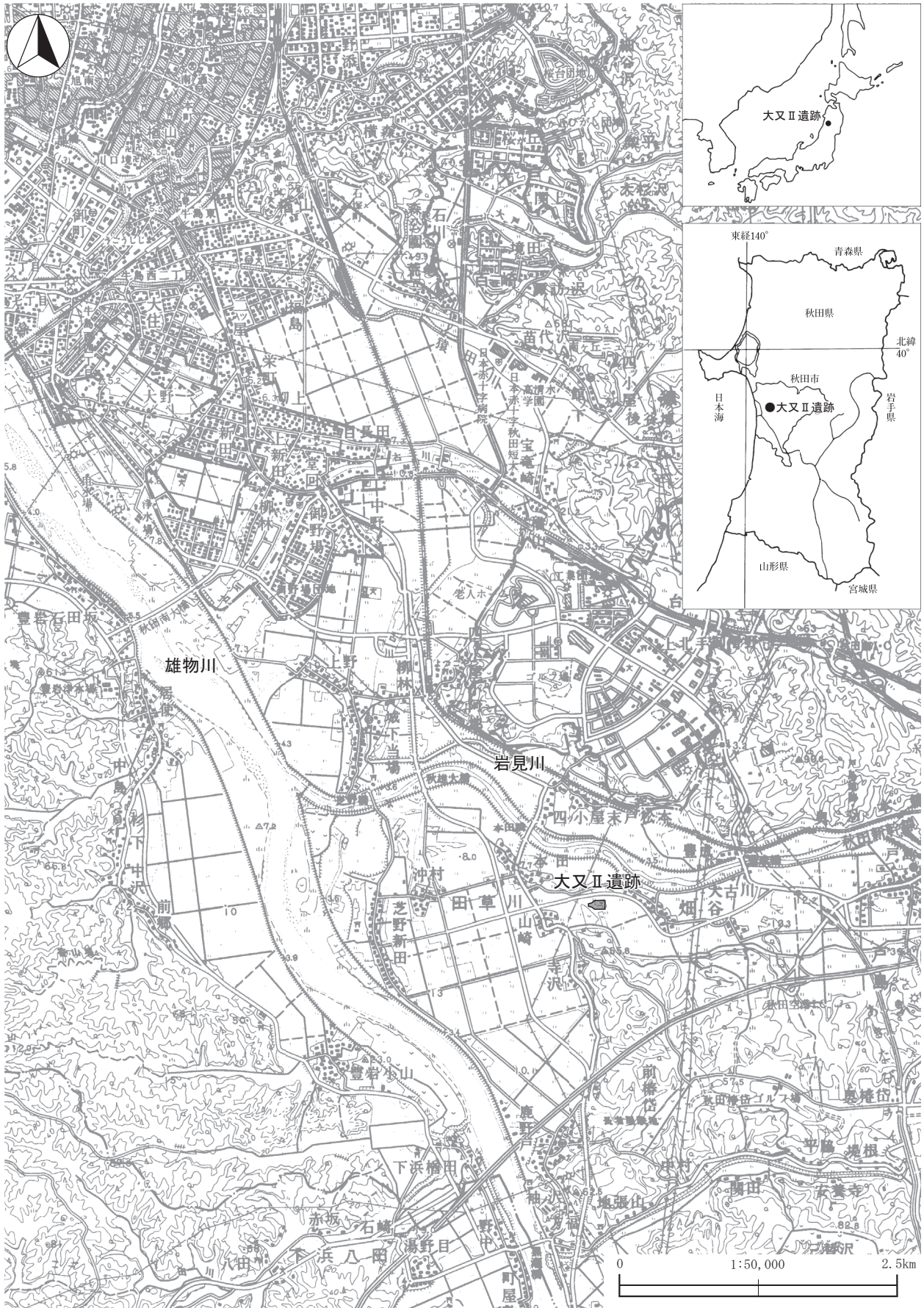
沢B遺跡(13)では竪穴住居跡1軒、秋大農場南遺跡(26)では竪穴住居跡1軒と土坑、下堤B遺跡(29)では竪穴住居跡3軒と土坑、下堤D遺跡(31)では竪穴住居跡3軒が見つまっている。また、湯ノ沢I遺跡(25)では、遺構は見つかっていないものの小型の土錘が67点出土している。

岩見川右岸では、上述の御所野台地遺跡群の他に、平安時代の遺跡として小阿地古墳(37)と虚空蔵大台滝遺跡(42)がある。小阿地古墳は、明治36年の奥羽本線鉄道敷地工事および大正6年の四ツ小屋駅停車場造成工事に伴う土取場の土砂採取の際に、竪穴遺構や花卉双蝶八花鏡・金銅装大刀・勾玉・管玉・須恵器などが見つかった。竪穴遺構は、奈良時代後期から平安時代初めに造られた古墳に伴う周堀(周溝)と考えられている。虚空蔵大台滝遺跡は、台地全域が平安時代後期の大規模な城館である。台地縁辺の平坦部で柵列、斜面で空堀や切岸が見つかり、灰釉陶器やかかわらけなどが出土した。

岩見川左岸は、右岸に比べて遺跡数が少ない。河辺松木台Ⅲ遺跡(松木台Ⅲ遺跡)(45)は、鍛冶を生業とした工人が住んだ小規模な集落と考えられる。竪穴住居跡4軒の他、焼土遺構や土坑などが見つかった。戸島上野I遺跡(上野遺跡)(55)は、台地の縁辺部に柵列が巡る集落である。竪穴住居跡6軒と掘立柱建物跡11棟などが見つかった。住居床から焼土遺構が見つかったことや鉄滓の出土から、鍛冶遺構の存在が推測される。他に、河辺松木台Ⅱ遺跡(松木台Ⅱ遺跡)(44)では土坑1基、岱Ⅲ遺跡(61)では竪穴住居跡1軒が見つまっている。

【引用・参考文献】

- 秋田市教育委員会 1982『秋田市 下堤D遺跡発掘調査報告書』
- 秋田市教育委員会 1983『秋田市 秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書-下堤G遺跡・野畑遺跡・湯ノ沢B遺跡-』
- 秋田市教育委員会 1984『秋田市 秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書-坂ノ上E遺跡・湯ノ沢A遺跡・湯ノ沢C遺跡・湯ノ沢E遺跡・湯ノ沢F遺跡・湯ノ沢H遺跡・野形遺跡-』
- 秋田県教育委員会 1985『七曲台遺跡群発掘調査報告書』
- 秋田市教育委員会 1985『秋田市 秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書-下堤E遺跡・下堤F遺跡・坂ノ上F遺跡・狸崎A遺跡・湯ノ沢D遺跡・深田沢遺跡-』
- 秋田市教育委員会 1986『秋田市 秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-地蔵田B遺跡・台A遺跡・湯ノ沢I遺跡・湯ノ沢F遺跡-』
- 秋田市教育委員会 1987『秋田市 秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-下堤C遺跡-』
- 秋田市教育委員会 1988『秋田市 秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-下堤A遺跡・下堤B遺跡-』
- 秋田市教育委員会 1989『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書』
- 秋田市教育委員会 1992『秋田市 秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-狸崎B遺跡・秋大農場南遺跡-』
- 秋田市教育委員会 1993『秋田市 秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-狸崎B遺跡・地蔵田A遺跡-』
- 秋田市教育委員会 1994『秋田市 秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-地蔵田A遺跡-』
- 秋田県教育委員会 2000『上野遺跡-日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書I-』



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図 (S=1/50, 000)

第2章 遺跡の位置と環境

秋田県教育委員会 2001『岱Ⅰ遺跡・岱Ⅱ遺跡・岱Ⅲ遺跡-日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅴ-』

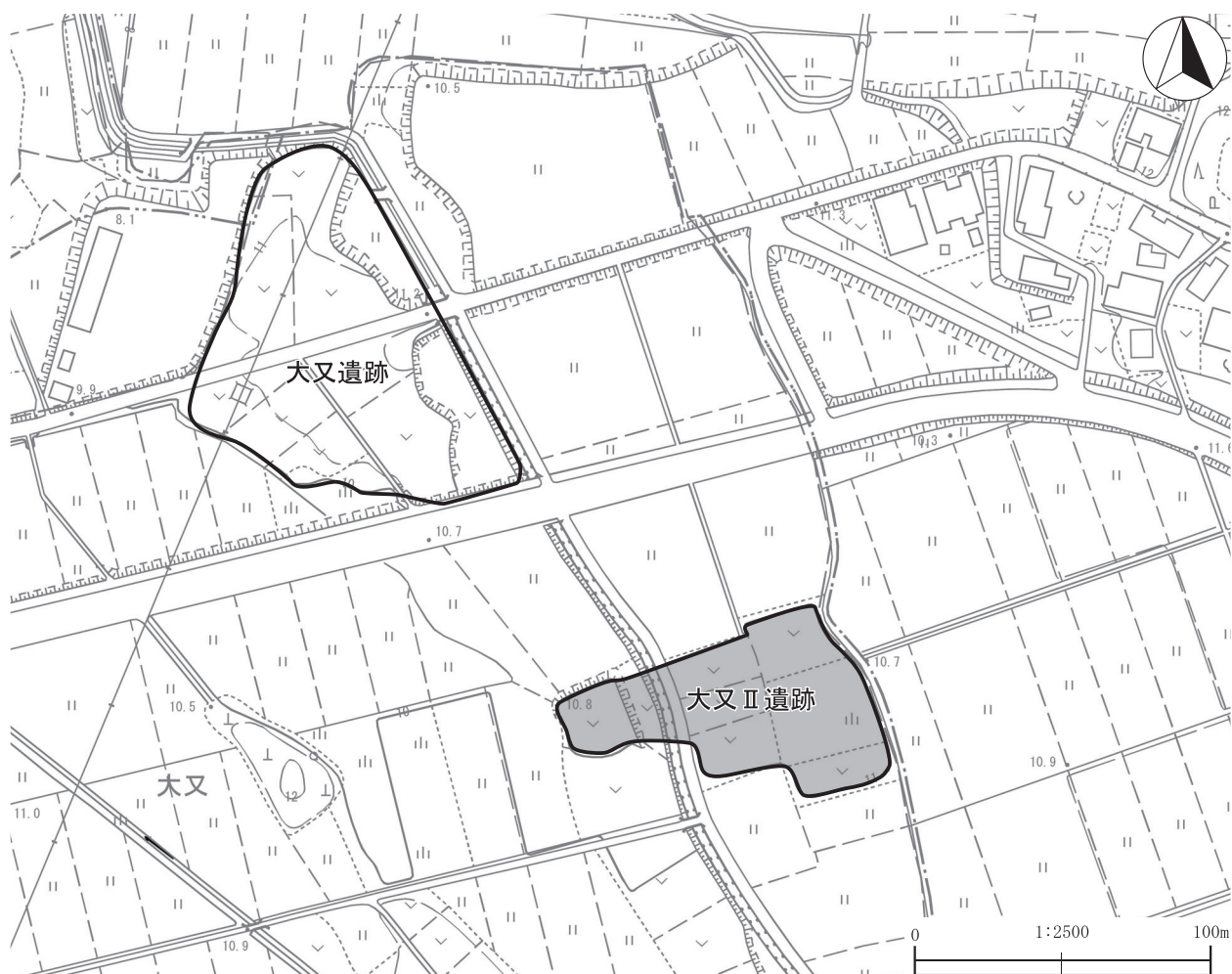
秋田市教育委員会 2002『秋田県秋田市遺跡詳細分布調査報告書-改訂版-』

秋田県教育委員会 2004『秋田県遺跡地図（秋田・河辺地区版）』

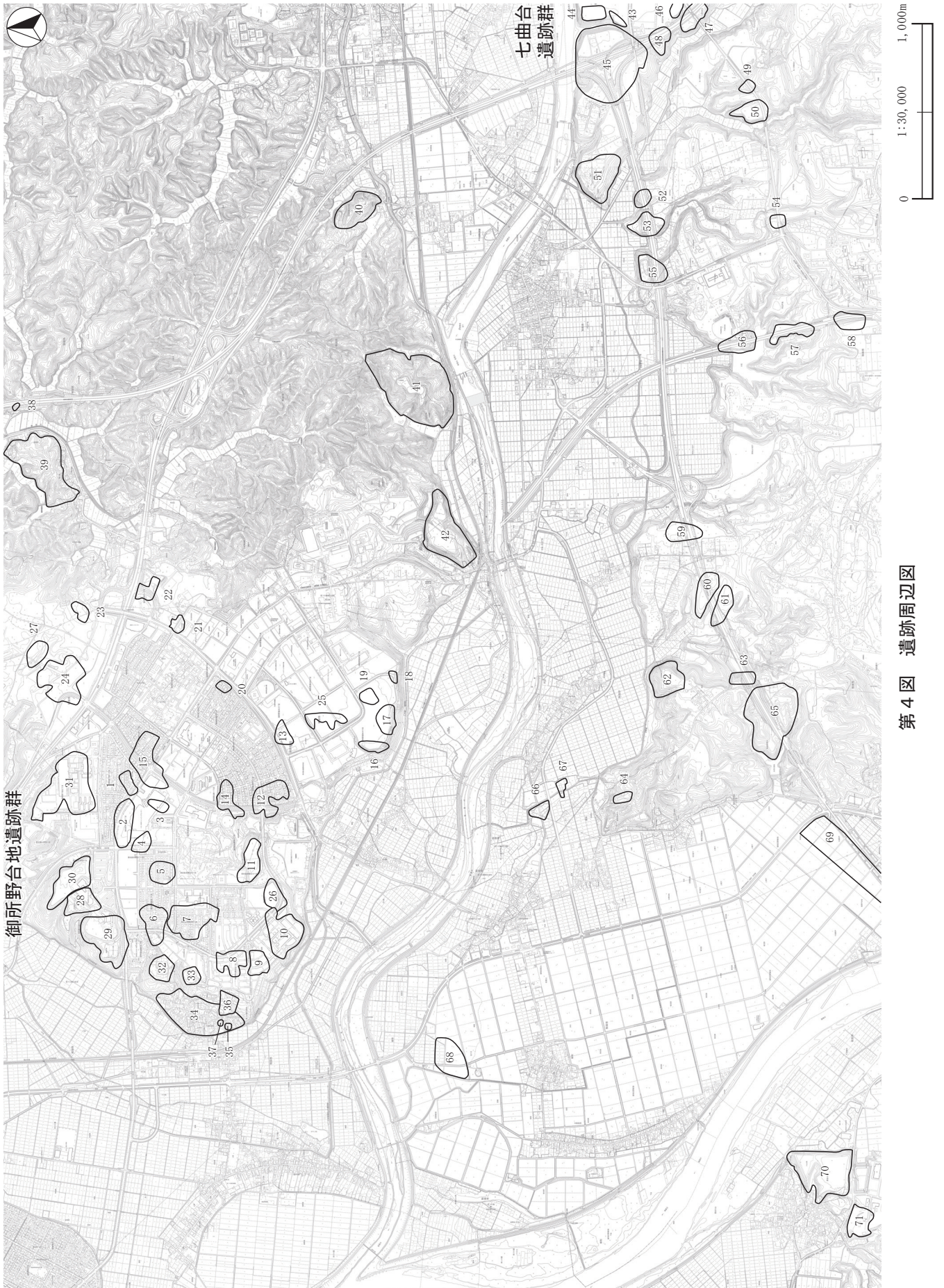
秋田市 2004『秋田市史 第1巻 先史・古代通史編』

秋田県教育委員会 2007『虚空蔵大台滝遺跡-主要地方道秋田御所野雄和線秋田空港アクセス道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-』

秋田市教育委員会 2011『秋田市 地蔵田遺跡-旧石器時代編-』



第3図 周辺の地形



第4図 遺跡周辺図

第1表 周辺の遺跡一覧(1)

番号	遺跡名	種別	所在地	時代	遺構/遺物
1	下堤E	集落跡	御所野下堤一丁目	縄文	竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑等/縄文土器・石器
2	下堤F	集落跡	御所野地蔵田一丁目、下堤一丁目	縄文	竪穴住居跡・土坑/縄文土器・土製品・石器等
3	下堤G	遺物包含地・集落跡	御所野地蔵田一丁目	旧石器・縄文	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構等/旧石器・縄文土器・石器
4	坂ノ上C	遺物包含地	御所野地蔵田一丁目	縄文	縄文土器・石器
5	坂ノ上D	遺物包含地	御所野地蔵田二丁目	縄文	縄文土器・石器・土製品
6	坂ノ上E	集落跡・製鉄炉跡	御所野地蔵田二丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・製鉄炉跡・炭窯/縄文土器・土製品・石器・石製品・須恵器・鉄滓・炉壁
7	坂ノ上F	集落跡	御所野地蔵田四丁目	旧石器・縄文・弥生・平安	竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑・埋設土器遺構・炉・掘立柱建物跡・柱列/旧石器・縄文土器・石器・土製品・弥生土器・赤褐色土器・土師器・須恵器等
8	狸崎A	集落跡・土墳墓群	御所野地蔵田四丁目、五丁目	縄文・弥生	竪穴住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・土墳墓/縄文土器・土製品・石器・石製品・弥生土器
9	狸崎B	遺物包含地・集落跡	御所野地蔵田五丁目	旧石器・縄文・弥生	竪穴住居跡・竪穴遺構・溝跡・土坑・焼土遺構・掘立柱建物跡/旧石器・縄文土器・石器・土製品・弥生土器
10	地蔵田A	遺物包含地・集落跡	御所野地蔵田五丁目	旧石器・縄文・平安	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑・溝状土坑/旧石器・縄文土器・弥生土器・須恵器・赤褐色土器
11	地蔵田(地蔵田B)	遺物包含地・集落跡・墓跡	御所野地蔵田三丁目	旧石器・縄文・弥生	竪穴住居跡・土墳墓・土器棺墓・土坑・木柵跡・掘立柱建物跡/旧石器・縄文土器・石器・土製品・弥生土器等
12	湯ノ沢A	集落跡	御所野元町七丁目	縄文・弥生	竪穴住居跡・土坑・土器埋設遺構等/縄文土器・弥生土器・土製品・石器等
13	湯ノ沢B	集落跡	御所野湯本三丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・土坑/縄文土器・石器・土師器・須恵器・赤褐色土器
14	湯ノ沢C	集落跡	御所野元町七丁目	縄文	竪穴住居跡・土坑/縄文土器・石器・石製品
15	湯ノ沢D	集落跡	御所野地蔵田一丁目他	縄文	竪穴住居跡・フラスコ状ピット・土坑・炭焼窯跡/縄文土器・石器・石製品等
16	湯ノ沢E	遺物包含地	御所野湯本六丁目	縄文	土坑・石組遺構/縄文土器・石器
17	湯ノ沢F	土坑・墓	御所野湯本六丁目	弥生・平安	土坑・土墳墓/弥生土器・土師器・須恵器・赤褐色土器・鉄製品(馬具・鉄鍬・刀)・帯金具・隆平永宝・漆皮箱
18	湯ノ沢G	遺物包含地	御所野湯本五丁目	縄文	縄文土器・石器
19	湯ノ沢H	集落跡・遺物包含地	御所野湯本六丁目	縄文・弥生	竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑/縄文土器・石器・弥生土器
20	野畑	集落跡	御所野元町五丁目	縄文	竪穴住居跡・土坑/縄文土器・石器
21	野形	集落跡・窯跡	御所野湯本一丁目	平安	竪穴住居跡・窯跡・土坑/土師器・須恵器・赤褐色土器・土鍾
22	深田沢	遺物包含地・集落跡	御所野湯本一丁目	弥生・平安	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑/弥生土器・石器・土師器・須恵器・赤褐色土器
23	台A	集落跡	上北手古野字台	縄文	竪穴住居跡・土坑等/縄文土器・石器・土製品
24	地方	集落跡・土墳墓群	上北手猿田字堤ノ沢	縄文	竪穴住居跡・掘立柱建物跡 土墳墓・土坑/縄文土器・石器・土製品・石製品
25	湯ノ沢I	遺物包含地	御所野湯本四丁目	弥生・平安	土坑/弥生土器・土師器・土鍾
26	秋大農場南	遺物包含地・集落跡	御所野地蔵田五丁目	旧石器・縄文・平安	竪穴住居跡・土坑・溝状土坑・土器埋設遺構・焼土遺構/旧石器・縄文土器・石器・赤褐色土器
27	台B	集落跡・遺物包含地	上北手猿田字堤ノ沢	縄文	竪穴住居跡・土坑/縄文土器・石器
28	下堤A	集落跡	御所野下堤五丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・フラスコ状ピット・土坑等/縄文土器・石器・土製品・土師器
29	下堤B	集落跡	御所野下堤五丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・フラスコ状ピット・土坑/縄文土器・石器・赤褐色土器・須恵器
30	下堤C	集落跡・遺物包含地	御所野下堤五丁目	縄文・平安	竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑/縄文土器・赤褐色土器・須恵器・土師器
31	下堤D	集落跡・遺物包含地	御所野下堤三丁目	旧石器・縄文・平安	竪穴住居跡・土坑・Tピット/旧石器・縄文土器・石器・土製品・赤褐色土器・土師器
32	坂ノ上A	集落跡	四ツ小屋小阿地字坂ノ上	縄文	竪穴住居跡・土坑・配石/縄文土器・石器・土製品
33	坂ノ上B	(祭祀跡)	四ツ小屋小阿地字坂ノ上	縄文	祭祀遺構/縄文土器・石棒・土製品・弥生土器棺
34	坂ノ下館	城館	四ツ小屋小阿地字坂ノ下	中世	
35	坂ノ下I	遺物包含地	四ツ小屋小阿地字坂ノ下23	縄文	縄文土器・石器

第2表 周辺の遺跡一覧(2)

番号	遺跡名	種別	所在地	時代	遺構/遺物
36	坂ノ下Ⅱ	遺物包含地	四ツ小屋小阿地字坂ノ下	縄文・平安	縄文土器・石器・土師器・須恵器
37	小阿地古墳	(古墳)	四ツ小屋小阿地字坂ノ下	奈良・平安	八花鏡・直刀・麻手刀・鉄斧・轡・勾玉・須恵器等
38	古野館	城館	上北手古野字四枚田他	中世	主郭・郭・腰郭・帯郭・空堀
39	古野	集落跡・遺物包含地	上北手古野字向老方	旧石器・縄文・平安・中世・近世	竪穴住居跡・土坑・掘立柱建物跡等/旧石器・縄文土器・須恵器・土師器・中世陶器・近世陶磁器・石器
40	薬師沢	遺物包含地	河辺北野田高野字薬師沢39他	中世	中世陶器片
41	豊島館跡	館跡	河辺戸島字戸島館79-5	中世	空堀・帯郭・土塁/陶片・刀・人骨
42	虚空蔵大台滝	館跡	河辺豊成字虚空蔵大台滝48-23他	縄文・平安・中世	土塁・空堀・帯郭・土坑・柵跡・柱穴・堀跡・焼土遺構/珠洲系中世陶器・かわらけ・須恵器・土師器・鉄製品・鉄滓
43	河辺松木台Ⅰ(松木台Ⅰ)	遺物包含層	河辺松測字松木台97	縄文・弥生	縄文土器片・弥生土器片
44	河辺松木台Ⅱ(松木台Ⅱ)	遺物包含層	河辺松測字松木台81	旧石器・縄文・平安	土坑・石囲炉・埋設土器・配石/旧石器・縄文土器・須恵器・石鏃・石錘・石匙
45	河辺松木台Ⅲ(松木台Ⅲ)	集落跡	河辺松測字松木台57他	旧石器・縄文・平安・近世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・柱列・Tピット・土坑・フラスコ状土坑・焼土遺構・配石遺構・ピット/旧石器・縄文土器・石器・須恵器・土師器
46	石坂台Ⅲ	遺物包含層	河辺戸島字石坂台232	縄文	土坑・Tピット・埋設土器/縄文土器・石鏃・石匙
47	石坂台Ⅷ	集落跡	河辺戸島字七曲石坂台168-3他	縄文・弥生・近代	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構/縄文土器・弥生土器・石器
48	石坂台Ⅸ	集落跡	河辺戸島字七曲285-1他	縄文	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構/縄文土器・石器
49	駒坂台Ⅰ	遺物包含地	河辺戸島字駒坂台83他	縄文	土坑/縄文土器・剥片・凹石
50	駒坂台Ⅱ	遺物包含地	河辺戸島字駒坂台80他	縄文	炉跡・組石遺構/縄文土器・石鏃・嘴状石器・楔形石器・筥状石器・スクレイパー
51	七曲台	遺物包含層	河辺戸島字七曲台2-2他	縄文・弥生	縄文土器片・弥生土器片
52	井戸尻台Ⅰ	集落跡	河辺戸島字井戸尻台49他	縄文・弥生	竪穴住居跡・竪穴状遺構・建物跡・土坑・土器埋設遺構・焼土遺構・柱穴用ピット/縄文土器・土偶・石器・石製品・弥生土器・陶器・寛永通寶
53	井戸尻台Ⅱ	遺物包含層	河辺戸島字井戸尻台5-24他	縄文	石匙
54	上祭沢	集落跡	河辺戸島字上祭沢38-4他	縄文・中世	竪穴住居跡・土坑・塚/縄文土器・中世陶器・石鏃・尖頭器・剥片・石核・凹石・磨石・石斧
55	戸島上野Ⅰ(上野)	集落跡	河辺戸島字上野119-3他	縄文・弥生・平安	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構・溝跡・掘立柱建物跡・性格不明遺構・柱穴状ピット/縄文土器・弥生土器・石器・土師器・須恵器・鉄製品・鉄滓・土製品
56	戸島上野Ⅱ	遺物包含層	河辺戸島字上野32-1他	縄文	土坑/縄文土器片
57	大堤山	遺物包含層	河辺戸島字大堤山27-2他	奈良・平安	溝跡/土師器片
58	奥椿岱	集落跡	雄和椿川字奥椿岱	縄文	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構・Tピット・集石遺構・柱穴
59	岱Ⅰ	遺物包含層	河辺畑谷字岱217-1他	縄文	陥し穴・土坑/縄文土器・石器
60	岱Ⅱ	集落跡	河辺畑谷字岱314他	縄文	竪穴住居跡・土坑・焼土遺構/縄文土器・石器・土師器・須恵器
61	岱Ⅲ	集落跡	河辺畑谷字岱286他	縄文・弥生・平安	竪穴住居跡・土坑・土器埋設遺構/縄文土器・石器・石製品・土師器・土製支脚
62	畑谷館	館跡	河辺畑谷字蟹沢132	平安	空堀・土塁/土器片・石鏃
63	蟹沢Ⅰ	遺物包含層	河辺畑谷字蟹沢143-10他	縄文	土坑・焼土遺構/縄文土器・石鏃・スクレイパー・剥片
64	山崎山	遺物包含層	雄和田草川字山崎山	縄文・平安	縄文土器・剥片・スクレイパー・須恵器
65	山崎山Ⅱ	遺物包含層	雄和田草川字山崎山	縄文	縄文土器片・搔器・剥片
66	大又	遺物包含層	雄和田草川字大又	奈良・平安	土師器片
67	大又Ⅱ	集落跡	雄和田草川字大又	平安	溝跡・ピット/赤褐色土器・フイゴ羽口・鉄滓
68	船ヶ沢	遺物包含層	雄和田草川字船ヶ沢	奈良・平安・中世	土師器片・中世陶器片
69	鹿野戸谷地	遺物包含地	雄和椿川字鹿野戸谷地30他	縄文・奈良・平安	土師器片・石器片・陶器片
70	小山館	城館・遺物包含地	豊岩小山字袖ノ沢	縄文・中世	石鏃・剥片
71	狐森	遺物包含地	豊岩小山字狐森	縄文	縄文土器・石器

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

調査対象地に一区画4 m×4 mのグリッドを設定した。グリッドは世界測地系座標にあわせて設定し、グリッド南北軸に算用数字（…49、50、51…）、グリッド東西軸に2文字のアルファベット（…MB・MA・LT…）を付し、各グリッドの南東隅の交点で両者を組み合わせてグリッド名とした。グリッド東西軸・南北軸の世界測地系は、第3表のとおりとなる。便宜上、調査対象地を南北に縦断する排水路を境に、東側の調査区をA区、西側の調査地をB区と呼称した。（第5図）

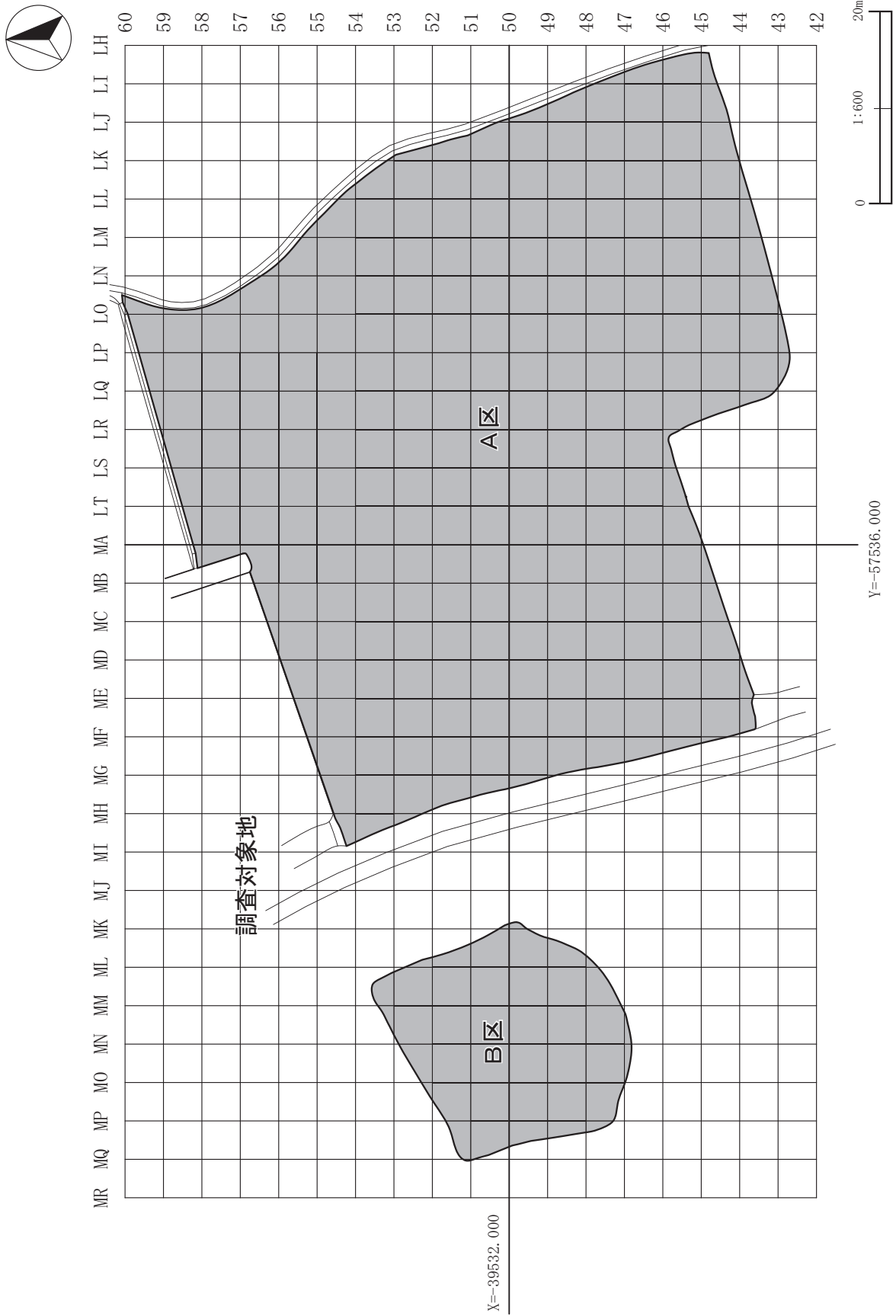
表土および造成土は、層を確認しながらバックホーを利用して除去し、途中で作業員による手掘りに切り替え掘り下げた。

遺物の取り上げは、グリッド名・層位等を記録したグリッド上げを基本とし、適宜、出土地点を記録して取り上げた。また、比較的規模が大きい遺構（S I 01、S K 07～09、S X 01など）については、遺構を4分割し、北東部分から時計回りにa・b・c・dグリッドと呼称し、取り上げた。

平面図の作成は、トータルステーションによる測量、オルソ画像のデジタルトレースを中心に行い、縮尺は必要に応じて適宜変更した。土層断面図は、1/20の縮尺で作成し、必要に応じて適宜変更した。遺構写真は35 mm版のモノクロフィルムおよびデジタル一眼レフカメラでRAW形式およびJPEG形式で記録した。遺物は調査終了時で、内寸54×34×15 cmのコンテナで15箱である。遺物は洗浄・接合・注記・復元作業を行い、実測図を1/1で作成した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラを使用し、RAW形式およびJPEG形式で記録した。

第3表 グリッド東西軸・南北軸の世界測地系座標

東西名	Y座標	東西名	Y座標	南北名	X座標	南北名	X座標
MR	-57604.000	MB	-57540.000	42	-39564.000	57	-39504.000
MQ	-57600.000	MA	-57536.000	43	-39560.000	58	-39500.000
MP	-57596.000	LT	-57532.000	44	-39556.000	59	-39496.000
MO	-57592.000	LS	-57528.000	45	-39552.000	60	-39492.000
MN	-57588.000	LR	-57524.000	46	-39548.000		
MM	-57584.000	LQ	-57520.000	47	-39544.000		
ML	-57580.000	LP	-57516.000	48	-39540.000		
MK	-57576.000	LO	-57512.000	49	-39536.000		
MJ	-57572.000	LN	-57508.000	50	-39532.000		
MI	-57568.000	LM	-57504.000	51	-39528.000		
MH	-57564.000	LL	-57500.000	52	-39524.000		
MG	-57560.000	LK	-57496.000	53	-39520.000		
MF	-57556.000	LJ	-57492.000	54	-39516.000		
ME	-57552.000	LI	-57488.000	55	-39512.000		
MD	-57548.000	LH	-57484.000	56	-39508.000		
MC	-57544.000						



第5図 調査対象地とグリッド配置図

第2節 基本層序

調査区の層序の詳細は第4表にまとめた。また、調査区の断面図は第12・13図に示した。土層の堆積はA区とB区で共通しているため、まとめて記載する。調査区で確認した土層の大まかな区分と概要を要約すると下記のとおりである。

第I-1層：(農道の盛土) 現在の農道である。直径2～3cmの碎石やアスファルト片、ビニール片などが混じる。

第I-2層：(調査区縁辺の盛土) 調査区周辺が造成された際の盛土である。暗褐色土あるいは黒褐色土にガラス瓶・ビニール片などが混じる。B区では、同類の層として第I-2'層・第I-2''層がある。

第I-3層：(耕作土) 現在の耕作土である。暗褐色土にビニール片が混じる。

第II-1層：(旧耕作土) 暗褐色土に黄褐色粘土ブロックが混じる。

第II-2層：(旧耕作土) 黄褐色粘質土に暗褐色土ブロックが混じる。

第III-1層：(地山) 自然堤防の河川堆積土で、黄褐色を呈する粘質土である。調査区全面に広がる。

第III-2層：(地山) 自然堤防の河川堆積土で、褐色砂に暗褐色砂が若干混じる。直上に第III-1層が堆積する。

第III-3層：(地山) 自然堤防の河川堆積土で、暗褐色砂に礫が混じる。直上に第III-2層が堆積する。

第3節 遺構と遺物 (第6～11・14～56図、第5～24表)

A・B区を合わせた調査区全体で370基の遺構を検出した(第6～11図)。遺構の検出面は、特記したもの以外はすべて第III-1層面である。

(1) A・B区に共通する検出遺構と出土遺物 (第14～20・46～51図)

A区とB区に共通する遺構は、柱列塀1条(SA01)、溝跡1条(SD01)である。SA01とSD01は同じ場所に位置し、SA01の上部を壊してSD01が作られている。以下で各遺構について述べるが、図面は一連で表現したものもある。なお、土層は埋土の性質によってA～Hに分類した。

SD01埋土

A：色調は黒色が主体の自然堆積層だが、炭化物や鉄滓等が混じるA②層より上の層は、堆積状況から人為的に埋められたと考えられる。

B：色調は褐色が主体の自然堆積層。十和田a火山灰が混じるB③層は、B層の中～下位にある。

C：掘り方の立ち上がりを整地した埋土。色調は暗褐色が主体で、主に黄褐色土がブロック状に混じる。

D：掘り方の底面を整地した埋土。色調は褐灰色が主体で、主に黄褐色粘土がブロック状に混じる。

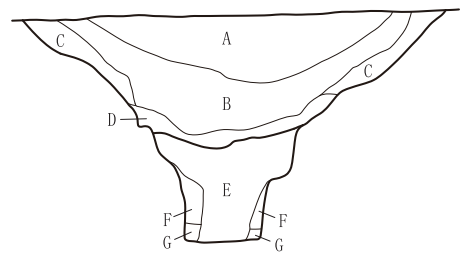
SA01埋土

E：SA01の材木を抜き取った埋土。色調は褐灰色が主体で、主に黄橙色粘土がブロック状に混じる。

F：掘り方埋土。粘土や砂が主体の層で、互層になることもある。

G：掘り方埋土のうち最下層。色調は黒褐色や褐灰色で、粘土に砂が混じる。

H：砂が主体の層で、粘土が混じることもある。グリッド軸のLS列からMB列の間で確認した。



挿図 SA01・SD01埋土模式図

溝跡

1号溝跡（SD01）（第14～20図、図版4～10）

SA01を壊して、その上位に位置する遺構である。幅1.6～2.4m、検出面からの深さは48～82cm、検出面からD層上面までの深さは40～69cmである。

壁は、垂直に立ち上がるSA01の壁に続いて、緩やかに立ち上がる。SA01と一連の断面形状は、漏斗形を呈する。SA01とSD01の掘り方の境界付近にはテラス状の平坦面があり、工具痕と考えられる痕跡が部分的に認められる（第19図、図版8）。土層の堆積状況および断面形状から、SD01は、SA01の材木を抜き取った凹みを利用して作られた溝跡と考えられる。埋土は、性質ごとにA～D層に分けられる（第5～9表）。B③層からは、十和田a火山灰が見つかった。

遺構上部の壁面で複数のピットを検出した（第14～16表「重複関係」に記載、第19・20図、図版7）。このうち、C層で検出したSP065・074・075・094・097はSD01に伴う可能性がある。

上記のピット以外では、SB07、SA01、SK02・08～11・50、SX01と重複する。SB07、SK02・50、SX01より古く、SA01、SK08・09・11より新しい。SK10との新旧関係は不明である。

1号溝跡（SD01） A層出土遺物（第46～49図、図版21～23・31）

須恵器（第46図1～3）：1は短頸壺の口縁部から頸部にかけての破片である。頸部下端外面に平行叩き痕が認められる。内外面に自然釉が付着する。2は長頸壺の頸部の破片である。3は長頸壺の体部上半の破片である。外面に2条のリング状の沈線文を施す。

土師器（第46図4～9、第47図10～12）：4～6は非ロクロ成形の甕の口縁部から体部にかけての破片である。4の体部外面はケズリ調整後、ミガキ調整を施す。内面はハケメ調整を施す。5は外面に指頭圧痕が認められる。6は内面に煤が付着する。内外面に指頭圧痕が認められる。7・8は非ロクロ成形の甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁部が「く」の字状に外反する。7は内面にハケメ調整を施す。内面に煤が付着する。8は外面にケズリ調整を施す。内面はいぶし処理を施す。9は非ロクロ成形の壺の頸部から体部上半にかけての破片である。頸部外面にハケメ調整を施す。内面はハケメ調整をし、いぶし処理を施す。内面に煤が付着する。10は甕の底部破片である。底部全面に砂粒が付着する。11・12は非ロクロ成形の甕の底部破片で、外面にケズリ調整を施す。11は底部全面に砂粒が付着する。12は底部中央に粗い砂粒が付着する。

赤褐色土器（第47図13～20）：13～20は坏である。13・15～17・19・20の底部切離しは、回転糸切り無調整である。14は口縁部内面に煤が付着する。20は高台部分が柱状高台を呈する。

土製品（第47図21・22、第48図23～26、第49図27）：21～25はフイゴ羽口の破片である。21以外は先端が被熱し、ガラス質の溶解物が付着する。26は埴状土製品である。欠損部以外に面取りを施す。二次的な被熱痕跡が認められる。27は不明土製品である。面取りを施しており、部分的に煤が付着する。二次的な被熱痕跡が認められる。

礫（第49図28）：表面に少量の鉄が付着する。欠損部以外の3面は平坦であり、金床石と考えられる。

鉄製品（第49図29・30）：29は刀子である。表面に木質が少量付着する。30は棒状の鉄製品である。両端が欠損する。

鍛冶関連遺物（図版31（1））：A層の上層で鉄滓が出土した（第23・24表）。グリッド軸のMB列からMF列の間が特に顕著である。鍛冶滓、椀形鍛冶滓であるが、比較的大きなものも含まれる。

1号溝跡 (SD01) B層出土遺物 (第50図、図版24)

須恵器 (第50図31~33): 31は坏である。器形は埴形で、口縁部は玉縁状を呈している。32は短頸壺である。頸部は垂直に立ち上がり、肩部外面に2条のリング状の沈線文を施す。重ね焼痕が認められる。33は甕の体部破片である。外面に平行叩き痕、内面に平行当て具痕が認められる。

土師器 (第50図34・35): 34・35は坏である。34は内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。底部切離しは、回転糸切り無調整である。35は内面にミガキ調整をし、黒色処理を施す。

赤褐色土器 (第50図36~43): 36~42は坏である。36は口唇部を面取りしている。37~42の底部切離しは、回転糸切り無調整である。43は皿である。底部切離しは、摩耗のため不明である。

土製品 (第50図44): 土錘である。

1号溝跡 (SD01) C層出土遺物 (第50図、図版25)

須恵器 (第50図45): 甕の体部破片である。外面に平行叩き痕、内面に同心円当て具痕が認められる。外面に自然釉が付着する。

赤褐色土器 (第50図46・47): 46・47は坏である。46の底部切離しは、静止糸切り無調整である。47の底部切離しは、静止糸切り後に軽いナデ調整を施す。体部下端外面に靱圧痕と思われる痕跡が認められる。

1号溝跡 (SD01) D層出土遺物 (第51図、図版25)

須恵器 (第51図48~50): 48は坏である。器形は埴形で、口縁部は玉縁状を呈している。49・50は壺の肩部破片である。外面に自然釉が認められる。49は内外面をナデ調整後にハケメ調整を施す。

土師器 (第51図51): 坏である。内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。底部切離しは、回転糸切り無調整である。

赤褐色土器 (第51図52~59): 52~59は坏である。52~54・57・58の底部切離しは、回転糸切り無調整である。55・56の底部切離しは、摩耗のため不明である。58・59は体部下端外面にケズリ調整を施す。

柱列堀

1号柱列堀 (SA01) (第14~19図、図版4~5・8~11)

調査区北寄りのLJ52、LK・LL52・53、LM・LN53・54、LO~MC54・55、MD~MG53・54、ML52、MM・MN51・52、MO50・51、MP50で検出した。遺構の上部をSD01に壊されており、下部が残存する。A区東端およびB区西端より先は調査区外に延びると推測されるが、過去の造成のため削平されている。また、A区西端およびB区東端も過去の造成のため削平されている。幅45~77cm、第Ⅲ-1層面からの深さ1.0~1.2mで、確認できた総延長は、既存の排水路の場所にも続くと推定すればA区東端からB区西端までで約110mを測る。方向はA区東側が西で北に24度、A区西側が東で北に31度、B区が東で北に28度振れる。また、LT55およびME54付近で蛇行する。

遺構の底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。一定の間隔で並ぶ柱痕跡を底面で確認した。柱痕跡の平面規模は直径16~35cm、平面形状は円形および楕円形である。このことから、SA01は材木を並べた柱列堀と考えられる。掘り方埋土は、ほぼすべてに粘土・粘質土が認められるが(F・G層)、グリッド軸のLS列からMB列の間は砂が主体(H層)である(第5~9表)。

また、MD54、ME・ME53の底面では、4箇所掘り方を検出した。P1は、長軸79cm、短軸32cmの楕円形で、深さは24cm、底面に2箇所の落ち込みがある。P2は、長軸63cm、短軸29cmの楕円形

で、深さは37cm、底面に3箇所の落ち込みがある。P3は、長軸61cm、短軸33cmの楕円形で、深さは32cm、底面に複数の落ち込みがある。P4は、長軸1.2m、短軸46cmの楕円形で、深さは30cmである。

SD01と重複し、これより古い。

1号柱列塀（SA01） E層出土遺物（第51図、図版26）

縄文土器（第51図60）：粗製深鉢である。外面に縄文原体LRの単節縄文を施す。

土師器（第51図61）：塀である。外面の口縁部付近と内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。

（2）A・B区の検出遺構と出土遺物（第21～45・51～56図）

SA01・SD01の他に検出した遺構は、A・B区でそれぞれ以下のとおりである（第10～16表）。

A区：掘立柱建物跡7棟（SB01～07）、柱列跡7条（SA02～08）、溝跡5条（SD02～06）、
 竪穴状遺構1基（SI01）、土坑49基（SK01～49）、ピット290基（SP001～290）、性
 格不明遺構1基（SX01）

B区：溝跡1条（SD07）、土坑1基（SK50）、ピット6基（SP291～296）

また、出土遺物は、須恵器、土師器、赤褐色土器、フイゴ羽口、鉄滓などである。

掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（SB01）（第21図、図版12・13）

A区東側のLN・LO50～52グリッドで検出した。6基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間2間（西から2.0m+2.0m）、桁行2間（北から2.3m+2.3m）で、建物方向は桁行が北で西に15度振れる。建物の北西部は攪乱で削平されており、当該部分にはP5・P6と対になる柱掘り方があったと推測される。柱掘り方は長軸49～62cm、短軸41～55cmの隅丸方形で、検出面からの深さは10～32cmである。P3の底面で15cm×17cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

1号掘立柱跡建物（SB01）出土遺物（第51図、図版26）

須恵器（第51図62）：P6から出土した、甕の体部破片である。

赤褐色土器（第51図63）：P1から出土した、坏の口縁部破片である。口唇部に面取りを施している。

2号掘立柱建物跡（SB02）（第22図、図版12・13）

A区西側のMA～MC48・49、MB・MC50、MB51グリッドで検出した。11基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間2間（西から2.65m+2.65m）、桁行4間（北から3.2m+1.5m+1.5m+3.2m）で、建物方向は桁行が北で西に22度振れる。柱掘り方は長軸47～67cm、短軸35～62cmの隅丸方形で、検出面からの深さは5～28cmである。P1・3・4・7～11の底面で長軸9～21cm、短軸8～16cmの柱痕跡を確認した。

2号掘立柱跡建物（SB02）出土遺物（第51図、図版26）

土師器（第51図64）：P10から出土した、非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面にケズリ調整を施す。内面に煤が付着する。

赤褐色土器（第51図65・66）：65はP4から出土した、坏の口縁部破片である。66はP11から出土した、坏の体部破片である。

3号掘立柱建物跡（S B03）（第23図）

A区東側のL L～LM48・49グリッドで検出した。7基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間2間（北から2.6m+3.5m）、桁行2間（西から3.15m+3.15m）で、建物方向は桁行が東で北に21度振れる。北東隅の柱掘り方は確認できなかった。柱掘り方は長軸28～35cm、短軸26～29cmの円形および楕円形で、検出面からの深さは21～31cmである。

4号掘立柱建物跡（S B04）（第24図、図版13）

A区東側のL J47・L K～L L47・48グリッドで検出した。12基の柱掘り方からなる総柱の掘立柱建物跡である。梁間2間（北から2.4m+2.4m）、桁行3間（西から2.2m+2.4m+2.2m）で、建物方向は桁行が東で北に9度振れる。柱掘り方は長軸23～42cm、短軸17～35cmの円形および楕円形で、検出面からの深さは9～47cmである。P1の底面で7cm×8cmの円形を呈する柱痕跡を確認した。

4号掘立柱跡建物（S B04）出土遺物（第51図、図版26）

土師器（第51図67）：P6から出土した、非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面にケズリ調整を施す。

5号掘立柱建物跡（S B05）（第25図）

A区中央南側のL N45～47、L O45・46グリッドで検出した。6基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間1間（3.4m）、桁行2間（北から3.1m+3.1m）で、建物方向は桁行が北で西に6度振れる。柱掘り方は長軸36～48cm、短軸32～39cmの円形および楕円形で、検出面からの深さは27～57cmである。

6号掘立柱建物跡（S B06）（第26図）

A区西側のL T～MB48、L T・MA49グリッドで検出した。6基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間1間（2.9m）、桁行2間（西から2.6m+2.6m）で、建物方向は桁行が東で北に4度振れる。柱掘り方は長軸32～47cm、短軸26～37cmの楕円形で、検出面からの深さは16～36cmである。P4の底面で10cm×11cm、P5の底面で12cm×17cmの円形および楕円形を呈する柱痕跡を確認した。

7号掘立柱建物跡（S B07）（第27図、図版14）

A区中央北側のL T・MA54・55グリッドで検出した。6基の柱掘り方からなる掘立柱建物跡である。梁間1間（2.3m）、桁行2間（西から1.5m+1.7m）で、建物方向は桁行が西で北に15度振れる。柱掘り方は長軸25～37cm、短軸23～37cmの円形で、検出面からの深さは12～28cmである。

S D01と重複し、これより新しい。

柱列跡

2号柱列跡（S A02）（第28図、図版14）

A区中央北寄りのL Q54グリッドで検出した。3基の柱掘り方からなる「L」字状の柱列跡である。柱間隔は東西1間（1.2m）、南北1間（0.3m）で、方向は東で北に5度振れる。柱掘り方は長軸18

～27cm、短軸 18～24cm の円形で、検出面からの深さは 15～28cm である。P 2 と P 3 の間にある浅い攪乱は掘り込みが浅いが、上部の削平を受けたとすれば S A02 を構成する柱掘り方の可能性もある。

3号柱列跡（S A03）（第 28 図、図版 14）

A 区中央北寄りの L R54 グリッドで検出した。4 基の柱掘り方からなる「L」字状の柱列跡である。柱間間隔は東西 2 間（西から 0.6m+0.6m）、南北 1 間（0.4m）で、方向は東で北に 10 度振れる。柱掘り方は、長軸 17～28cm、短軸 12～23cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 8～32cm である。

4号柱列跡（S A04）（第 28 図）

A 区東側の L M・L N52 グリッドで検出した。3 基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は東西 2 間（西から 1.65m+1.65m）で、方向は東で北に 6 度振れる。柱掘り方は長軸 20～32cm、短軸 14～23cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 17～18cm である。

5号柱列跡（S A05）（第 28 図）

A 区東側の L L・L M51 グリッドで検出した。3 基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は東西 2 間（西から 1.9m+1.9m）で、方向は東で北に 5 度振れる。柱掘り方は長軸 21～25cm、短軸 18～20cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 18～22cm である。

6号柱列跡（S A06）（第 29 図）

A 区中央南寄りの L P・L Q49、L Q・L R48 グリッドで検出した。3 基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は東西 2 間（西から 2.1m+2.1m）で、方向は東で北に 10 度振れる。柱掘り方は長軸 35～50cm、短軸 30～36cm の楕円形で、検出面からの深さは 34～42cm である。P 3 の底面で 14cm×14cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

7号柱列跡（S A07）（第 29 図、図版 14）

A 区南西側の M B44・45 グリッドで検出した。3 基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は南北 2 間（南から 1.5m+2.0m）で、方向は北で西に 7 度振れる。柱掘り方は長軸 36～41cm、短軸 35～37cm の円形で、検出面からの深さは 16～30cm である。P 1 の底面で 10cm×12cm の円形を呈する柱痕跡を確認した。

8号柱列跡（S A08）（第 29 図）

A 区南西側の M C44、M D44・45 グリッドで検出した。3 基の柱掘り方からなる柱列跡である。柱間間隔は南北 2 間（南から 1.2m+2.5m）で、方向は北で西に 7 度振れる。柱掘り方は長軸 28～49cm、短軸 25～38cm の円形および楕円形で、検出面からの深さは 13～40cm である。

溝跡

2号溝跡（S D02）（第 30 図、図版 15）

A 区東側の L K・L L51 グリッドで検出した。幅 42cm、長さ 1.7m 以上、検出面からの深さは 19cm

である。断面形は逆台形状を呈する。溝の方向は北で東に35度振れる。

SK19・SP173～175・SX01と重複し、これより古い。

3号溝跡（SD03）（第30図）

A区東側のLM・LN50・51グリッドで検出した。幅72～96cm、長さ4.5m、検出面からの深さは6～10cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は東で北に17度振れる。

4号溝跡（SD04）（第30図）

A区東側のLJ48～50グリッドで検出した。幅1.1～1.5m、長さ9.0m以上、検出面からの深さは10cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は北で東に6度振れる。北東側は調査区外に延びると推測されるが、過去の造成により削平されている。

SP210と重複し、これより古い。

5号溝跡（SD05）（第30図）

A区西側のMA・MB49グリッドで検出した。幅35cm、長さ2.6m、検出面からの深さは6cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は東で北に6度振れる。

6号溝跡（SD06）（第31図）

A区南東側のLI・LJ44～46グリッドで検出した。幅1.2～1.7m、長さ9.3m以上、検出面からの深さは10cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は北で東に4度振れる。南側は調査区外に延びると推測されるが、過去の造成により削平されている。

SK39・SP264・279・280と重複し、SK39・SP279・280より古く、SP264より新しい。

7号溝跡（SD07）（第31図）

B区南東側のML49グリッドで検出した。幅35cm、長さ1.2m、検出面からの深さは3cmである。断面形は皿状を呈する。溝の方向は東で北に21度振れる。

竪穴状遺構

1号竪穴状遺構（S101）（第32～34図、図版15・16）

A区東側のLK・LL49～51グリッドで検出した。長軸6.3m、短軸5.6mの不整形で、検出面から6・7層面までの深さは22cm、第Ⅲ-1層面までの深さは25～32cmである。概ね平坦な6・7層面の北辺と東辺で周溝を検出した。周溝の深さは、検出面から5cmである。また、同じ面でピットを18基（P1～18）、西辺中央付近で粘土が多く混じる範囲を検出した。硬化していないものの、この面が床面と考えられる。遺構の掘り方は、北東側でやや深く、7層が厚く堆積する。第Ⅲ-1層面でピットを7基（P19～25）検出した。

SP193・211と重複し、これより古い。

1号竪穴状遺構（S101）埋土出土遺物（第52図、図版26・27・31）

土師器（第52図68・69）：68は埴である。内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。69は

非ロクロ成形の甕の口縁部から体部にかけての破片である。口縁部が「く」の字状に外反する。内面は、口縁部から頸部にかけてを横方向のミガキ調整、その下の体部をハケメ調整し、いぶし処理を施す。外面は、頸部から体部にかけてケズリ調整後にミガキ調整を施す。SD01のA層出土土師器と接合する。

赤褐色土器（第52図70）：甕の体部破片である。外面はケズリ調整後に平行叩き痕、内面はハケメ調整後に同心当て具痕が認められる。

土製品（第52図71）：フイゴ羽口の破片である。ガラス質の溶解物が付着する。

石製品（第52図72）：石錘である。隆帯状の凸部が全周する。

鍛冶関連遺物（図版31（2））：鉄滓が出土した（第24表）。鍛冶滓および碗形鍛冶滓である。

1号竪穴状遺構（S I 01）粘土範囲出土遺物（第52図、図版27）

土師器（第52図73・74）：73・74は非ロクロ成形の甕である。73は口縁部から体部にかけての破片である。74は底部の破片で、外面にケズリ調整を施す。底部中央に砂粒が付着する。

赤褐色土器（第52図75）：甕である。体部下端にヘラケズリ調整を施す。底部切離しは、回転糸切り無調整である。

土坑

直径が概ね50cm以上で、断面形が皿状を呈するものを土坑とした。遺物が出土した土坑のうち主なものについて記述し、他の土坑については、図面のみ掲載した（第35～43図）。

7号土坑（SK07）（第36図、図版17・18）

A区北西側のMC53・54グリッドで検出した。長軸1.5m、短軸1.1mの楕円形で、検出面からの深さは24cmである。底面でピットを4基検出した。

SK10・SP129と重複し、SP129より新しい。SK10との新旧関係は不明である。

7号土坑（SK07）出土遺物（第53図、図版27）

須恵器（第53図76）：甕の体部破片である。外面に格子目叩き痕、内面に平行当て具痕が認められる。

8号土坑（SK08）（第36図、図版17・18）

A区北西側のMC・MD53、MD54グリッドで検出した。長軸2.2m、短軸2.0mの円形で、検出面からの深さは76cmである。底面でピットを2基検出した。

SD01・SK11・SP130と重複し、SD01より古く、SK11より新しい。SP130との新旧関係は不明である。

8号土坑（SK08）出土遺物（第53・54図、図版27～29）

須恵器（第53図77～79）：77～79は坏である。77・78の底部切離しは、回転糸切り無調整、79は底部切離し後ナデ調整を施す。

土師器（第53図80～82）：80～82は埴である。80・81は内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。82は内面にミガキ調整をし、黒色処理を施す。底部切離し後ナデ調整を施す。高台が剥がれた痕跡が認められる。

赤褐色土器（第53図83～90、第54図91～94）：83～94は坏である。83・84・86～93の底部切離しは、回転糸切り無調整である。86は体部下端外面にケズリ調整を施す。85・94の底部切離しは、摩耗のため不明である。

土製品（第54図95）：不明土製品である。面取りを施している。二次的な被熱痕跡が認められる。

9号土坑（SK09）（第37図、図版18）

A区北西側のMC・MD53グリッドで検出した。長軸1.8m、短軸1.3mの楕円形で、検出面からの深さは45cmである。

SD01と重複し、これより古い。

9号土坑（SK09）出土遺物（第54図、図版29）

土師器（第54図96・97）：96は埴である。内面に横方向のミガキ調整をし、黒色処理を施す。97は非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面にケズリ調整を施す。

赤褐色土器（第54図98・99）：坏である。底部切離しは、回転糸切り無調整である。

16号土坑（SK16）（第38図、図版19）

A区西側のMD・ME52グリッドで検出した。長軸2.1m、短軸1.7mの楕円形で、北東側へ向かって徐々に深くなる。検出面からの深さは南西で約10cm、北東で約1.1mで、壁は北東側で急に立ち上がる。壁の途中には厚さ22～29cm、奥行18～33cmの規模でオーバーハングする部分が全周する。底部は複雑に掘り込まれている。

SP169と重複し、これより新しい。

16号土坑（SK16）出土遺物（第54図、図版29）

須恵器（第54図100）：甕の体部破片である。外面に格子目叩き痕、内面に平行当て具痕が認められる。

土製品（第54図101）：不明土製品である。面取りを施している。

20号土坑（SK20）（第39図）

A区東側のLJ50グリッドで検出した。長軸1.8m、短軸1.0m以上の円形を呈すると考えられ、検出面からの深さは30cmである。東側を過去の造成により削平されている。

20号土坑（SK20）出土遺物（第54図、図版29）

赤褐色土器（第54図102）：坏である。

24号土坑（SK24）（第39図、図版19）

A区西側のLT49、MA48・49グリッドで検出した。長軸93cm、短軸82cmの円形で、検出面からの深さは64cmである。壁は垂直に立ち上がり、壁の途中には厚さ14～24cm、奥行20～23cmの規模でオーバーハングする部分が全周する。

SP225・226と重複し、これより新しい。

24号土坑（SK24）出土遺物（第54図、図版29）

須恵器（第54図103）：坏である。底部切離し後、ナデ調整を施す。

土師器（第54図104）：非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面に幅の広いケズリ調整を施す。

32号土坑（SK32）（第41図）

A区西側のMB47・48グリッドで検出した。長軸2.5m、短軸2.0mの不整楕円形で、検出面からの深さは19～28cmである。

SK33と重複し、これより新しい。

32号土坑（SK32）出土遺物（第55図、図版30）

土師器（第55図105・106）：105・106は非ロクロ成形の甕の口縁部から体部にかけての破片である。口縁部が「く」の字状に外反する。105は外面に指頭圧痕が認められる。106は体部外面にケズリ調整を施す。

赤褐色土器（第55図107・108）：107・108は坏である。底部切離しは、回転糸切り無調整である。108は胎土中に海綿骨針が含まれる。

34号土坑（SK34）（第41図）

A区西側のMB・MC47グリッドで検出した。長軸73cm、短軸70cmの円形で、検出面からの深さは42cmである。

SK33と重複し、これより新しい。

34号土坑（SK34）出土遺物（第55図、図版30）

土師器（第55図109）：非ロクロ成形の甕の体部破片である。外面にハケメ調整を施す。

土製品（第55図110）：不明土製品である。面取りを施している。

45号土坑（SK45）（第43図）

A区南西側のMA・MB45・46グリッドで検出した。長軸2.5m、短軸2.3mの不整円形で、検出面からの深さは20cmである。

45号土坑（SK45）出土遺物（第55図、図版30）

土師器（第55図111）：非ロクロ成形の甕の体部破片である。内外面にハケメ調整を施す。

49号土坑（SK49）（第43図、図版19）

A区南東側のLL・LM44グリッドで検出した。長軸1.5m、短軸1.4mの円形で、検出面からの深さは29cmである。

49号土坑（SK49）出土遺物（第55図、図版30）

須恵器（第55図112）：壺の体部上半から底部である。体部上半外面に並行叩き痕、下半にケズリ調整、体部上半内面にカキ目調整を施す。底部内面および体部外面に自然釉が付着する。体部上半外面に靱圧痕と思われる痕跡が認められる。

土師器（第55図113）：非ロクロ成形の甕の頸部から体部上半にかけての破片である。頸部外面にナデ調整、それ以外の内外面はハケメ調整を施す。

性格不明遺構**1号性格不明遺構（SX01）（第44・45図、図版20）**

A区東側のLJ51・52、LK51～53グリッドで検出した。長軸5.1m以上、短軸4.7mの不整形で、

検出面からの深さは58cmである。東側は、過去の造成により削平されている。壁は緩やかに立ち上がり、底面は概ね平坦である。底面でピットを3基検出した。また、南側の底面で溝状の落ち込みを3箇所、不整形の落ち込みを1箇所検出した。

SD01・02、SK13・19、SP135・173と重複し、SK13・19、SP135より古く、SD01・02、SP173より新しい。

1号性格不明遺構（SX01）出土遺物（第56図、図版31）

須恵器（第56図114～116）：114は坏である。底部切離しは、回転糸切り無調整である。115は甕の口縁部の破片である。116は甕の体部破片である。外面にケズリ調整を施す。

土師器（第56図117）：台付埴である。内外面に黒色処理を施す。

赤褐色土器（第56図118）：坏である。

土製品（第56図119）：不明土製品である。面取りを施している。

ピット

直径が概ね50cm未満で、壁が垂直ぎみに立ち上がるものをピットとした（第14～16表）。

遺構外出土遺物（第56図、図版31）

石製品（第56図120）：第I層で出土した。4面を使用している砥石である。

第4表 基本土層注記一覧

層名	性質	色調	しまり	粘性	備考
I-1	農道の盛土	灰黄褐色土(10YR4/2)に碎石(φ2~3cm)、アスファルト片、ビニール等が混じる。	非常にあり	なし	
I-2	調査区縁辺の盛土	黒褐色土(10YR2/3)・暗褐色土(10YR3/3)にガラス瓶、ビニール等が混じる。	あり	なし	B区で確認
I-2'		暗褐色土(10YR3/4)。	あり	ややあり	
I-2''		褐灰色土(10YR4/1)。	あり	ややあり	
I-3	耕作土	暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色土ブロック(2.5YR6/6, φ1cm)、ビニール片が混じる。	あり	なし	
II-1	旧耕作土	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色粘土ブロック(2.5YR5/6, φ2~3cm)が多量に混じる。	あり	ややあり	
II-2	旧耕作土	黄褐色粘質土(2.5YR5/6)に暗褐色土ブロック(10YR3/4, φ1~5cm)が少量混じる。	あり	あり	一部で薄く確認
III-1	地山	黄褐色粘質土(10YR5/8)。	あり	なし	
III-2		褐色砂(10YR4/6)に暗褐色砂(10YR3/3)が少量混じる。	あり	なし	
III-3		暗褐色砂(10YR3/3)に礫(φ1~7cm)が混じる。	あり	なし	

第5表 SA01・SD01土層注記一覧(1)

3箇所以上の断面で確認した共通の層

層名	色調	しまり	粘性	備考
A①	黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色砂質土粒(10YR5/6)が混じる。炭化物(φ0.5cm)が少量混じる。	あり	ややあり	
A②	黒褐色土(10YR2/2)に炭化物(φ0.5~1cm)、焼土ブロック(10YR5/8, φ0.5~1cm)が非常に多く混じる。	あり	ややあり	
A②'	黒褐色土(10YR2/2)に炭化物(φ0.5~1cm)、焼土ブロック(10YR5/8, φ0.5~1cm)が非常に多く混じる。	あり	なし	A②と同じだが、炭化物が集中する
A②''	黒褐色土(10YR2/3)に炭化物(φ0.5cm)少量混じる。	あり	あり	A②と同じだが、炭化物がほとんどない
A③	黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色砂粒(10YR6/6)が少量混じる。	あり	あり	
A④	黒褐色土(10YR2/1)。	あり	あり	
A⑤	にぶい黄橙色土(10YR4/3)に明黄褐色土粒(10YR6/6)、褐灰色土(10YR4/1)が混じる。	あり	あり	
B⑥	黒色土(10YR2/1)に黄褐色砂質土ブロック(10YR5/6, φ1cm)、炭化物(φ0.5cm)が少量混じる。	ややあり	あり	
B①	暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色土粒(10YR7/6)が混じる。	あり	ややあり	
B②	暗褐色土(10YR3/4)に明黄褐色土粒(10YR6/6)、炭化物(φ0.5cm)が少量混じる。	あり	あり	
B③	にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黄褐色砂質土(10YR5/6)、炭化物(φ0.5cm)、褐灰色粘土(10YR4/1)が混じる。	あり	あり	十和田a火山灰が混じる
B④	暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土粒(10YR5/6)が混じる。	あり	あり	
C①	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ2~3cm)が多量に混じる。	あり	ややあり	
D①	褐灰色土(10YR4/1)ににぶい黄褐色砂(10YR7/4)が混じる。にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ1cm程度)が多量に混じる。	あり	あり	
D②	褐灰色土(10YR5/1)ににぶい黄褐色砂(10YR7/4)が混じる。黄褐色土ブロック(2.5Y5/3, φ1cm程度)が多量に混じる。	あり	あり	
E①	褐灰色土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。にぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/4, φ1~2cm)が多量に混じる。	あり	あり	
E②	褐灰色粘土(10YR4/1)に黄褐色砂(10YR5/6)、にぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/4, φ0.5~3cm)が多量に混じる。	あり	あり	
F①	黒褐色粘土(10YR3/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/3, φ1~3cm)が混じる。	あり	あり	
F②	明黄褐色砂(10YR7/6)。	あり	なし	
F③	にぶい黄褐色砂(10YR4/3)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)、褐灰色粘質土(10YR4/1)が混じる。	ややあり	ややあり	
G①	黒褐色粘土(10YR2/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR7/4, φ0.5cm)、褐灰色砂(10YR4/1)が少量混じる。	あり	あり	
G②	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/3, φ1.8cm)、黄褐色砂(10YR5/6)が少量混じる。	あり	あり	

第6表 SA01・SD01土層注記一覧(2)

a-a' 断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
E-a1	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄褐色砂ブロック(10YR6/4, φ1~2cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。	あり	あり	
F-a1	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄褐色砂ブロック(10YR6/4, φ1~2cm)が混じる。	あり	あり	「F-c1」と同一
F-a2	にぶい黄褐色砂(10YR6/4)に黒褐色粘土(10YR3/1)が少量混じる。	あり	なし	「F-c2」と同一

b-b' 断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-b1	暗褐色土(10YR3/3)に褐色土粒(10YR4/4)が混じる。	あり	なし	
A-b2	黒褐色土(10YR3/1)に褐色砂(7.5YR4/4)が混じる。	あり	なし	

c-c' 断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
F-c1	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄褐色砂ブロック(10YR6/4, φ1~2cm)が混じる。	あり	あり	「F-a1」と同一
F-c2	にぶい黄褐色砂(10YR6/4)に黒褐色粘土(10YR3/1)が少量混じる。	あり	なし	「F-a2」と同一

d-d' 断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-d1	黒褐色土(10YR2/3)。	あり	あり	
B-d2	黒褐色土(10YR2/2)。	あり	あり	「B-f2」と同一
B-d3	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色砂質土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が混じる。	あり	ややあり	

e-e' 断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
E-e1	にぶい黄褐色砂(10YR5/4)に黒褐色ブロック(10YR2/3, φ0.5cm以下)が混じる。	あり	なし	
E-e2	黒褐色粘土(10YR3/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/3, φ1~3cm)が混じる。	あり	あり	
E-e3	にぶい黄褐色砂(10YR7/4)。	あり	なし	
E-e4	明黄褐色砂(10YR7/6)に黒褐色ブロック(10YR2/3, φ0.5cm, 鉄分か)が混じる。	あり	なし	
E-e5	褐灰色粘土(10YR4/1)に黒褐色粘土(10YR3/1)、明黄褐色砂ブロック(10YR7/6, φ1~2cm)が混じる。	あり	あり	
G-e1	明黄褐色砂(10YR7/6)。	あり	なし	

f-f' 断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-f1	黒褐色土(10YR2/3)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~3cm)が多量に混じる。	あり	あり	「A-g1」と同一
A-f2	黒褐色土(10YR2/3)ににぶい黄褐色粘質土粒(10YR5/4)が少量混じる。	あり	あり	
B-f1	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土粒(10YR5/6)が多量に混じる。	ややあり	あり	
B-f2	黒褐色土(10YR2/2)。	あり	あり	「B-d2」と同一
B-f3	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が混じる。	ややあり	あり	

第7表 SA01・SD01土層注記一覧(3)

g-g' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
A-g1	黒褐色土(10YR2/3)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, ϕ 0.5~3cm)が多量に混じる。	あり	あり	「A-f1」と同一
B-g1	黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色砂質土粒(10YR5/6)が混じる。	あり	あり	
B-g2	暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色砂質土粒(10YR5/6)が混じる。	あり	あり	
C-g1	暗褐色土(10YR3/4)に褐色粘質土ブロック(10YR4/6, ϕ 2~3cm)が多量に混じる。	あり	ややあり	「C-p1」と同一
E-g1	褐灰色土(10YR4/1)にぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR6/4, ϕ 1~2cm)が多量に混じる。	あり	あり	E①より粘性強く、色調はやや暗い
F-g1	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄橙色粘土(10YR6/3)が混じる。	あり	あり	
F-g2	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色粘土(10YR6/3)が少量混じる。	ややあり	あり	
F-g3	にぶい黄褐色粘土(10YR6/3)。	あり	あり	
F-g4	暗褐色粘土(10YR3/4)に同色の砂が混じる。	ややあり	あり	
h-h' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
F-h1	にぶい黄褐色砂(10YR5/4)。	あり	なし	
i-i' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
E-i1	にぶい黄橙色砂質土(10YR6/4)に褐色土(10YR4/6)、暗褐色粒子(10YR3/4, ϕ ~0.5cm, 鉄分か)が混じる。	あり	なし	
E-i2	暗褐色砂(7.5YR5/8)。	あり	なし	
H-i1	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。	ややあり	あり	
H-i2	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が多量に混じる。	ややあり	あり	
H-i3	にぶい黄橙色砂(10YR6/4)に黄褐色砂(10YR5/6)、暗褐色粒子(10YR3/4, ϕ ~0.5cm, 鉄分か)が少量混じる。	あり	あり	
H-i4	黒褐色粘土(10YR3/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。	あり	あり	
H-i5	にぶい黄橙色砂(10YR7/4)に黄褐色砂(10YR5/6)、褐灰色粘土(10YR4/1)が少量混じる。	あり	なし	
H-i6	明褐色砂(7.5YR5/8)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)、暗褐色粒子(10YR3/4, ϕ ~0.5cm, 鉄分か)が混じる。	あり	あり	
j-j' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
A-j1	黒色土(10YR2/1)に暗褐色土粒(10YR3/3)が混じる。	あり	あり	
B-j1	黒褐色土(10YR3/2)ににぶい黄橙色土粒(10YR6/4)が混じる。	あり	あり	
B-j2	暗褐色土(10YR3/4)。	ややあり	あり	
B-j3	にぶい黄褐色土(10YR4/3)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)がブロック状(ϕ 2~3cm)に混じる。	ややあり	ややあり	
F-j1	にぶい黄橙色砂(10YR6/3)に褐灰色土(10YR5/1)が混じる。	あり	なし	
F-j2	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄褐色砂(10YR6/3)が混じる。	あり	あり	
F-j3	褐灰色粘土(10YR5/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/3)が混じる。	ややあり	あり	
F-j4	にぶい黄橙色砂(10YR6/3)に褐灰色土(10YR5/1)が混じる。	ややあり	あり	「F-k1」と同一
F-j5	褐灰色粘質土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。	ややあり	あり	「F-k2」と同一

第8表 SA01・SD01土層注記一覧(4)

k-k'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
C-k1	黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色土粒(10YR5/6)が多量に混じる。	あり	あり	
C-k2	黒褐色土(10YR2/2)ににぶい黄褐色シルト粒(10YR5/4)がブロック状(φ2~3cm)に混じる。	あり	あり	
F-k1	にぶい黄橙色砂(10YR6/3)に褐灰色土(10YR5/1)が混じる。	ややあり	あり	「F-j4」と同一
F-k2	褐灰色粘質土(10YR4/1)ににぶい黄橙色砂(10YR6/4)が混じる。	ややあり	あり	「F-j5」と同一

l-l'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-l1	褐灰色土(10YR4/1)に明黄褐色土粒(10YR6/6)が多量に混じる。	あり	あり	
B-l2	暗褐色土(10YR3/3)に褐灰色土(10YR4/1)、明黄褐色砂質土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が混じる。	あり	あり	「B-m1」と同一
B-l3	暗褐色土(10YR3/3)に褐灰色土(10YR4/1)、明黄褐色砂質土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が混じる。炭化物が非常に多く混じる。	あり	あり	

m-m'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
A-m1	暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色砂質土ブロック(φ0.5cm, 10YR6/6)が混じる。	あり	ややあり	
B-m1	暗褐色土(10YR3/3)に褐灰色土(10YR4/1)、明黄褐色砂質土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が混じる。	あり	あり	「B-l2」と同一
F-m1	にぶい黄褐色砂(10YR5/4)。	あり	なし	
F-m2	褐灰色粘土(10YR4/1)に黄褐色砂(10YR5/6)、にぶい黄橙色粘土ブロック(10YR6/4, φ0.5~3cm)が多量に混じる。	あり	あり	

n-n'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-n1	暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土粒(10YR5/8)が混じる。	あり	あり	「B-p2」と同一
E-n1	褐灰色粘土(10YR4/1)に黄褐色砂(10YR5/6)が混じる。	ややあり	あり	
E-n2	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄褐色土ブロック(10YR6/3, φ0.5cm)が混じる。	ややあり	あり	「E-o3」と同一

o-o'断面

層名	色調	しまり	粘性	備考
B-o1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黄褐色土粒(10YR5/6)が少量混じる。	あり	なし	
B-o2	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が少量混じる。	あり	あり	
B-o3	暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が混じる。	ややあり	あり	
E-o1	にぶい黄褐色砂(10YR5/3)、灰黄褐色砂(10YR5/2)ににぶい黄褐色土ブロック(10YR6/3, φ1~3cm)が混じる。	あり	なし	
E-o2	黒褐色粘土(10YR3/1)に浅黄橙色粘土ブロック(10YR8/3, φ1cm)が混じる。	あり	あり	
E-o3	褐灰色粘土(10YR4/1)ににぶい黄褐色土ブロック(10YR6/3, φ0.5cm)が混じる。	あり	あり	「E-n2」と同一

第9表 SA01・SD01土層注記一覧(5)

p-p' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
B-p1	にぶい黄褐色土(10YR4/3)。	あり	あり	
B-p2	暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土粒(10YR5/8)が混じる。	あり	あり	「B-n1」と同一
C-p1	暗褐色土(10YR3/4)に褐色粘質土ブロック(10YR4/6, φ2~3cm)が多量に混じる。	あり	ややあり	「C-g1」と同一
C-p2	褐色土(10YR4/4)ににぶい黄褐色粘質土ブロック(10YR6/4, φ3~5cm)が多量に混じる。	非常にあり	あり	
q-q' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
A-q1	黒褐色土(10YR2/3)。	あり	あり	
E-q1	黒褐色粘質土(10YR3/2)に砂が多量に混じる。鉄分が沈着する。	あり	あり	
E-q2	黒褐色粘質土(10YR2/3)に砂が多量、にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.5cm)が少量混じる。	あり	あり	
G-q1	黒褐色粘質土(10YR2/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ4~5cm)が中量、層の両側端に直角三角形状の粘土塊が混じる。	あり	あり	
G-q2	にぶい黄褐色粘質土(10YR5/3)。	ややあり	あり	
r-r' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
A-r1	黒褐色土(10YR3/3)。	あり	あり	
F-r1	黒褐色粘質土(10YR3/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.1~1cm)が多量に混じる。粘土塊(5~10cm)がF-r1層埋土と交互に堆積する。鉄分が沈着する。	あり	あり	
G-r1	にぶい黄褐色粘土塊(10YR5/4)。	あり	あり	
s-s' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
E-s1	暗褐色粘質土(10YR3/3)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.5~1cm)が少量、粘土塊(3cm)、砂が混じる。鉄分が沈着する。	ややあり	あり	
G-s1	黒褐色粘質土(10YR2/2)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ1~3cm)が少量、層の両側端に直角三角形状のにぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4)が混じる。	あり	あり	
t-t' 断面				
層名	色調	しまり	粘性	備考
A-t1	黒褐色土(10YR2/3)。	あり	あり	
C-t1	黒褐色土(10YR2/3)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が多量に混じる。	あり	あり	
E-t1	暗褐色粘質土(10YR3/3)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.1~1cm)が多量に、粘土塊(3~10cm)、砂が混じる。	あり	あり	
G-t1	にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)。	あり	あり	

※「層名」は以下の基準で付した。

- ・先頭のアルファベット(大文字)は、層の性質別にA~Hとした(第3節(1)参照)。
- ・3箇所以上の断面で確認した共通の層に丸数字を付した。
- ・2箇所以下の断面で確認した層には、ハイフン以下に各断面のアルファベット(小文字)を付し、堆積順を算用数字で表した。

第10表 検出遺構一覧(1)

遺構名	図番号	調査区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	備考	現場名	
SB01	第21図	A区						2間×2間		
-P1			L050	56	52	24			S014	
-P2			L050	54	50	32			S013	
-P3			L052	49	41	25			S157	
-P4			LN50・51	61	54	13			S012	
-P5			LN51	54	53	15			S011	
-P6			LN・L052	62	55	10			S010	
SB02	第22図	A区						2間×4間		
-P1			MB・MC48	50	35	5			S051	
-P2			MC49	59	51	9			S050	
-P3			MC49	47	41	12			S049	
-P4			MC49	52	51	18			S048	
-P5			MC50	65	62	20			S025	
-P6			MC50	63	52	23			S026	
-P7			MA48	50	47	21			S054	
-P8			MA・MB49	56	53	28			S053	
-P9			MB49・50	67	55	20			S052	
-P10			MB50	55	55	22			S028	
-P11	MB51	58	58	21		S027				
SB03	第23図	A区						2間×2間		
-P1			LM48	35	29	25			S556	
-P2			LN48	32	27	31			S562	
-P3			LN49	28	28	31			S558	
-P4			LL・LM48	29	27	24			S541	
-P5			LM49	32	27	23			S557	
-P6			LL48	32	27	30			S536	
-P7	LL49	30	26	21		S534				
SB04	第24図	A区						2間×3間		
-P1			LL47	23	21	9			S546	
-P2			LL47	37	31	40			S544	
-P3			LL48	25	24	26			S539	
-P4			LL47	26	23	26			S547	
-P5			LL47	34	25	47			S545	
-P6			LL48	24	23	33			S537	
-P7			LK47	26	19	23			S526	
-P8			LK47	38	35	39			S528	
-P9			LK48	23	17	30			S530	
-P10			LJ・LK47	28	23	25			S491	
-P11			LK47	32	25	33			S527	
-P12	LK48	42	24	28		S531				
SB05	第25図	A区						1間×2間		
-P1			L045	45	36	43			S583	
-P2			L046	39	35	27			S846	
-P3			L046	37	35	57			S585	
-P4			LN45	36	32	43			S576	
-P5			LN46	48	39	43			S573	
-P6	LN46・47	45	39	47		S570				
SB06	第26図	A区						1間×2間		
-P1			MA・MB48	37	30	21			S663	
-P2			MA・MB48・49	47	37	23			S664	
-P3			MA48	32	27	23			S657	
-P4			MA48・49	35	30	16			S710	
-P5			LT48	38	35	36			S642	
-P6	LT48・49	35	26	32		S709				
SB07	第27図	A区					SD01→	1間×2間		
-P1			MA54	27	24	19				S400
-P2			MA55	37	37	28				S762
-P3	MA54	31	30	23		S760				

第11表 検出遺構一覧(2)

遺構名	図番号	調査区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	備考	現場名
-P4			MA55	25	(24)	14	→SP070		S401
-P5			LT54	36	32	12			S761
-P6			LT55	25	23	27			S370
SA01	第14図 ～ 第20図	A・B区	LJ52、LK・ LL52・53、LM・ LN53・54、LO～ MC54・55、MD～ MG53・54、 ML52、MM・ MN51・52、 MO50・51、MP50	9125	45 ～ 77	100～ 120	→SD01		S001
-P1			MC・MD54	79	32	24			S843
-P2			MD54	63	29	37			S844
-P3			ME53	61	33	32			S845
-P4			MF53	120	46	30			-
SA02	第28図	A区						1間×1間 「L」字状	
-P1			LQ54	21	21	15			S254
-P2			LQ54	18	18	18			S251
-P3			LQ54	27	24	28			S253
SA03	第28図	A区						1間×2間 「L」字状	
-P1			LR54	18	17	13			S317
-P2			LR54	17	12	8			S316
-P3			LR54	22	19	32			S318
-P4			LR54	28	23	17			S319
SA04	第28図	A区						2間	
-P1			LN52	25	23	18			S151
-P2			LN52	32	17	18			S153
-P3			LM52	20	14	17			S144
SA05	第28図	A区						2間	
-P1			LM51	23	19	19			S178
-P2			LM51	25	18	22			S174
-P3			LL51	21	20	18			S171
SA06	第29図	A区						2間	
-P1			LR48	50	30	42			S621
-P2			LQ48・49	35	30	40			S620
-P3			LP・LQ49	42	36	34			S622
SA07	第29図	A区						2間	
-P1			MB45	36	35	18			S676
-P2			MB45	37	36	30			S678
-P3			MB44・45	41	37	16			S681
SA08	第29図	A区						2間	
-P1			MD44・45	28	25	39			S698
-P2			MC・MD44	32	31	40			S059
-P3			MD44	49	38	13			S060
SD01	第14図 ～ 第20図	A・B区	LJ52、LK・ LL52・53、LM・ LN53・54、LO～ MC54・55、MD～ MG53・54、 ML52、MM・ MN51・52、 MO50・51、MP50	9125	166 ～ 241	48 ～ 82	SA01、SK08・09・11 → →SB07、SK02・50、 SP060・061・064～ 066・069・072～ 076・081・083・ 088・094～097、 SX01 ≠SK10、SP071・078 ～080・082・093・ 098・099・136・137	D層面までの深さは40 ～69cm	S001
SD02	第30図	A区	LK・LL51	170 以上	42	19	→SK19、SP173～ 175、SX01		S824
SD03	第30図	A区	LM・LN50・51	452	72 ～ 96	6 ～ 12			S735

第12表 検出遺構一覧(3)

遺構名	図番号	調査区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	備考	現場名
SD04	第30図	A区	LJ48~50	902 以上	114 ~ 154	12	→SP210		S486
SD05	第30図	A区	MA・MB49	262	35	6			S653
SD06	第31図	A区	LI44~46・LJ44	931 以上	126~ 173	8	SP264→ →SK39、SP279・280		S078
SD07	第31図	B区	ML49	120	35	3			S809
SI01	第32図 ~ 第34図	A区	LK51	27	21	20	→SP193・211 SI01-P2→ SI01周溝→ →SI01-P1		S015 S743 S744
-P3			LK51	28	27	24			S727
-P4			LL50・51	22	19	17			S782
-P5			LK50	39	26	5	SI01周溝→		S742
-P6			LK・LJ50	27	23	7			S740
-P7			LK50	38	36	15	SI01周溝→		S741
-P8			LK50	24	17	残存 27			S748
-P9			LK50	22	17	16	SI01周溝→		S738
-P10			LK50	30	23	17	SI01周溝→		S736
-P11			LK50	24	18	10			S737
-P12			LK50	30	25	15			S756
-P13			LK50	21	16	11			S728
-P14			LK49	20	17	9			S729
-P15			LK49	22	21	17			S730
-P16			LK49	22	21	30			S731
-P17			LK49	16	13	17			S781
-P18			LK51	48	32	5	SI01周溝→		S796
-P19			LK50	35	25	4			S797
-P20			LL50	34	23	13			S792
-P21			LL50	22	20	18			S783
-P22			LK50	15	11	18			S779
-P23			LK50	20	17	22			S780
-P24			LK50	18	16	8			S755
-P25			LK・LL49・50	37	35	3			S791
周溝			LK・LL50・51	4.11 + 3.40 以上	22 ~ 41	4			S739
SK01	第35図	A区	LP・LQ58・59	230	(164)	33			S016
SK02	第35図	A区	LP55	175	77	23	SD01→ →SP059~061・064		S018
SK03	第35図	A区	LR54	(50)	45	20	→SK04		S310
SK04	第35図	A区	LR54	67	51	20	SK03→		S311
SK05	第35図	A区	LS54	86	78	39			S023
SK06	第35図	A区	LT54	52	44	57			S371
SK07	第36図	A区	MC53・54	156	(117)	24	SP129→ ≠SK10		S002
-P1			MC54	19	14	11			S819
-P2			MC54	20	17	8			S820
-P3			MC54	23	18	16			S821
-P4			MC54	16	15	18			S822
SK08	第36図	A区	MC・D53、MD54	227	202	76	→SD01 SK11→ ≠SP130		S003
-P1			MD53	19	18	7		検出面：SK08-5層	S799
-P2			MD53	20	15	17		検出面：SK08-5層	S800
SK09	第37図	A区	MD・ME53	183	137	45	→SD01		S004

第13表 検出遺構一覧(4)

遺構名	図番号	調査区	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	備考	現場名
SK10	第36図	A区	MC54	73	(48)	29	→SP093、≠SD01		S794
SK11	第36図	A区	MD54	63	(44)	31	→SD01、SK08		S840
SK12	第37図	A区	LK53	75 以上	74	8			S808
SK13	第37図	A区	LK52・53	54	42	7	SX01→		S807
SK14	第37図	A区	LQ・LR53	61	49	17			S275
SK15	第37図	A区	LR53	81	37	25			S047
SK16	第38図	A区	MD・ME52	215	171	118	SP169→		S029
SK17	第38図	A区	LJ51	113	(114)	22			S019
SK18	第38図	A区	LJ51	88	86	26			S020
SK19	第38図	A区	LK51	62	51	6	SD02、SX01→		S826
SK20	第39図	A区	LJ50	(216)	189	31			S022
SK21	第39図	A区	LJ50	80	67	9			S021
SK22	第39図	A区	LI・LJ49	34 以上	-	38			S076
SK23	第39図	A区	LN49	53	32	25	SP216→		S561
SK24	第39図	A区	LT・MA49	93	82	64	SP225・226→		S063
SK25	第40図	A区	LI 48	(112)	93	10			S075
SK26	第40図	A区	LI47・48	136	124	24			S069
SK27	第40図	A区	LI・LJ47・48	94	67	18			S068
SK28	第40図	A区	LP・L047・48	117	(122)	17	→SK29		S609
SK29	第40図	A区	LP・L048	79	72	22	SK28→		S608
SK30	第40図	A区	LR47	56	55	29			S634
SK31	第41図	A区	MB48	74	47	30			S669
SK32	第41図	A区	MB47・48	251	204	19 ～ 28	SK33→		S056
SK33	第41図	A区	MB・MC47・48	(142)	94	26	→SK32・34		S055
SK34	第41図	A区	MB・MC47	73	70	42	SK33→		S753
SK35	第41図	A区	ME48	72	65	12			S749
SK36	第41図	A区	ME48	150	147	11			S750
SK37	第41図	A区	LI47	174	(166)	32			S077
SK38	第42図	A区	LI47	92	74	10			S072
SK39	第42図	A区	LI・LJ46・47	165	126	29	SD06→ →SP261・262		S071
SK40	第42図	A区	L046・47	98	61	12			S586
SK41	第42図	A区	L047	90	57	19			S587
SK42	第42図	A区	MD 47	55	41	11	SK43→		S062
SK43	第42図	A区	MD47	(86)	72	23	→SK42		S704
SK44	第42図	A区	LJ46	81	48	16			S498
SK45	第43図	A区	MA・MB45・46	253	238	20			S057
SK46	第43図	A区	LH44・45	60	41	27			S074
SK47	第43図	A区	LI45	95	75	25			S073
SK48	第43図	A区	MB45	99	63	22			S679
SK49	第43図	A区	LL・LM44	154	140	29			S058
SK50	第43図	B区	MM52	55	44	38	SD01→		S772
SX01	第44図	A区	LJ・LK51・52・ LK53	512 以上	471	58	SD01・02、SP173→ →SK13・19		S816
-P1			LK52	23	22	17			S817
-P2			LK52	21	18	6			S828
-P3			LJ52	17	12	9			S829

※重複関係を以下の記号であらわした。

- 例 → SK00 : 当該遺構がSK00よりも古い。
 SK00 → : 当該遺構がSK00よりも新しい。
 ≠ SK00 : 当該遺構とSK00の新旧関係は不明。

第14表 検出遺構（ピット）一覧（1）

遺構名	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	現場名
SP001	L058	29	27	18		S089
SP002	L057・58	27	25	12		S090
SP003	LP58	16	15	14		S085
SP004	LP58	20	20	14		S086
SP005	LP58	21	20	20		S088
SP006	L057	22	22	26		S091
SP007	L057	15	14	14		S092
SP008	L057	19	19	12		S098
SP009	LN・L057	23	18	10		S101
SP010	L057	21	18	19		S097
SP011	L057	23	23	21		S102
SP012	L057	23	21	17		S094
SP013	L057	21	17	20		S095
SP014	L057	19	17	15		S096
SP015	LP57	10	10	11		S233
SP016	LP57	37	33	12		S231
SP017	LP57	21	21	19		S232
SP018	LP57	25	23	20		S230
SP019	LP57	19	12	10		S226
SP020	LP57	36	26	22		S229
SP021	LP57	22	18	13		S228
SP022	LQ57	16	15	11		S235
SP023	LQ57	23	20	12		S236
SP024	LQ57	25	22	14		S239
SP025	LQ57	21	21	25		S240
SP026	LR57	25	21	20		S296
SP027	LR57	24	20	22		S299
SP028	LR57	22	20	18		S294
SP029	LN56	32	18	11		S116
SP030	L056	21	18	25		S112
SP031	L056	19	14	15		S113
SP032	L056	27	26	31		S811
SP033	L056	19	16	15		S103
SP034	L056	23	19	14		S812
SP035	L056	28	23	31		S813
SP036	L056	27	21	344		S814
SP037	L056	28	23	32		S107
SP038	L056	23	19	14		S108
SP039	L056	19	16	11		S111
SP040	L056	20	20	19		S114
SP041	L0・LP56	23	21	18		S105
SP042	L056	13	13	10		S110
SP043	L055・56	19	15	14		S115
SP044	LP56	16	16	37		S106
SP045	LP56	25	24	31		S815
SP046	LP56	20	15	9		S222
SP047	LP56	22	19	22		S223
SP048	LP56	17	16	16		S224
SP049	LP56	24	21	9		S225
SP050	LQ56	21	20	25		S241
SP051	LQ56	18	17	16		S242
SP052	LQ56	21	20	18		S243
SP053	LR56	15	15	18		S305
SP054	LS56	17	16	16		S362
SP055	L055	16	15	11		S118
SP056	LP55	27	24	23		S219
SP057	LP55	22	20	14		S218
SP058	LP55	19	16	13		S217

遺構名	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	現場名
SP059	LP55	34	26	10	SK02→	S765
SP060	LP55	37	25	20	SD01・ SK02→、A	S036
SP061	LP55	36	33	34	SD01・ SK02→、A	S038
SP062	LP55	24	23	24		S221
SP063	LP55	24	23	20		S220
SP064	LP55	21	19	9	SD01・ SK02→、A	S035
SP065	LP55	15	12	6	SD01→ 、C	S789
SP066	LP・LQ55	46	40	23	SD01→ 、A	S034
SP067	LQ55	30	29	22		S842
SP068	LQ55	31	26	26		S246
SP069	LQ55	27	20	20	SD01→ 、A	S042
SP070	MA55	24	20	12	→SB07 P4	S763
SP071	LM54	35	31	31	≠SD01 、Ⅲ	S803
SP072	L054	28	23	13	SD01→ 、A	S040
SP073	L054	16	15	17	SD01→ 、B	S795
SP074	L054	34	22	21	SD01→ 、C	S788
SP075	L054	21	19	57	SD01→ 、C	S849
SP076	L054	45	43	12	SD01→ 、A	S039
SP077	L0・LP 53・54	22	20	25		S270
SP078	LP54	27	22	12	≠SD01 、Ⅲ	S786
SP079	LP54	29 以上	23	10	≠SD01 、Ⅲ	S785
SP080	LP54	16	14	17	≠SD01 、Ⅲ	S787
SP081	LP54	27	26	18	SD01→ 、A	S216
SP082	LP54	27	23	残存 6	≠SD01 、Ⅲ	S790
SP083	LQ54	44	38	11	SD01→ 、A	S764
SP084	LR54	22	18	11		S248
SP085	LR54	22	15	16		S314
SP086	LR54	36	28	19		S313
SP087	LR54	17	15	7		S312
SP088	LT54	31	20	残存 14	SD01→ 、B	S766
SP089	MA54	22	21	25		S396
SP090	MA54	25	25	18		S397
SP091	MA54	31	23	26		S398
SP092	MB54	21	19	15		S412
SP093	MC54	25	21	6	SK10→ ≠SD01	S793
SP094	ME54	20	18	17	SD01→ 、C	S818

第15表 検出遺構（ピット）一覧（2）

遺構名	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	現場名
SP095	LK53	18	18	22	SD01→ 、A	S838
SP096	LK53	33	28	23	SD01→ 、A	S830
SP097	LM53	20	17	18	SD01→ 、C	S801
SP098	LM53	34	27	44	≠SD01 、Ⅲ	S802
SP099	LN53	28	16	7	≠SD01 、Ⅲ	S798
SP100	LO53	19	18	22		S130
SP101	LP53	45	43	14		S214
SP102	LQ53・54	33	32	12		S263
SP103	LQ53	32	24	31		S264
SP104	LQ53	20	14	11		S268
SP105	LQ53	25	20	21		S269
SP106	LQ53	27	20	14		S267
SP107	LQ53	26	25	11		S265
SP108	LQ53	41	37	27		S266
SP109	LQ53	21	17	18		S271
SP110	LQ52・53	32	20	11		S282
SP111	LQ53	28	22	19		S262
SP112	LQ53	22	16	25		S272
SP113	LQ53	36	33	32		S279
SP114	LQ53	26	18	8		S280
SP115	LQ53	20	20	19		S281
SP116	LQ53	39	32	15		S259
SP117	LQ53	48	45	12		S278
SP118	LQ53	21	20	20		S274
SP119	LR53	21	18	20		S323
SP120	LR53	31	25	22		S714
SP121	LR53	21	20	12		S715
SP122	LR53	21	16	16		S321
SP123	LR53	21	20	13		S322
SP124	LR53	27	24	17		S324
SP125	LS53	14	14	14		S337
SP126	MA53	25	22	17		S393
SP127	MA53	22	20	24		S394
SP128	MC53	36	21	31		S446
SP129	MC53・54	53	37	36	→SK07	S033
SP130	MC・MD53	(22)	19	-	≠SK08	S810
SP131	MC・MD53	11 以上	-	19		S032
SP132	MD53	25	22	19		S454
SP133	ME53	23	19 以上	18	→SP134	S474
SP134	ME53	28	26	22	SP133→	S473
SP135	LJ・LK52	20	19	37	SX01→	S823
SP136	LK52	23	17	21	≠SD01 、Ⅲ	S827
SP137	LK・LL52	21	17	28	≠SD01 、Ⅲ	S835
SP138	LM52	14	11	8		S143
SP139	LM52	24	22	21		S145
SP140	LP52	30	29	15		S213
SP141	LQ52	31	31	23		S286
SP142	LQ・LR52	28	27	18		S287
SP143	LR52	21	15	14		S328
SP144	LR52	25	23	10		S327
SP145	LR52	26	23	15		S329
SP146	LS52	19	19	8		S338
SP147	LS52	19	15	10		S339
SP148	LS52	26	25	13		S340
SP149	LS52	17	15	16		S345
SP150	LS52	22	21	12		S350
SP151	LS52	32	23	23		S349
SP152	LS52	37	30	33		S348
SP153	LS52	44	29	26		S344
SP154	LS52	22 以上	20	15	→SP155	S343
SP155	LS52	16	15	23	SP154→	S342
SP156	LS52	30	23	9		S341
SP157	MA52	21	21	15		S389
SP158	MB52	27	27	14		S417
SP159	MB52	26	24	21		S419
SP160	MC52	25	22	37		S444
SP161	MC52	27	25	28		S441
SP162	MC52	29	24	19		S442
SP163	MD52	26	25	11		S458
SP164	MD52	42	26	19		S461
SP165	MD51・52	31	29	40		S462
SP166	MD52	20	19	17		S457
SP167	MD52	40	24	36		S456
SP168	MD51・52	28	24	31		S463
SP169	ME52	47	18	10	→SK16	S030
SP170	LK51	26	20	24		S159
SP171	LK51	26	22	24		S161
SP172	LK51	26	26	16		S164
SP173	LK51	24	23	10	SD02→ →SX01	S825
SP174	LK51	22	19	19	SD02→	S805
SP175	LL51	44	37	9	SD02→	S804
SP176	LL51	32	28	8		S168
SP177	LL51	32	29	23		S165
SP178	LL51	21	21	21		S167
SP179	LM51	25	23	18		S172
SP180	LM51	28	25	21		S175
SP181	LN51	18	14	14		S180
SP182	LO51	20	18	16		S187
SP183	LQ51	39	24	24		S292
SP184	LQ51	36	28	35		S288
SP185	LQ51	49	42	12		S290
SP186	LR51	21	20	22		S332
SP187	LR51	21	17	15		S331
SP188	MA51	33	28	15		S378
SP189	MA50・51	36	35	27		S376
SP190	MB51	17	14	20		S425
SP191	MC51	26	25	22		S436
SP192	MD51	31	22	21		S467
SP193	LL50	23	17	29	SI01→	S716
SP194	LM50	22	22	30		S717
SP195	LQ50	25	24	28		S720
SP196	LR50	28	26	27		S721
SP197	LR50	21	20	13		S333
SP198	LR50	29	25	10		S334
SP199	LR50	30	30	23		S335
SP200	LR50	18	16	17		S722
SP201	LS50	27	24	14		S354
SP202	LS50	24	20	15		S353

第16表 検出遺構（ピット）一覧（3）

遺構名	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	現場名
SP203	LS50	25	22	16		S352
SP204	LS50	28	18	10		S356
SP205	MB50	26	16	34		S431
SP206	MB50	26	24	17		S433
SP207	MB50	20	16	20		S432
SP208	MB50	33	14	18		S434
SP209	LJ49	24	23	24		S482
SP210	LJ49	33	29	26	SD04→	S485
SP211	LK49	29	29	7	SI01→	S732
SP212	LL49	29	29	19		S733
SP213	LL49	32	26	37		S533
SP214	LL49	(62)	52	20		S532
SP215	LN49	27	23	15		S559
SP216	LN49	32	(24)	12	→SK23	S560
SP217	LP・LQ49	19	18	27		S625
SP218	LP・LQ49	27	15	14		S623
SP219	LQ49	37	28	29		S624
SP220	LQ・LR49	17	15	16		S626
SP221	LR49	17	15	9		S627
SP222	LR49	33	32	22		S628
SP223	LR49	21	19	8		S629
SP224	LT49	21	19	16		S640
SP225	LT49	(22)	17	13	→SK24	S769
SP226	MA49	26	(26)	12	→SK24	S768
SP227	MF49	34	33	27		S708
SP228	LJ47・48	25	20	21		S487
SP229	LO48	28	19	26		S593
SP230	LP48	35	30	39		S597
SP231	LP48	12	11	18		S599
SP232	LQ48	34	24	34		S617
SP233	LR48	24	22	16		S630
SP234	LR48	25	24	18		S836
SP235	LR48	41	40	20		S632
SP236	LR47・48	29	21	20		S633
SP237	MB48	50	49	14		S670
SP238	MB48	41	40	34		S668
SP239	MB48	28	28	25		S671
SP240	MB・MC48	34	31	27		S688
SP241	MC48	22	21	14		S689
SP242	ME48	24	24	28		S706
SP243	LI47	49	48	15		S726
SP244	LJ47	25	24	35		S489
SP245	LL47	26	22	26		S542
SP246	LM47	47	41	11		S554
SP247	LN47	34	26	19		S563
SP248	LN47	20	17	19		S568
SP249	LO47	26	25	18		S588
SP250	LO47	30	26	13		S589
SP251	LP47	20	18	22	SP252→	S606
SP252	LP47	29	27	33	→SP251	S605
SP253	LP47	19	18	16		S607
SP254	LP47	39	27	27		S083
SP255	LQ47	22	17	26		S616
SP256	LR47	23	21	31		S636
SP257	LR47	21	20	20		S635
SP258	MA47	40	37	25		S659
SP259	MA47	33	28	8		S660
SP260	MA・MB47	35	34	19		S662
SP261	LI46	28	26	11	SK39→	S079

遺構名	グリッド	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	重複関係	現場名
SP262	LI46	26	21	20	SK39→	S070
SP263	MC46	31	26	18		S685
SP264	LI45・46	53	51	30	→SD06	S751
SP265	LI45	29	25	62		S503
SP266	LJ45	29	23	43		S509
SP267	LJ45	27	24	54		S505
SP268	LJ45	26	24	53		S510
SP269	LJ45	27	25	50		S508
SP270	LJ45	25	24	18		S506
SP271	LJ45	23	18	26		S507
SP272	LK45・46	26	24	23		S524
SP273	LK45	28	25	44		S521
SP274	LM45	27	26	25		S550
SP275	LN45	28	24	24		S575
SP276	LO45	64	50	47		S582
SP277	MD45	21	20	17		S700
SP278	LI44	29	22	31		S513
SP279	LJ44	41	34	12	SD06→	S514
SP280	LJ44	32	29	36	SD06→	S847
SP281	LJ44	28	25	19		S515
SP282	LJ44	33	27	31		S516
SP283	LK44	25	24	16		S518
SP284	LK44	23	23	14		S520
SP285	LN44	20	19	19		S577
SP286	MD44・45	42	37	10		S061
SP287	LO43	27	22	14		S578
SP288	LP43	35	24	32		S613
SP289	LP43	29	23	37		S614
SP290	LP43	26	25	36		S615
SP291	MP51	35	35	15		S773
SP292	MP50	19	19	10		S774
SP293	MP50	24	23	20		S806
SP294	MN49	19	16	56		S776
SP295	MM48	28	27	14		S778
SP296	MM48	36	35	65		S777

※重複関係を以下の記号であらわした。
 例 → SK00 : 当該遺構がSK00よりも古い。
 SK00 → : 当該遺構がSK00よりも新しい。
 ≠ SK00 : 当該遺構とSK00の新旧関係は不明。

※SD01と重複するピットは、重複関係に続けて検出面の層の名称を記載した。
 例 A : SD01-A層
 B : SD01-B層
 C : SD01-C層
 III : 第三-1層
 したがって、SD01内のC層面で検出したピットは「重複関係」欄に「SD01→、C」と表記している。

第17表 遺物属性表(1)

遺物No.	図番号	出土地点 層位	グリッド	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上No.
1	第46図	SD01-A層	MO50	須恵器	短頸壺	(17.0)			頸部下端外面に平行叩き痕、内外面自然釉付着	033
2	第46図	SD01-A層	MG53-54	須恵器	長頸壺					693
3	第46図	SD01-A層	MD53	須恵器	長頸壺				外面に2条のリング状沈線文、内面指頭圧痕	061
4	第46図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕	(14.6)			非ロクロ成形、外面ケズリ調整後ミガキ調整、内面ナデ・ハケメ調整	269
5	第46図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕	(22.6)			非ロクロ成形、内外面ナデ調整、口縁部外面に指頭圧痕	249
6	第46図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕	(11.0)			非ロクロ成形、内外面ナデ調整・指頭圧痕、口縁部内面煤付着	269
7	第46図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕	(15.8)			非ロクロ成形、内外面ナデ調整、頸部内面ハケメ調整、内面煤付着	353
8	第46図	SD01-A層	MA54-55	土師器	甕	(16.0)			非ロクロ成形、内面いぶし処理・ナデ調整、外面ケズリ調整の後ナデ調整、	353
9	第46図	SD01-A層	MD54	土師器	壺				非ロクロ成形、内面いぶし処理・ハケメ調整・煤付着、外面摩耗・ハケメ調整	367
10	第47図	SD01-A層	MB54-55	土師器	甕		(16.4)		内外面ナデ調整、底部全面に砂粒が付着	249
11	第47図	SD01-A層	LS55	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整、底部全面に砂粒が付着	535
12	第47図	SD01-A層	MP50	土師器	甕		8.0		非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整、底部中央に粗い砂粒が付着	032
13	第47図	SD01-A層	MD53-54	赤褐色土器	坏		5.6		底部回転糸切り無調整	081
14	第47図	SD01-A層	ME53-54・MF53-54	赤褐色土器	坏	(13.6)			口縁部内面に煤付着	689
15	第47図	SD01-A層	LS54	赤褐色土器	坏	(12.2)		4.4	底部回転糸切り無調整	525
16	第47図	SD01-A層	LN54	赤褐色土器	坏	12.6	4.4	4.0	底部回転糸切り無調整	459
17	第47図	SD01-A層	LN54	赤褐色土器	坏	(12.0)	4.7	4.2	底部回転糸切り無調整	459
18	第47図	SD01-A層	LP54-55	赤褐色土器	坏	(13.0)				397
19	第47図	SD01-A層	LK52	赤褐色土器	坏		4.4		底部回転糸切り無調整	631
20	第47図	SD01-A層	ME53	赤褐色土器	坏		6.3		底部回転糸切り無調整、柱状高台	052
21	第47図	SD01-A層	MB54-55	土製品	羽口	(13.6)	(7.4)			246
22	第47図	SD01-A層	MB54-55	土製品	羽口	(12.3)	(8.6)		先端被熱、ガラス質の溶解物が付着	245
23	第48図	SD01-A層	MC54-55	土製品	羽口	(13.4)	(5.5)		先端被熱、ガラス質の溶解物が付着	280
24	第48図	SD01-A層	MD54	土製品	羽口	(15.7)	(8.2)	(4.7)	先端被熱、ガラス質の溶解物が付着	581
25	第48図	SD01-A層	ME53	土製品	羽口	(12.1)	(7.7)	(3.6)	先端被熱、ガラス質の溶解物が付着	146
26	第48図	SD01-A層	MC54-55	土製品	棒状土製品	(12.4)	10.0	(5.5)	面取り、全面に二次的な被熱痕跡	247
27	第49図	SD01-A層	MB54-55	土製品	不明土製品	(9.5)	(8.7)	(3.7)	面取り、全面に二次的な被熱痕跡、煤付着	694
28	第49図	SD01-A層	MB・MD間	礫	金床石カ	(21.1)	(21.5)	(18.7)	欠損部以外の3面が平坦、少量の鉄が付着、金床石カ	-
29	第49図	SD01-A層	MC54-55	鉄製品	刀子	(8.5)		(2.1)	表面に木質が少量付着	290
30	第49図	SD01-A層	LP54	鉄製品	棒状鉄製品	(14.2)	(2.0)		両端欠損、棒状の鉄製品	378
31	第50図	SD01-B層	ME54	須恵器	坏		(13.0)		碗形、口縁部は玉縁状を呈する、谷地II遺跡3号窯カ	594

第18表 遺物属性表(2)

遺物No.	図番号	出土地点 層位	グリッド	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上No.
32	第50図	SD01-B層	ME53-54	須恵器	短頸壺	(11.0)			肩部外面に2条のリング状の沈線文、重焼痕あり	673
33	第50図	SD01-B層	LP54-55	須恵器	甕				外面に平行叩き痕、内面に平行当て具痕	431
34	第50図	SD01-B層	ME54	土師器	坏	(12.8)	5.4	5.2	内面黒色処理・横方向のミガキ調整、底部回転糸切り無調整	594
35	第50図	SD01-B層	MC53-MD53	土師器	坏		(6.0)		内面黒色処理・ミガキ調整	388
36	第50図	SD01-B層	ME53	赤褐色土器	坏	(14.0)			口唇部を面取り	152
37	第50図	SD01-B層	LN54	赤褐色土器	坏	13.9	5.8	5.2	底部回転糸切り無調整	463
38	第50図	SD01-B層	ME54	赤褐色土器	坏	(13.6)	5.4	5.3	底部回転糸切り無調整	590
39	第50図	SD01-B層	MD54	赤褐色土器	坏		5.2		底部回転糸切り無調整	369
40	第50図	SD01-B層	MD54	赤褐色土器	坏		5.0		底部回転糸切り無調整	369
41	第50図	SD01-B層	MB54-55	赤褐色土器	坏	(14.2)	(6.0)	4.2	底部回転糸切り無調整	294
42	第50図	SD01-B層	LM53	赤褐色土器	坏	12.3	5.4	3.8	底部回転糸切り無調整	487
43	第50図	SD01-B層	ME53-54	赤褐色土器	皿	13.0	6.0	2.9	底部摩耗	672
44	第50図	SD01-B層	MC54-MD54	土製品	土錘					368
45	第50図	SD01-C層	MM52	須恵器	甕				外面に平行叩き痕・自然釉付着、内面同心円当て具痕	513
46	第50図	SD01-C層	ME53	赤褐色土器	坏		(5.6)	(2.9)	底部静止糸切り無調整	168
47	第50図	SD01-C層	MD53-MD54	赤褐色土器	坏	(13.5)	(6.6)	4.9	底部静止糸切り後軽いナゲ調整、体部下端外面に靱圧痕カ	394
48	第51図	SD01-D層	ME54	須恵器	坏	(11.8)			碗形、口縁部は玉縁状を呈する、谷地Ⅱ遺跡3号窯カ	598
49	第51図	SD01-D層	LR54-55	須恵器	壺				内外面ナゲ調整の後ハケメ調整、外面自然釉付着	557
50	第51図	SD01-D層	MA54-55	須恵器	壺				内外面ナゲ調整、外面自然釉付着	381
51	第51図	SD01-D層	MC54-55	土師器	坏		(5.4)		内面黒色処理・ミガキ調整、底部回転糸切り無調整	309
52	第51図	SD01-D層	MD54	赤褐色土器	坏	13.0	6.3	4.9	底部回転糸切り無調整	377
53	第51図	SD01-D層	MD54	赤褐色土器	坏		6.0		底部回転糸切り無調整	589
54	第51図	SD01-D層	ME54	赤褐色土器	坏		(6.2)		底部回転糸切り無調整	596
55	第51図	SD01-D層	ME53	赤褐色土器	坏	(11.6)	6.6	4.4	底部摩耗	171
56	第51図	SD01-D層	MP53	赤褐色土器	坏		6.2		全面摩耗	193
57	第51図	SD01-D層	MC54	赤褐色土器	坏		(5.4)		底部回転糸切り無調整	677
58	第51図	SD01-D層	MC54	赤褐色土器	坏	(11.0)	(5.2)	4.1	体部下端外面ケズリ調整、底部回転糸切り無調整	404
59	第51図	SD01-D層	MC54-MD54	赤褐色土器	坏	(10.0)	(4.8)		体部下端外面ケズリ調整	461
60	第51図	SA01-E層	MM52	縄文土器	粗製深鉢		8.0		外面LR単節縄文、底面ナゲ調整	539
61	第51図	SA01-E層	LP54-55	土師器	碗	(18.0)			口縁部付近の外面と内面黒色処理、口縁部外面ミガキ調整、内面横方向のミガキ調整	465
62	第51図	SB01-P6	L052	須恵器	甕					080
63	第51図	SB01-P1	L050	赤褐色土器	坏				口唇部を面取り	087

第19表 遺物属性表(3)

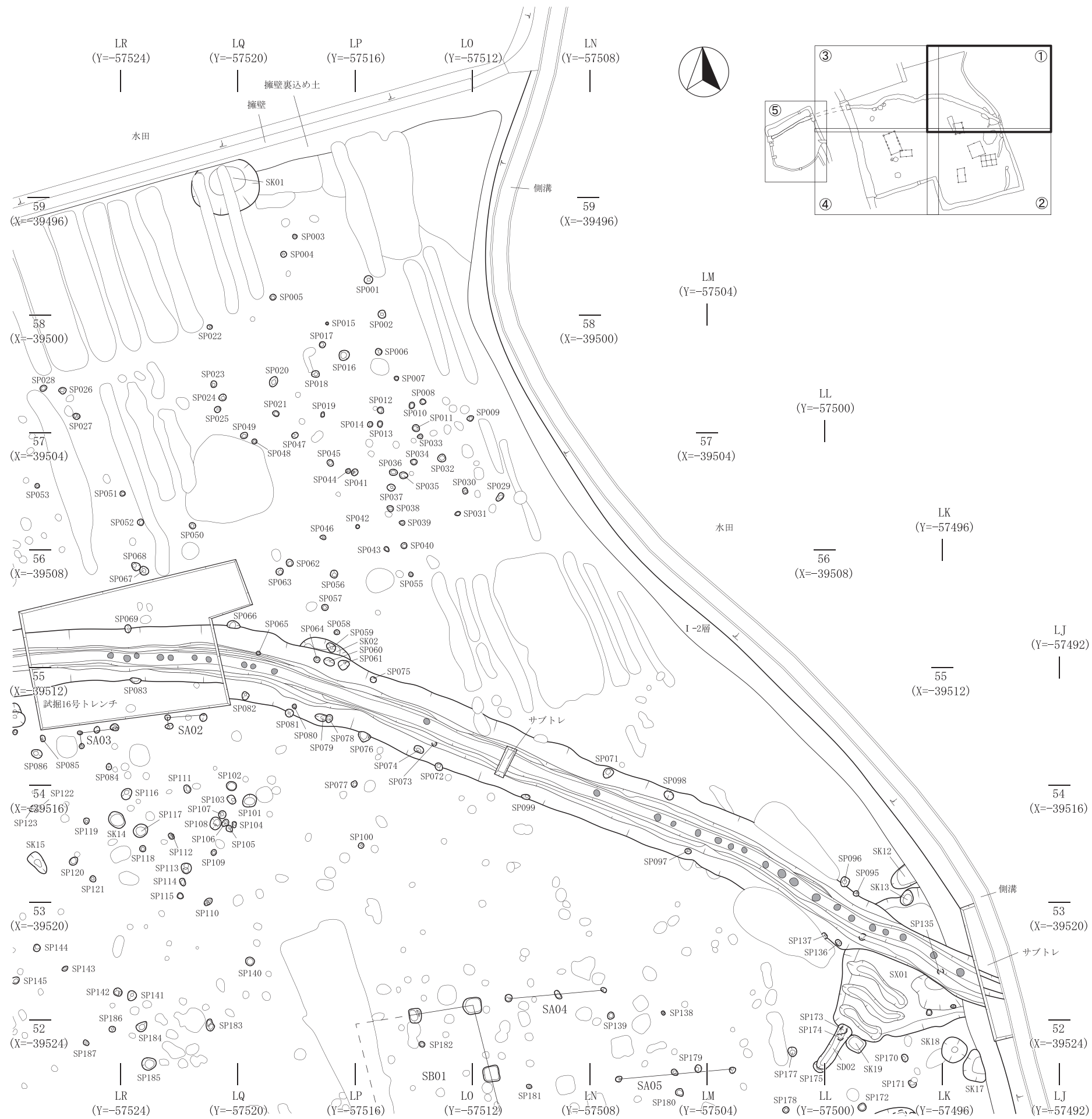
遺物 No.	図番号	出土地点 層位	グリッ ド	種 別	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考	取上No.
64	第51図	SB02-P10 (掘り方)	MB50	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整・煤付着	504
65	第51図	SB02- P4(掘り 方)	MC49	赤褐色土器	坏					510
66	第51図	SB02- P11(抜取 り)	MB51	赤褐色土器	坏					509
67	第51図	SB04- P6(抜取 り)	LL48	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整	399
68	第52図	SI01-埋土	LK50	土師器	埴				内面黒色処理・横方向のミガキ調整	346
69	第52図	SI01-埋土	LK50・51・ LL50・51	土師器	甕	(17.2)			外面頸部から体部にかけてケズリ後ミガキ調整、内面いぶし処理・口縁部から頸部にかけて横方向のミガキ調整・体部ハケメ調整	261
70	第52図	SI01-埋土	LK50	赤褐色土器	甕				外面ケズリ調整・平行叩き痕、内面ハケメ調整・同心円当て具痕	268
71	第52図	SI01-埋土	LK50	土製品	羽口	(6.6)	(7.0)		ガラス質の溶解物が付着	248
72	第52図	SI01-埋土	LK50	石製品	石錘	8.4	6.2	2.6	隆帯状に凸部が全周	348
73	第52図	SI01-粘土 範囲	LL50	土師器	甕	(13.8)			非ロクロ成形	412
74	第52図	SI01-粘土 範囲	LL50	土師器	甕		(10.6)		非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整、底部中央に砂粒が付着	411
75	第52図	SI01-粘土 範囲	LK50	赤褐色土器	甕		6.5		底部下端にヘラケズリ調整、底部回転糸切り無調整	395
76	第53図	SK07	MC54	須恵器	甕				外面に格子目叩き痕、内面に平行当て具痕	058
77	第53図	SK08-1層	MD53	須恵器	坏		5.8		底部回転糸切り無調整、谷地Ⅱ遺跡3号窯カ	445
78	第53図	SK08-3層	MD53	須恵器	坏	(12.9)	(5.7)	4.9	底部回転糸切り無調整	437
79	第53図	SK08-3層	MD53	須恵器	坏		(6.2)		底部切離し後ナデ調整	443
80	第53図	SK08-中層	MD53	土師器	埴	(20.0)			内面黒色処理・横方向のミガキ調整	452
81	第53図	SK08-3層	MD53	土師器	埴	(18.0)	(5.0)		内面黒色処理・横方向のミガキ調整	515
82	第53図	SK08-1層	MD53	土師器	埴				内面黒色処理・ミガキ調整、底部切り離し後ナデ調整、高台貼付痕あり	607
83	第53図	SK08-1層	MD53	赤褐色土器	坏	(14.0)	6.6	6.2	底部回転糸切り無調整	602
84	第53図	SK08-1層	MD53	赤褐色土器	坏	12.6	5.8	4.9	底部回転糸切り無調整	601
85	第53図	SK08-上層	MD53	赤褐色土器	坏	(11.6)	(6.6)	4.2	底部摩耗	088
86	第53図	SK08-上層	MD53	赤褐色土器	坏	(10.8)	(6.0)	4.6	体部下端外面ケズリ調整、底部回転糸切り無調整	059
87	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏	(13.8)	5.8		底部回転糸切り無調整	442
88	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏	(12.6)	6.0	4.6	底部回転糸切り無調整	621
89	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏	(13.8)	5.8	4.7	底部回転糸切り無調整	619
90	第53図	SK08-3層	MD53	赤褐色土器	坏		6.0		底部回転糸切り無調整	516
91	第54図	SK08-4層	MD53	赤褐色土器	坏	13.0	5.8	5.1	底部回転糸切り無調整	623
92	第54図	SK08-4層	MD53	赤褐色土器	坏	(13.8)	6.2	4.5	底部回転糸切り無調整	622
93	第54図	SK08-5層	MD53	赤褐色土器	坏	13.3	5.8	4.6	底部回転糸切り無調整	460
94	第54図	SK08-5層	MD53	赤褐色土器	坏	(12.6)	(6.4)	(5.2)	全面摩耗	641

第20表 遺物属性表(4)

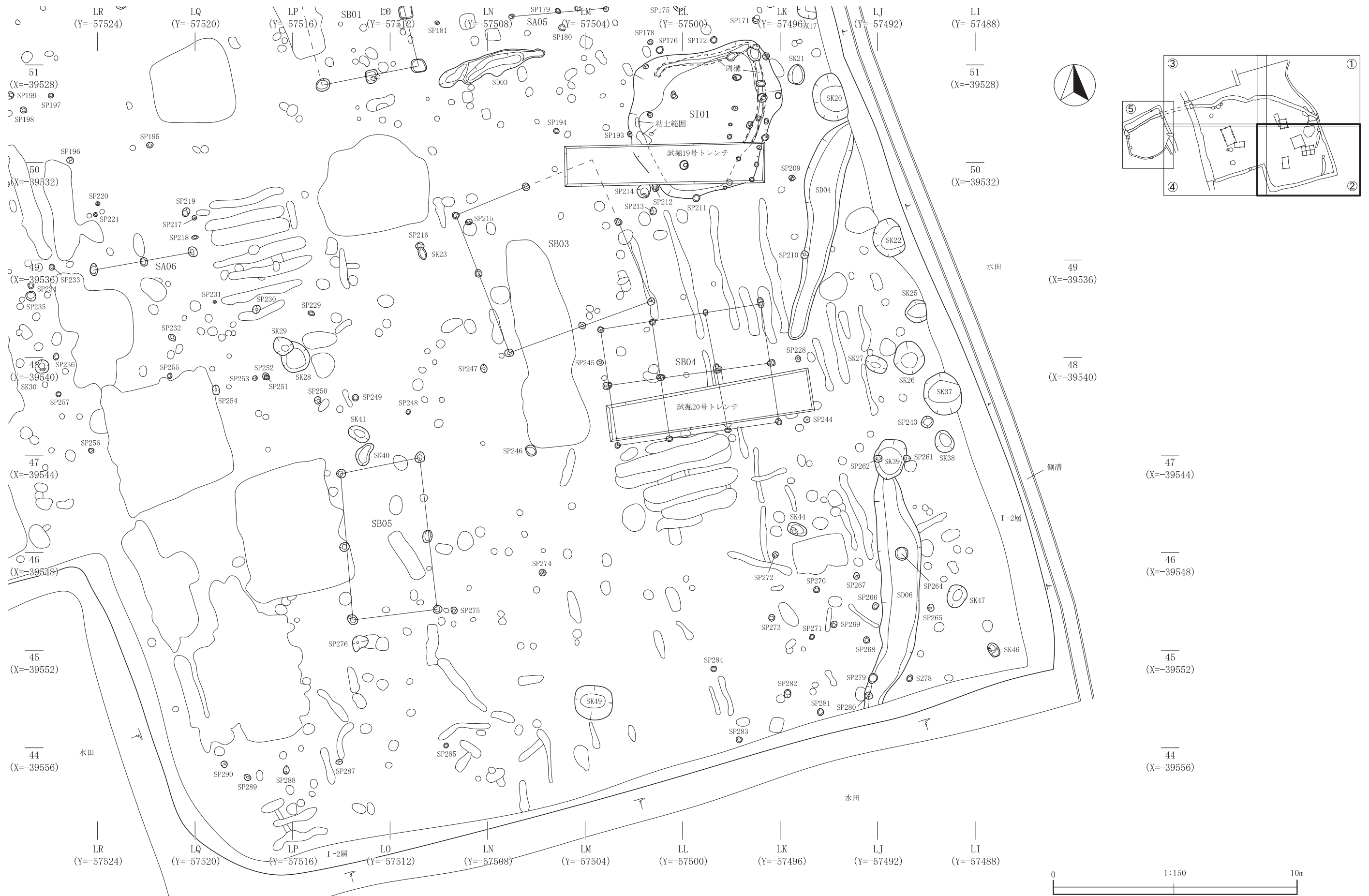
遺物No.	図番号	出土地点 層位	グリッド	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考	取上No.
95	第54図	SK08-4層	MD53	土製品	不明土製品	(8.3)	(4.4)	(5.7)	面取り、全面に二次的な被熱痕跡	629
96	第54図	SK09	MD53- ME53	土師器	埴	(18.0)			内面黒色処理・横方向のミガキ調整	076
97	第54図	SK09	MD53- ME53	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ケズリ調整カ	076
98	第54図	SK09	MD53- ME53	赤褐色土器	坏		(6.0)		底部回転糸切り無調整	076
99	第54図	SK09	MD53	赤褐色土器	坏		(6.2)		底部回転糸切り無調整	506
100	第54図	SK16	MD52- ME52	須恵器	甕				外面に格子目叩き痕、内面に平行当て具痕	323
101	第54図	SK16	ME52	土製品	不明土製品	(9.4)	(6.4)	(4.4)	面取り	376
102	第54図	SK20	LJ50- 51	赤褐色土器	坏	(12.4)				223
103	第54図	SK24	LT49- MA49	須恵器	坏		(7.0)		底部切離し後ナデ調整	319
104	第54図	SK24	LT49- MA49	土師器	甕				非ロクロ成形、外面幅の広いケズリ調整、内面ナデ調整・指頭圧痕	318
105	第55図	SK32	MB47- 48	土師器	甕	(22.0)			非ロクロ成形、内外面ナデ調整、外面指頭圧痕	299
106	第55図	SK32	MB47- 48	土師器	甕	(24.0)			非ロクロ成形、外面ケズリ調整、内面ナデ調整	312
107	第55図	SK32	MB47	赤褐色土器	坏	(10.6)	(5.2)	4.3	底部回転糸切り無調整	129
108	第55図	SK32	MB47- 48	赤褐色土器	坏	(11.6)	(4.8)	4.7	底部回転糸切り無調整、胎土に海面骨針を含む	329
109	第55図	SK34	MB47- 48・ MC47・ 48	土師器	甕				非ロクロ成形、外面ハケメ調整、内面ナデ調整	314
110	第55図	SK34	MB47- 48	土製品	不明土製品				面取り	314
111	第55図	SK45	MA45- 46	土師器	甕				非ロクロ成形、内外面ハケメ調整	288
112	第55図	SK49	LL44- 44	須恵器	壺		10.0		体部上半外面に並行叩き痕・下半にケズリ調整、体部上半内面カキ目調整・ナデ調整、底部内面および体部外面に自然釉付着、体部外面上半に靱圧痕カ	127
113	第55図	SK49	LL44- 44	土師器	甕				非ロクロ成形、内外面ハケメ調整、頸部外面ナデ調整	127
114	第56図	SX01	LK52- 53	須恵器	坏	(12.4)	(6.0)	3.9	底部回転糸切り無調整、谷地Ⅱ遺跡3号窯カ	584
115	第56図	SX01	LK52- 53	須恵器	甕	(21.2)			内外面ナデ調整	612
116	第56図	SX01	LK52- 53	須恵器	甕				外面ケズリ調整、内面ナデ調整	584
117	第56図	SX01	LJ52- 52	土師器	台付埴		(6.0)		内外面黒色処理	583
118	第56図	SX01	LK52	赤褐色土器	坏	(13.0)				610
119	第56図	SX01	LK51- 52	土製品	不明土製品	(6.5)	(4.4)	(3.6)	面取り	519
120	第56図	第1層	LK52	石製品	砥石	12.2	7.7	4.0	4面使用	117



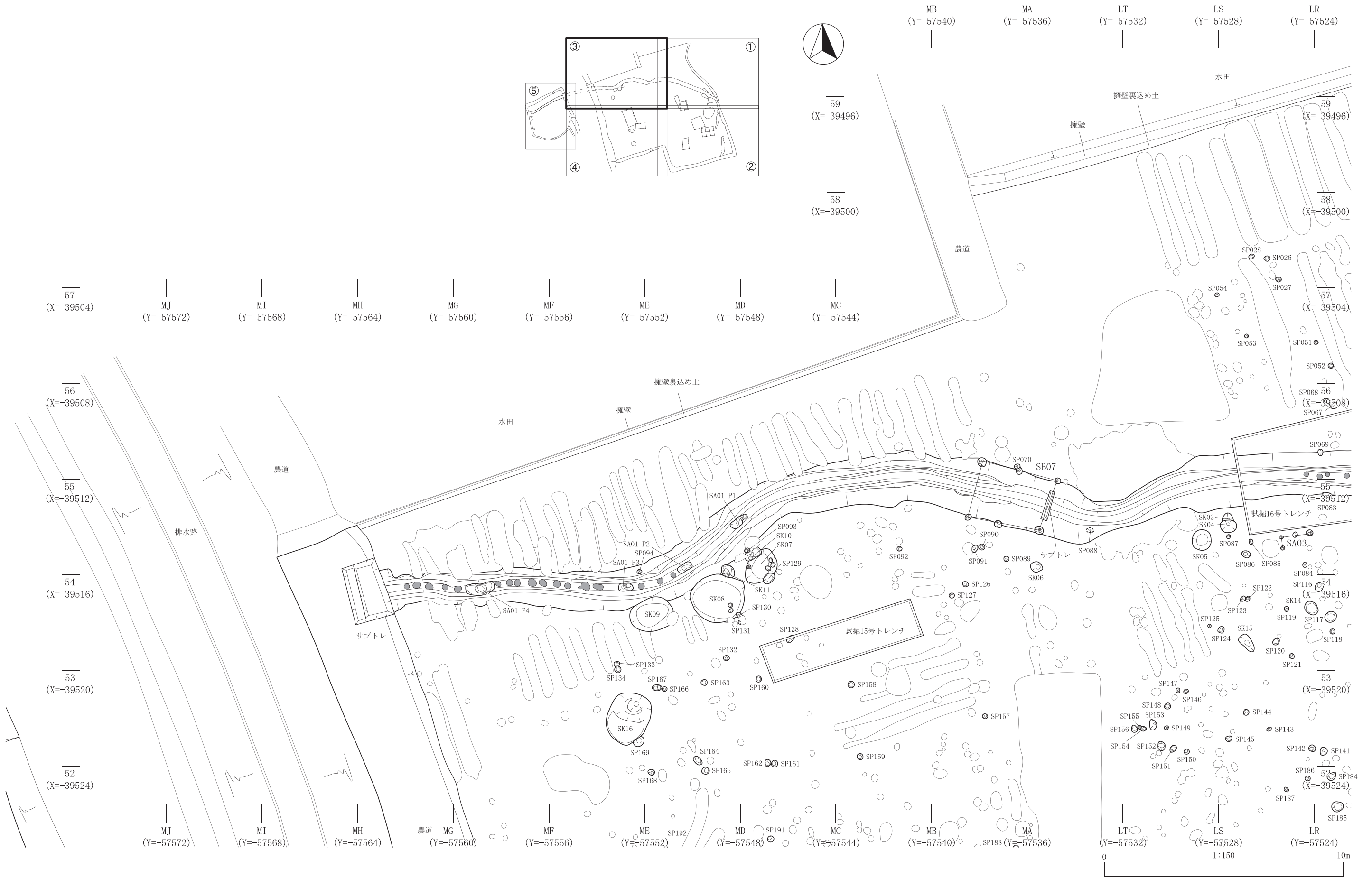
第6図 調査区全体図



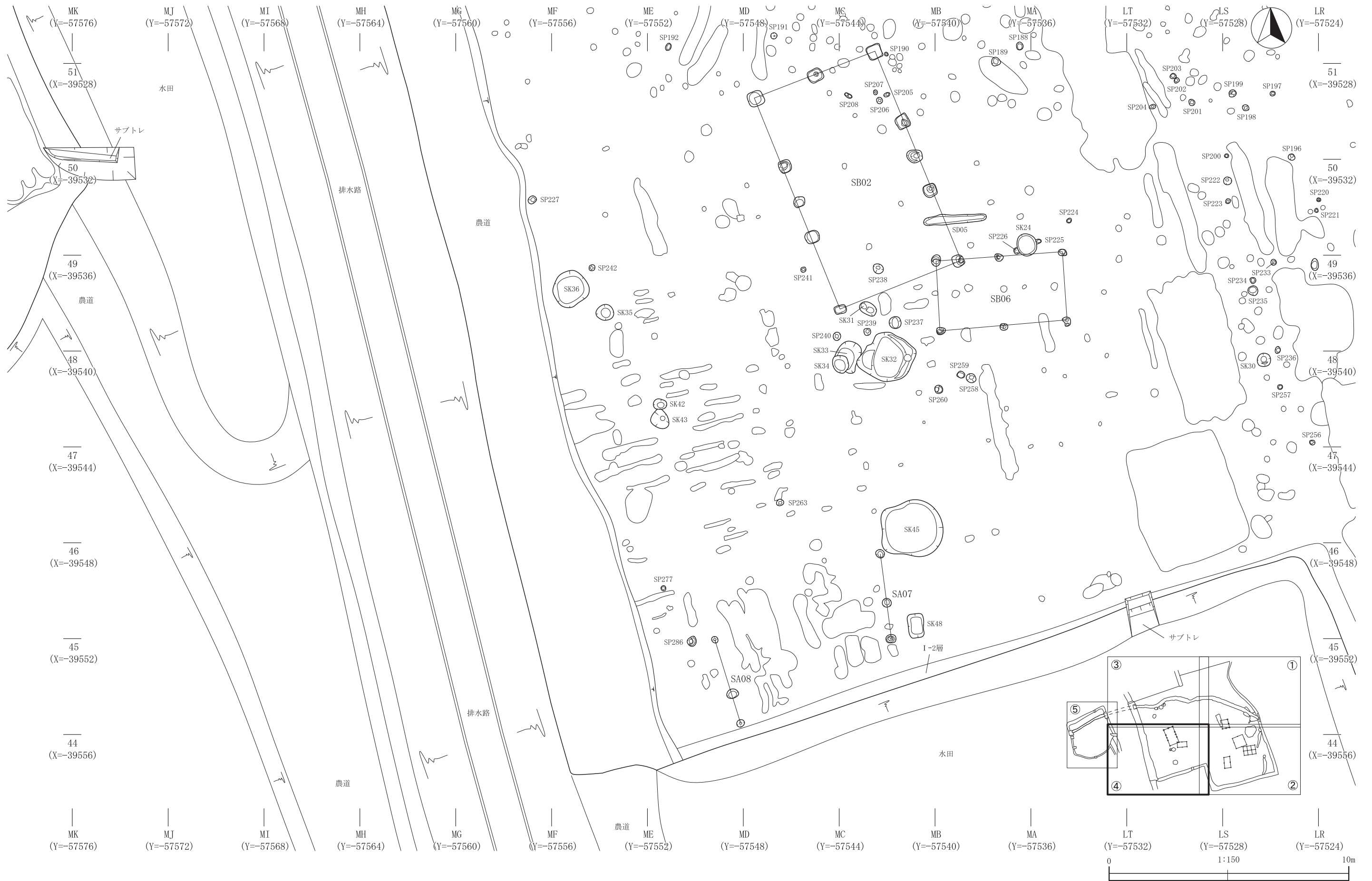
第7図 遺構全体図 (A区) 分割図①



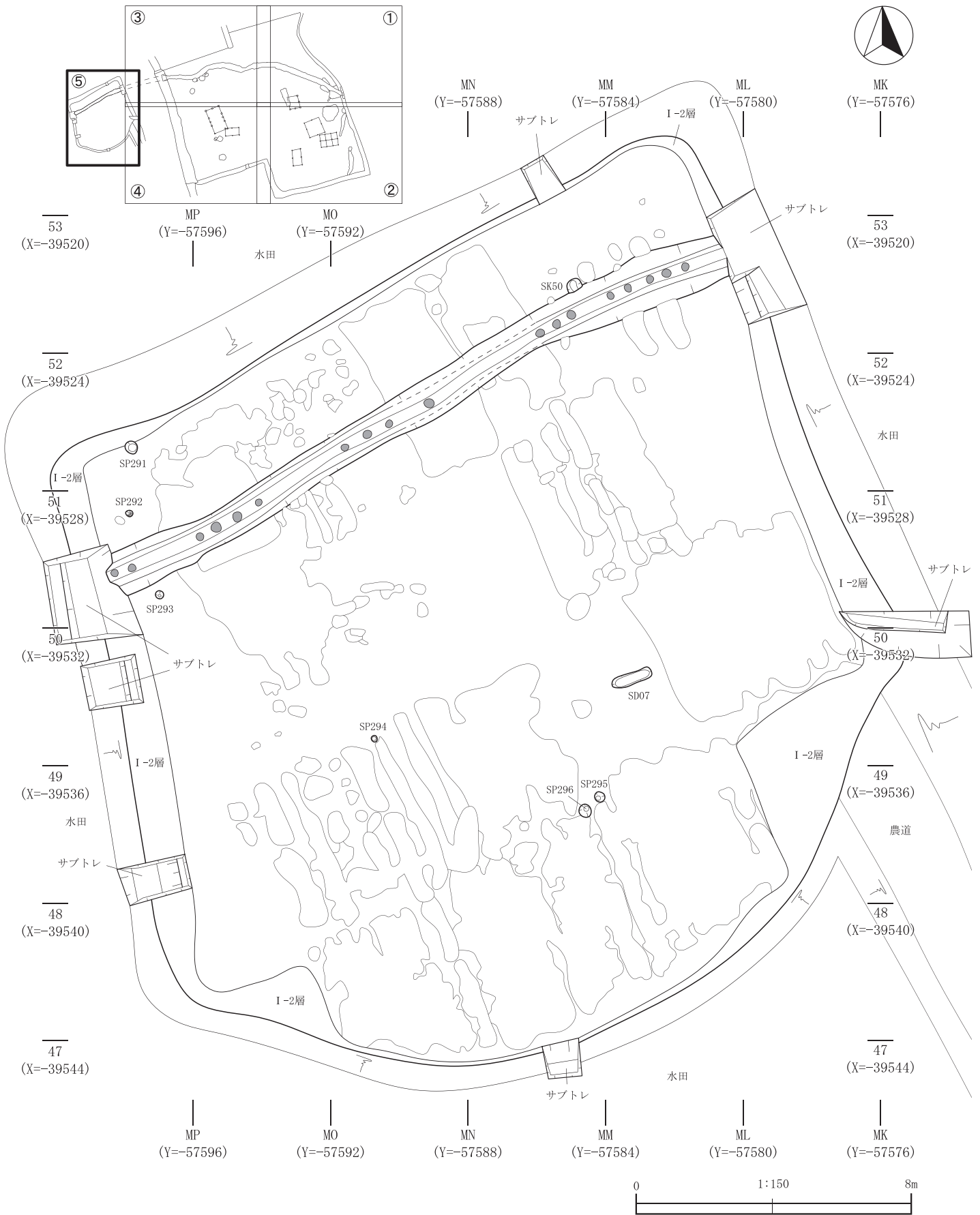
第8図 遺構全体図 (A区) 分割図②



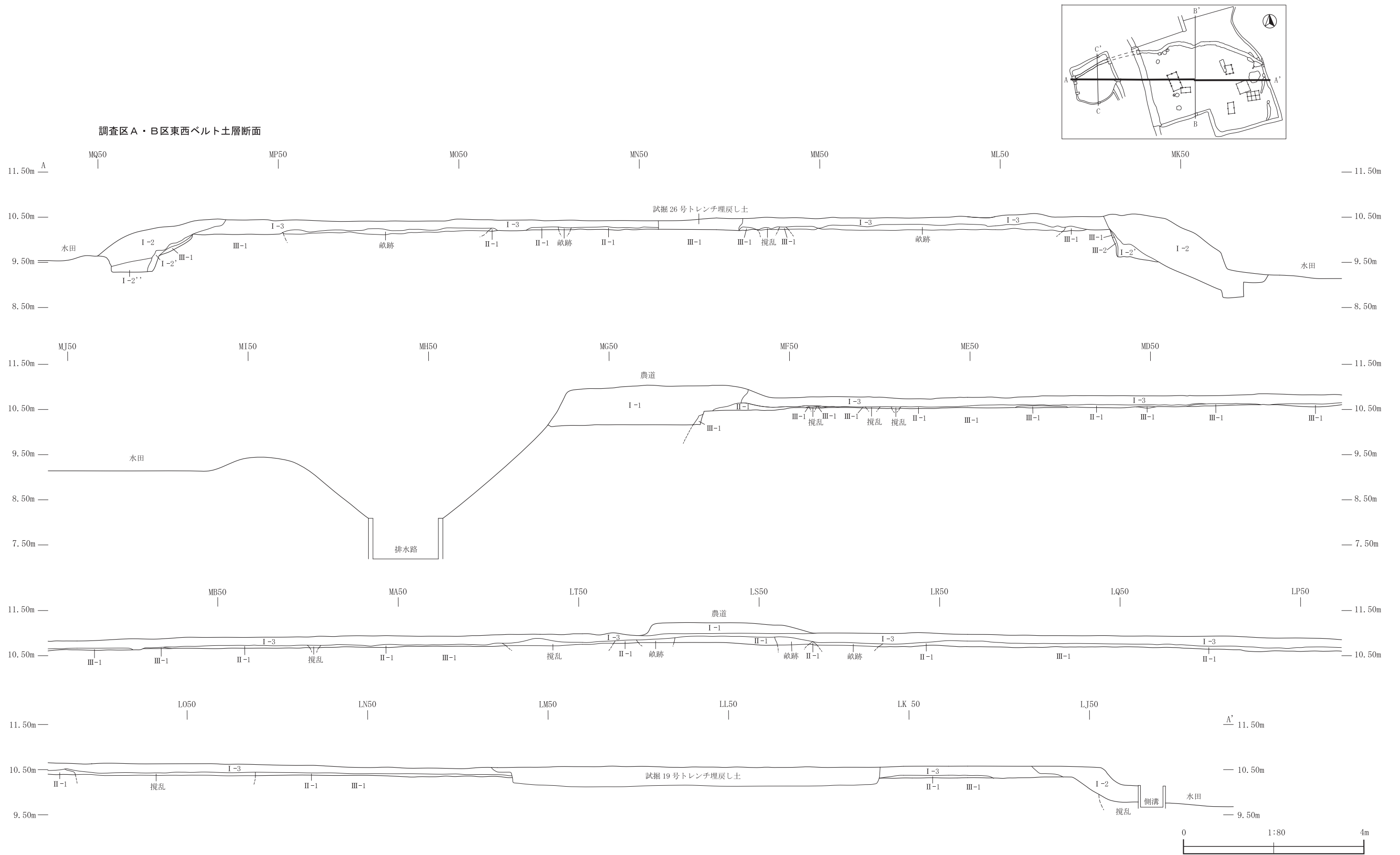
第9図 遺構全体図 (A区) 分割図③



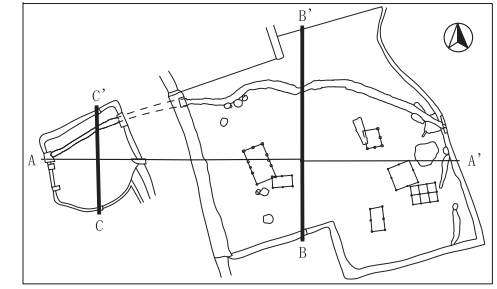
第10図 遺構全体図(A区)分割図④



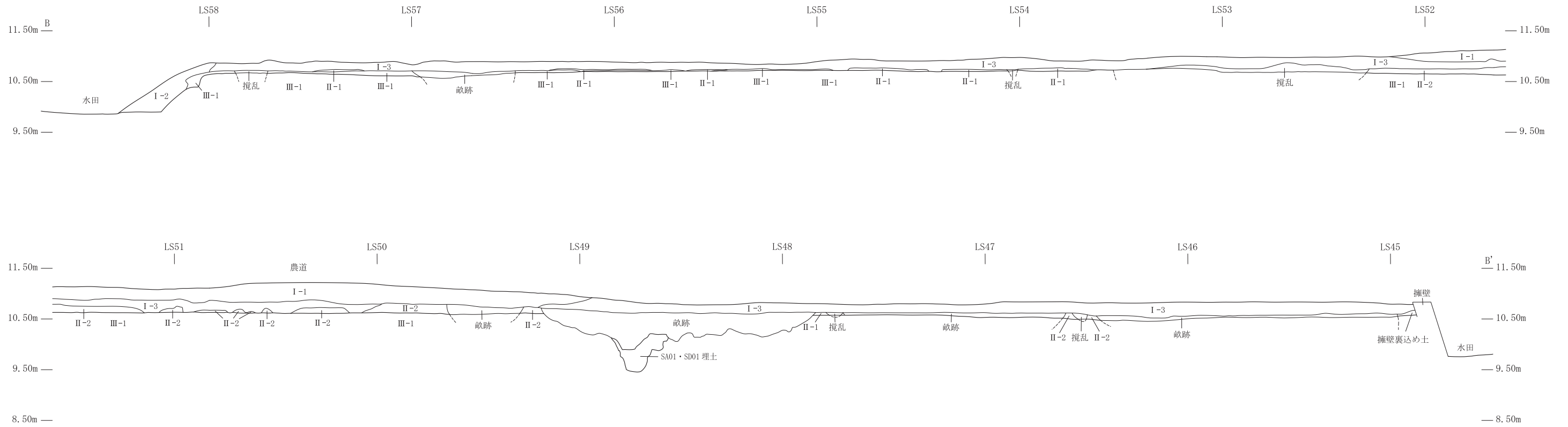
第11図 遺構全体図 (B区) 分割図⑤



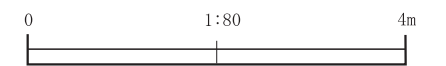
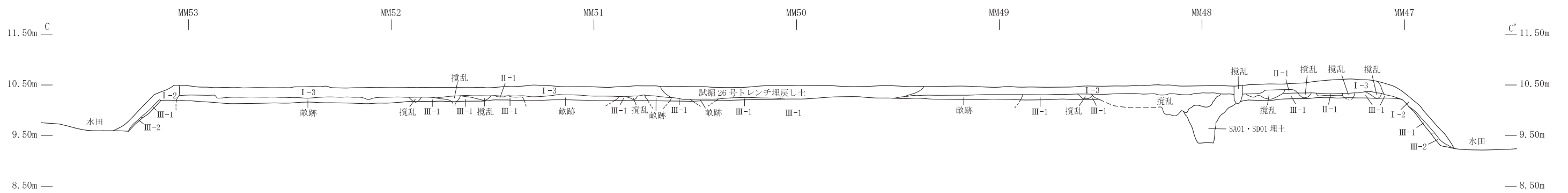
第12図 土層断面図（東西）



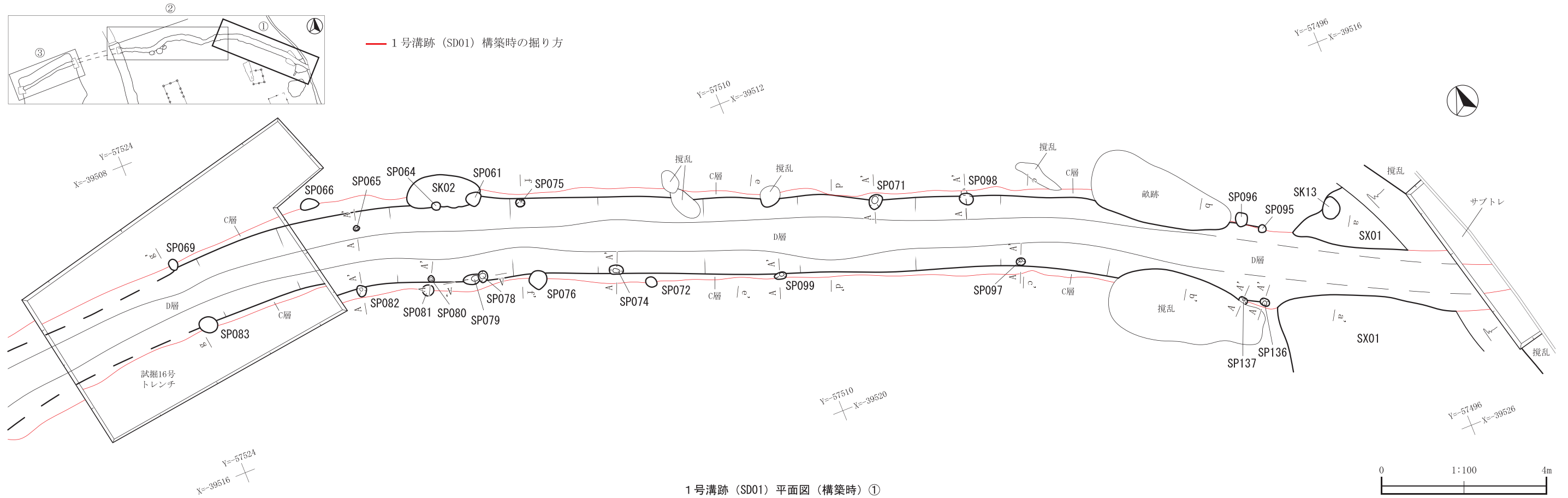
調査区A区南北ベルト土層断面



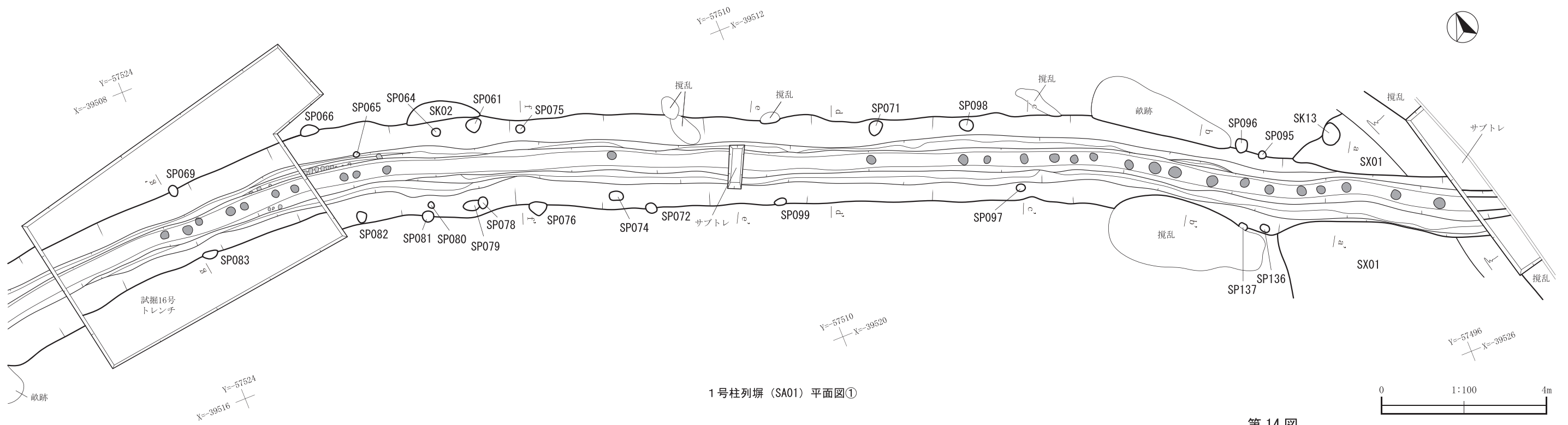
調査区B区南北ベルト土層断面



第13図 土層断面図(南北)

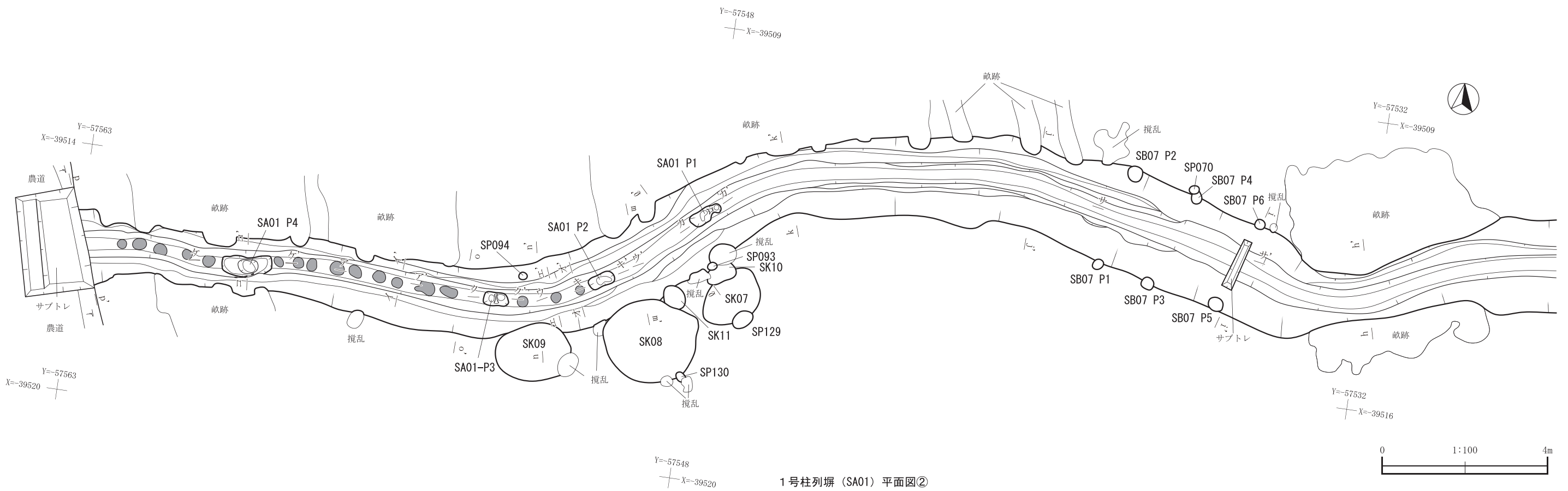
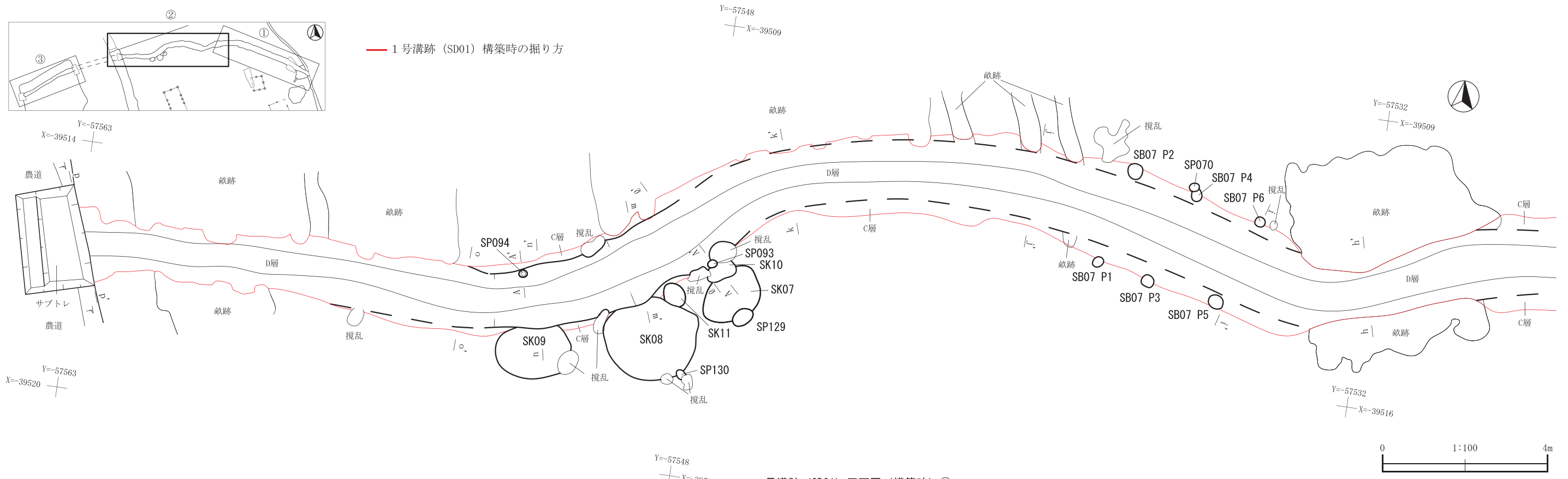


1号溝跡 (SD01) 平面図 (構築時) ①

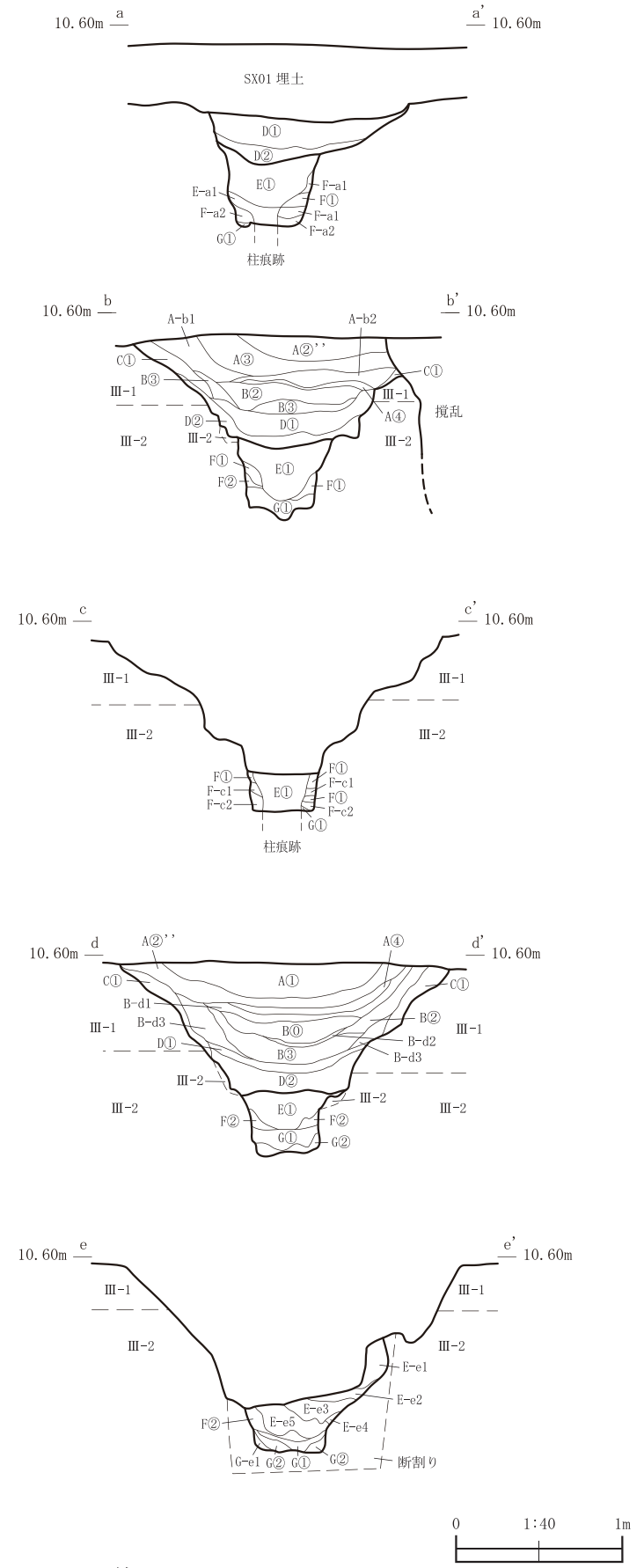
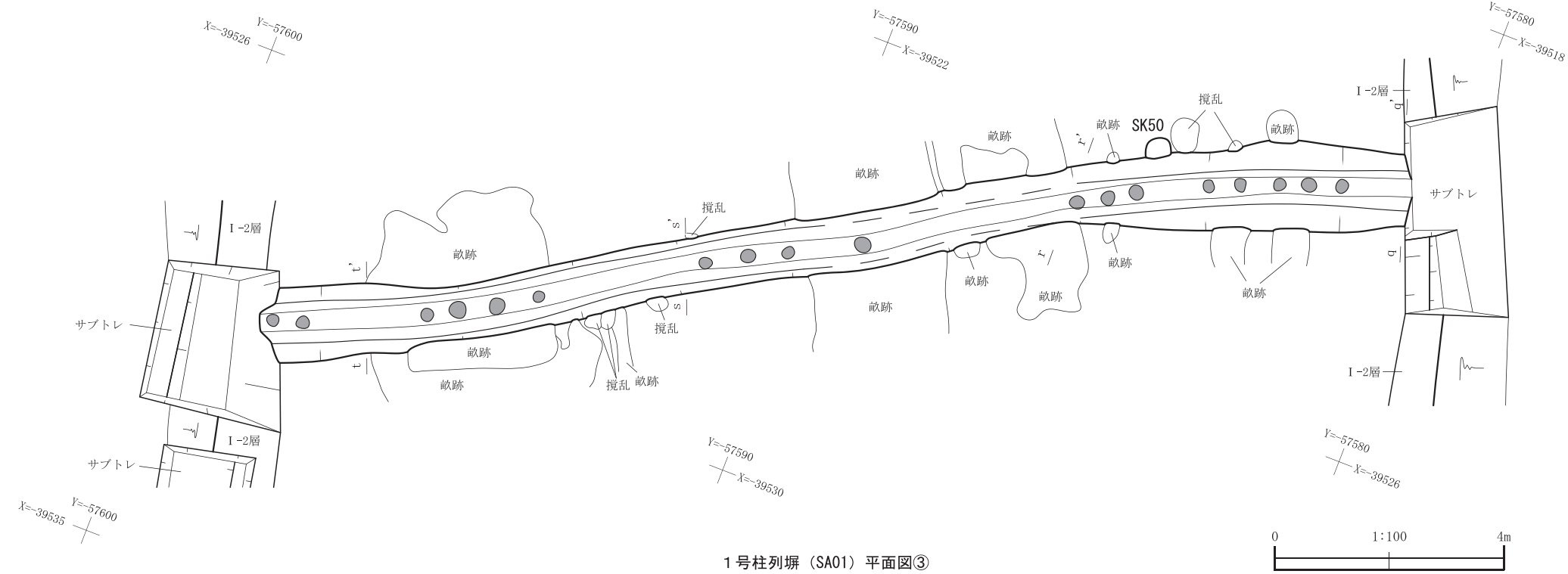
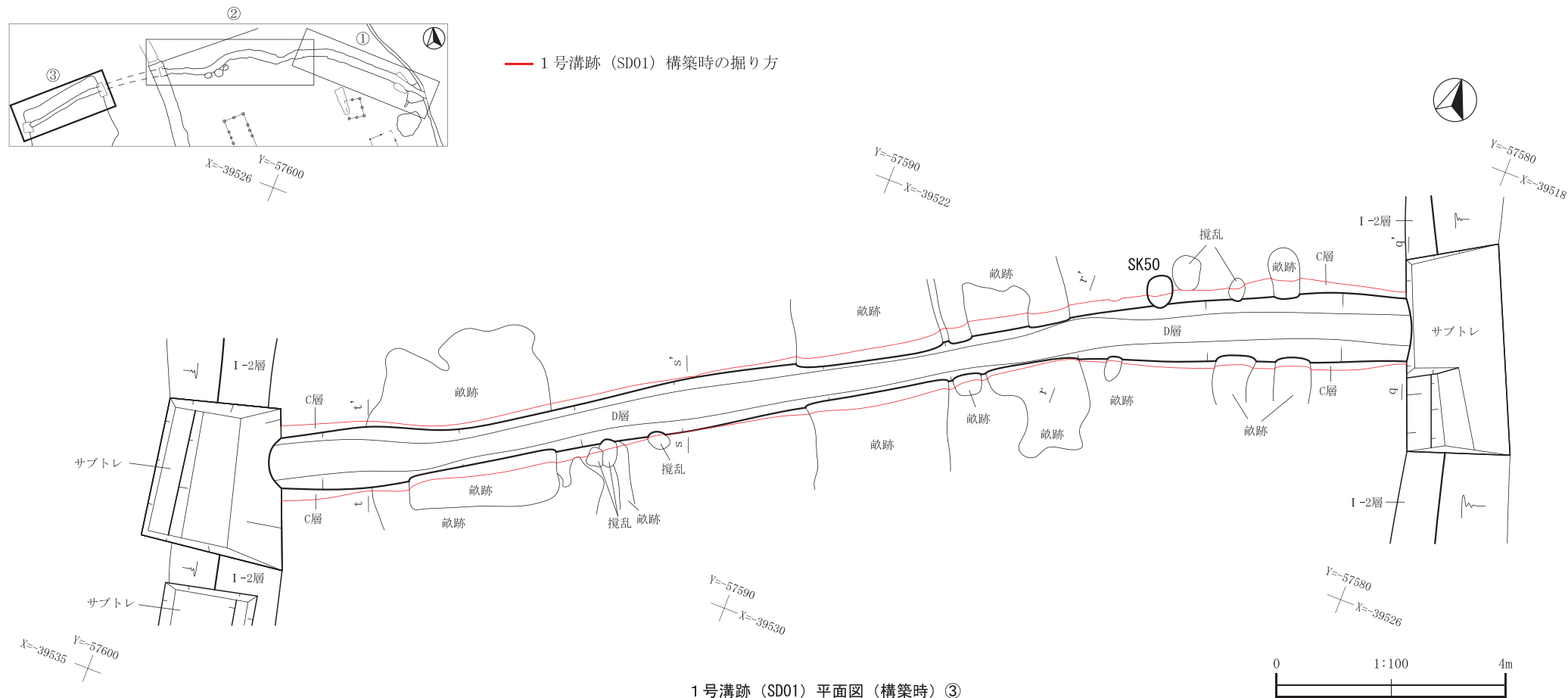


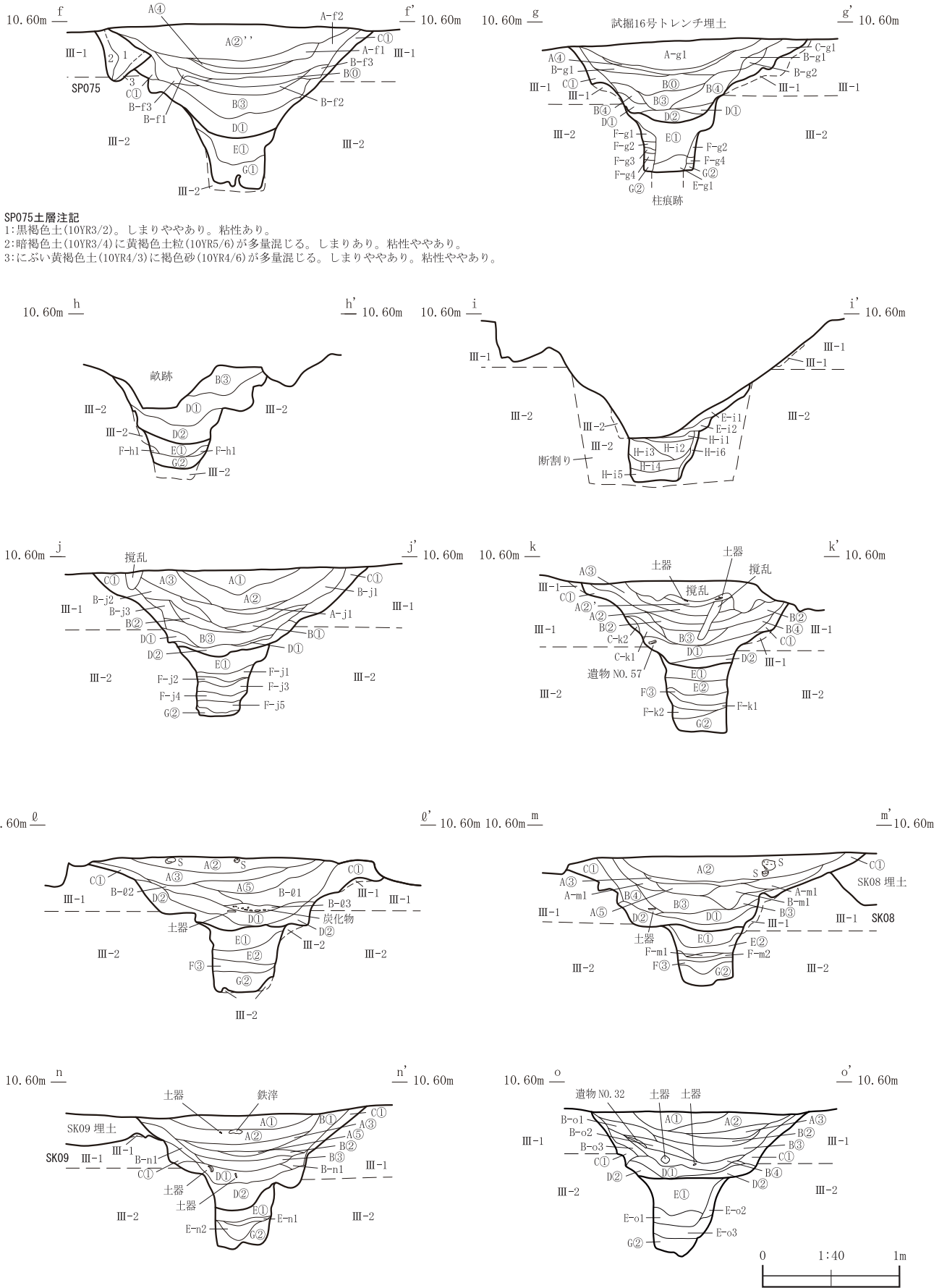
1号柱列塀 (SA01) 平面図①

第14図
1号柱列塀 (SA01)・1号溝跡 (SD01) 平面図①



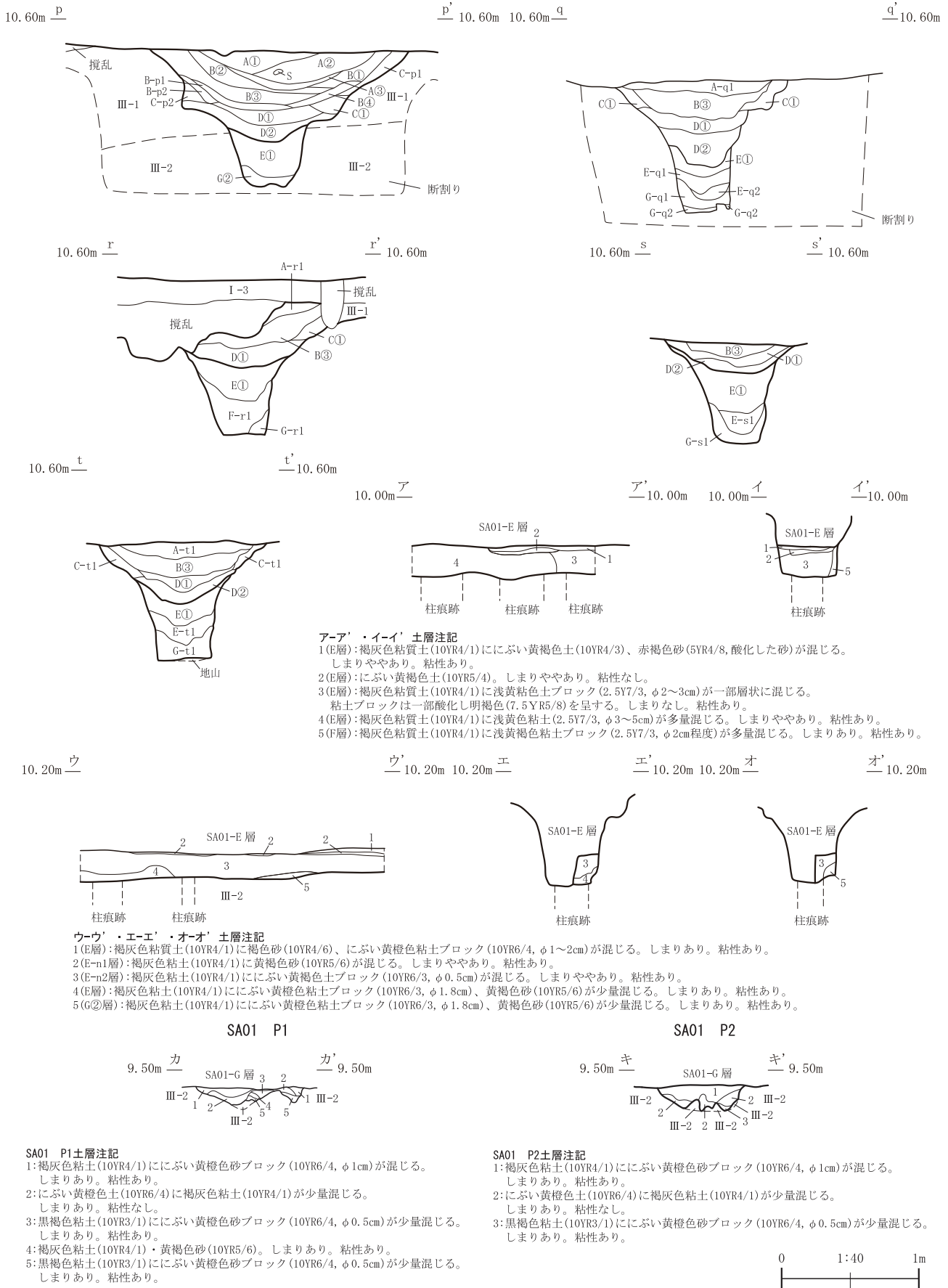
第15図
1号柱列塀 (SA01)・1号溝跡 (SD01) 平面図②



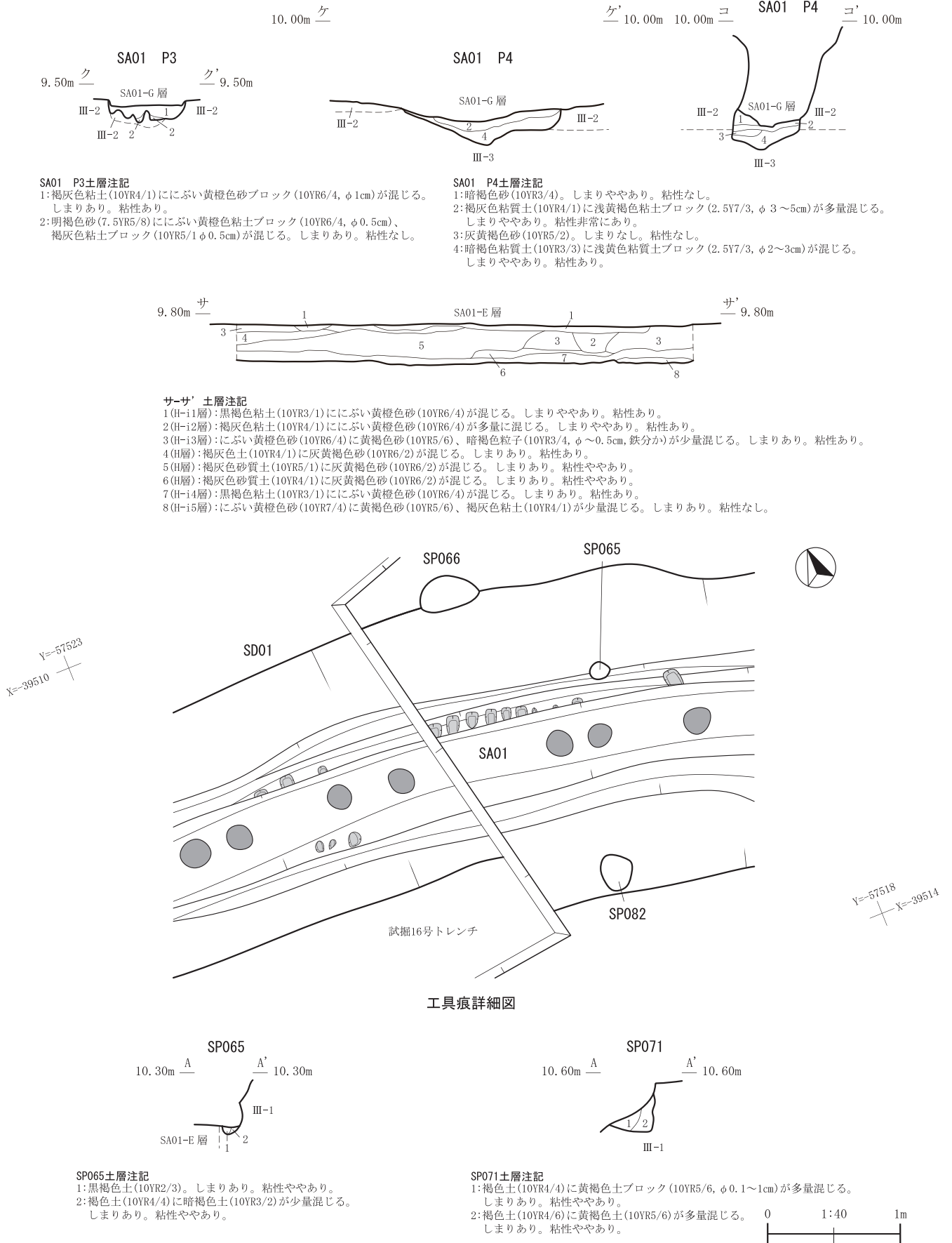


第17図 1号柱列塀(SA01)・1号溝跡(SD01)断面図①

第3章 調査の方法と成果

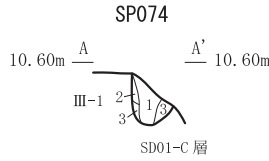


第18図 1号柱列塀(SA01)・1号溝跡(SD01)断面図②

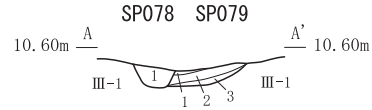


第19図 1号柱列塀(SA01)断面図・工具痕詳細図・SP065・071断面図

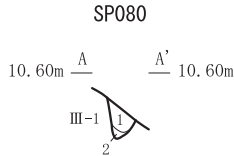
第3章 調査の方法と成果



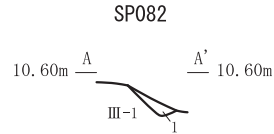
SP074土層注記
 1: 黒褐色土(10YR2/3)。しまりややあり。粘性ややあり。
 2: 黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が多量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
 3: 黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。



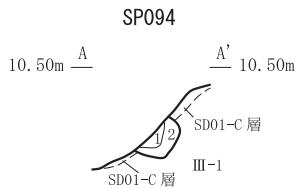
SP078土層注記
 1: にぶい黄褐色土(10YR5/4)に暗褐色土(10YR3/3)が多量、赤褐色ブロック(5YR4/6)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
SP079土層注記
 1: 褐色土(10YR4/6)。しまりややあり。粘性ややあり。
 2: 暗褐色土(10YR3/3)に褐色土(10YR4/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
 3: 暗褐色土(10YR3/3)に褐色土(10YR4/6)が多量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。



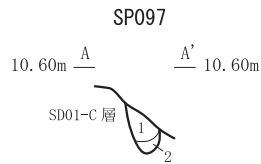
SP080土層注記
 1: 黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 褐色土(10YR4/4)に暗褐色土(10YR3/2)が混じる。しまりなし。粘性ややあり。



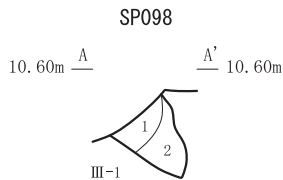
SP082土層注記
 1: 黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1~3cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。



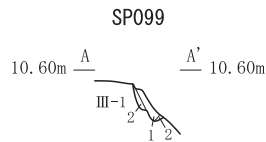
SP094土層注記
 1: 黒褐色土(10YR2/3)に明黄褐色粘土粒(10YR6/8)が混じる。しまりあり。粘性あり。
 2: 暗褐色土(10YR3/4)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/8, φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。



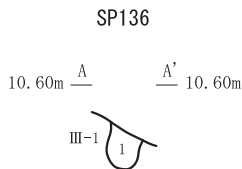
SP097土層注記
 1: 黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.1~0.2cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
 2: 褐色土(10YR4/6)に暗褐色土(10YR3/3)が混じる。しまりややあり。粘性あり。



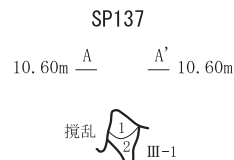
SP098土層注記
 1: 褐色土(10YR4/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.1~0.3cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 褐色土(10YR4/6)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ3~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。



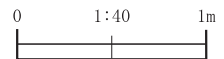
SP099土層注記
 1: 褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/6)が微量混じる。しまりなし。粘性ややあり。
 2: 褐色土(10YR4/6)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混じる。しまりなし。粘性ややあり。



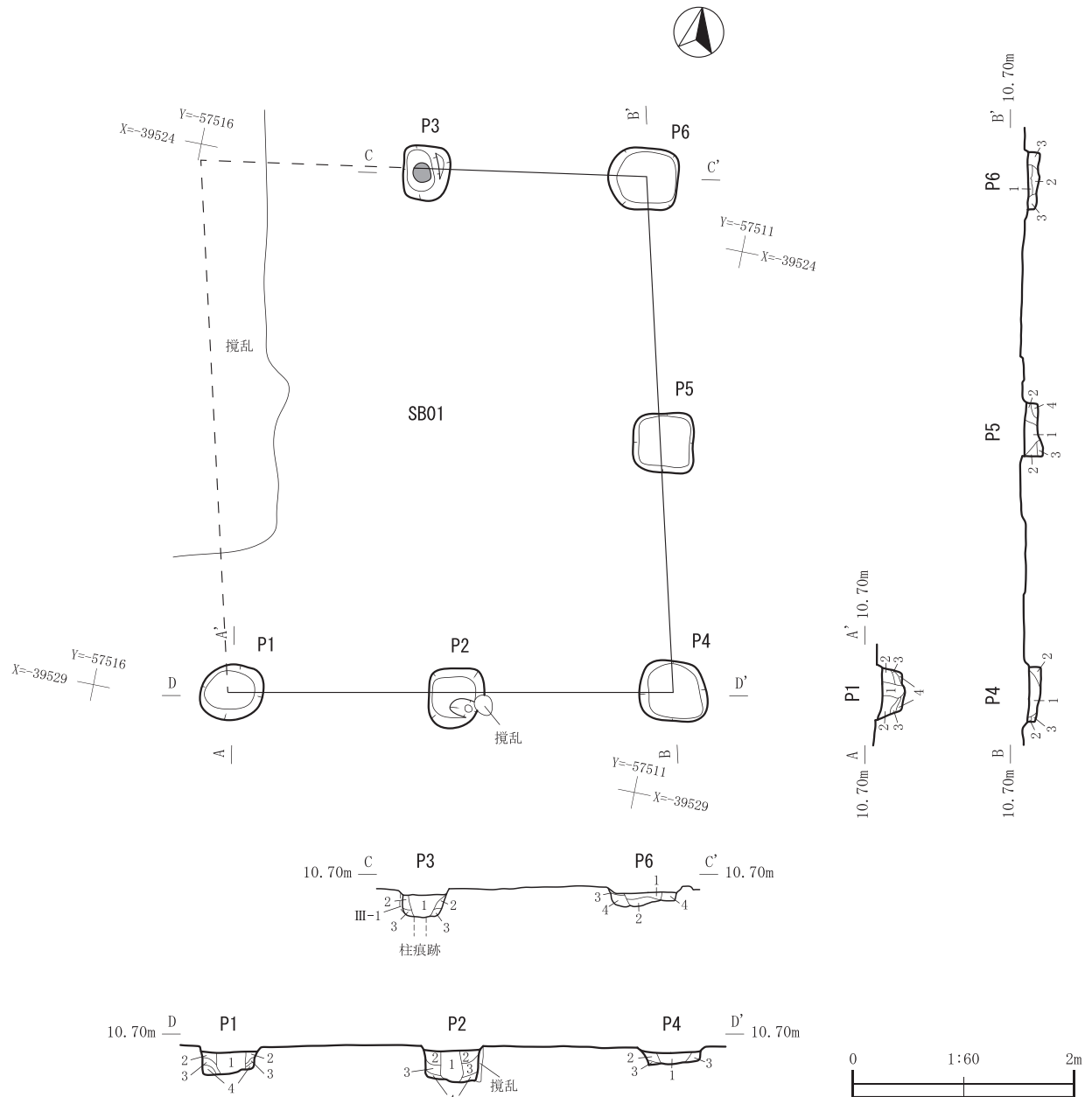
SP136土層注記
 1: 褐色土(10YR4/4)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ0.1~0.5cm)が微量混じる。鉄分が微量沈着する。しまりややあり。粘性ややあり。



SP137土層注記
 1: 暗褐色土(10YR3/3)に褐色土ブロック(10YR4/4)が多量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
 2: 暗褐色土(10YR3/3)に褐色土ブロック(10YR4/4)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。



第20図 SP074・078～080・082・094・097～099・136・137断面図



SB01 P1土層注記

- 1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1cm程度)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 2(掘り方):暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm程度)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm程度)が混じる。しまりあり。粘性あり。
- 4(掘り方):褐色土(10YR4/4)に褐灰色土粒(10YR4/1)が混じる。しまりややなし。粘性ややあり。

SB01 P2土層注記

- 1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/3)に褐色土粒(10YR4/6)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 2(掘り方):暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/8, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 3(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土粒(10YR5/6)・にぶい黄褐色土ブロック(10YR6/4, φ3~5cm)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 4(掘り方):褐色土(10YR4/6)に暗褐色土(10YR3/4)が混じる。しまりややあり。粘性あり。

SB01 P3土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/3)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ1~3cm)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 2(掘り方):暗褐色土(10YR3/4)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ0.5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 3(掘り方):にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黒褐色土ブロック(10YR2/3, φ1cm)、暗褐色土粒(10YR3/4)が混じる。しまりあり。粘性あり。

SB01 P4土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/2)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ0.5~2cm)が混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2(掘り方):黒褐色土(10YR2/3)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):褐色土(10YR4/4)に褐色土ブロック(10YR2/3, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

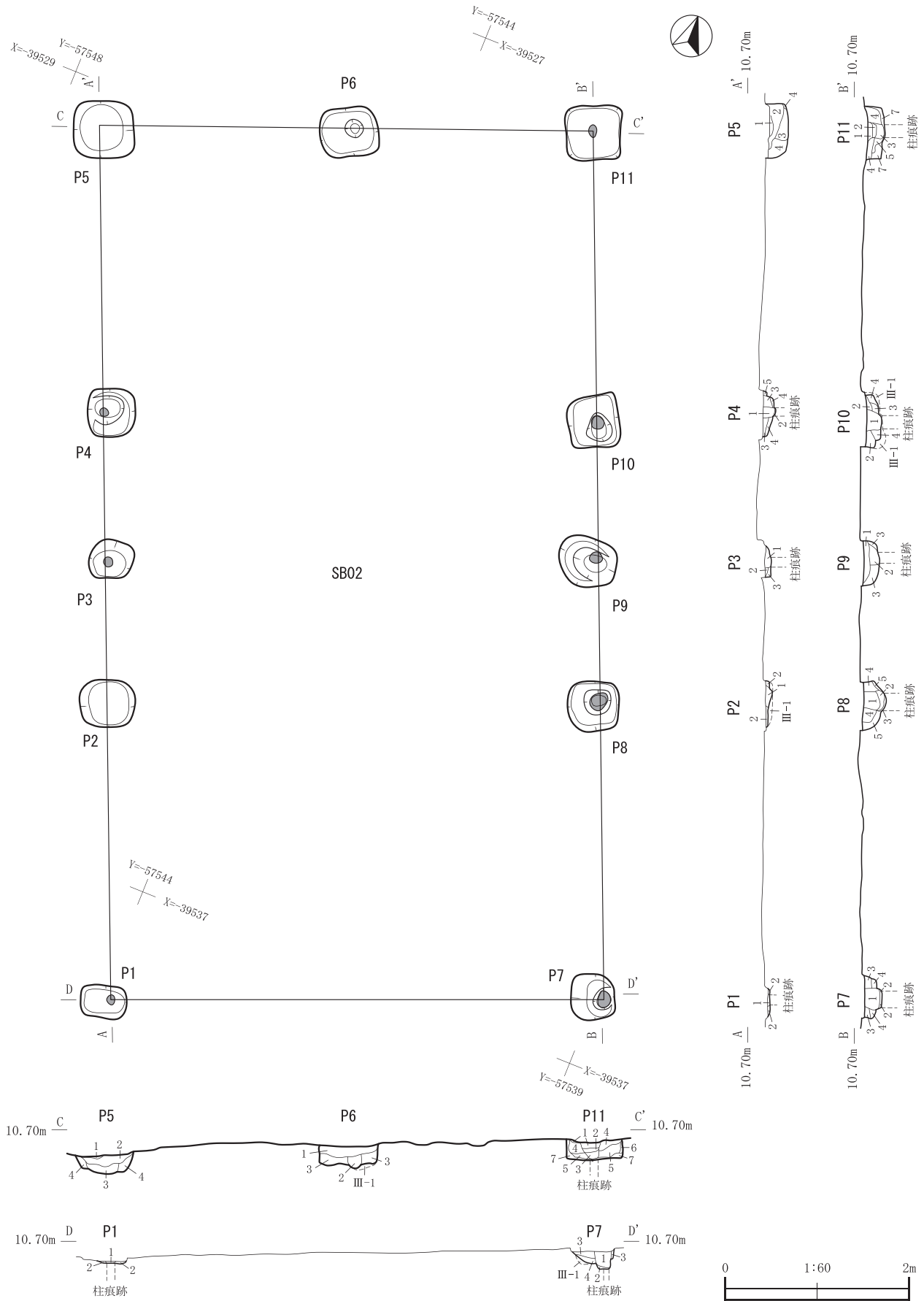
SB01 P5土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/2)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ1cm程度)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 2(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ0.5cm程度)が非常に多く混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1cm)が混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 4(掘り方):褐色土(10YR4/4)に黒褐色土ブロック(10YR2/2, φ0.5cm)、褐色土ブロック(10YR4/6, φ1cm)が混じる。しまりあり。粘性なし。

SB01 P6土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/3)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ0.5cm程度)が混じる。しまりややあり。
- 2(抜き取り):にぶい黄褐色土(10YR4/3)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ1~3cm)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 3(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 4(掘り方):褐色土(10YR4/6)に黒褐色土ブロック(10YR2/3, φ1cm)、暗褐色土粒(10YR3/4)が混じる。しまりあり。粘性あり。

第21図 1号掘立柱建物跡(SB01)平面図・断面図



第22図 2号掘立柱建物跡 (SB02) 平面図・断面図

SB02 P1土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P2土層注記

- 1(抜き取り):黒色土(10YR2/1)。しまりあり。粘性あり。
- 2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P3土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):にぶい黄褐色土(10YR7/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P4土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1~0.5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):灰白色粘土(10YR8/1)に鉄分が微量に沈着する。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 4(掘り方):にぶい黄褐色土(10YR7/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 5(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P5土層注記

- 1(抜き取り):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ5cm)が多量、明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(抜き取り):にぶい黄褐色粘質土(10YR6/4)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1~0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 4(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P6土層注記

- 1(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が交互に堆積する。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P7土層注記

- 1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が少量、炭化物が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):灰白色粘土(10YR8/1)。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ3cm)が多量、明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 4(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P8土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(抜き取り):灰白色粘土(10YR8/1)。しまりあり。粘性あり。
- 4(掘り方):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
- 5(掘り方):にぶい黄褐色土(10YR7/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB02 P9土層注記

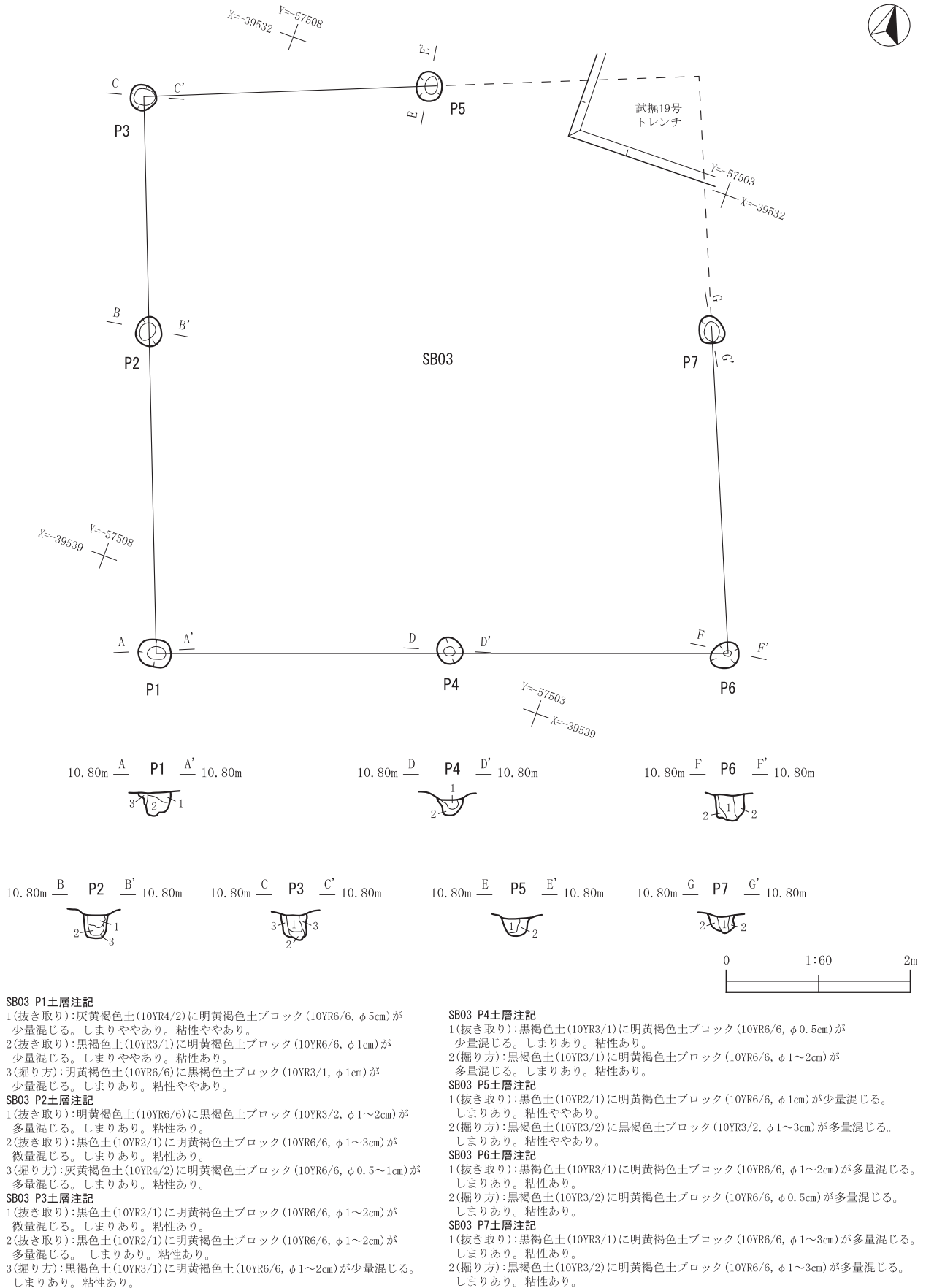
- 1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):にぶい黄褐色土(10YR7/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ3~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P10土層注記

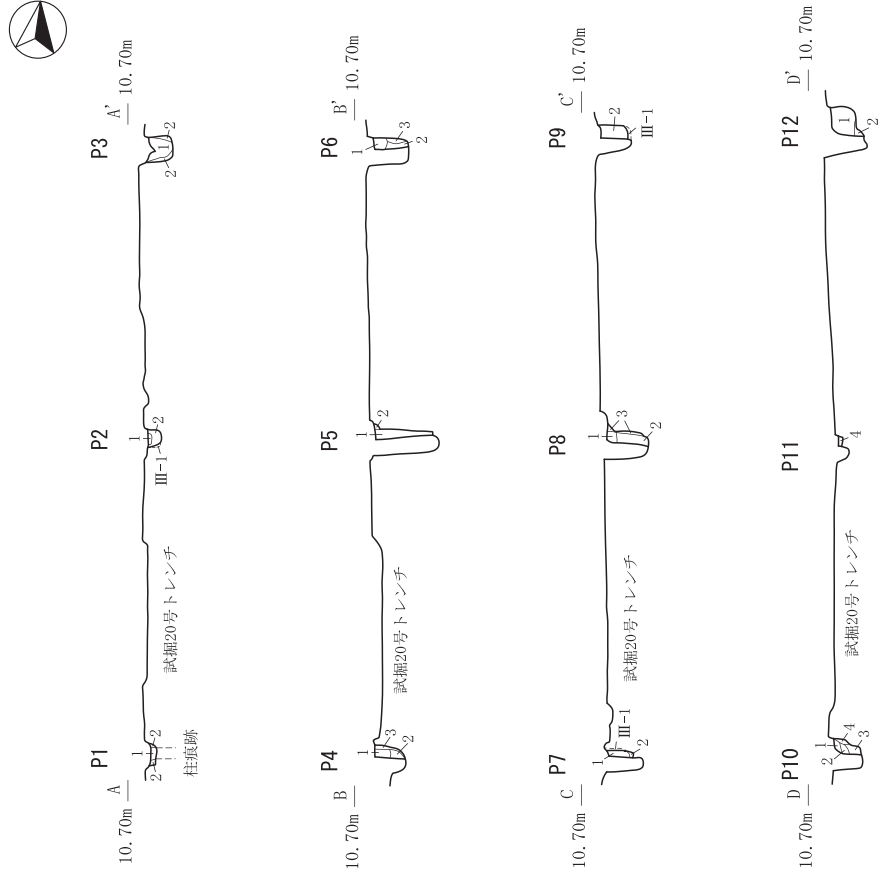
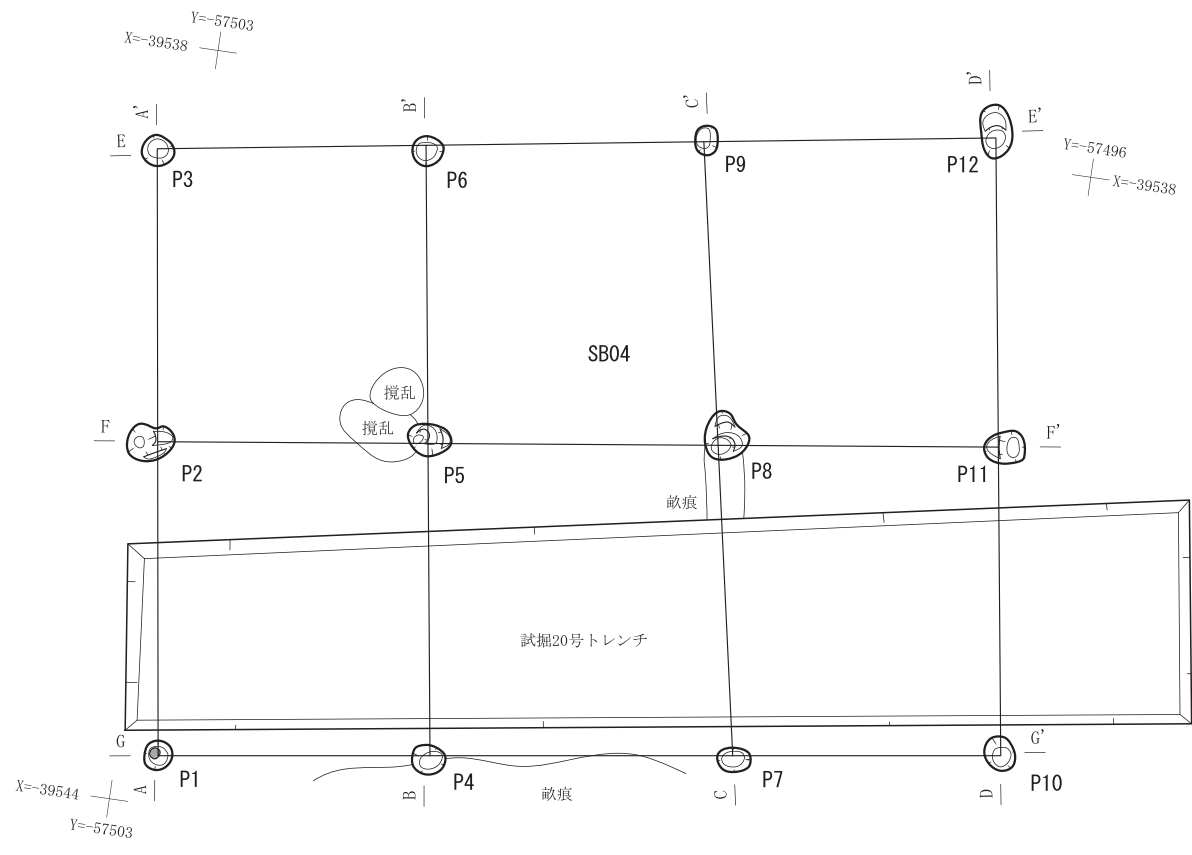
- 1(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(掘り方):黒褐色粘質土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 4(掘り方):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB02 P11土層注記

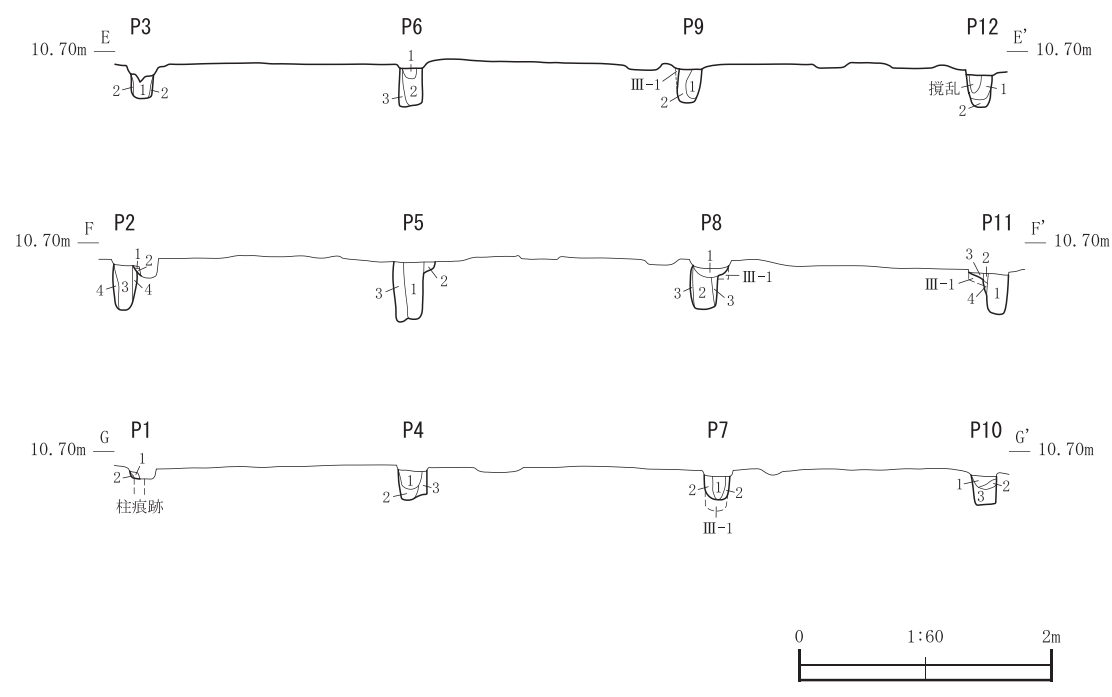
- 1(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
- 4(掘り方):にぶい黄褐色粘質土(10YR6/4)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ1~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 5(掘り方):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
- 6(掘り方):黒褐色粘質土(10YR2/1)。しまりあり。粘性あり。
- 7(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。



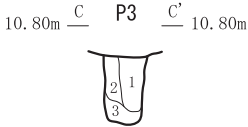
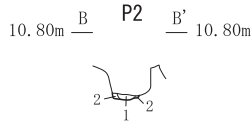
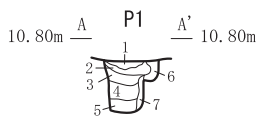
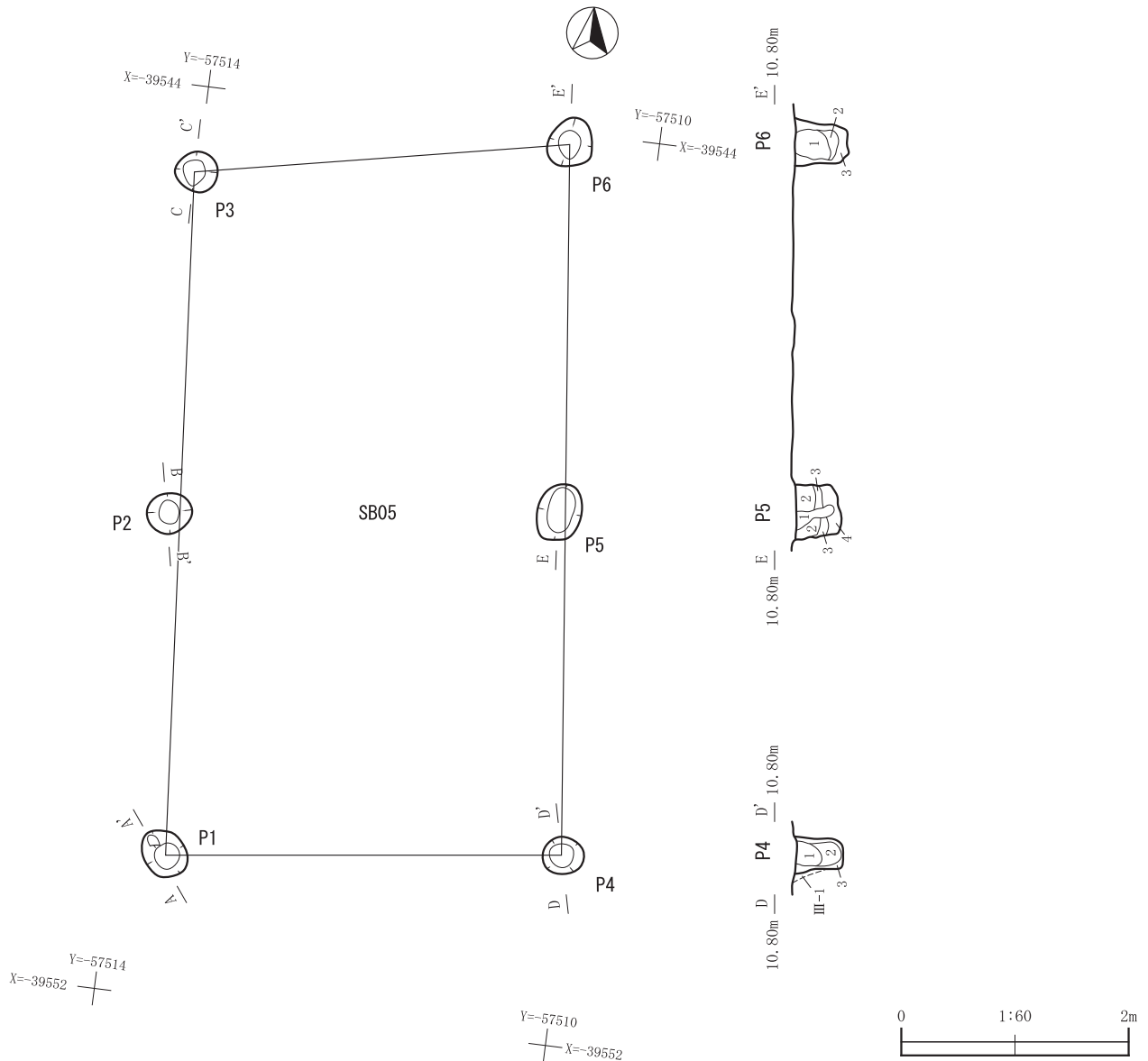
第23図 3号掘立柱建物跡(SB03)平面図・断面図



- SB04 P1土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/3)。しまりややあり。粘性ややあり。
 2(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SB04 P2土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
 2(抜き取り):にぶい黄褐色土(10YR7/4)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 3(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
- SB04 P3土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2(掘り方):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)。しまりあり。粘性あり。
- SB04 P4土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2(抜き取り):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1~2cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
 3(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ2~5cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
- SB04 P5土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
- SB04 P6土層注記**
 1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1~0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
 3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SB04 P7土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~8cm)が微量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
- SB04 P8土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ5cm)、炭化物が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性ややあり。
 3(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SB04 P9土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。
 2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SB04 P10土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1~0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 3(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
- SB04 P11土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)、炭化物が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
 3(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
- SB04 P12土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2(掘り方):暗褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。



第24図 4号掘立柱建物跡(SB04)平面図・断面図



SB05 P1土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 4(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 5(抜き取り):黒色粘質土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 6(抜き取り):黒色土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 7(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB05 P2土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR2/1)。しまりあり。粘性あり。
- 2(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB05 P3土層注記

- 1(抜き取り):黒色粘質土(10YR2/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 2(掘り方):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB05 P4土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SB05 P5土層注記

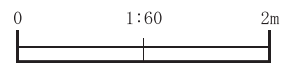
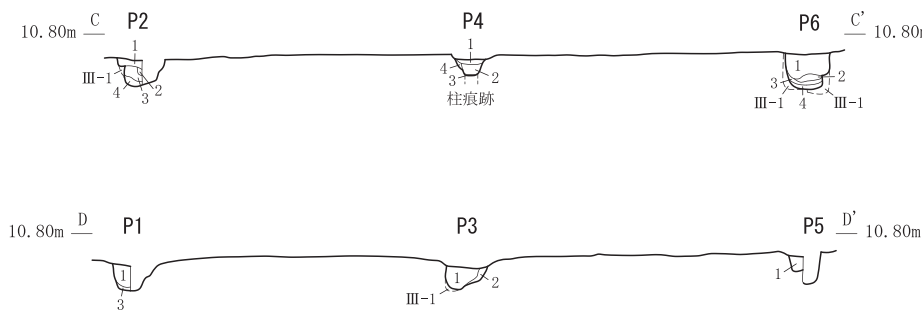
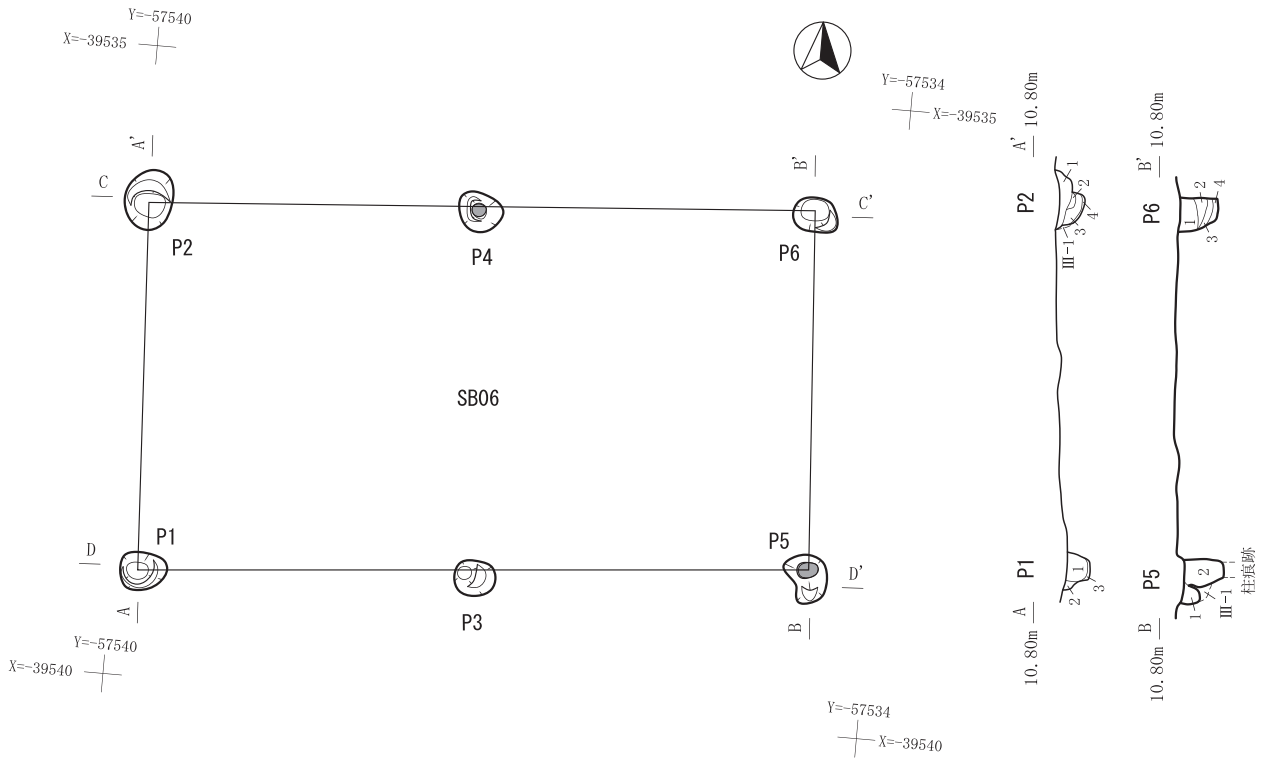
- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
- 2(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ2~3cm)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。

SB05 P6土層注記

- 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- 3(掘り方):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。

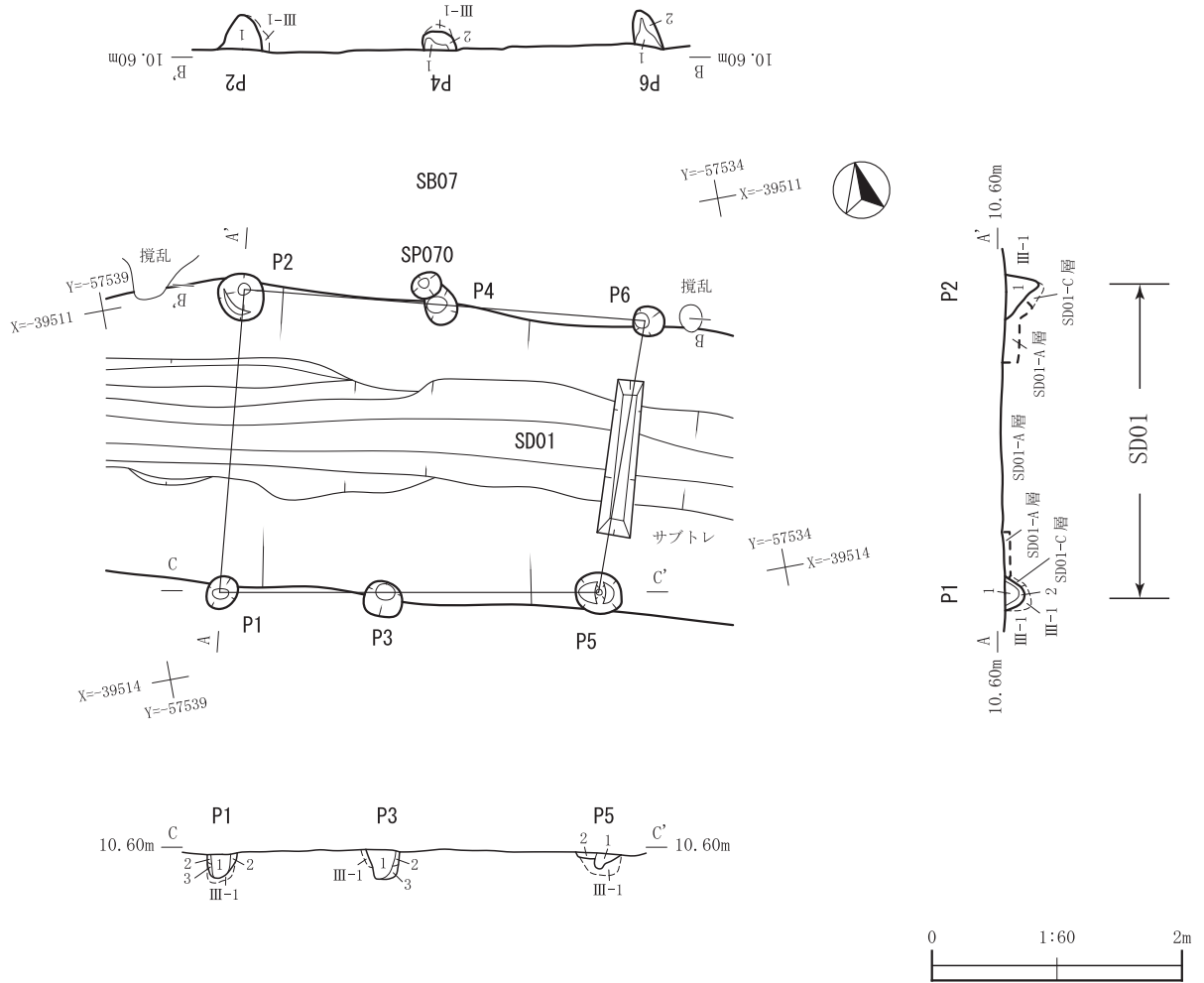
第25図 5号掘立柱建物跡(SB05)平面図・断面図

第3章 調査の方法と成果



- SB06 P1土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 3(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SB06 P2土層注記**
 1(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2(抜き取り):灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。
 3(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 4(掘り方):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SB06 P3土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.3~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SB06 P4土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2(抜き取り):黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 3(抜き取り):灰白色粘土(10YR8/2)に鉄分が少量沈着する。しまりあり。粘性あり。
 4(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SB06 P5土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SB06 P6土層注記**
 1(抜き取り):黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1~0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2(抜き取り):灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 3(掘り方):明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ0.5cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 4(掘り方):黒褐色粘質土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。

第26図 6号掘立柱建物跡(SB06)平面図・断面図



SB07 P1土層注記

- 1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性ややあり。
- 2(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 3(掘り方):褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/6)ブロックが多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB07 P2土層注記

- 1(埋土):暗褐色土(10YR3/3)に褐色土(10YR4/4)、炭化物(φ0.1~0.2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB07 P3土層注記

- 1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土(10YR5/6)ブロックが少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 2(掘り方):褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性あり。
- 3(掘り方):褐色土(10YR4/4)に黄褐色土(10YR5/6)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。

SB07 P4土層注記

- 1(埋土):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/5)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 2(埋土):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/5)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SB07 P5土層注記

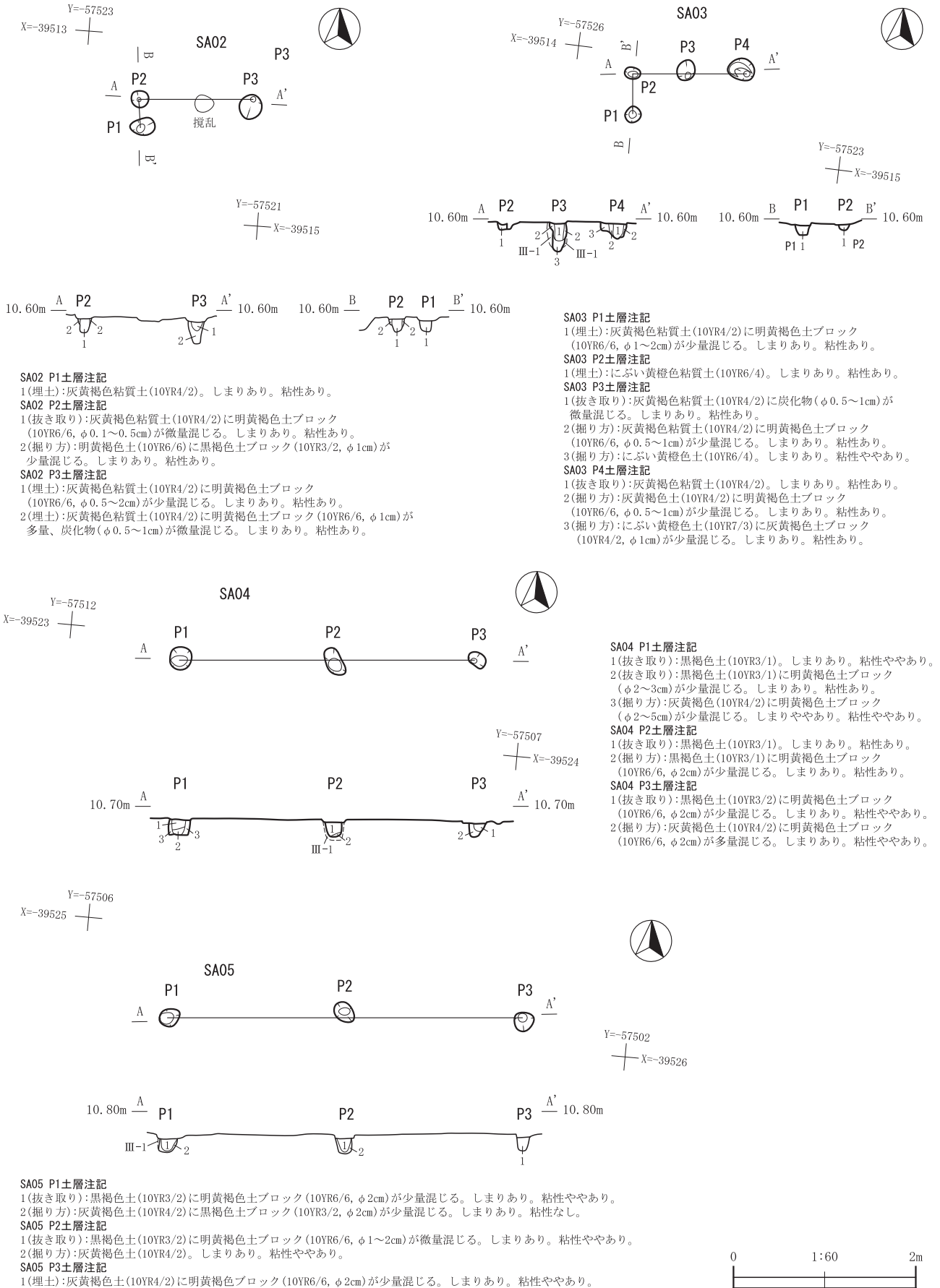
- 1(埋土):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/6)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 2(埋土):褐色土(10YR4/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。

SB07 P6土層注記

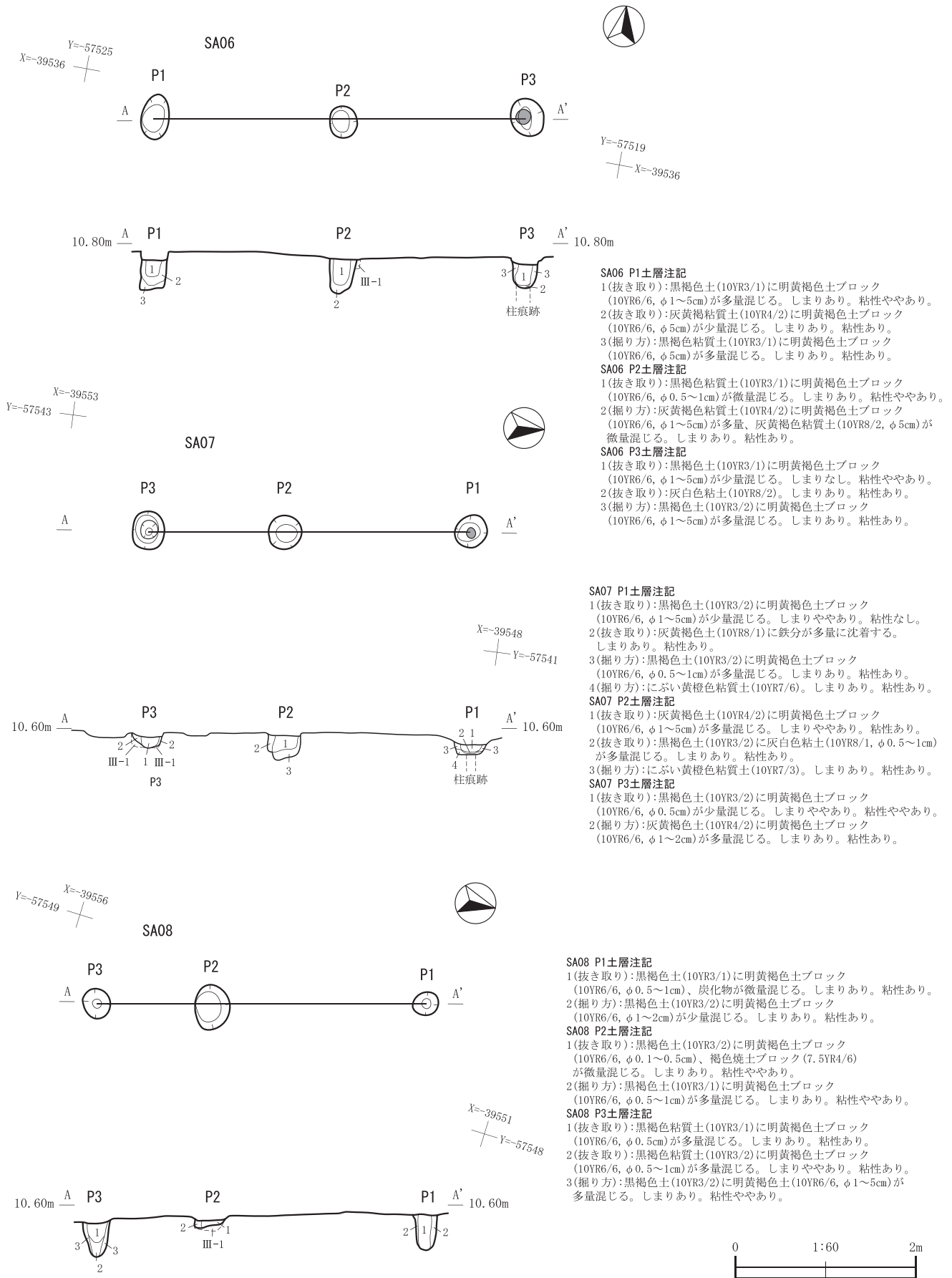
- 1(抜き取り):暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性ややあり。
- 2(掘り方):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/6)が少量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。

第27図 7号掘立柱建物跡(SB07)平面図・断面図

第3章 調査の方法と成果

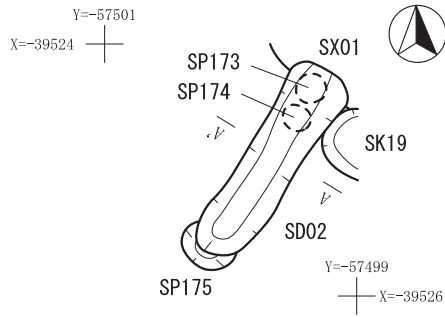


第28図 2~5号柱列跡(SA02~05)平面図・断面図



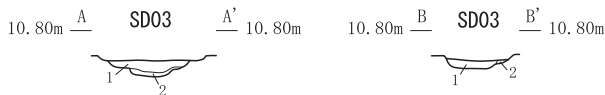
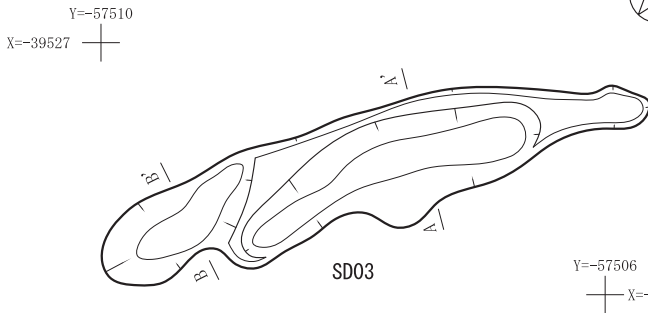
第29図 6~8号柱列跡(SA06~08)平面図・断面図

第3章 調査の方法と成果



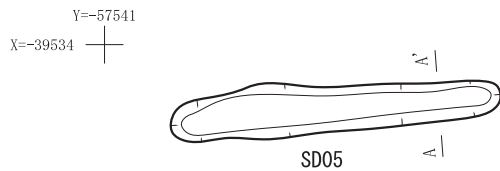
SD02土層注記

- 1: 黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/8, φ0.1~0.3cm)が微量、褐灰色土(10YR4/1)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 2: 褐灰色土(10YR4/1)に褐色土(7.5Y4/6)が少量、明黄褐色土ブロック(10YR6/8, φ0.5cm)が微量混じる。しまりかなりあり。粘性ややあり。
- 3: 灰黄褐色土(10YR5/2)に明黄褐色土(10YR6/8)が多量まだらに混じる。しまりかなりあり。粘性ややあり。



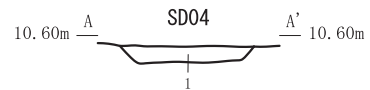
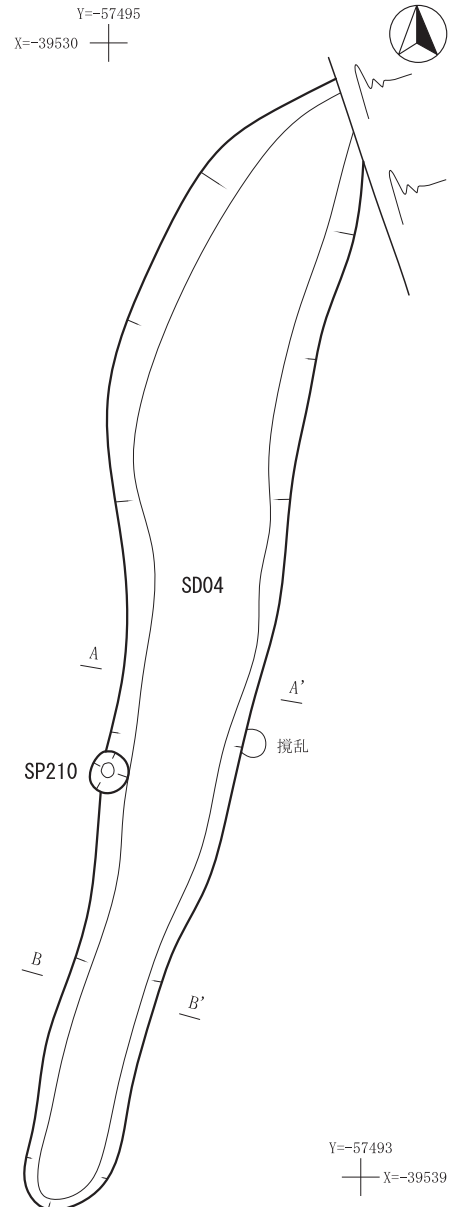
SD03土層注記

- 1: 黒褐色土(10YR3/1)。しまりあり。粘性あり。
- 2: 明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/1, φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。



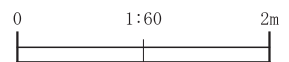
SD05土層注記

- 1: 黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。

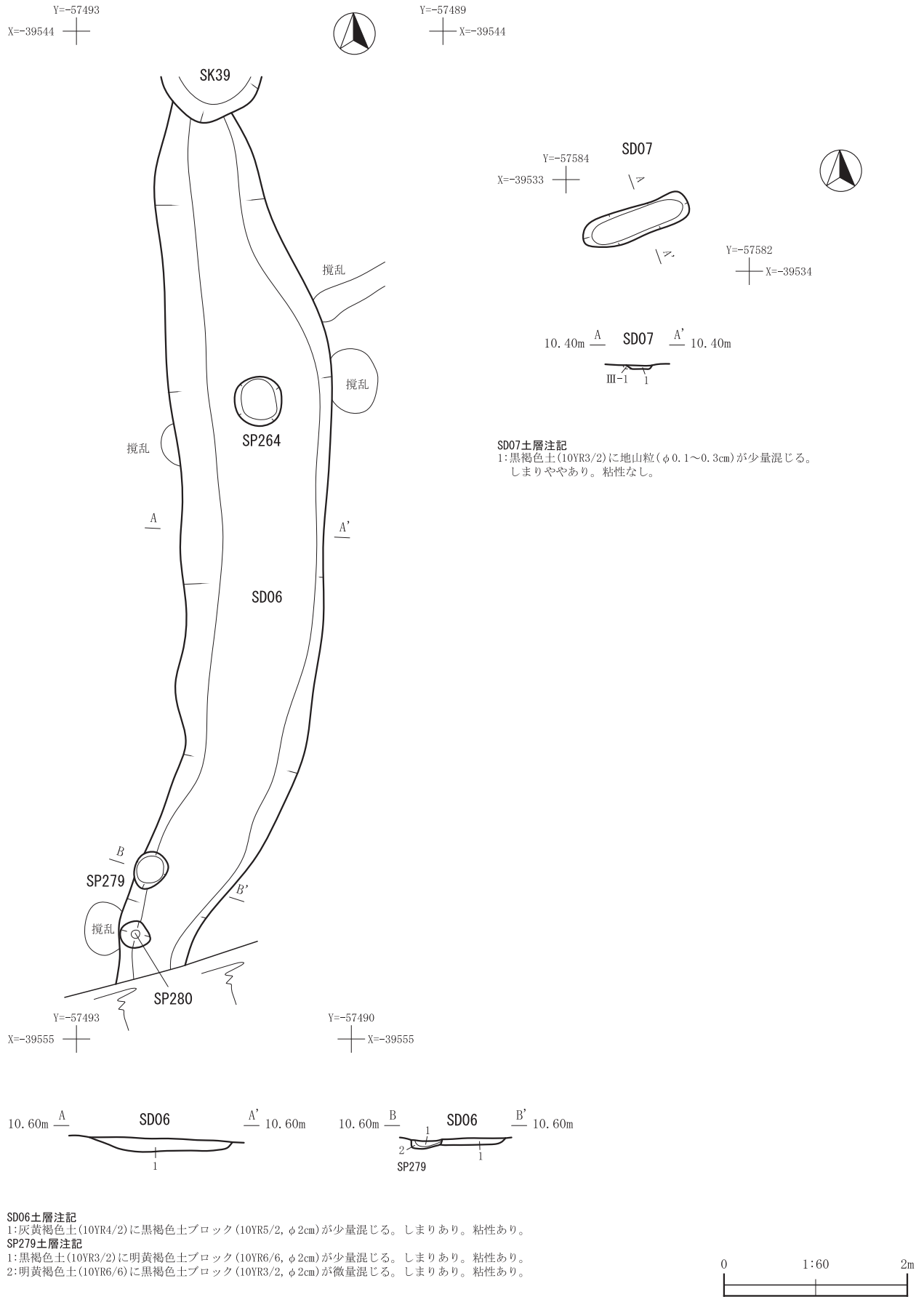


SD04土層注記

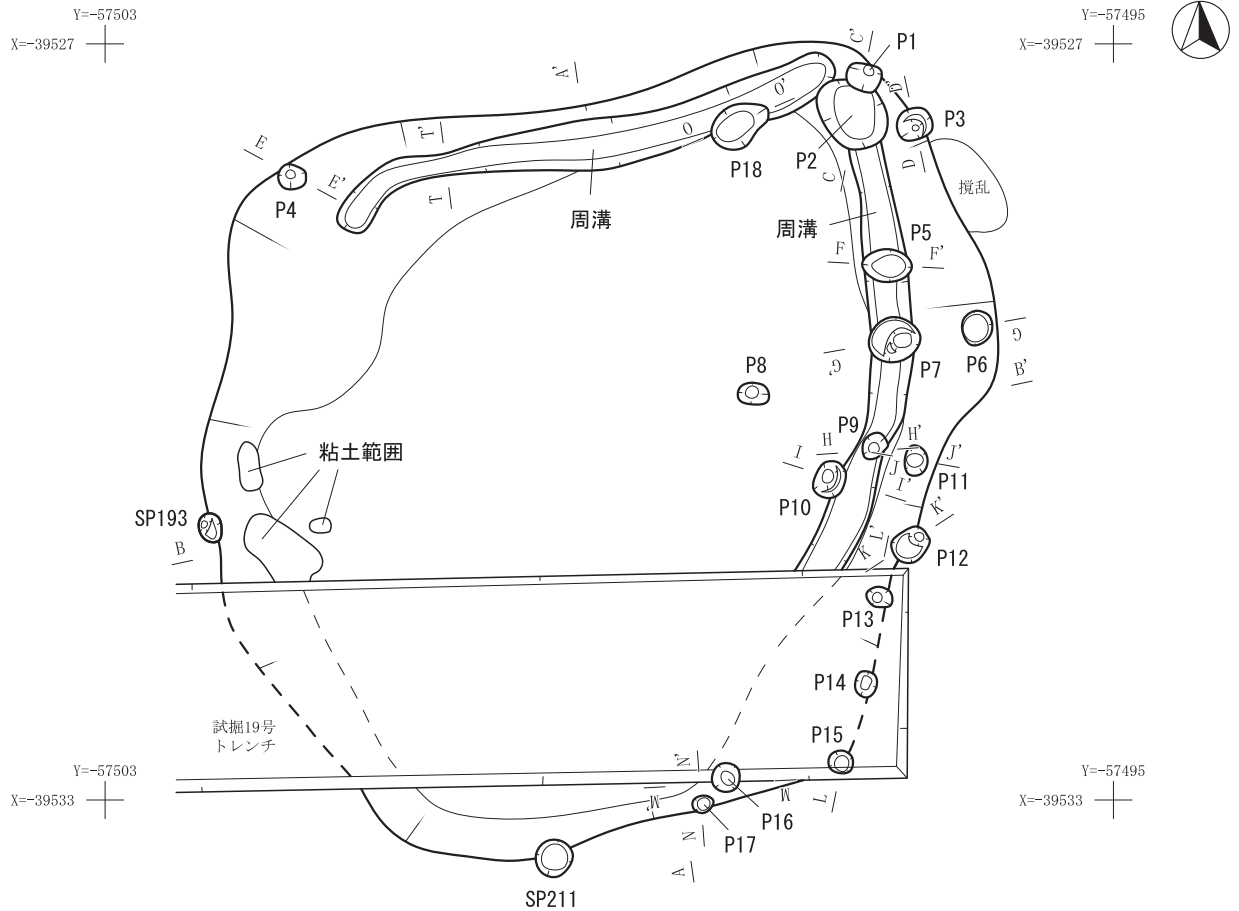
- 1: 黒褐色土(10YR3/2)に灰黄褐色土(10YR5/2, φ2cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。



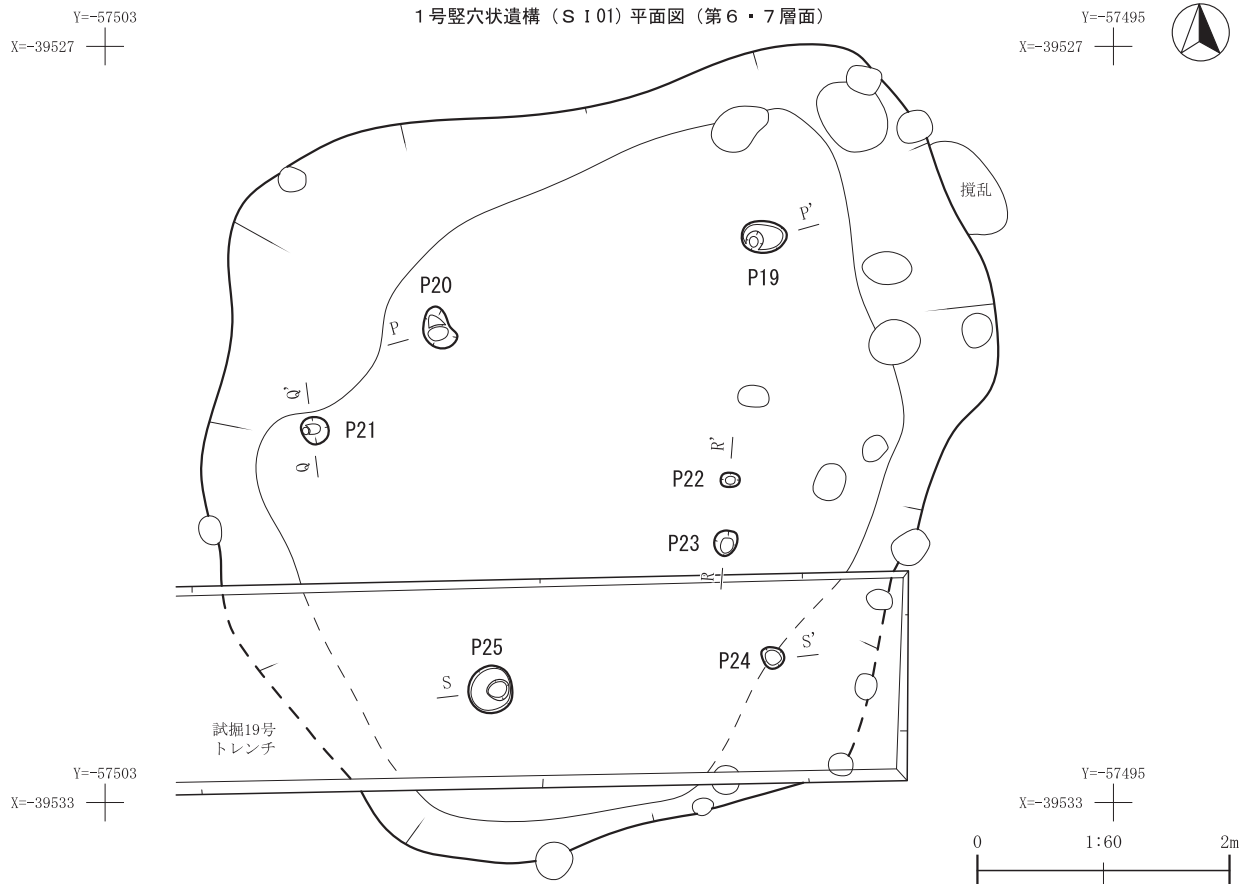
第30図 2~5号溝跡(SD02~05)平面図・断面図



第31図 6・7号溝跡(SD06・07)平面図・断面図

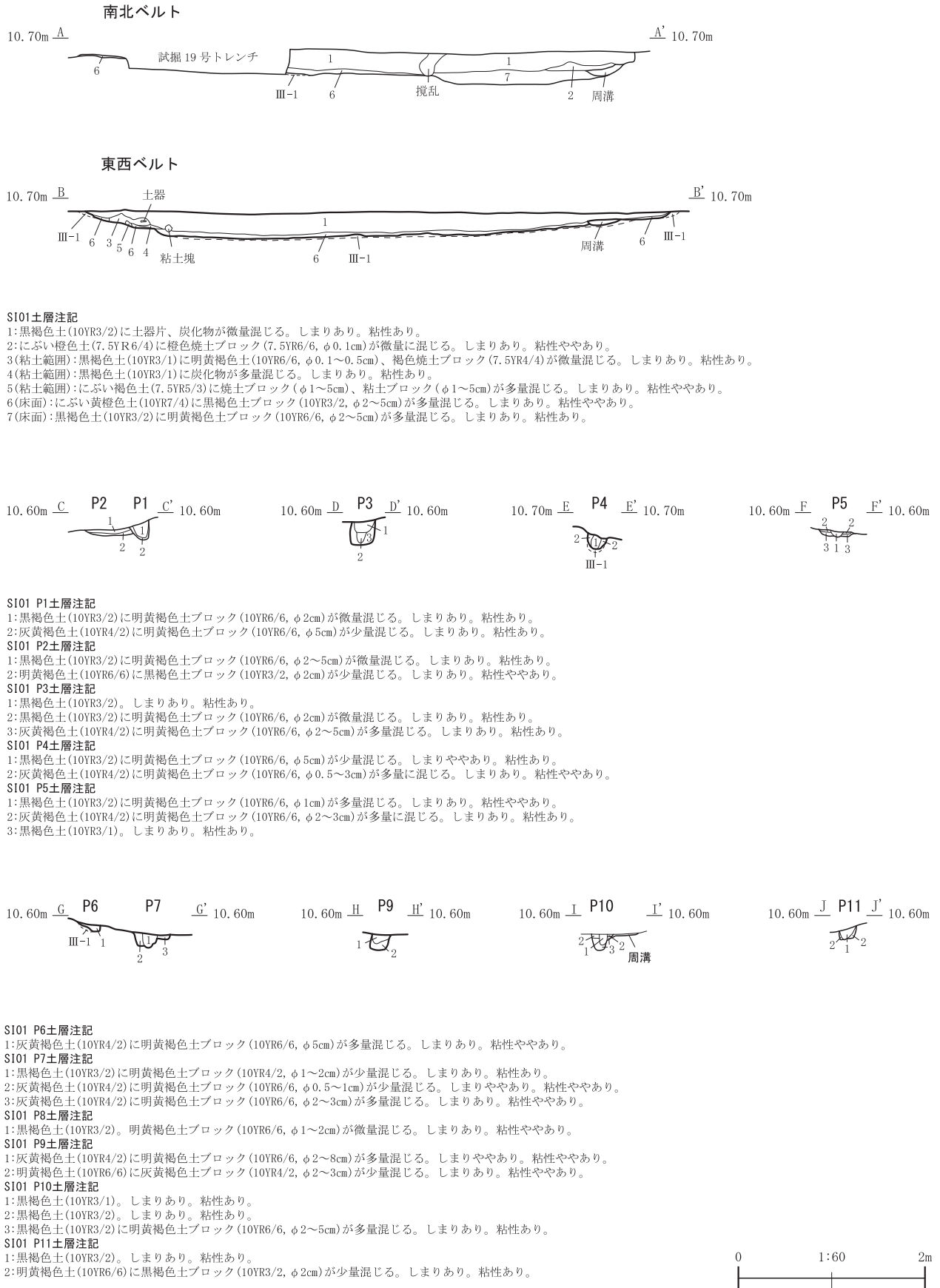


1号竖穴状遺構 (S I 01) 平面図 (第6・7層面)



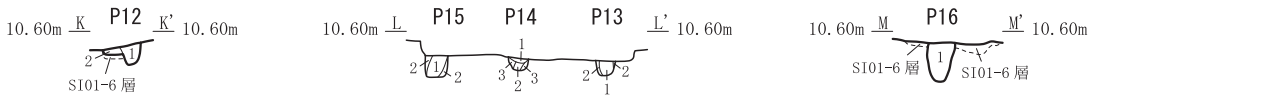
1号竖穴状遺構 (S I 01) 平面図 (完掘)

第32図 1号竖穴状遺構 (S I 01) 平面図



第33図 1号竪穴状遺構(SI01)断面図①

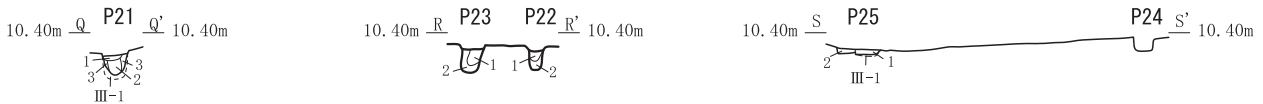
第3章 調査の方法と成果



- SI01 P12土層注記**
 1: 灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ2~5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SI01 P13土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SI01 P14土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりあり。粘性ややあり。
 3: 灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SI01 P15土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ10cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SI01 P16土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ3~5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。



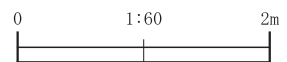
- SI01 P17土層注記**
 1: 灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ0.5~1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SI01 P18土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SI01 P19土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SI01 P20土層注記**
 1: 明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ2~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.1~0.5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。



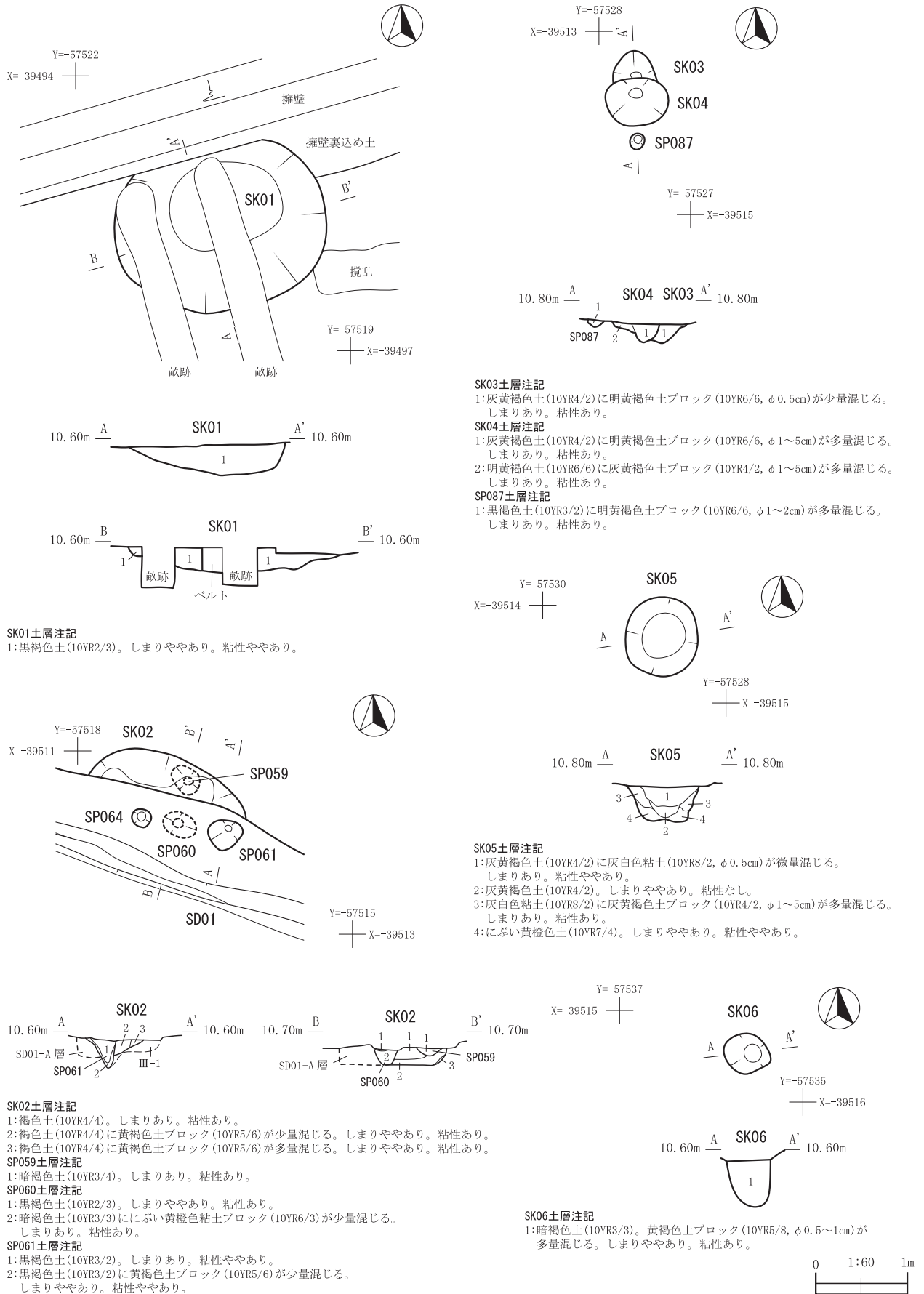
- SI01 P21土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)、炭化物が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量、橙色焼土ブロック(7.5YR6/6, φ0.5cm)が微量、炭化物が混じる。しまりあり。粘性あり。
 3: 灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。
- SI01 P22土層注記**
 1: 灰黄褐色土(10YR4/2)。しまりあり。粘性あり。
 2: 灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SI01 P23土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
- SI01 P24土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 灰黄褐色土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- SI01 P25土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ2~5cm)が多量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
 2: 明黄褐色土(10YR6/6)に黒褐色土ブロック(10YR3/2, φ2~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。



- SI01 周溝土層注記**
 1: 黒褐色土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

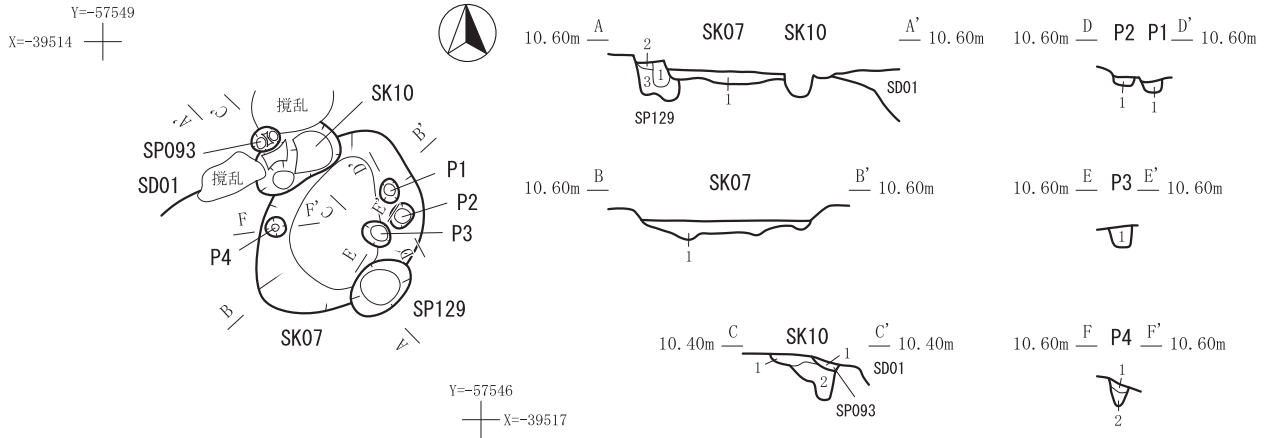


第34図 1号竪穴状遺構(SI01)断面図②



第35図 1~6号土坑(SK01~06)平面図・断面図

第3章 調査の方法と成果



SK07土層注記

1: 暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~2cm)が混じる。しまりややあり。粘性あり。

SK07 P1土層注記

1: 黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色粘度ブロック(10YR5/8, φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。

SK07 P2土層注記

1: 黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色粘度ブロック(10YR5/8, φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。

SK07 P3土層注記

1: 黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色粘度ブロック(10YR5/8, φ1cm)が多量混じる。しまりややあり。粘性あり。

SK07 P4土層注記

1: 黒褐色土(10YR2/3)。しまりややあり。粘性あり。
2: 暗褐色土(10YR3/3)ににぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/4, φ1cm)が多量混じる。しまりなし。粘性あり。

SK10土層注記

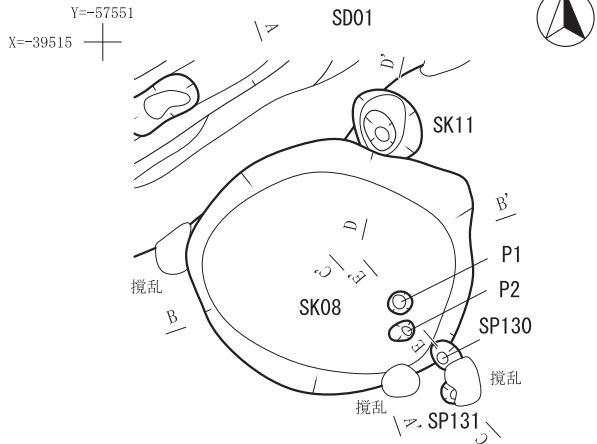
1: 褐色土(10YR4/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。
2: 黒褐色土(10YR2/2)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。

SP093土層注記

1: 暗褐色土(10YR3/4)に褐色土ブロック(10YR4/6, φ0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。

SP129土層注記

1: 暗褐色土(10YR3/4)。しまりあり。粘性あり。
2: 暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5cm)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。
3: にぶい黄褐色土(10YR4/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。



SK08土層注記

1: 暗褐色土(10YR3/4)ににぶい黄褐色砂質土ブロック(10YR6/4, φ2~5cm)が多量、褐色粘質土、炭化物が少量混じる。しまりあり。粘性なし。
2: 黒褐色土(10YR2/3)に褐色土粒(10YR4/4)少量混じる。しまりあり。粘性あり。
3: 暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ1~3cm)が非常に多く混じる。しまりややあり。粘性あり。
4: 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に黄褐色土ブロック(10YR5/8, φ1~3cm)、にぶい黄褐色粘土ブロック(10YR5/3)が非常に多く混じる。しまりあり。粘性あり。
5: 灰黄褐色粘土(10YR5/2)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。

SK08 P1土層注記

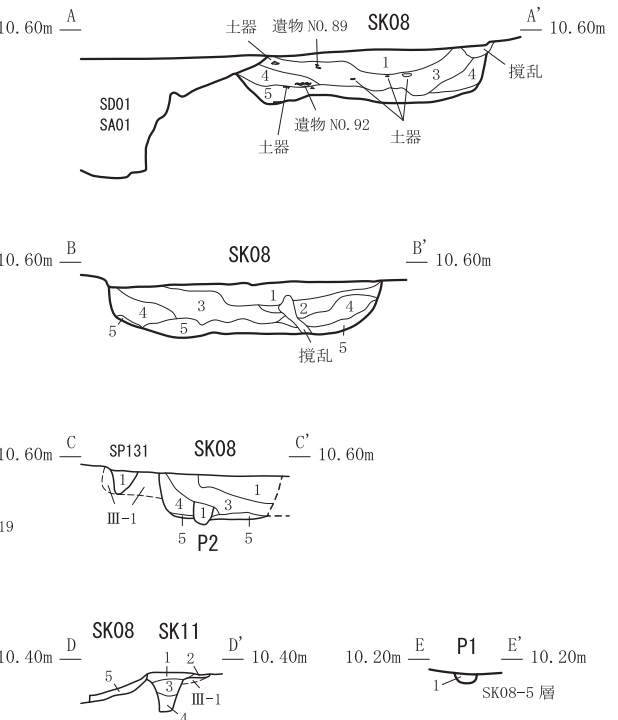
1: 暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性あり。

SK08 P2土層注記

1: 暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性あり。

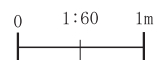
SK11土層注記

1: 褐色粘土(10YR3/1)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。
2: にぶい黄褐色粘土(10YR7/3)ににぶい黄褐色粘土(10YR7/3)、暗褐色粘土(10YR3/3)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。
3: 黒褐色粘土(10YR3/1)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ1~3cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。
4: 褐色土(10YR4/4)に黄褐色粘質土(10YR5/6)が混じる。しまりあり。粘性あり。

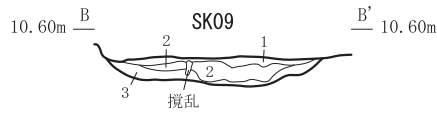
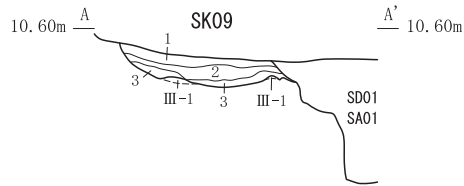
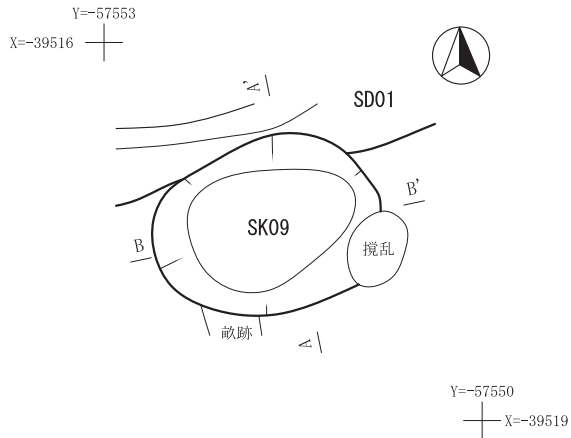


SP131土層注記

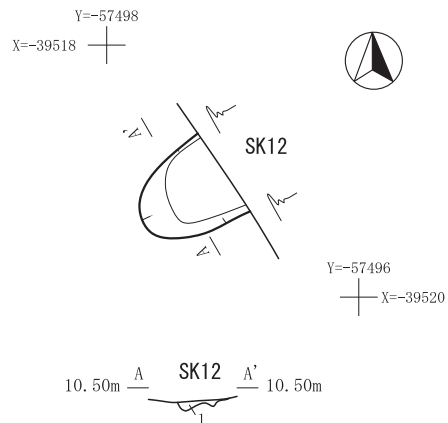
1: 暗褐色土(10YR3/4)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ0.5~1cm)が混じる。しまりあり。粘性あり。



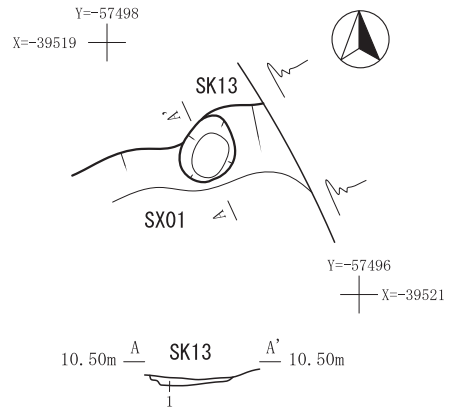
第36図 7・8・10・11号土坑(SK07・08・10・11)平面図・断面図



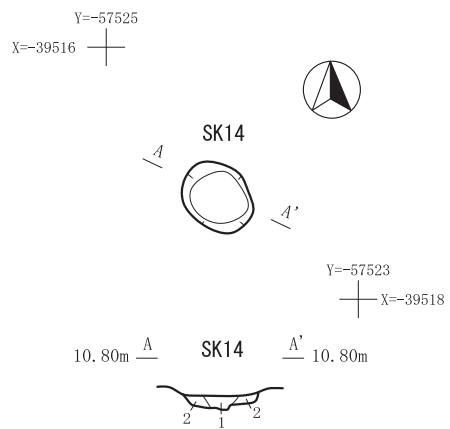
SK09土層注記
 1: 暗褐色土(10YR3/3)に明黄褐色砂質土粒(10YR6/6)が混じる。しまりあり。粘性あり。
 2: 黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色砂質土ブロック(10YR5/6, φ0.5~1cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。
 3: 灰黄褐色粘土(10YR5/2)に明黄褐色粘土ブロック(10YR6/6, φ1~2cm)が多量混じる。しまりあり。粘性あり。



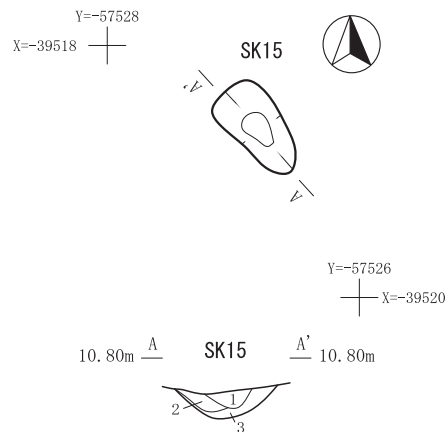
SK12土層注記
 1: 暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土ブロック(10YR5/6, φ3~5cm)が混じる。しまりあり。粘性ややあり。



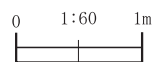
SK13土層注記
 1: 黄褐色土(10YR5/6)に暗褐色土ブロック(10YR3/3)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。



SK14土層注記
 1: 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が少量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2: 明黄褐色土(10YR6/6)に灰黄褐色土ブロック(10YR4/2, φ1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。

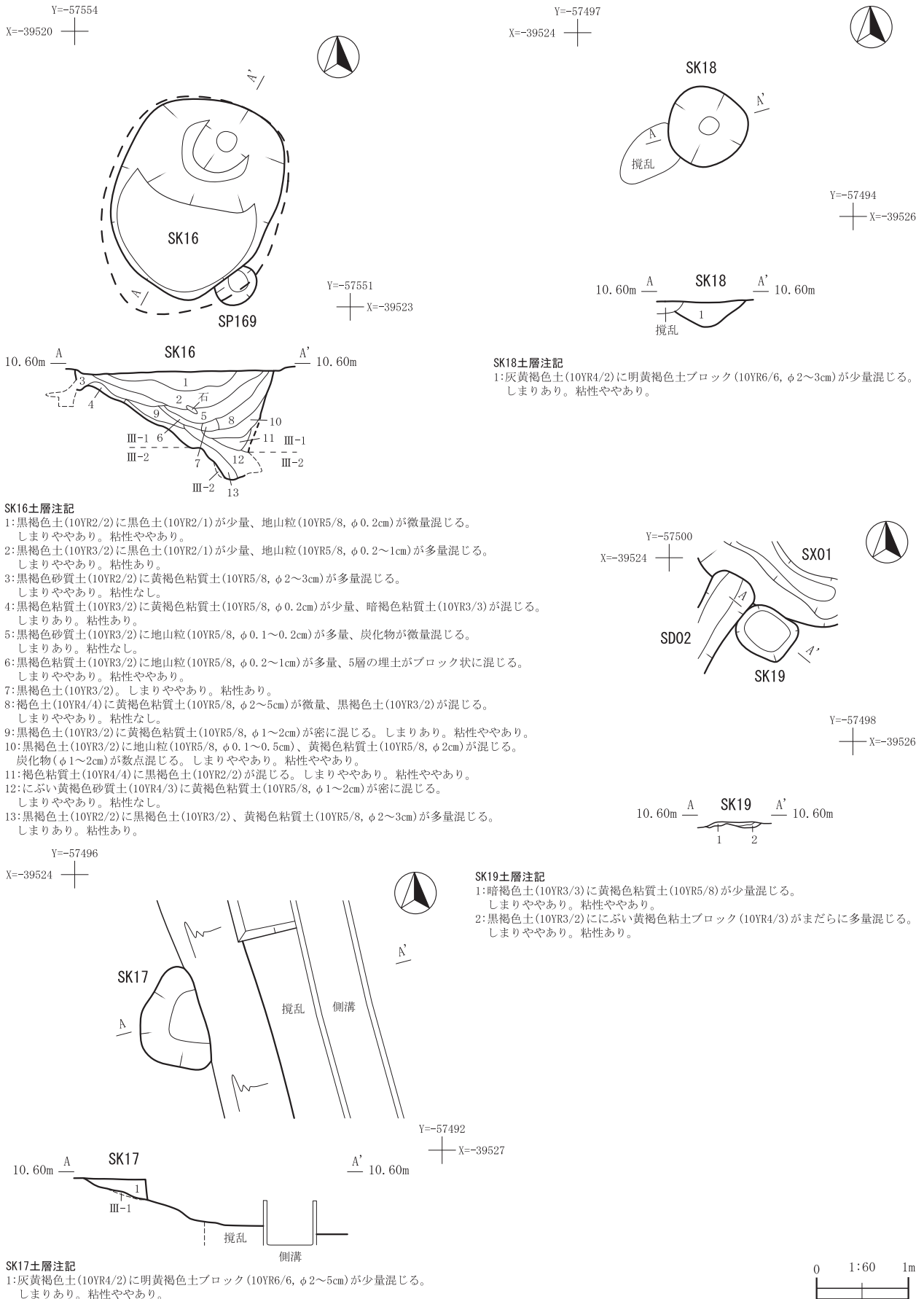


SK15土層注記
 1: 黒褐色粘質土(10YR3/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 2: 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)に明黄褐色土ブロック(10YR6/6, φ0.5~1cm)が微量混じる。しまりあり。粘性あり。
 3: ぶい黄褐色粘質土(10YR6/3)。しまりあり。粘性あり。

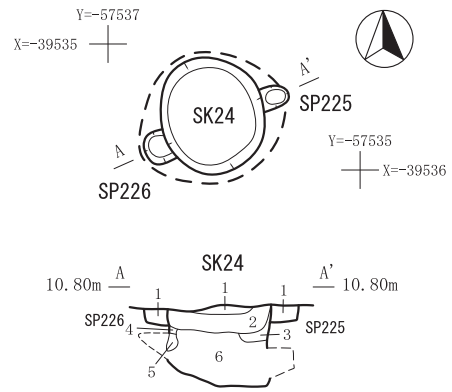
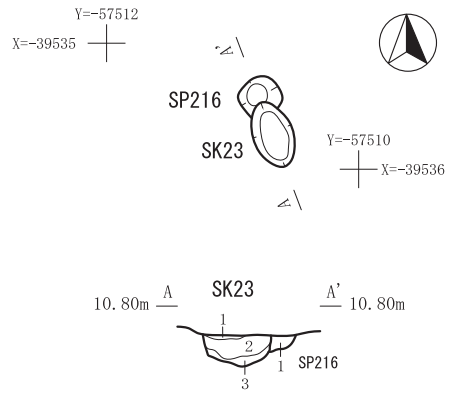
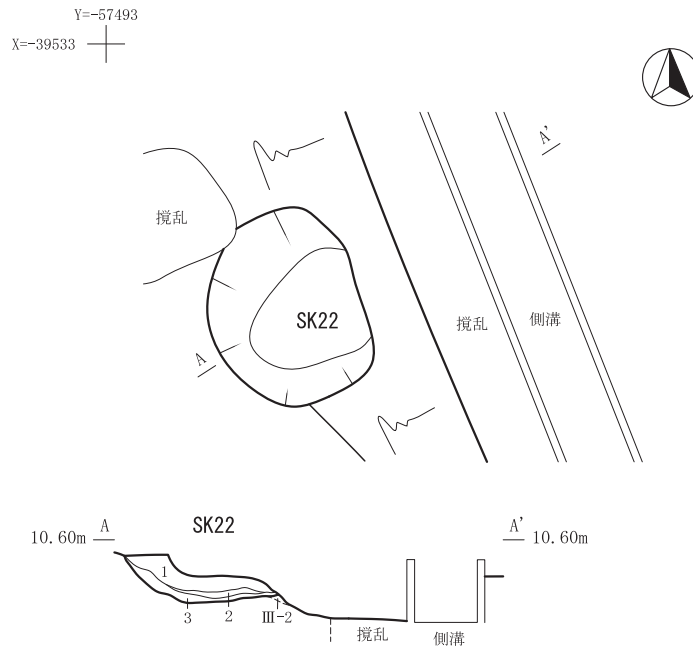
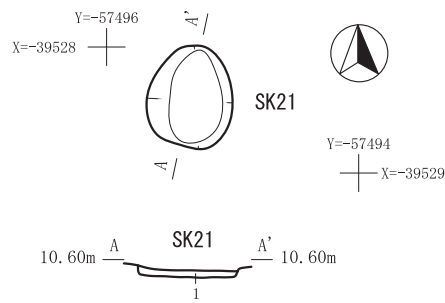
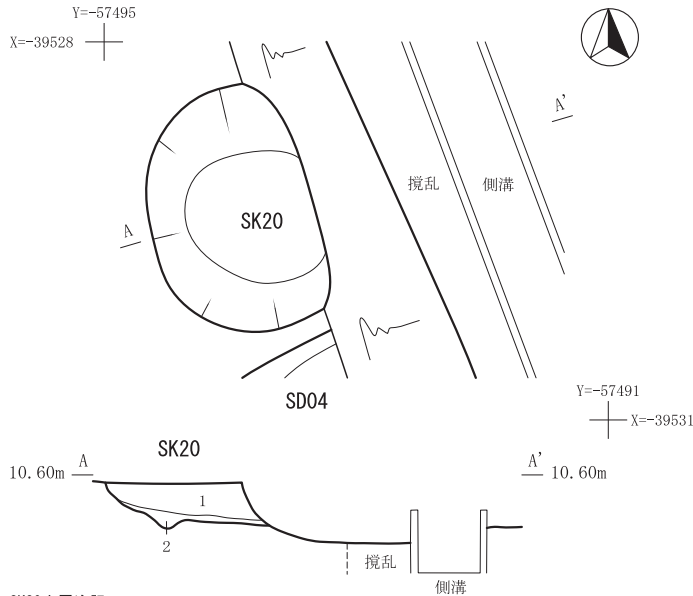


第37図 9・12~15号土坑(SK09・12~15)平面図・断面図

第3章 調査の方法と成果

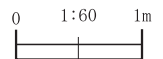


第38図 16~19号土坑(SK16~19)平面図・断面図

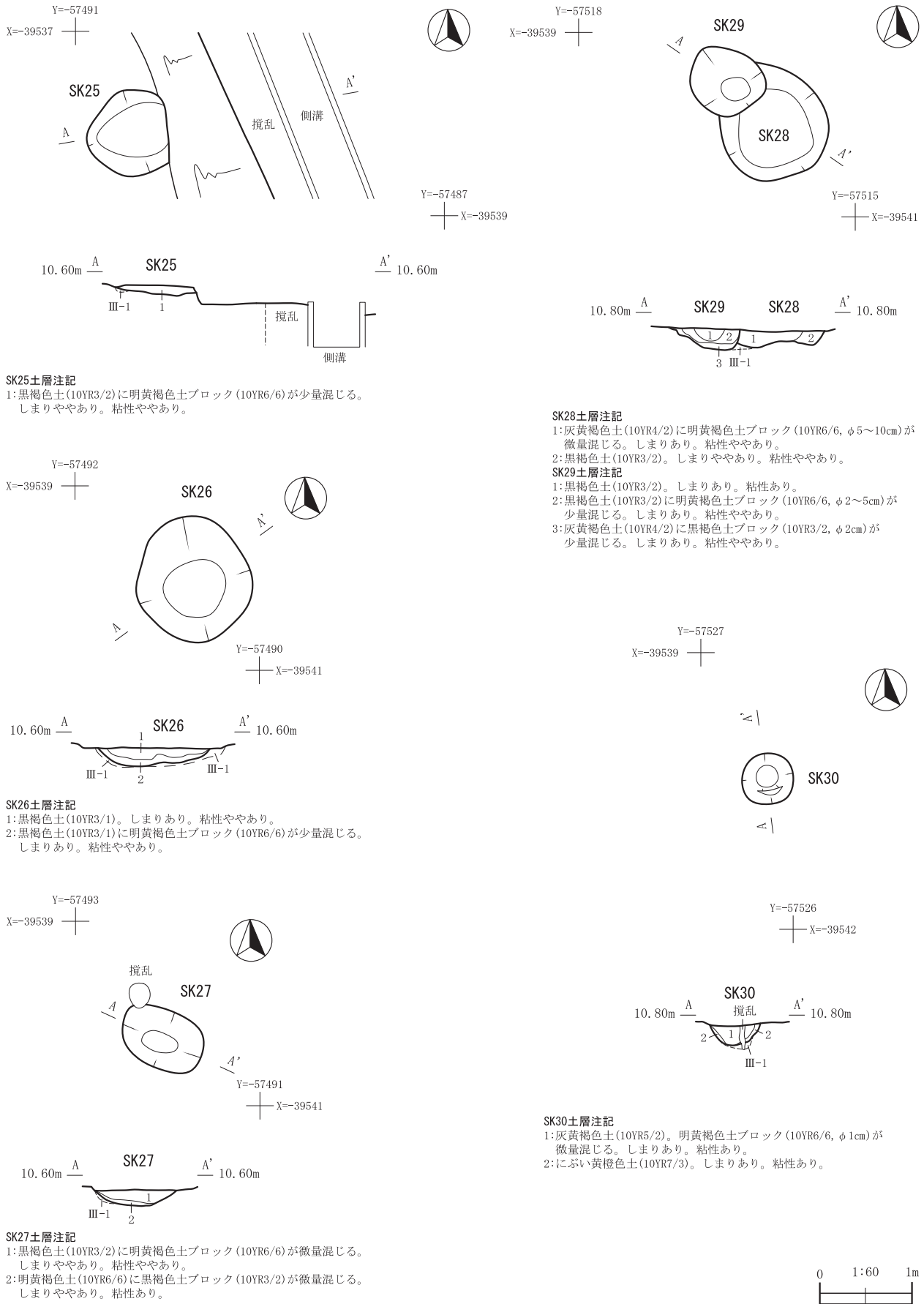


SP225土層注記
1: 黒褐色土(10YR2/3)。しまりあり。粘性なし。
SP226土層注記
1: 黒褐色土(10YR2/3)。しまりややあり。粘性ややあり。

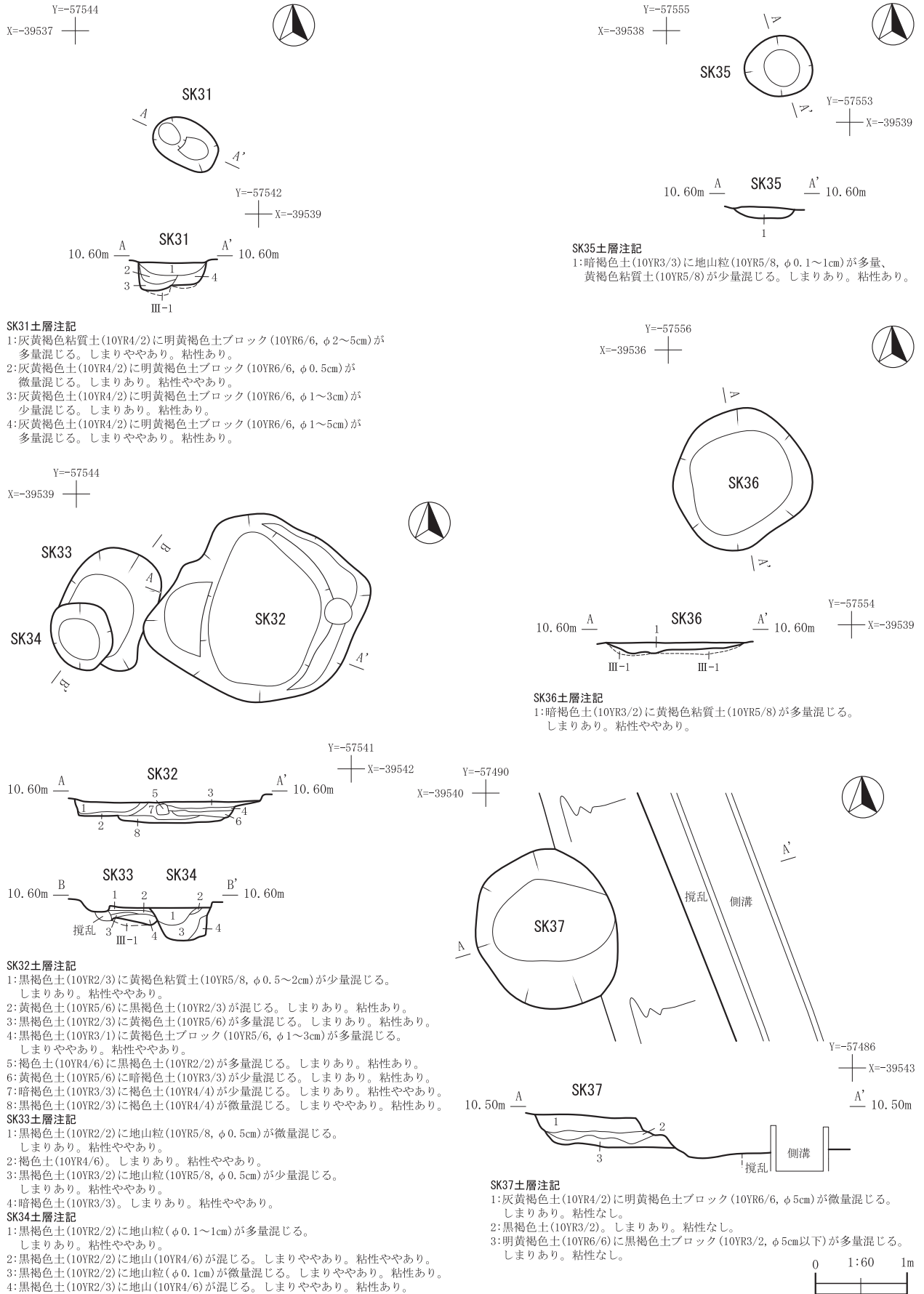
第39図 20～24号土坑(SK20～24)平面図・断面図



第3章 調査の方法と成果

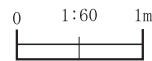
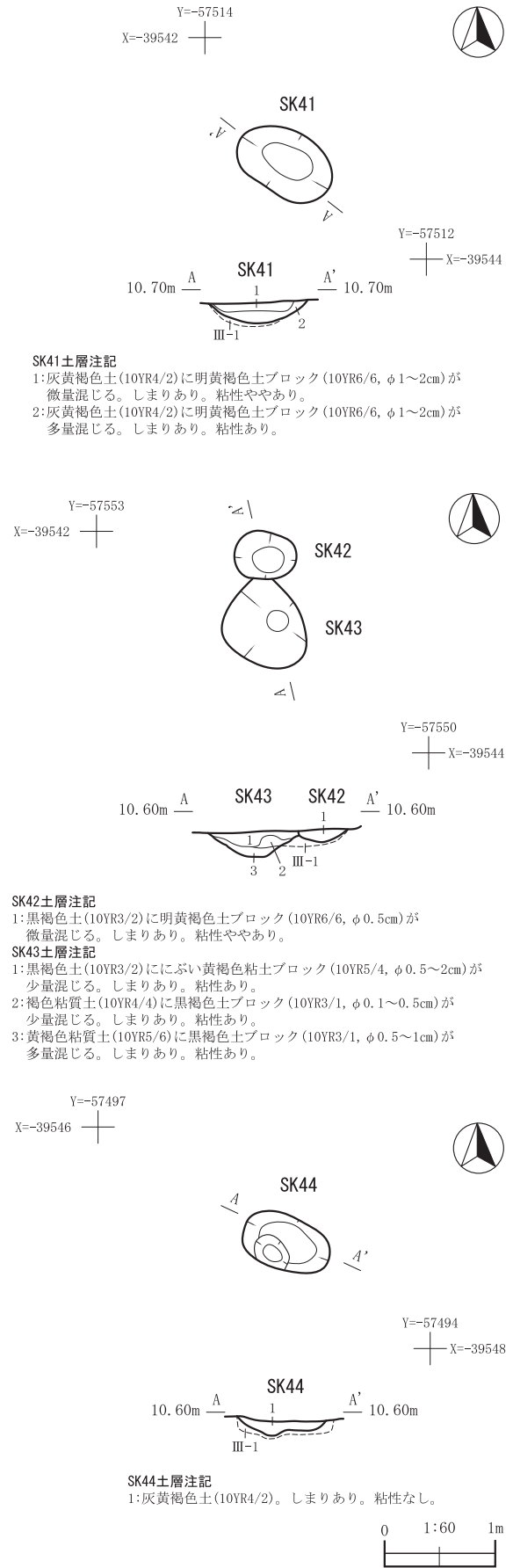
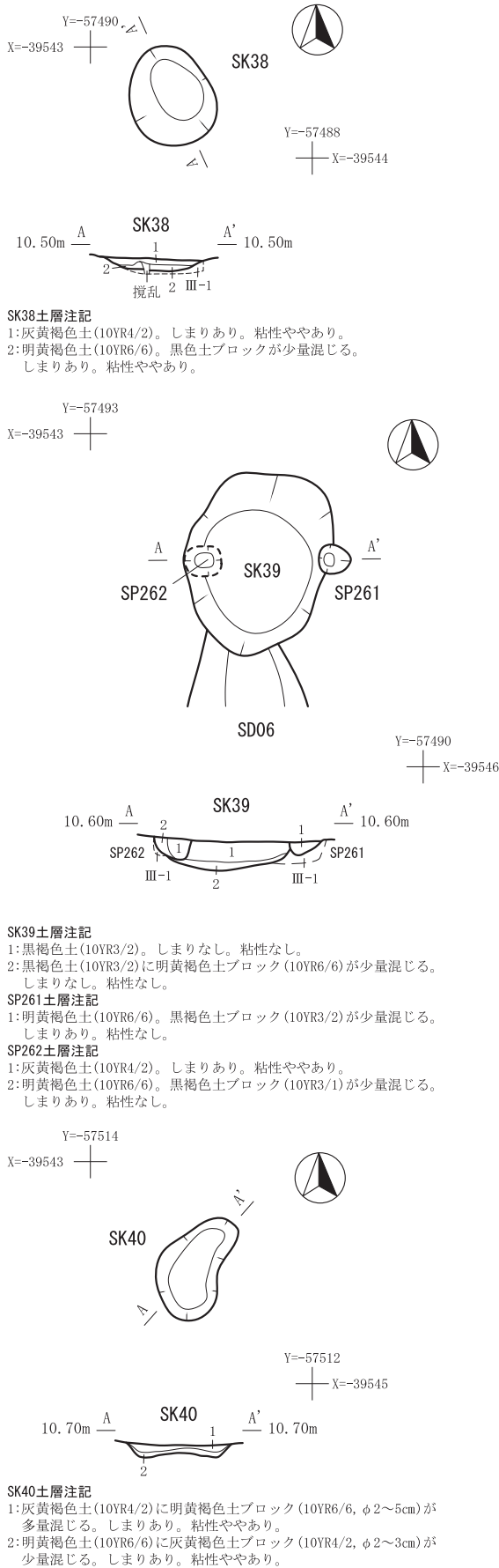


第40図 25～30号土坑(SK25～30)平面図・断面図

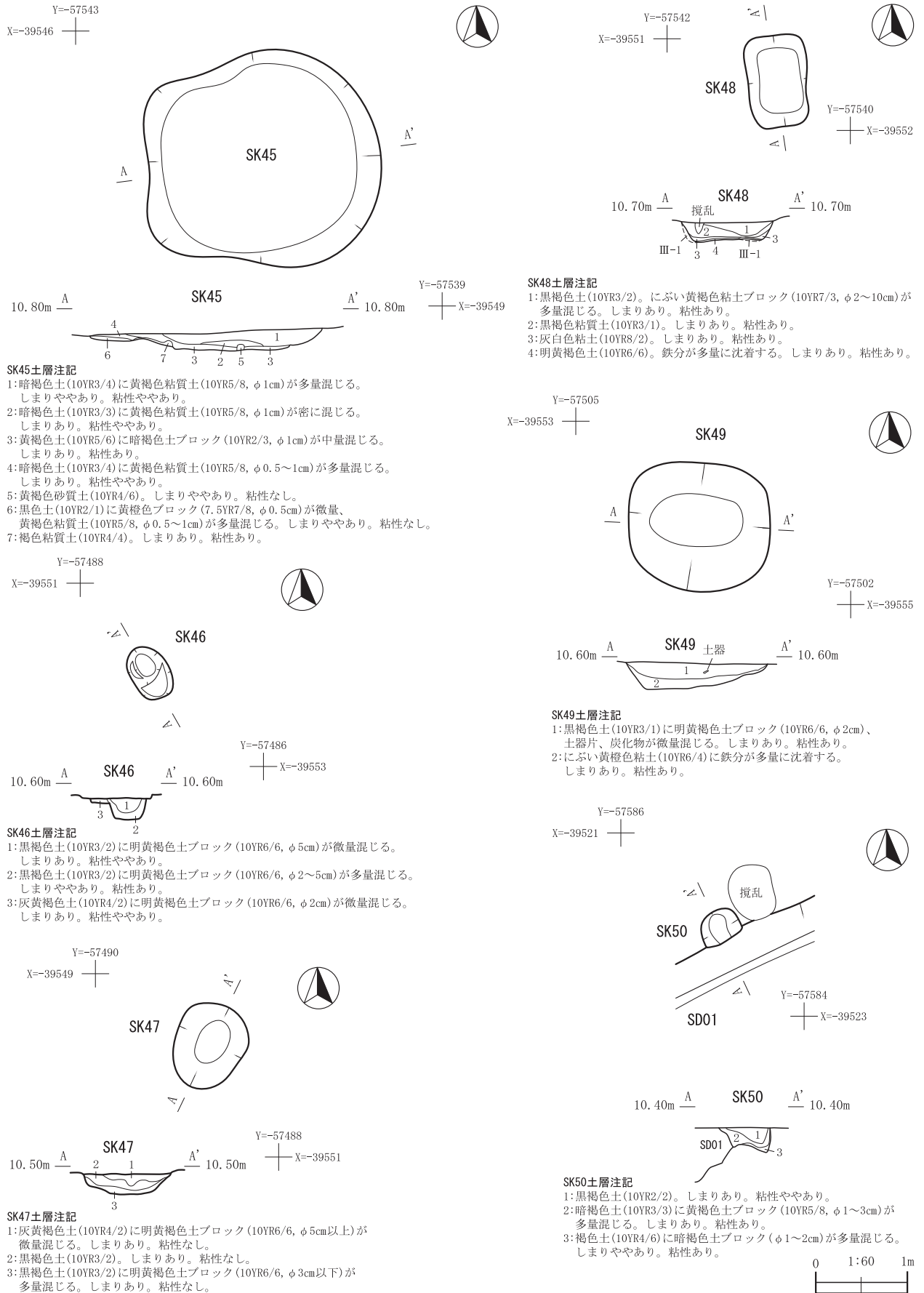


第41図 31~37号土坑(SK31~37)平面図・断面図

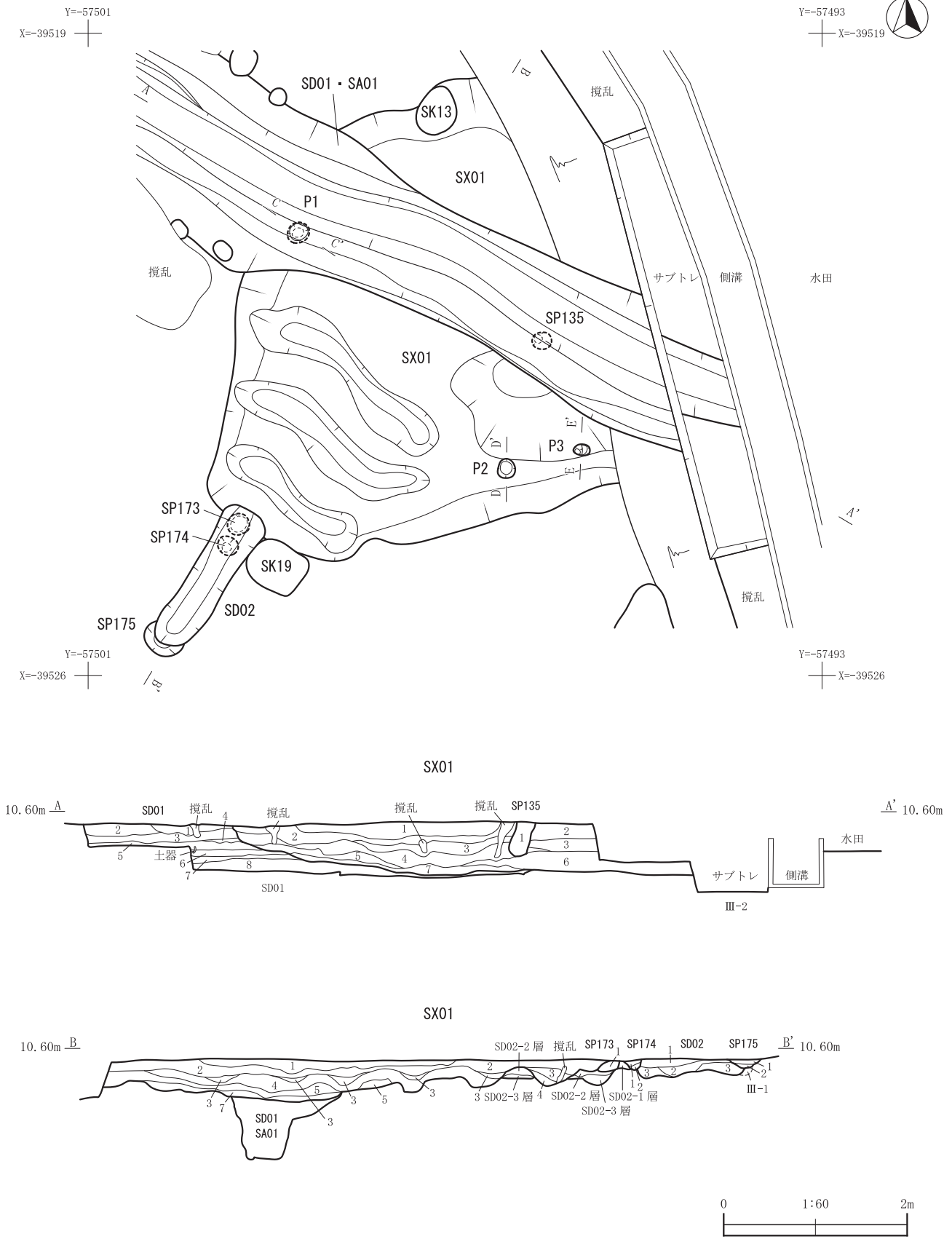
第3章 調査の方法と成果



第42図 38~44号土坑(SK38~44)平面図・断面図



第43図 45~50号土坑(SK45~50)平面図・断面図



第44図 1号性格不明遺構(SX01)平面・断面図

SX01土層注記

- 1:暗褐色土(10YR3/3)に炭化物(φ1~2cm)が部分的に微量混じる。しまりややあり。粘性ややあり。
- 2:黒褐色土(10YR2/3)ににぶい黄褐色砂(10YR4/3)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 3:黒褐色土(10YR2/2)ににぶい黄褐色砂(10YR4/3)が少量混じる。暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が微量に沈着する。しまりあり。粘性ややあり。
- 4:灰黄褐色砂質土(10YR4/2)に褐色砂(10YR4/6)が多量に混じる。暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が微量に沈着する。しまりあり。粘性なし。
- 5:灰黄褐色砂質土(10YR4/2)に明褐色砂(10YR5/6)が微量に混じる。暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が多量均一に沈着する。しまりあり。粘性ややあり。
- 6:黒褐色粘質土(10YR3/2)に暗赤褐色鉄分(5YR3/6)が微量に沈着する。しまりややあり。粘性とてもあり。
- 7:明褐色砂質土(10YR5/6)ににぶい黄褐色砂(10YR5/4)が少量まだらに、灰黄褐色砂質土(10YR4/2)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。

SD01土層注記

- 1(A層):暗褐色土(10YR3/3)に黒褐色土(10YR2/1)が多量混じる。鉄分が少量沈着する。しまりあり。粘性ややあり。
- 2(A層):暗褐色土(10YR3/3)。しまりあり。粘性ややあり。
- 3(A層):暗褐色土(10YR3/4)に褐色砂(10YR4/3)が微量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 4(A層):暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色砂(10YR5/5)が多量混じる。しまりあり。粘性なし。
- 5(A層):褐色砂質土(10YR4/6)に暗褐色土(10YR3/2)が少量混じる。しまりあり。粘性なし。
- 6(B層):黒褐色土(10YR2/3)に褐色砂(7.5YR4/2)がまだらに混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 7(B層):黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色砂(10YR5/5)が多量まだらに混じる。しまりあり。粘性あり。
- 8(D層):褐灰色土(10YR4/1)ににぶい黄褐色砂(10YR5/4)が多量混じる。暗赤褐色鉄分(5YR3/5)が少量沈着する。しまりあり。粘性あり。

SD02土層注記

- 1:黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐色土ブロック(10YR6/8, φ0.1~0.3cm)が微量、褐灰色土(10YR4/1)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。
- 2:褐灰色土(10YR4/1)に褐色土(7.5Y4/6)が少量、明黄褐色土ブロック(10YR6/8, φ0.5cm)が微量混じる。しまりかなりあり。粘性ややあり。
- 3:灰黄褐色土(10YR5/2)に明黄褐色土(10YR6/8)が多量まだらに混じる。しまりかなりあり。粘性ややあり。

SP135土層注記

- 1:暗褐色土(10YR3/3)に黒褐色粘質土(10YR3/1)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SP173土層注記

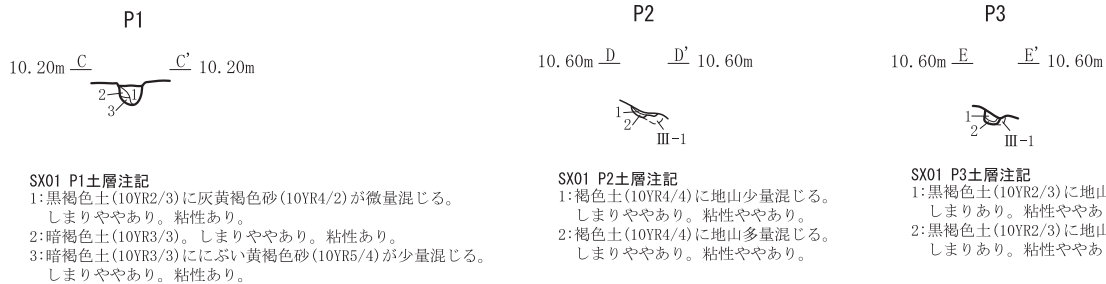
- 1:黒褐色土(10YR2/3)。しまりあり。粘性ややあり。

SP174土層注記

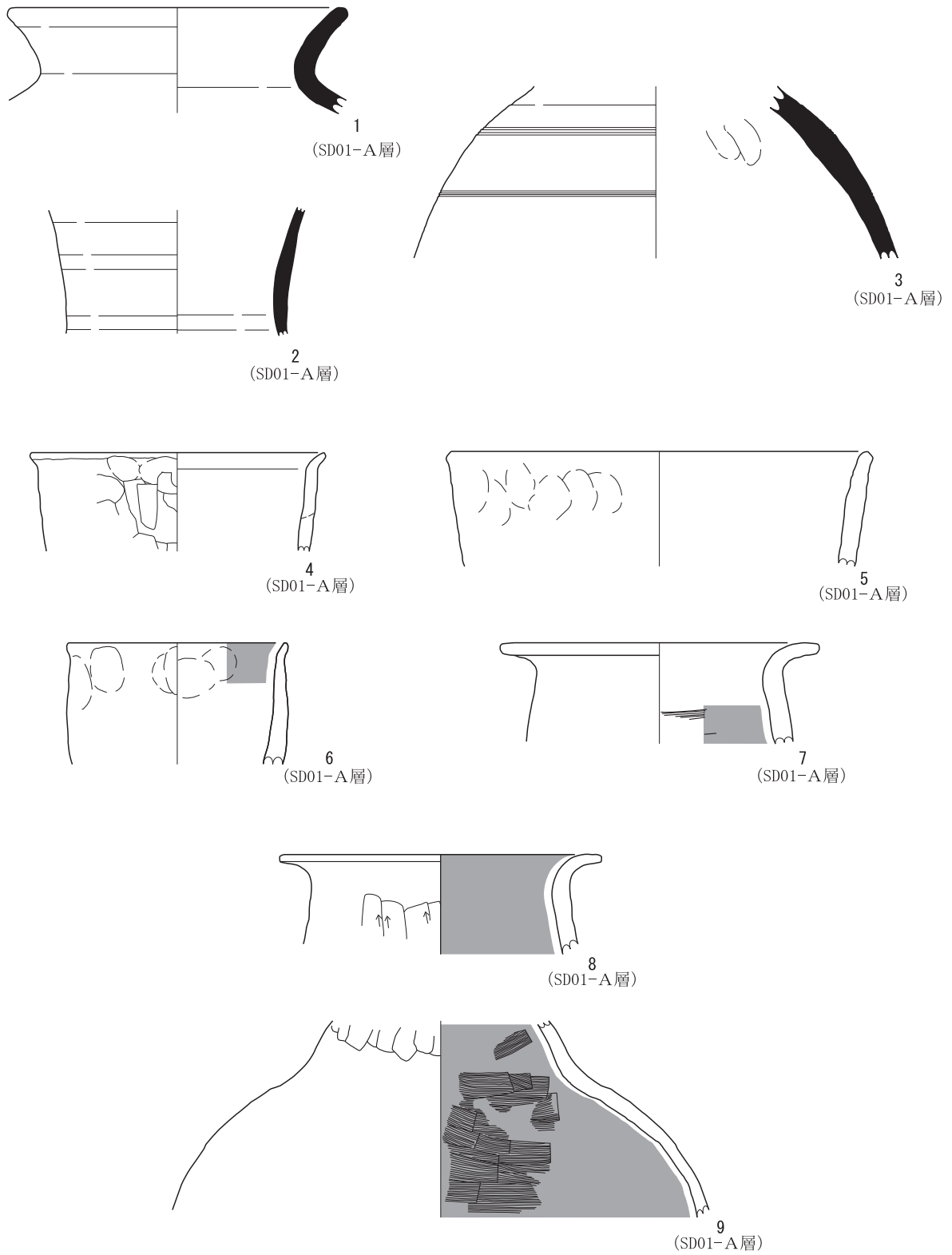
- 1:黒褐色土(10YR3/2)。しまりあり。粘性ややあり。
- 2:黒褐色土(10YR3/2)ににぶい黄褐色土(10YR5/4)が少量混じる。しまりあり。粘性ややあり。

SP175土層注記

- 1:暗褐色土(10YR3/4)。しまりあり。粘性あり。
- 2:暗褐色土(10YR3/4)ににぶい黄色土ブロック(2.5Y6/3, φ1~5cm)が少量混じる。明赤褐色鉄分(5YR5/8)が少量沈着する。しまりあり。粘性あり。

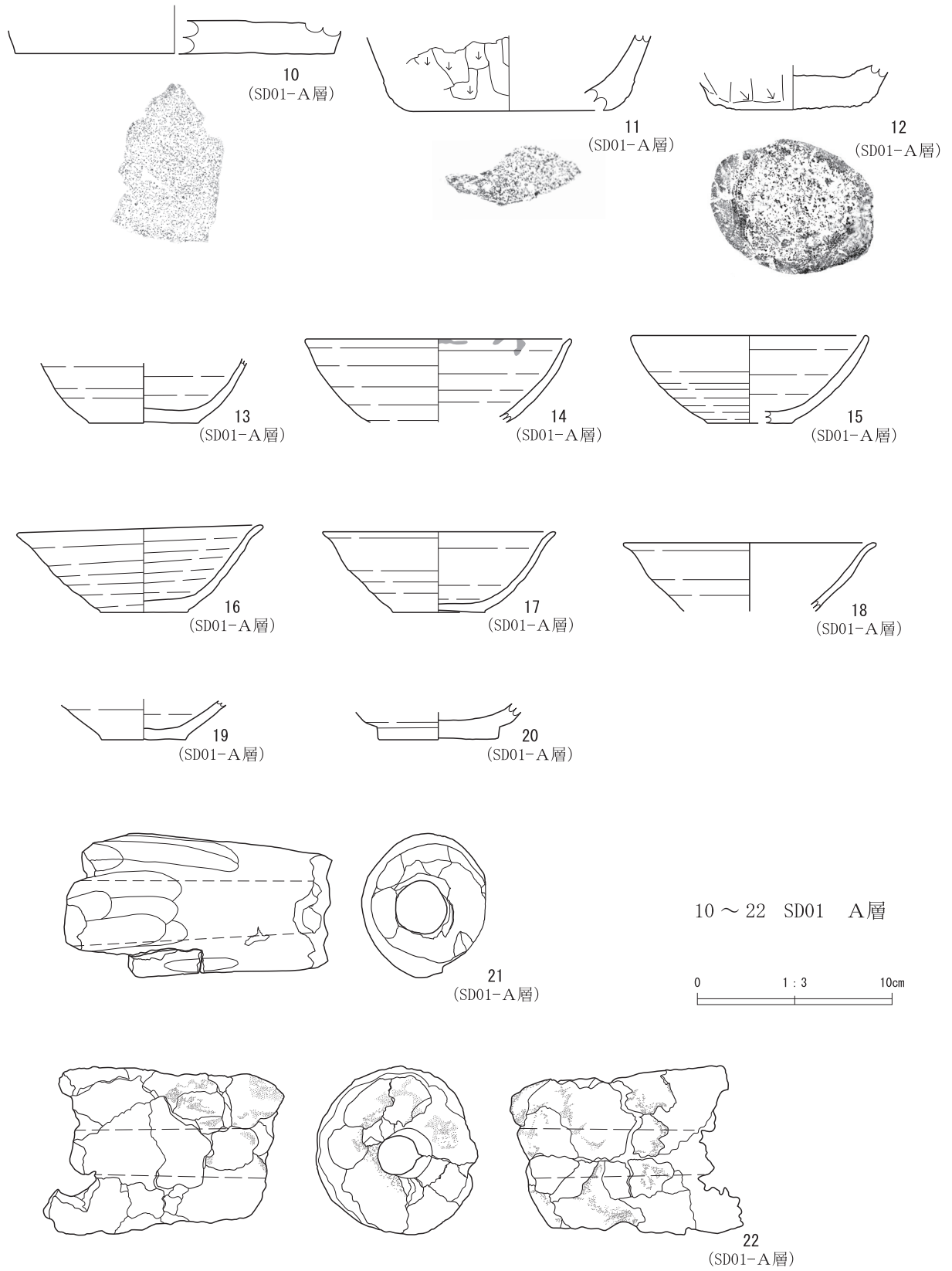


第45図 1号性格不明遺構(SX01)断面図

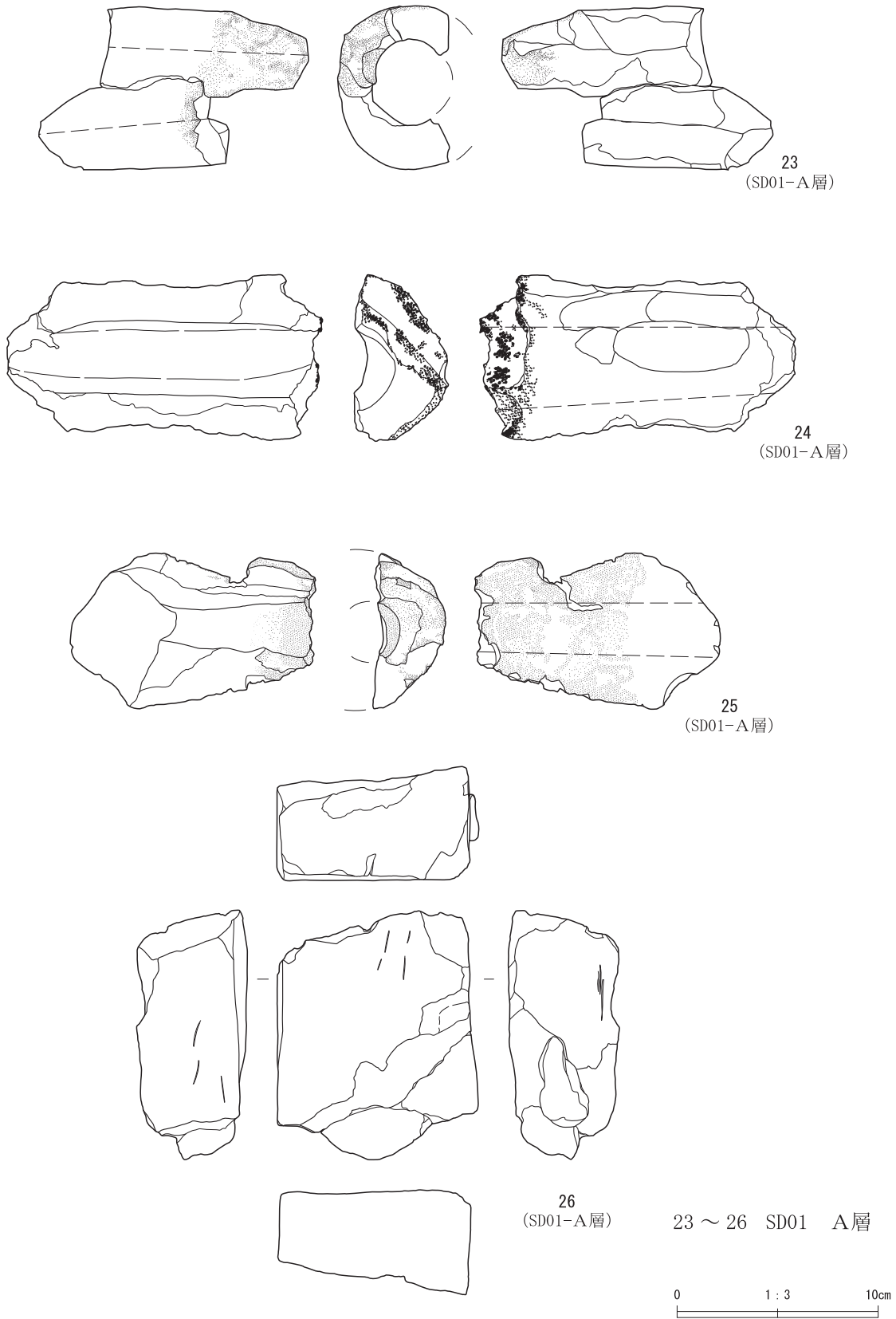


1 ~ 9 SD01 A層

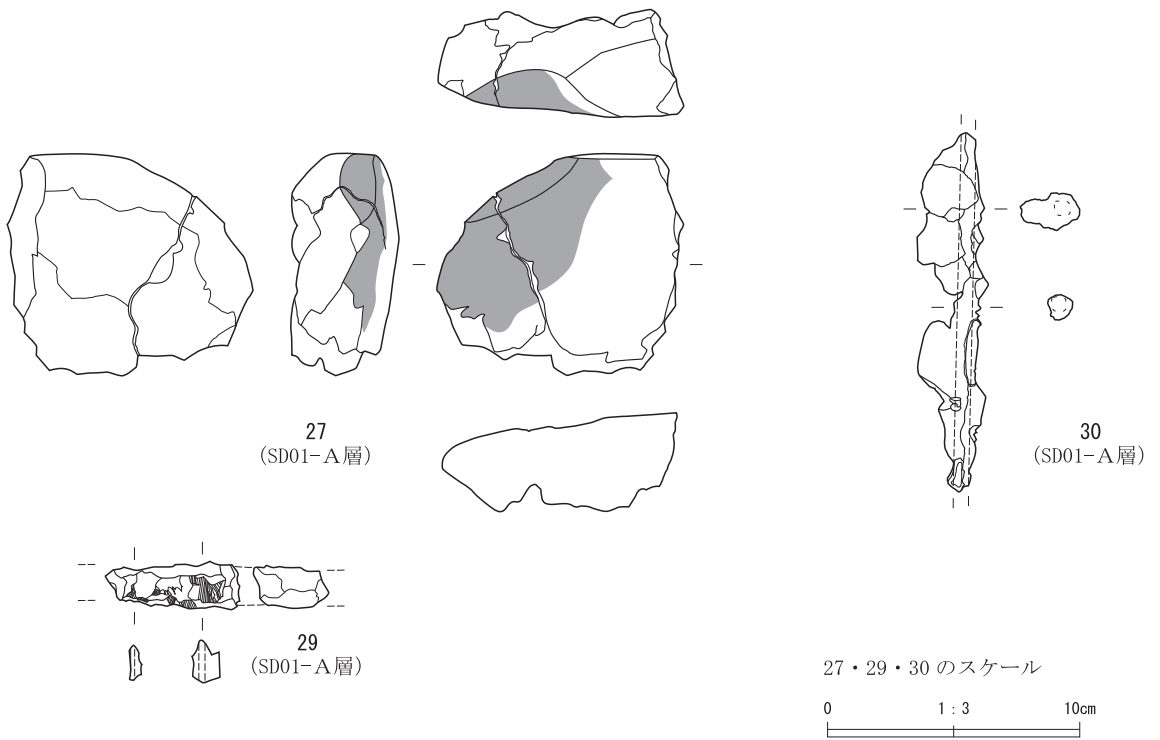
第46図 SD01 出土遺物①



第47図 SD01 出土遺物②



第48図 SD01出土遺物③

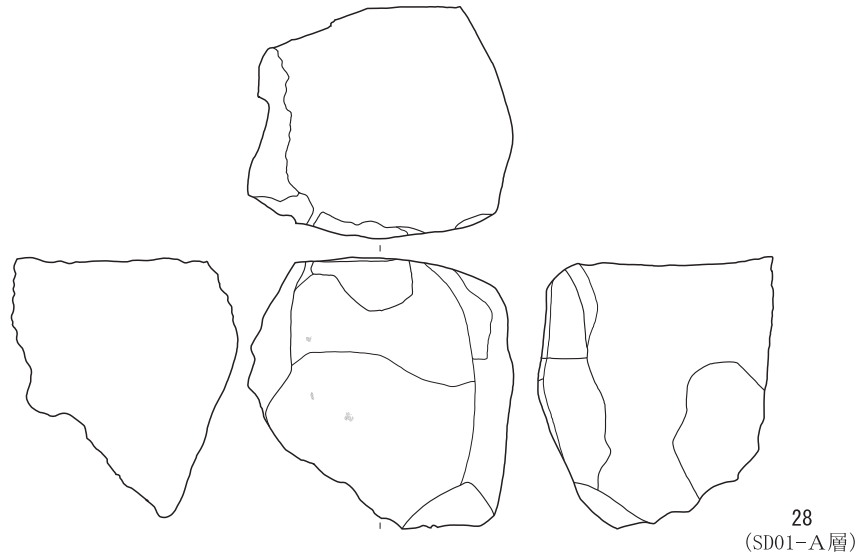
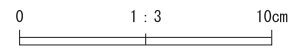


27
(SD01-A層)

30
(SD01-A層)

29
(SD01-A層)

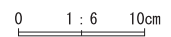
27・29・30のスケール



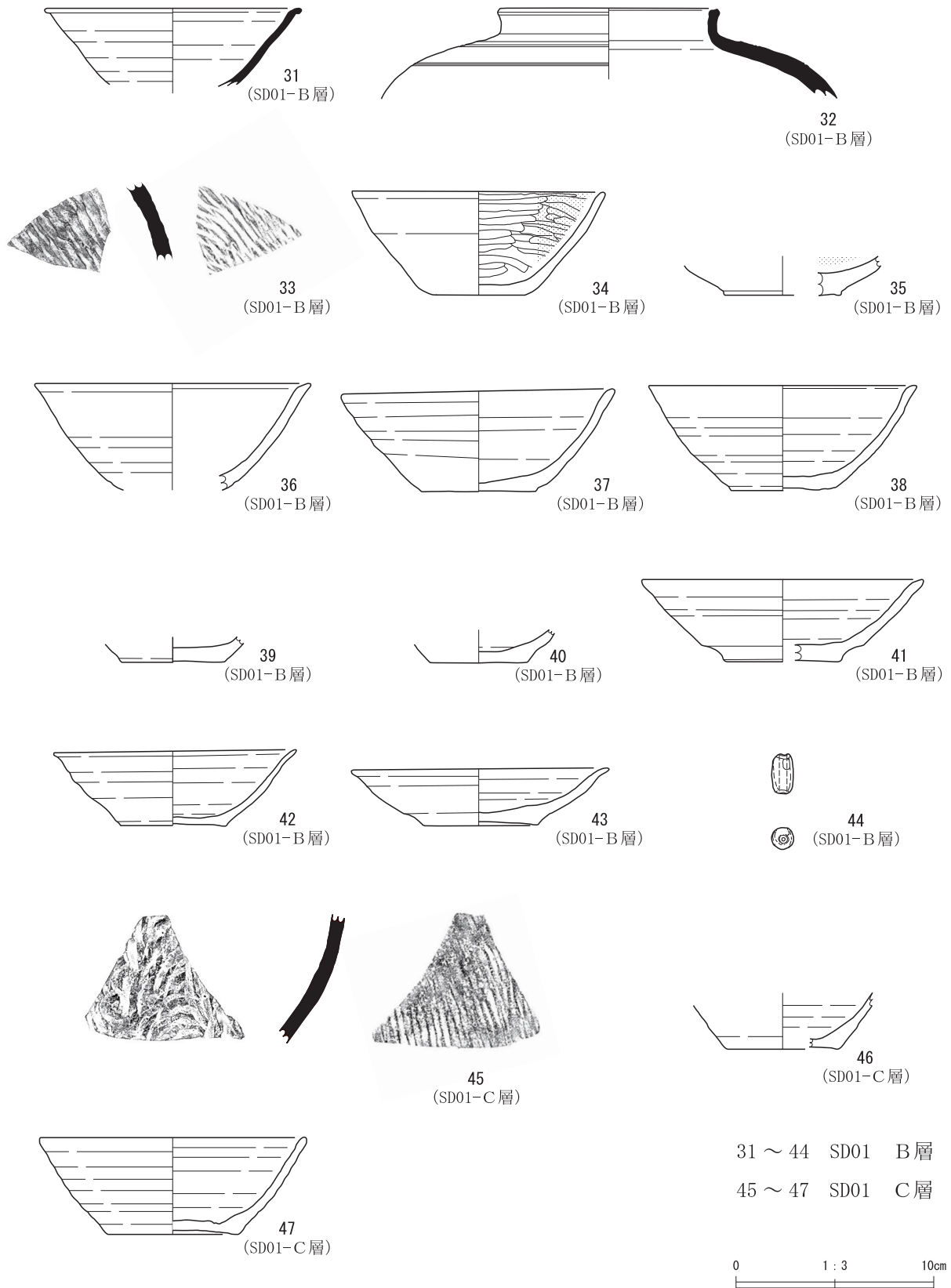
28
(SD01-A層)

27 ~ 30 SD01 A層

28のスケール

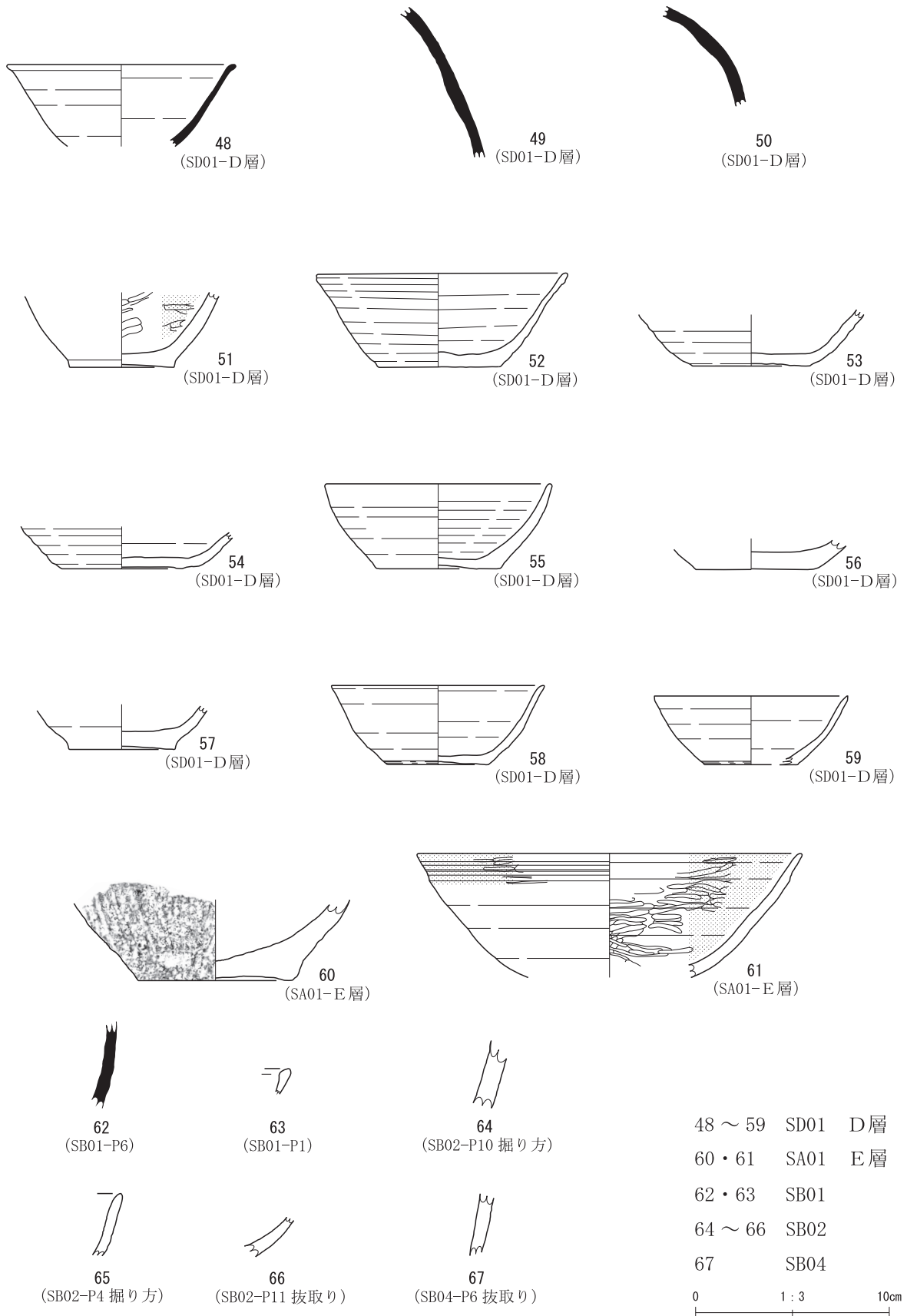


第49図 SD01出土遺物④

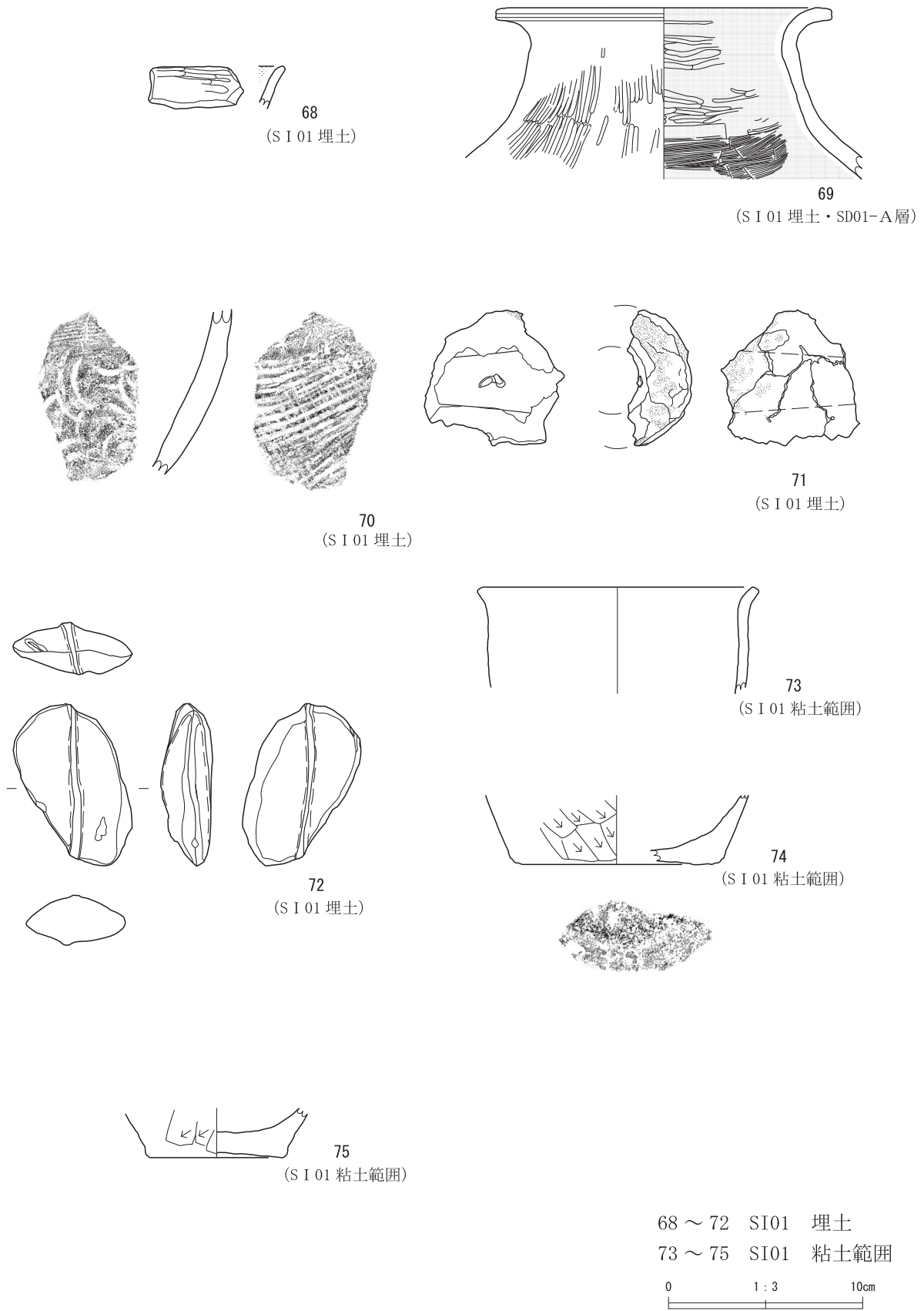


31 ~ 44 SD01 B層
45 ~ 47 SD01 C層

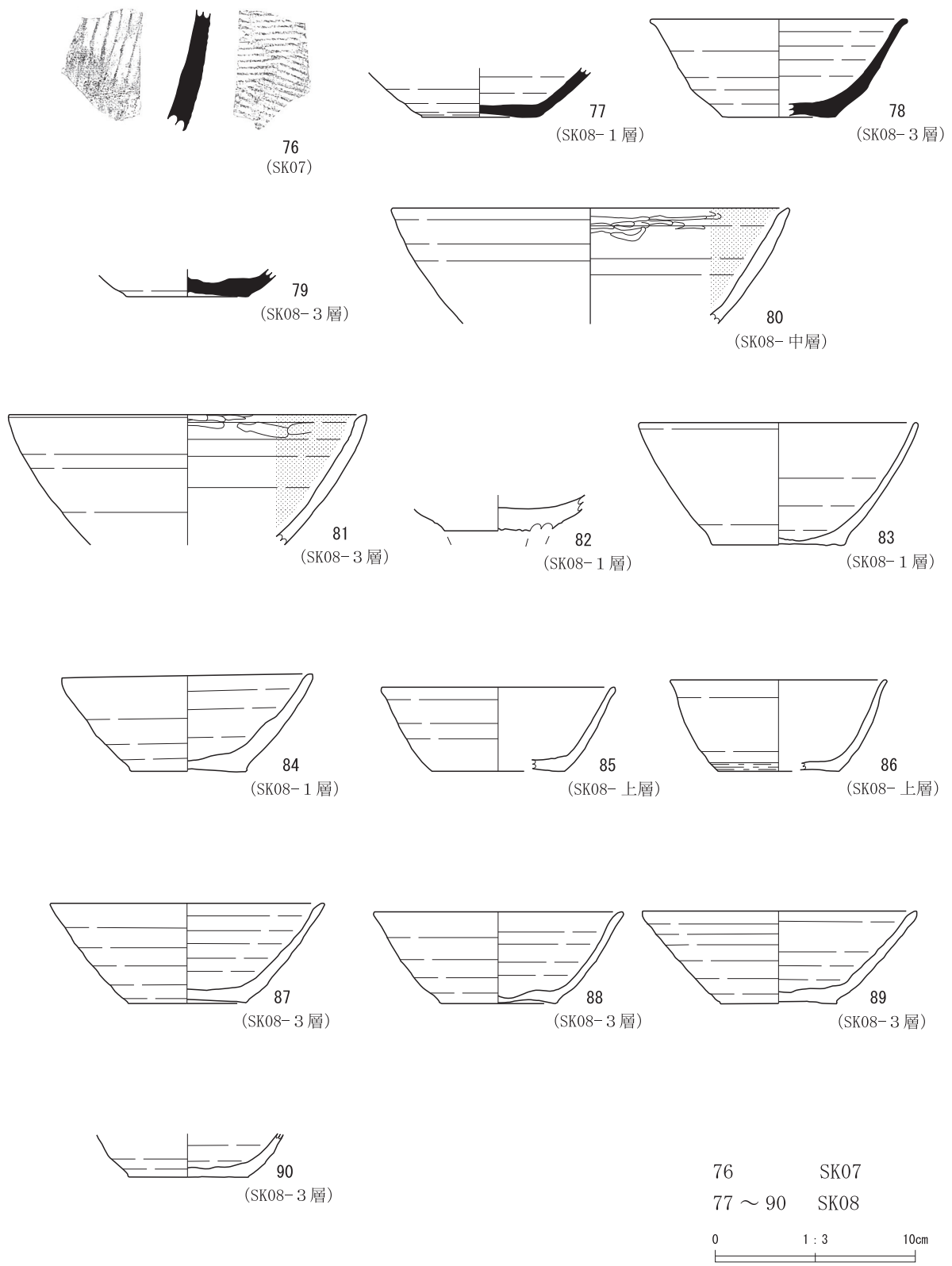
第50図 SD01 出土遺物⑤



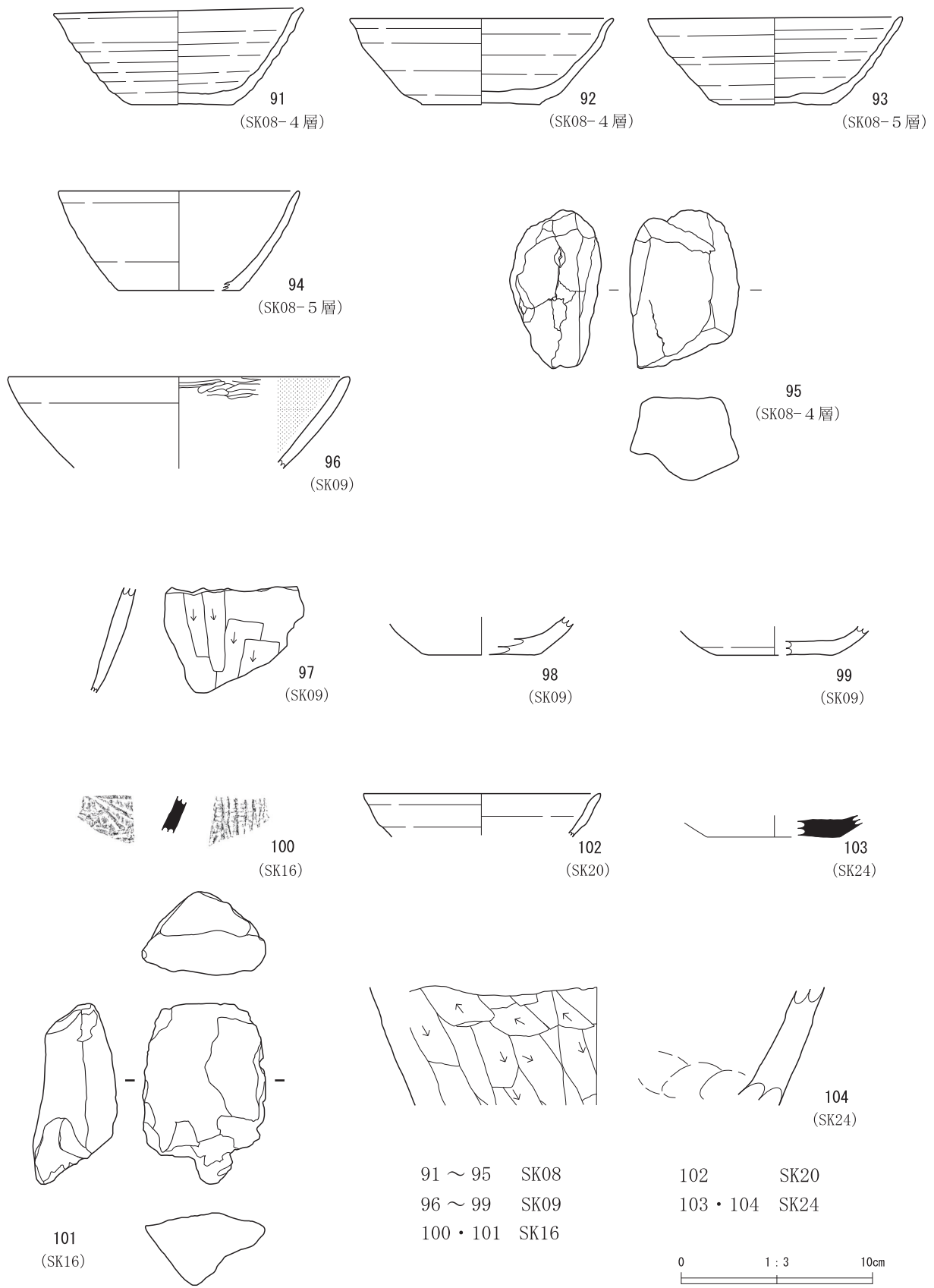
第51図 SD01・SA01・A区遺構内出土遺物



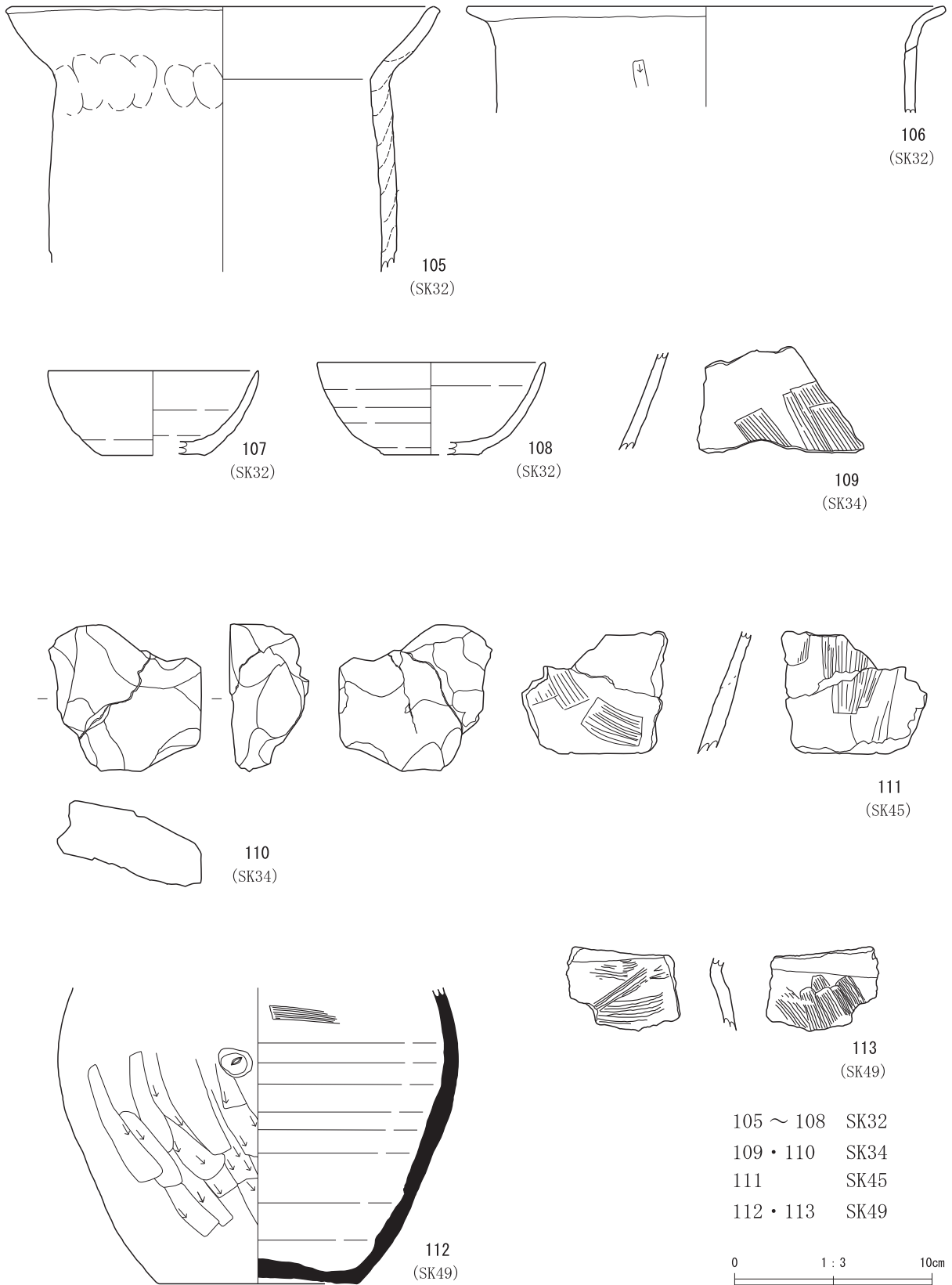
第52図 A区遺構内出土遺物①



第53図 A区遺構内出土遺物②

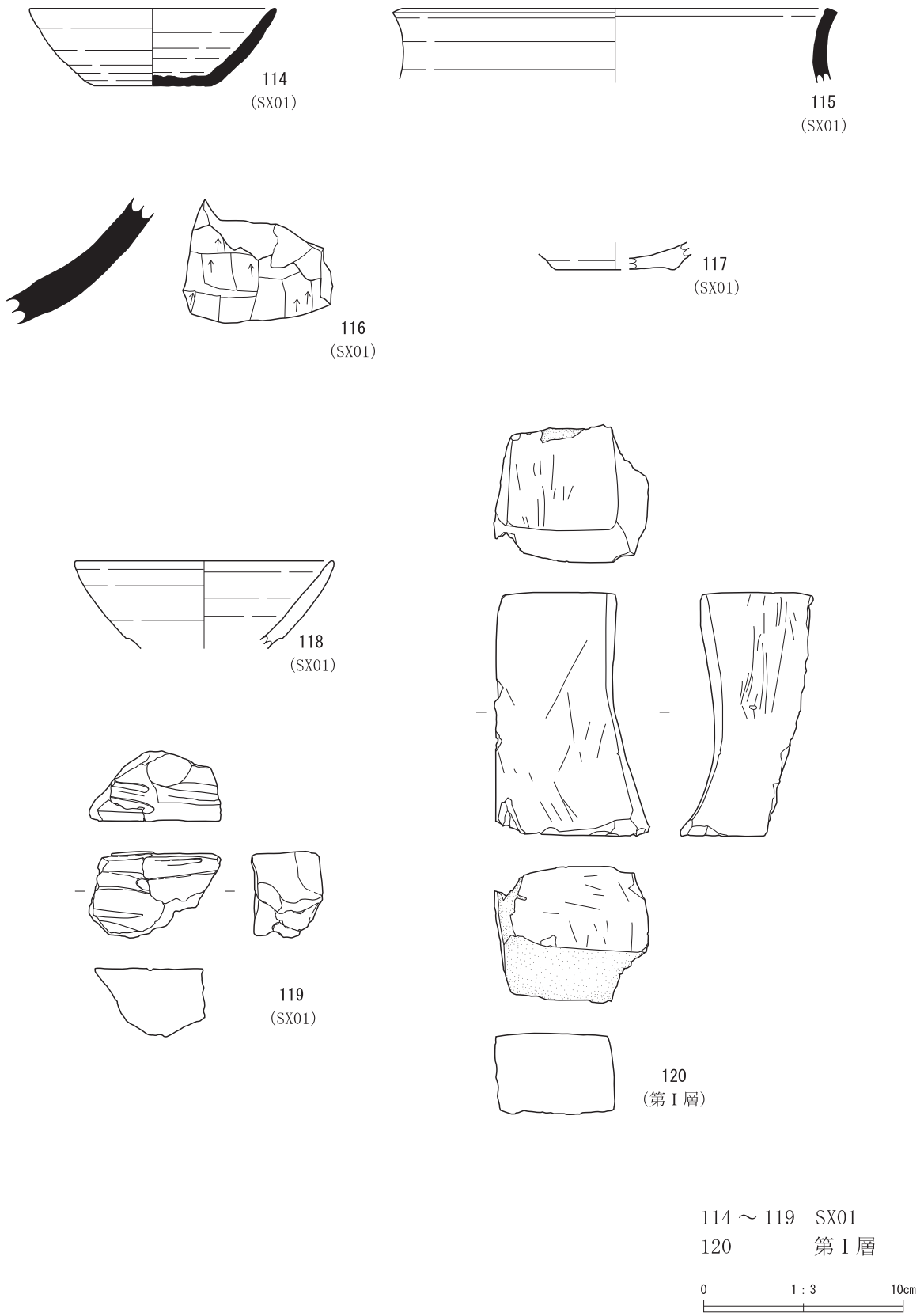


第54図 A区遺構内出土遺物③



- 105 ~ 108 SK32
- 109・110 SK34
- 111 SK45
- 112・113 SK49

第55図 A区遺構内出土遺物④



第56図 A区遺構内・遺構外出土遺物

第4章 まとめ

第1節 各遺構の年代について

大又Ⅱ遺跡では、調査対象地を南北に縦断する排水路を境に、東側の調査地をA区、南側の調査地をB区として調査を実施した。調査対象地は、周囲との比高が約1 mある島状の地形であり、岩見川の自然堤防が川の氾濫や土取り、耕作地の整備などに起因する大規模な削平を受け分断された場所と考えられる。また、近現代の造成土（第Ⅰ層）直下に地山（第Ⅲ-1層）があることが多く遺物包含層が確認されないなど、面的な削平も受けている。さらに、近現代の耕作に起因する畝跡等の攪乱も多い。

調査の結果検出した遺構は、A・B区を合わせた調査区全体で掘立柱建物跡（SB）7棟、柱列塀（SA）1条、柱列跡（SA）7条、溝跡（SD）7条、竪穴状遺構（SI）1基、土坑（SK）50基、ピット（SP）296基、性格不明遺構（SX）1基である（第10～13表）。大又Ⅱ遺跡最大の特徴として、調査区を東西に横断する区画施設（SA01・SD01）がある。また、SD01の埋土からは十和田aと同定される火山灰が検出されており（別編第2節「テフラ分析」参照）、遺構の年代検討に非常に有効である。各遺構からは、古代の須恵器、土師器、赤褐色土器、フイゴ羽口、鉄滓等の遺物が出土した。以下では、主な遺構について、重複関係や方位、出土遺物の検討を行い、その年代について記述する。

（1）SA01 柱列塀

SD01 溝跡と同位置にあり、SD01 に上部を壊されている。遺構底面に一定間隔で並ぶ柱痕跡（直径16～35 cm、平面形は円形・楕円形）があることから、柱列塀と考えられる。SD01 構築前に柱が抜き取られることで掘り方埋土（F～H層）がほとんど残存せず、また、掘り方埋土出土の遺物がないため遺物から年代を特定することはできない。わずかに見つかった炭化物の放射性炭素年代測定（別編第1節「放射性炭素年代（AMS測定）」参照、以下同じ。）の結果を採用すれば、暦年較正年代の2σ範囲で、試料②（F・G層）が735calAD-775calAD（44.9%）、試料⑤（H層）が674calAD-779calAD（76.2%）の値を示したことから、SA01の構築年代は8世紀中葉までさかのぼる可能性がある。

E層はSA01の材木の抜き取り埋土である。縄文土器（第51図60）と土師器壙（第51図61）が出土した。SA01から出土した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、複数の試料が縄文時代の年代を示した（試料③・④・⑥・⑧）。これは、SA01のような大規模な遺構を構築する際に、当時の地表面より下に包含された炭化物が移動したためと考えられ、E層出土の縄文土器も同様に混ざり込んだものと解釈できる。立ち上がりが緩やかな土師器壙は9世紀後半以降に位置付けられる（註1、以下、遺物の年代比定における「～に位置付けられる」の表記は、「～の」と表記する）。したがって、SA01の廃絶年代は9世紀後半以降と考えられる。

（2）SD01 溝跡

SA01 柱列塀の材木を抜き取り、その凹みを利用して構築された区画溝である。性質によって分類した埋土（第3章第3節（1）参照）ごとに検討した年代について、下層から記述する。なお、SD01は、①SA01の材木を抜き取る（E層が堆積）→②抜き取りの凹みを利用して構築（掘り方底面をD層、掘り方立ち上がりをC層で整地）→③十和田a火山灰降下前後に徐々にB層が堆積→④A層で埋まりきる、という過程を経る。

C・D層はSD01掘り方の整地層である。体部下端外面にケズリがある赤褐色土器坏B（註2、第51図58・59）が出土しており、9世紀第2四半期のものである。また、壙形の須恵器（第51図48）や底径が縮小した赤褐色土器坏A（第51図57）が出土しており、9世紀第4四半期のものである。したがって、SD01の構築年代にあたるC・D層は、おおむね9世紀第4四半期である。

B層は十和田 a 火山灰を含むB③層前後の層である。埴形の須恵器（第 50 図 31）が出土しており、9 世紀第 4 四半期のものである。また、赤褐色土器皿（第 50 図 43）および底径が小さく粗雑なつくりの赤褐色土器坏A（第 50 図 41・42）は 10 世紀第 1 四半期のものである。このことから、B層は 915 年の十和田 a 火山灰降下前後のおおむね 10 世紀第 1 四半期の堆積土と考えられる。

A層はSD01の最上層である。底径が非常に小さい赤褐色土器坏A（第 47 図 16）や柱状高台の赤褐色土器坏A（第 47 図 20）が出土しており、10 世紀第 2 四半期のものである。このことから、SD01 が埋まりきるのは 10 世紀第 2 四半期以降と考えられる。

（3）SB01・02 掘立柱建物跡

柱掘り方の平面形が隅丸方形を呈する掘立柱建物跡である。建物方位の南北方向が北で西に 15～22 度振れる。須恵器甕や赤褐色土器坏Aの破片が出土した（第 51 図 62～66）。小片のため詳細な時期判定は難しいが、隅丸方形の柱穴は「官」的な要素が強いとされ、後述するようにSA01 柱列塀も「官」的な要素を多分に持つことから、SA01 と同時期の遺構と考えられる。

なお、検出した掘立柱建物跡 7 棟を建物方位ごとに分類すると、第 25 表のとおりである。

（4）SB03 掘立柱建物跡

柱掘り方の平面形が丸形を呈する掘立柱建物跡である。建物方位の南北方向が北で西に 21 度振れる。建物方位はSB01・02 に類似するため同時期の可能性はあるが、出土遺物はなく、年代は不明である。

（5）SB04～06 掘立柱建物跡

柱掘り方の平面形が丸形を呈する掘立柱建物跡である。建物方位の南北方向が北で西に 4～9 度振れる。SB04 から土師器甕の破片が出土した（第 51 図 67）。小片のため詳細な時期判定は難しく、年代は不明である。建物方位はSB01～03・07 と異なる。

（6）SB07 掘立柱建物跡

柱掘り方の平面形が丸形を呈する掘立柱建物跡である。建物方位の南北方向が北で東に 15 度振れる。出土遺物はなく、建物方位はSB01～06 と異なる。重複関係がSD01 溝跡よりも新しいことから、SD01 のA層が埋まりきった 10 世紀第 2 四半期以降の遺構と考えられる。

（7）SI01 竪穴状遺構

床面で確認した粘土範囲から、底部中央に砂粒が付着する土師器甕（第 52 図 74）が出土しており、10 世紀前葉のものである。また、埋土から出土した土師器甕（第 52 図 69）が、SD01 溝跡のA層出土土師器と接合する。これらのことから、SI01 は 10 世紀前葉には機能しており、SD01 のA層と同時期に埋まったと考えられる。

（8）SK07～09 土坑

SK07～09 は、SA01 柱列塀・SD01 溝跡が蛇行する場所にある。SK08・09 は重複関係がSD01 より古く、SK07 とSD01 の重複関係は不明である。SK07～09 は、SA01-P 1～3 と対に位置することから、SA01 と同時期に存在した可能性がある。SK08 からは多くの遺物が出土しており、体部下端外面にケズリがある赤褐色土器坏B（第 53 図 86）は 9 世紀第 2 四半期、埴形の須恵器（第 53 図 77）や底径が縮小した赤褐色土器坏Aは 9 世紀第 4 四半期のものである。出土遺物の特徴は、SD01 のC・D層に類似する。これらのことから、SA01 と併存するSK07～09 は、SA01 廃絶後にいったん埋められ、9 世紀第 4 四半期のSD01 構築にあたって壊されたと考えられる。

（9）SX01 性格不明遺構

底面に溝状の落ち込みがある遺構である。重複関係がSD01 より新しい。SD01 がA層で埋まりきった 10 世紀第 2 四半期以降の遺構と考えられる。

第2節 遺構の変遷と特徴について

第1節の年代検討を踏まえ遺構の変遷をまとめると、大又Ⅱ遺跡は、Ⅰ期からⅢ期までの3区分に分けることができる(第26表)。

(1) Ⅰ期(8世紀中葉?~9世紀第3四半期)(第57図)

S A01 柱列塀が構築され、廃絶されるまでの時期である。先述したように、S A01 掘り方埋土からの出土遺物はなく、放射性炭素年代測定の結果を積極的に採用すれば、8世紀中葉までさかのぼる時期である。S A01 は底面で直径16~35 cmの円形および楕円形の柱痕跡を一定間隔で検出した柱列塀である。壁は全ての場所で垂直に立ち上がるなど、規格性を持って構築されたことが窺える。検出面からの深さは約1.1m以上あり、調査地が面的に削平されていることを考えると、当時の地表面からはさらに深く掘り込まれている。さらに、調査区中央を南北に縦断する排水路部分にもS A01 が続いていたとすると、確認できたS A01 の総延長は約110mを測る。これほど大規模で規格的な柱列塀は秋田平野では秋田城以外でほとんど類例がなく、律令国家側の秋田城に関係する集団が関係していると推察される。

同時期の遺構には、S B01・02 掘立柱建物跡およびS K07~09 土坑がある。S B01・02 は柱掘り方の平面形が隅丸方形を呈する。隅丸方形の掘り方を持つ掘立柱建物は「官」的な要素が強いとされるが、それを考慮すると、同じく「官」的な要素を持つS A01 と併存する可能性が高い。なお、S B02 は、桁行の柱掘り方の配置が特殊な掘立柱建物跡であり、桁行の中央にあるP 3・9は、間仕切りの機能を持つ可能性がある。

S K07~09 はS A01 が蛇行する場所に位置し、対になるようにS A01-P 1~3がある。これらの遺構が柱列塀の上部構造に関係するとすれば、「櫓」のような施設の基礎構造とも考えられ、A区西端のS A01-P 4についても、何らかの特殊な上部構造に伴う掘り込みの可能性もある。また、S A01 には蛇行する場所が他にもあるが(グリッド軸のL S列からMA列の間)、この区間の埋土は他とは異なり砂質で(H層)、底面では柱痕跡が検出されなかった。放射性炭素年代測定の結果では、暦年較正年代の2σ範囲で、試料⑤(H層)が674calAD-779calAD(76.2%)の値を示しており、この値を採用すれば、S A01 構築時に材木を立てずに砂質土で埋めたと解釈できる。このことから、この区間は集落への出入口として使われ、柱列塀が途切れる場所だった可能性も考えられる。

以上のように、背後の山と柱列塀に囲まれ、内部に掘立柱建物がある集落がⅠ期の景観である。

(2) Ⅱ期(9世紀第4四半期~10世紀第1四半期・第2四半期)(第58図)

S D01 溝跡が構築され、廃絶されるまでの時期である。S A01 とS D01 の一連の断面形は漏斗形を呈するが、立ち上がりの角度が変化する辺りに、S A01 柱列塀の材木を抜き取り、S D01 を構築する際にできたと考えられるテラス状の平坦面があり、部分的に工具痕を確認できる(第19図)。これは、少なくとも2方向から掘り進めた結果と考えられる。埋土のB層は自然堆積層で、中~下位には十和田a火山灰が混じるB③層がある。その上層のA④層は層厚が薄い黒褐色の水性堆積層であり、この時期になってもS D01 は開口していたことが分かる。さらに上層のA②層からは鉄滓やフイゴ羽口、被熱した礫などが出土しており、グリッド軸のMB列からMF列の間で特に顕著であった。椀形鍛冶滓や金床石と考えられる礫もあることから、周辺では小鍛冶が行われており、不要物である鍛冶関連遺物を廃棄した可能性がある。このことと出土遺物の年代から、S D01 の構築は9世紀第4四半期で、十和田a火山灰が降下した後も開口した状態で機能しており、10世紀第2四半期以降に人為的に埋められたと考えられる。

S I01 竪穴状遺構は、床面付近で出土した砂底土器の年代から、10世紀前葉には機能していた。また、埋土から見つかった土師器甕がS D01 のA層出土土師器と接合すること、椀形鍛冶滓やフイゴ羽口が出土するなど埋土の特徴がS D01 のA層に類似することから、S D01 と同時期に埋まっている。なお、鍛冶関連遺物

が出土することから鍛冶工房の可能性もあるため、床面埋土（6・7層）を4・2・1mmのフルイにかけてが、鍛造剥片は確認できなかった。

以上のように、I期のS A01 柱列塀からS D01 溝跡に区画施設の形態が大きく変わり、堅穴状遺構がある集落がII期の景観であり、集落内もしくは周辺で小鍛冶が行われたと推察される。

なお、S D01 のA～D層から出土した赤褐色土器片、S D01A層およびS I 01 から出土した鉄滓の法量は第21～24・27～31表のとおりである。

(3) III期（10世紀第2四半期以降、11～12世紀代か？）（第59図）

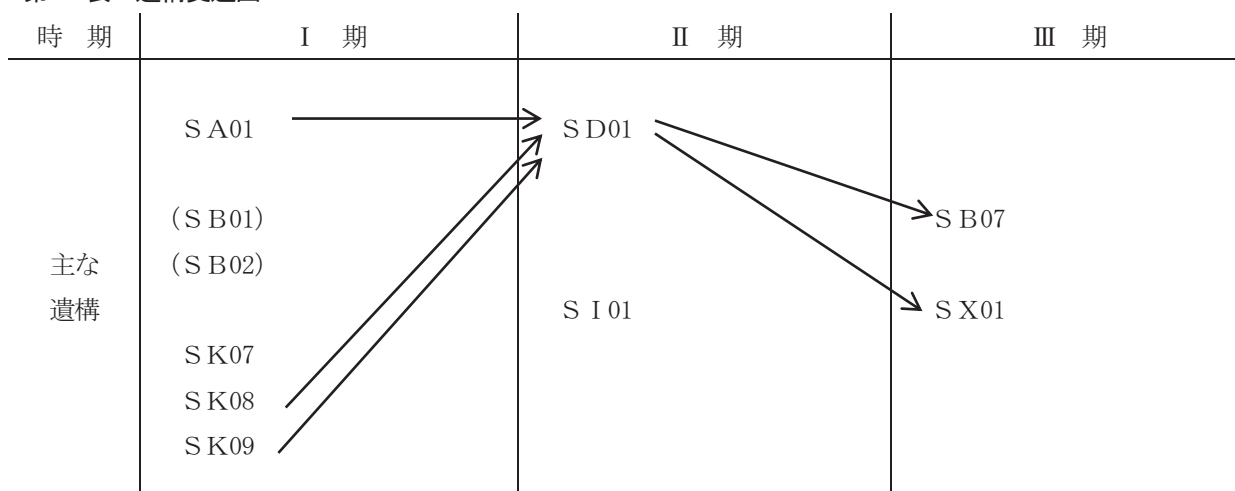
S D01 溝跡が埋まりきった後の時期である。最上層のA層の上位には、炭化物や鉄滓等が混じるA②層があり、それより上の層は堆積状況から人為的に埋められたと考えられる。S D01 のA層出土遺物の年代は10世紀第2四半期であるが、放射性炭素年代測定の結果、暦年較正年代の2σ 範囲で、試料⑨（A②層）が1035calAD-1170calAD（95.4%）の値を示した。この値を採用すれば、S D01 が最終的に埋め立てられたのは、11～12世紀の可能性はある。つまり、10世紀第2四半期にII期集落が廃絶したが、その後しばらくの間当該地は利用されず、埋まりかけていたS D01 やS I 01 を11世紀以降に整地し土地利用が再開された可能性も考えられる。

同時期の遺構には、重複関係でS D01 より新しいS B07 掘立柱建物跡・S X01 性格不明遺構がある。また、調査区内で検出した数多くのピットもこの時期に含まれる可能性があり、今後検討を要する。

第25表 方位による掘立柱建物跡の分類

分類	遺構名	南北方向の建物方位
A群	S B01、S B02、S B03	北で西に15～22度振れる
B群	S B04、S B05、S B06	北で西に4～9度振れる
C群	S B07	北で東に15度振れる

第26表 遺構変遷図





第57図 遺構変遷図（I期）



第58図 遺構変遷図（Ⅱ期）



第59図 遺構変遷図（Ⅲ期）

第27表 S D01出土赤褐色土器（坏）口径統計一覧

	A層	B層	C・D層
平均 (cm)	12.37	13.69	13.08
標準偏差	1.50	1.39	1.25
最大値 (cm)	15.0	17.0	16.0
最小値 (cm)	9.0	11.0	10.0
計測点数	33	43	92

第28表 S D01出土赤褐色土器（坏）底径統計一覧

	A層	B層	C・D層
平均 (cm)	5.78	6.04	5.99
標準偏差	0.95	0.83	0.44
最大値 (cm)	7.0	8.0	7.0
最小値 (cm)	4.4	5.0	4.8
計測点数	26	16	26

第29表 S D01出土赤褐色土器（坏）口径別個体数一覧

口径 (cm)	A層		B層		C・D層		計	
	個体数	計測点数	個体数	計測点数	個体数	計測点数	個体数	計測点数
9.0～9.9	0.17	1	0.00	0	0.00	0	0.17	1
10.0～10.9	0.38	4	0.00	0	0.73	2	1.11	6
11.0～11.9	0.32	4	0.08	1	0.63	5	1.03	10
12.0～12.9	2.07	7	1.23	8	2.61	24	5.91	39
13.0～13.9	1.70	9	2.28	13	3.32	27	7.30	49
14.0～14.9	0.56	7	1.81	12	2.73	27	5.10	46
15.0～15.9	0.03	1	0.18	2	0.13	2	0.34	5
16.0～16.9	0.00	0	0.45	6	0.53	5	0.98	11
17.0～17.4	0.00	0	0.07	1	0.00	0	0.07	1
計	5.23	33	6.10	43	10.68	92	22.01	168

※計測不能の小片は集計の対象外とした。

※口縁部計測法（宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集）により個体数を算出した。

第30表 S D01A層出土鉄滓集計表

	磁着あり	磁着ややあり	磁着なし	計
重量(g)	1,556	5,464	7,482	14,502
点数	55	61	125	241

※1g未満の小片は集計の対象外とした。

第31表 S I 01出土鉄滓集計表

	磁着あり	磁着ややあり	磁着なし	計	
1層	重量(g)	64	0	350	414
	点数	3	0	9	12
2層	重量(g)	0	0	149	149
	点数	0	0	6	6
P21	重量(g)	0	2	0	2
	点数	0	1	0	1
計	重量(g)	64	2	499	565
	点数	3	1	15	19

※1g未満の小片は集計の対象外とした。

第3節 古代地域社会における大又Ⅱ遺跡の位置づけについて

前節でまとめたような特徴をもつ大又Ⅱ遺跡の秋田平野の古代地域社会における位置づけについて、秋田平野およびその周辺地域の遺跡との比較や文献史料との対比を行い、整理したい。

(1) 大又Ⅱ遺跡の文献史料上の「村落名」について

『日本三代実録』に記される元慶の乱(878)の時期における「村落名」、すなわち、秋田城下の反乱勢力である「賊地十二村」、帰属勢力である「向下俘地三村」の比定地が文献史学の立場から示されている(新野直吉 1968、1971、1982、熊田亮介 1986、第60図)。これらの先行研究によれば、向下俘地三村の「添河」は旭川流域、「覇別」は太平川流域、「助川」は岩見川流域と比定されている。このような文献史学の立場から比定された村落名については、古代(奈良・平安時代)の「周知の埋蔵文化財包蔵地」の分布からみた分析からも支持され得るものである(神田 2005・2007)。

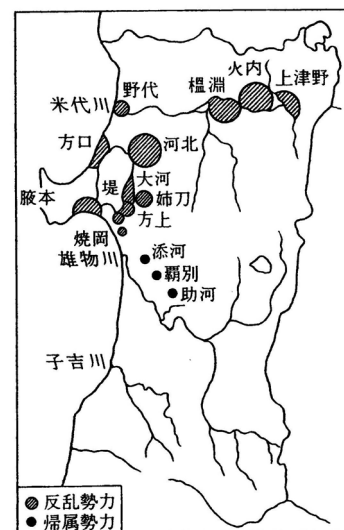
以上のように、岩見川左岸に位置する大又Ⅱ遺跡は、元慶の乱期には「助川」と呼ばれる「村落」の一部に該当する可能性が高い。

(2) 大又Ⅱ遺跡の遺構変遷と存続期間について

前節でみたように、大又Ⅱ遺跡については、Ⅰ期(8世紀中葉?～9世紀第3四半期)、Ⅱ期(9世紀第4四半期～10世紀第1四半期・第2四半期)、Ⅲ期(10世紀第2四半期以降、11～12世紀代か?)という変遷がある。Ⅰ期は区画施設がSA01柱列塀である段階、SB01・02のような柱掘り方が隅丸方形の掘立柱建物が伴う、「官」的な要素の強い集落である。このⅠ期の区画施設である柱列塀は、柱痕跡から直径16～35cmと推定される丸材を用いている。Ⅱ期の区画施設は、同位置に幅約2mの大溝(SD01)として作り直されているが、Ⅰ期の柱列塀の柱は悉く抜き取りが行われている。Ⅱ期に伴う遺構は、SI01堅穴状遺構などで、小鍛冶等を行っている。Ⅰ期とは異なり「官」的な要素は顕著ではない。Ⅲ期は区画施設である溝跡を完全に埋め立て、柱掘り方が丸形の掘立柱建物を伴う。

このように、大又Ⅱ遺跡では、推定ではあるがその開始期は8世紀代にさかのぼり、出土遺物からみれば、9世紀後半から10世紀前半までが主要な時期である。このような大又Ⅱ遺跡の存続期間を秋田平野全体の中でみると、秋田平野南部の古代集落遺跡の動向と基本的には一致する(第32表、神田 2005・2007)。秋田平野およびその周辺域における古代集落遺跡の変遷は、八郎潟周辺および秋田平野北部では、8世紀第2四半期～第3四半期に集落が散見されるようになり、8世紀第4四半期以降に増加する。この地域ではこの傾向は9世紀第3四半期まで継続するものの、9世紀第4四半期以降は遺跡数が減少し、10世紀中葉以降はさらに激減する。9世紀第3四半期と第4四半期の間で古代集落遺跡数が大きく変動するのは、元慶の乱(878)が大きな契機となっていると推定されている。一方、秋田平野南部は、8世紀第2四半期～第3四半期は集落遺跡がほとんどなく、集落遺跡が展開するのは8世紀第4四半期以降である。この地域は、先の地域とは対照的に、9世紀第4四半期以降に集落遺跡が増加する傾向にある。

以上のように、このような古代集落遺跡の動向と比較すると、大又Ⅱ遺跡は基本的には、秋田平野南部地域の動向と一致し、元慶の乱(878)を経ても集落が同位置地点で継続する遺跡である。大又Ⅱ遺跡の開始期は出土遺物がほとんどないため不明な点が多いが、¹⁴C年代暦年較正年代の2σ範囲で、SA01柱列塀掘り方埋土(F・G層)の試料②で735calAD-775calAD(44.9%)、SA01柱列塀掘り方埋土(H層)の試料⑤で674calAD-779calAD(76.2%)の値が示されており、SA01柱列塀の構築年代は、8世紀中葉までさかのぼる可能性が示唆され、当該期における古代地域社会を理解するうえで貴重なデータが得られている。



第60図 元慶の乱関係図
(熊田 1986)

第32表 秋田平野および周辺域における古代集落遺跡の変遷（神田 2007）

	① 8世紀第2四半期 ～8世紀第3四半期	② 8世紀第4四半期 ～9世紀第3四半期	③ 9世紀第4四半期 ～10世紀前葉	④ 10世紀中葉～
八郎潟周辺	・集落遺跡あり	・集落遺跡増加 ・生産施設をもつ 集落遺跡展開 ・(生産遺跡展開)	・集落遺跡減少	・集落遺跡激減
秋田平野 北部	・集落遺跡あり (秋田城周辺のみ) ・(生産遺跡展開)	・集落遺跡増加 ・(生産遺跡増加)	・集落遺跡減少 ・(生産遺跡減少)	・集落遺跡激減
秋田平野 南部	・なし	・集落遺跡展開	・集落遺跡増加 ・生産施設をもつ 集落遺跡展開	・集落遺跡激減

(3) 大又Ⅱ遺跡における各時期の遺構の位置づけについて

上述のように、大又Ⅱ遺跡は、Ⅰ期～Ⅲ期の変遷があるが、各時期の遺構内容は大きく異なっている。以下、各時期の遺構内容からみた古代地域史における位置づけについて、整理したい。

①Ⅰ期遺構（8世紀中葉？～9世紀第3四半期）

先にみたように、大又Ⅱ遺跡のⅠ期遺構は、開始期の遺物はほとんどないため、不明であるが¹⁴C年代測定の結果からみて、8世紀中葉と推定した。Ⅰ期遺構を特徴づけるのは、S A01 柱列塀である。このS A01 柱列塀は、布掘り幅が45cm、深さは1.1m以上あり、柱痕跡から材は直径16～35cmの丸材であることがわかっている。このような柱列塀は、調査区の東から西端まで約110mにわたり確認されている。調査区外の部分は、過去の造成により既に削平されてしまったため、柱列塀の延長は把握することができないが、おそらくはもっと広大な範囲であったと考えられる。大又Ⅱ遺跡の340m南には、丘陵上に「山崎山遺跡」（縄文・平安）が所在する（第61図）。大又Ⅱ遺跡は、「山崎山遺跡」のある丘陵を含む一体が、本来の遺跡の範囲であった可能性がある。また、S A01 柱列塀は、屈曲する部分が2箇所あり、櫓等の構築物や出入口の可能性がある（本章第2節参照）。こうした柱列塀の内側（南側）には、柱掘り方が隅丸方形のS B01・02 掘立柱建物跡等が配置される。これらの今回発見された区画施設の内側の遺構も、本来はさらに南側にも展開していた可能性があり、調査で発見されたものはその一部であろう。

当該期の出土遺物には、墨書土器等の文字資料はないものの、赤褐色土器坏Bが3点出土している（第51図58・59、第53図86）。体部下端にケズリ調整を施す赤褐色土器坏Bは、掘立柱建物跡のみで構成される「官」的な要素の強い遺跡で出土する傾向がある（神田 2010）。

このような内容をもつ大又Ⅱ遺跡のⅠ期遺構は、総じて「官」的な要素が強い。周辺では、「官」的な要素の強い遺跡として、御所野台地の深田沢遺跡（秋田市教育委員会 1985）がある。深田沢遺跡は、8世紀第4四半期～9世紀第3四半期の掘立柱建物跡を主体とする集落遺跡であるが、大又Ⅱ遺跡のような大規模な区画施設は発見されていない。少なくとも東西に110mにわたり確認された大規模な柱列塀は、大又Ⅱ遺跡Ⅰ期遺構を特徴づけるもので、秋田平野および周辺域で規模・構造が類似する区画施設をもつ遺跡は、秋田城以外では五城目町石崎遺跡のみであろう（門間 1968、加藤・高橋 1971、五城目町教育委員会・石崎遺跡発掘調査団 1975）。

石崎遺跡は、八郎潟東岸の南秋田郡五城目町大川下樋口に所在し、柵列、柱脚、墨書土器、陶硯、木製品



第61図 大又II遺跡とその周辺地形

等が1967・1972・1973年の発掘調査によって発見されている。石崎遺跡は、一辺が400～564mの方形施設であると推定され、その遺構構成から「秋田郡衙」に比定されている（五城目町教育委員会・石崎遺跡発掘調査団1975）。石崎遺跡で注目すべき遺構は「柵列跡」である。調査報告書では図面等の提示がなく詳細は不明であるが、石崎遺跡の「柵列跡」は二種類あり、一つは「直径、10センチメートルから30センチメートルの丸柱を、牆柵風に植え込んだもの」であり、もう一つは「1面が30センチメートルの巾の角材を、礎板の上に直立せしめ、2メートル乃至は、中間が抜かれて5.50メートル離れて一直線に据え置かれる大垣風柵列跡」である（五城目町教育委員会・石崎遺跡発掘調査団1975：p.7）。前者のタイプの柵列跡と考えられる遺構は、五城目町指定史跡の「石崎遺跡 柵列柱脚」として、露出展示されている（写真1）。露出展示されている柱は、直径30cmを超える丸材である。

石崎遺跡の「柵列跡」に関する詳細は不明であるが、大又II遺跡におけるSA01柱列塀に規模・構造が最も類似する遺構は、現段階でこれ以外に存在しない。すなわち、大又II遺跡のSA01柱列塀は、石崎遺跡の2種類の「柵列跡」のうち、前者の直径10～30cmの丸太材を用いた「牆柵風柵列跡」が最も近い類例である。石崎遺跡の「柵列跡」等の詳細な年代については分からないが、少なくとも大又II遺跡では9世紀第3四半期まで存続し、元慶の乱（878）後の9世紀第4四半期に区画施設がI期の柱列塀からII期の大溝に大きく変貌する点は、古代の地域史にとって極めて重要な点である。

石崎遺跡と大又II遺跡で、異なっている点を挙げるとすれば、柱列塀の材木が遺存しているか否かであろう。石崎遺跡では、五城目町指定史跡「石崎遺跡 柵列柱脚」にみられるように、「柵列跡」の材が遺存していた。その結果、昭和30年代の水田区画整理で発見され古くから知られていた遺跡であった。一方、大又II遺跡のSA01柱列塀は、柱材が悉く抜き取られており、今日まで発見されることがなかった、と言えるだ

う。石崎遺跡では柱材が遺存し、大又Ⅱ遺跡では柱材は人為的に悉く抜き取られたという点は、各遺跡の廃絶の違いに起因する。なぜ、大又Ⅱ遺跡では柱列塀の柱材をすべて抜き取ったのかという点については、今後の課題である。

②Ⅱ期遺構（9世紀第4四半期～10世紀第1四半期・第2四半期）

前節で検討したように、大又Ⅱ遺跡のⅡ期遺構は、出土土器の特徴から、9世紀第4四半期～10世紀第1四半期と推定された。またSD01溝跡の最上層埋土（A層）の出土遺物も当該期に含めれば、10世紀第2四半期まで



写真1 「石崎遺跡 柵列柱脚」近景

となる可能性がある。Ⅱ期遺構の特徴は、区画施設がⅠ期のSA01柱列塀から、SD01溝跡に変容する点である。このSD01溝跡は幅が約2mの「大溝」ともいえる規模である。あたかもSA01柱列塀の柱を悉く抜き取った跡の穴を整形し、大溝として利用したかのようである。こうしたSD01溝跡（大溝）の内部には、竪穴状遺構が1基発見されており、底部に砂が付着する土師器甕の「砂底土器」（第52図74、櫻田1993）が出土し、鉄滓等の鍛冶関連遺物が出土している。

このような大又Ⅱ遺跡のⅡ期遺構の様相は、同じ秋田平野南部の戸島上野Ⅰ遺跡（旧名称：上野遺跡、秋田県教育委員会2000）と類似している（註3）。戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）は、岩見川左岸の河岸段丘上に位置し、大又Ⅱ遺跡から東南東に3kmの地点に位置する。戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）では、集落が立地する台地縁辺に幅0.6～1.0m、深さ30～70cmの溝跡が巡り、竪穴建物跡と掘立柱建物跡が検出されている。竪穴建物跡からは、鉄鋤などの鉄製品や鉄滓が出土し、鍛冶を行っていたと考えられる。また、SI27竪穴建物跡からは、全面に砂が付着する「砂底土器」が出土している。大又Ⅱ遺跡および戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）出土の「砂底土器」は、北緯40度以北の秋田県北部で多く出土する土器であり（櫻田1993）、当該地に飛び地的に出土している。戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）の年代は、9世紀第4四半期～10世紀前葉であり（神田2005・2007）、大又Ⅱ遺跡のⅡ期遺構と同時期である。

以上のように、大又Ⅱ遺跡のⅡ期遺構は、Ⅰ期の「官」的な要素が強い時期と比べ大きく様相が異なっており、竪穴状遺構で小鍛冶等を行い周辺の同時期の古代集落の動向と類似した特徴がみられる。

③Ⅲ期遺構（10世紀第2四半期以降、11～12世紀代か？）

大又Ⅱ遺跡のⅢ期遺構は、Ⅱ期のSD01溝跡（大溝）が埋め立てられた後の遺構であり、Ⅰ・Ⅱ期を通して特徴的であった区画施設を埋め立てており、集落の様相は大きく変貌する。切り合い関係から明確にⅢ期遺構と言えるのは、SD01溝跡が埋め立てられた後に構築されたSB07掘立柱建物跡とSX01性格不明遺構のみである。

SD01溝跡最上層の埋土（A層）からの出土土器の特徴は10世紀第2四半期であると考えられた。したがって、Ⅲ期遺構の形成は、10世紀第2四半期以降であると言えるが、SD01溝跡最上層埋土（A層）の出土遺物には、フイゴ羽口や鉄滓が多く共伴していることから、出土遺物の内容としてはⅡ期遺構の時期に使用されたものと同種のものであり、Ⅱ期遺構で使用されたものがSD01溝跡の最上層に廃棄されているものと考えられる。したがって、前述のⅡ期遺構の存続期間は、10世紀第1四半期ではなく、10世紀第2四半期にまで下る可能性はある。

Ⅲ期遺構は、区画施設であるSD01溝跡を埋め立て、整地した後に当該地を利用した時期であると言えるが、10世紀後半以降の年代に比定できる出土遺物はなく、詳細は不明である。しかし、SD01溝跡最上層埋土(A層)の炭化物の¹⁴C年代測定による暦年較正年代は、2σの値で1035calAD-1170calADで、SD01溝跡最上層埋土(A層)の出土遺物は10世紀第2四半期であるが、実際に埋め立てられたのは11~12世紀の可能性はある。

大又Ⅱ遺跡の近隣には、東北東に1.5kmの地点に虚空蔵大台滝遺跡(秋田県教育委員会2007)がある。虚空蔵大台滝遺跡は、岩見川右岸の台地上に立地し、虎口・切岸・空堀・掘立柱建物跡・礎石建物跡・テラス状遺構などが検出され、東西約450m、南北約300mに広がる平安時代後期の大規模な城館である。遺跡の年代は出土遺物の灰釉陶器およびかわらけ等から、11世紀中葉から後葉と考えられている(利部2008)。虚空蔵大台滝遺跡は、横手市大鳥井山遺跡(横手市教育委員会2009)と同時代の遺跡であり、清原氏が台頭し、後三年合戦・前九年合戦の時代である。11世紀代は、このように清原氏の台頭により秋田が再編される時代であり、大又Ⅱ遺跡のⅢ期遺構はこのような影響をうけ形成された可能性がある。

(4) 大又Ⅱ遺跡の文献史料における位置づけ

以上のようなⅠ~Ⅲ期の変遷をもつ考古学的な特徴をもつ大又Ⅱ遺跡について、関連するであろう文献史料での代表的な記事として次の3つをあげておきたい(註4)。

史料1

天平宝字三年(七五九)九月二十六日己丑(続日本紀 卷二十二)

勅す、「陸奥国の桃生城・出羽国の雄勝城を造る。役せられし郡司・軍毅・鎮兵・馬子・合せて八千八百八十人、去る春月より秋季に至るまで、既に郷土を離れて産業を顧みず。朕茲念う毎に情に深く矜憫む。宜しく今年の負うところの人身の挙税を免ずべし」と。始めて出羽国の雄勝・平鹿二郡と、玉野・避翼・平戈・横河・雄勝・助河並びに陸奥国の嶺基等の駅家を置く。

史料2

延暦二十三年(八〇四)十一月二十二日癸巳(日本後記 卷十二)

出羽国言す、「秋田城は建置以来四十余年なり。土地瘠瘠にして五穀宜しからず北隅に独居し、相救に隣り無し。伏して望むらくは永く停廢に従い、河辺府を保たん」てえり。宜しく城を停めて郡と為し、土人・浪人を論ぜず、彼の城に住む者を以て編附すべし。

史料3

元慶二年(八七八)六月七日辛未(日本三代実録 卷三十三)

出羽国守藤原朝臣興世飛駢して奏言す、「権掾小野春泉・文室有房ら秋田營に在り。去る四月十九日、最上郡の擬大領伴貞道・俘魁玉作宇奈磨を遣わして、官軍五百六十人を將いて、賊類の形勢を須候しむ。路に賊三百余人と遇いて合戦し、賊を射て傷つくるは十九人、官軍の傷を被るは七人なり。貞道は流れ矢に中りて死せり。二十日賊衆増加し、相敵すべからず。暮れに会いて戦い罷み、軍を引きて營に還る。・・・

史料1は、多賀柵(後の多賀城、神亀元年・724年創建)と出羽柵(後の秋田城、天平5年・733年創建)の中継地点である雄勝城造営に関係する者の挙税を免ずる史料であるが、それに付随して雄勝郡・平鹿郡と6つの駅家を設置したことが記されている。このうち、「助河」駅家は本節の(1)でみたように、岩見川流域の一角は元慶の乱期(878)は同様に「助川」と呼ばれていた可能性があると考えられることから、大又Ⅱ遺跡はこの史料と無関係ではないだろう。現在のところ、岩見川流域で8世紀後半に存続している遺跡は右岸の御所野台地の下堤C遺跡、深田沢遺跡しか存在しておらず、これらの遺跡の開始期は8世紀第4四半期であり(神田2005・2007)、当該史料の天平宝字三年(759)までは遡り得ない。これらの遺跡と比較しても、柱列塀を伴う大又Ⅱ遺跡のⅠ期遺構は、これらの遺跡よりも「官」的な要素が強く大規模であること、Ⅰ期

遺構の柱列堀跡の構築年代を示す¹⁴C年代の暦年較正年代では、8世紀中葉にまで届く年代値が示されており、これらの特徴を積極的に評価すれば、大又Ⅱ遺跡は「助河」駅家の有力候補地となるだろう。

史料2にみられる記事の内容と「河辺府」については、先行研究において様々な見解が出されており、現在もお議論が続けられている。史料2の「河辺府」を①河辺郡の「河辺郡府」とみる見解（今泉1995、熊谷2021）、②払田柵跡とする見解（新野・船木1990）、③仁和三年（887）五月二十日癸巳（日本三代実録 卷五十）の条にある出羽郡井口の国府とみる見解（吉田1907、喜田1923、平川1977）、④天平5年（733）に高清水岡に移転した出羽柵（後の秋田城）とみる見解（高橋1971）、などがある。

これまで見てきたように、大又Ⅱ遺跡の立地、Ⅰ期遺構の内容、周囲が削平を受ける前の遺跡の規模などを考えると「河辺郡衙」の可能性も考えられる。そして、史料2の「河辺府」を①の見解を採用した場合、大又Ⅱ遺跡がこの文献史料に関わる遺跡となる可能性がある。この点については、「河辺府」が何を指すのかという文献学上の問題もあるが、今後の検討課題である。

史料3は、元慶二年（878）に勃発した夷俘の反乱について戦況を伝えるものである。この記事により、当初に反乱軍が秋田城を占拠し、政府軍は秋田城を放棄し「秋田営」というところに退いていることがわかる。この「秋田営」について、熊田氏は「雄物川河口南岸にあったと推定され、一般に臨時に置かれた軍事的屯営とみられているが、むしろ野代営とともに水陸あわせた交通の要衝に置かれた恒常的施設とみるべき」との見解を示している（熊田2004）。確かに、元慶の乱の戦況の推移をみれば、秋田営を臨時的に急遽造営したとは考えにくく、既にあった施設に退き、「秋田営」と呼んだ可能性がある。雄物川河口南岸ではなく岩見川南岸ではあるが、大又Ⅱ遺跡は熊田氏が推定するような「秋田営」の諸条件を満たすものである。また、大又Ⅱ遺跡は元慶の乱（878）を境に、Ⅰ期遺構からⅡ期遺構へと大きく変化している。以上のような点から、大又Ⅱ遺跡は元慶の乱期の「秋田営」と呼ばれた施設の候補地である可能性も指摘しておきたい。

おわりに

秋田市雄和田草川字大又地内に所在し、岩見川左岸の自然堤防上に立地する大又Ⅱ遺跡を、農地集積加速化基盤整備事業に伴う発掘調査を行い、以下のような成果を得た。

①掘立柱建物跡（SB）7棟、柱列堀（SA）1条、柱列跡（SA）7条、溝跡（SD）7条、竪穴状遺構（SI）1基、土坑（SK）50基、ピット（SP）296基、性格不明遺構（SX）1基を検出した。このうち、遺跡の東西を横断するように検出されたSA01柱列堀跡と同位置に作り替えられたSD01構跡の区画施設は、本遺跡を特徴づける遺構である。

②大又Ⅱ遺跡は、古代（奈良・平安時代）の集落跡であり、Ⅰ期（8世紀中葉?～9世紀第3四半期）、Ⅱ期（9世紀第4四半期～10世紀第1四半期・第2四半期）、Ⅲ期（10世紀第2四半期以降、11～12世紀代か?）という3時期の変遷が確認された。

③各期の遺構内容は、大きく異なっている。Ⅰ期は区画施設がSA01柱列堀である段階で、SB01・02のような柱掘り方が隅丸方形の掘立柱建物が伴う。このⅠ期の区画施設である柱列堀は、柱痕跡から直径16～35cmと推定される丸材を用いている。Ⅱ期の区画施設は、Ⅰ期の柱列堀の柱は悉く抜き取り、同位置に幅約2mの大溝（SD01）として作り直している。Ⅱ期に伴う遺構は、SI01等の竪穴状遺構等で、小鍛冶等を行っている。Ⅲ期は区画施設である溝跡を完全に埋め立て、柱掘り方が丸形の掘立柱建物を伴う。

④Ⅰ期遺構は、秋田県南秋田郡五城目町の石崎遺跡と比較できるような、「官」的な要素が強い。Ⅱ期遺構は、戸島上野Ⅰ遺跡（上野遺跡）などの遺跡と類似した性格をもつ。Ⅲ期遺構の構築年代は不明な点が多いが、近隣の虚空蔵大台滝遺跡と同時期の11世紀代まで下る可能性がある。

⑤文献史料に出てくる「助川」村落の一部にあたる可能性が高く、また、天平宝字年間（8世紀中葉）に設

置された「助河駅家」、延暦23年(804)の文献史料にみられる「河辺府」、元慶の乱(878)時に政府軍が一時的に退却したとされる「秋田營」とも無関係ではないだろう。このような文献史料と考古学的調査成果との対比については、今後さらに詳細な検討を行っていきたい。

註1：これ以降における古代出土土器の年代比定は、以下一連の秋田城跡出土土器編年成果に基づき記述する。

小松正夫 1992「秋田城とその周辺地域の土器様相(試案)―第54次調査の木簡・漆紙文書併出土器を中心に―」『第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料』pp. 139-144

伊藤武士 1997「出羽における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』7 pp. 32-44

小松正夫・日野久・西谷隆・伊藤武士 1997「秋田城跡出土土器と周辺窯の須恵器編年(試案)」『日本考古学協会 1997年度秋田大会蝦夷・律令国家・日本海―シンポジウムⅡ・資料集―』pp. 18-30

秋田市 2001「第7章 秋田城跡の発掘調査 九 秋田城跡出土の土器編年」『秋田市史 第7巻 古代史料編』pp. 383-390

秋田市教育委員会 2007「秋田城跡の土器編年」『秋田城跡Ⅱ―鶴ノ木地区―』pp. 340-345

神田和彦 2010「ケズリのある赤い坏―古代秋田郡域の赤褐色土器坏B―」『北方世界の考古学』すいれん舎 pp. 187-210

註2：赤褐色土器の呼称と坏A・Bの分類については、酸化炎焼成、非内黒、ロクロからの切り離しが回転・静止糸切りのあるものを赤褐色土器とし、坏類の底部から体部下端および下半にかけてケズリ調整を施すものを坏B、無調整のものを坏Aとしている。

註3：報告書刊行時は「上野遺跡」と呼ばれていたが、現在は「戸島上野Ⅰ遺跡」と整理されている。

註4：文献史料の書き下し文については、秋田市2001『秋田市史 第7巻 古代資料編』に従った。

引用文献

秋田県教育委員会 2000『上野遺跡―日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』秋田県文化財調査報告書第295集

秋田県教育委員会 2007『虚空蔵大台滝遺跡―主要地方道秋田御所野雄和線秋田空港アクセス道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―』秋田県文化財調査報告書第416集

秋田市 2001『秋田市史 第七巻 古代資料編』

秋田市教育委員会 1985『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書―下堤E遺跡、下堤F遺跡、坂ノ上F遺跡、狸崎A遺跡、湯ノ沢D遺跡、深田沢遺跡―』

今泉隆雄 1995「秋田城の初歩的考察」『律令国家の地方支配』虎尾俊哉編、吉川弘文館(今泉隆雄2015『古代国家の東北辺境支配』吉川弘文館、pp. 425-471に所収)

利部修 2008『出羽の古代土器』同成社

加藤孝・高橋富雄 1971『石崎遺跡』秋田県五城目町石崎部落

神田和彦 2005「秋田平野周辺における集落の様相」『第31回古代城柵検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会、pp. 113-140

神田和彦 2007「元慶の乱と古代地域社会―秋田平野における古代集落遺跡の分析を中心として―」『考古学談叢』東北大学大学院文学研究科考古学研究室 須藤隆先生退任記念論文集刊行会、pp. 665-694

神田和彦 2010「ケズリのある赤い坏―古代秋田郡域の赤褐色土器坏Bについて―」『北方世界の考古学』すいれん舎、pp. 187-210

第4章 まとめ

- 喜田貞吉 1923 「庄内と日高見」『社会史研究』第9巻第1号・2号（喜田貞吉 1980『喜田貞吉著作集第12巻 齊東史話・紀行文』平凡社、pp. 282-434 に所収）
- 熊谷公男 2021 『秋田城と元慶の乱-外からの視点でみる古代秋田の歴史-』高志書院
- 熊田亮介 1986 「元慶の乱関係史料の再検討-『日本三代実録』を中心として-」『新潟大学教育学部紀要人文科学編』27(2)（熊田亮介 2003 『古代国家と東北』吉川弘文館 pp. 226-273 所収）
- 熊田亮介 2004 「第三節 元慶の乱と秋田 一 元慶の乱の勃発」『秋田市史 第一巻 先史・古代通史編』pp. 492-502
- 五城目町教育委員会・石崎遺跡発掘調査団 1975 『石崎遺跡発掘調査報告 第1-第3 回合報』
- 櫻田隆 1993 「『砂底』土器考」『翔古論聚-久保哲三先生追悼論文集』、pp. 353-370
- 高橋富雄 1971 「秋田城をめぐる諸問題」『日本歴史』281、p1~12
- 新野直吉 1968 「元慶の乱」『秋大史学』15、pp. 20-39
- 新野直吉 1971 「「元慶の乱」の史的意義」『歴史』71、pp. 1-12
- 新野直吉 1982 『秋田の歴史』秋田魁新報社
- 新野直吉・船木義勝 1990 『払田柵の研究』文献出版
- 平川南 1977 「出羽国府論」『宮城県多賀城跡調査研究所研究紀要』IV（平川南 2014 「文字史料からみた出羽国府論」として『律令国郡里制の実像（上）』吉川弘文館、pp. 156-180 に所収）
- 門間光夫 1968 「推定古代郡衙址「石崎遺跡」の調査概報」『秋大史学』（15）、pp. 13-19
- 横手市教育委員会 2009 『大鳥井山遺跡 第9次・第10次・第11次調査』横手市文化財調査報告第12集
- 吉田東伍 1907 「出羽國府遷廢考」『歴史地理』10(3)、pp. 1-16

別編 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

大又Ⅱ遺跡（秋田県秋田市）の測定対象試料は、柱列を伴う古代の溝跡から出土した炭化物9点である（第33表）。試料①～⑥は溝を掘り、柱列を立てた際の版築状の埋土、⑦、⑧はその柱を抜き取った後の埋土、⑨は溝廃絶時の埋土から出土した。①～⑧は十和田aと考えられる火山灰降下前、⑨は降下後と捉えられている。

2 化学処理工程

（1）炭化物①～⑤、⑦～⑨の化学処理

- 1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」第33表に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

（2）炭化物⑥の化学処理

この試料は、土塊に含まれる炭化物の細片を集めて試料としたが、試料量が十分でないため、通常行う（1）2）のAAA処理を行わず、酸処理のみに留めた。

- 1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- 2) 酸処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。処理には1mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用い、第33表に「HCl」と記載する。

以下、（1）3）以降と同じ。

3 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- （1） $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値

- である（第 33 表）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期(5568 年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第 33 表に、補正していない値を参考値として第 34・35 表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第 33 表に、補正していない値を参考値として第 34・35 表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.3\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20 較正曲線 (Reimer et al. 2020) を用い、OxCal v4.4 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 34・35 表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

5 測定結果

測定結果を第 33～35 表に示す。

試料 9 点の ^{14}C 年代は、 $4840 \pm 30\text{yrBP}$ (試料⑧) から $930 \pm 20\text{yrBP}$ (試料⑨) とかなり大きな幅を持つ。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い⑧が $3646 \sim 3538\text{cal BC}$ の間に 2 つの範囲で示され縄文時代前期に相当 (小林編 2008、小林 2017)、最も新しい⑨が $1046 \sim 1160\text{cal AD}$ の間に 3 つの範囲で示され古代に相当する。

試料が出土した遺構は古代に構築され、廃絶したと考えられるのに対して、大幅に古い年代値を示した試料が見られる。また、遺構の変遷から試料①～⑥→試料⑦、⑧→試料⑨という順序が想定され、試料①～⑥と試料⑦、⑧の間の年代差は認められないが、試料①～⑧と試料⑨の前後関係には整合する年代値となっている。十和田 a と考えられる火山灰と試料の年代値の関係も矛盾しない。古い炭化物が含まれることについては、溝の掘削や版築に伴う土砂の移動等の土木工事によって、当時の地表面より下層に包含されていた古い時代の炭化物が古代の遺構埋土に含まれることになった可能性がある。

試料の炭素含有率を確認すると、⑥を除く 8 点はすべて 60%を超える十分な値だった。⑥は上述の通り土塊に含まれる炭化物の細片を集めて試料としたが、土と炭化物の境界が明確でなく、土を十分除去できなかった。この試料の炭素含有率は 42%と炭化物としては若干低く、また前処理を酸処理のみに留めたことから、測定された炭素の由来に注意を要する。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 小林謙一 2017 縄文時代の実年代 —土器型式編年と炭素 14 年代—, 同成社
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
- Reimer, P. J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), *Radiocarbon* 62(4), 725-757
- Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第 33 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-211486	①	S A01 (LL53 グリッド) F・G層 / 取上げNo.:524	炭化物	AaA	-24.54 ± 0.20	2,440 ± 20	73.78 ± 0.22
IAAA-211487	②	S A01 (LK52 グリッド) F・G層 / 取上げNo.:647	炭化物	AAA	-23.12 ± 0.20	1,320 ± 20	84.89 ± 0.24
IAAA-211488	③	S A01 (MG53・54 グリッド) p-p' 断面 G②層 / 取上げNo.:685	炭化物	AAA	-24.16 ± 0.23	2,460 ± 20	73.64 ± 0.22
IAAA-211489	④	S A01 (MA54 グリッド) ササ' 断面 4層 (H層) / 取上げNo.:467	炭化物	AAA	-23.49 ± 0.19	3,900 ± 30	61.52 ± 0.19
IAAA-211490	⑤	S A01 (LT54 グリッド) i-i' 断面 H-i 4層 / 取上げNo.:667	炭化物	AAA	-20.82 ± 0.22	1,260 ± 20	85.53 ± 0.24
IAAA-211491	⑥	S A01 (LL52・53 グリッド) b-b' 断面東側 柱痕跡直上 / 取上げNo.:703	炭化物	HCl	-22.40 ± 0.23	2,490 ± 20	73.38 ± 0.21
IAAA-211492	⑦	S A01 (LQ54・55 グリッド) E層 / 取上げNo.:469	炭化物	AAA	-25.73 ± 0.21	1,350 ± 20	84.51 ± 0.24
IAAA-211493	⑧	S A01 (LK52 グリッド) E層 / 取上げNo.:646	炭化物	AAA	-23.73 ± 0.19	4,840 ± 30	54.78 ± 0.18
IAAA-211494	⑨	S D01 (MB54・55・MC54・55 グリッド) A②層 / 取上げNo.:270	炭化物	AAA	-22.94 ± 0.20	930 ± 20	89.08 ± 0.25

[IAA 登録番号 : #B026]

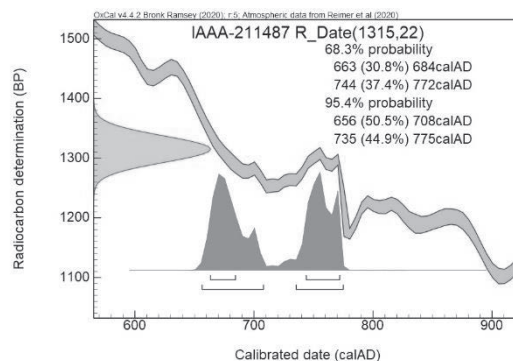
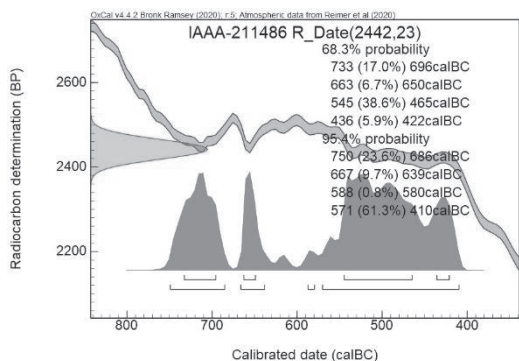
第 34 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

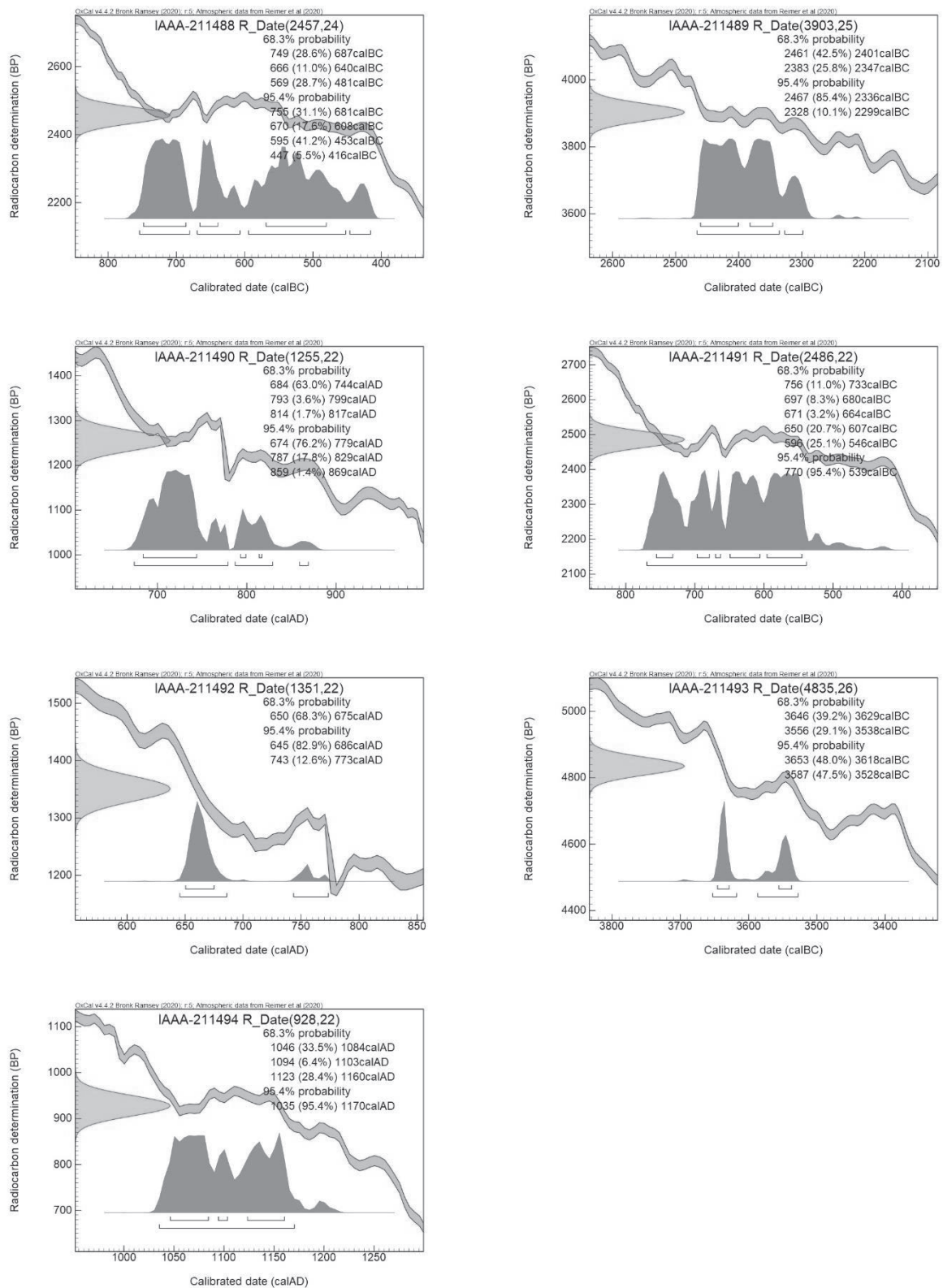
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-211486	2,430 ± 20	73.85 ± 0.22	2,442 ± 23	733calBC - 696calBC (17.0%) 663calBC - 650calBC (6.7%) 545calBC - 465calBC (38.6%) 436calBC - 422calBC (5.9%)	750calBC - 686calBC (23.6%) 667calBC - 639calBC (9.7%) 588calBC - 580calBC (0.8%) 571calBC - 410calBC (61.3%)

第 35 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、曆年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用(yrBP)	1 σ 曆年代範圍	2 σ 曆年代範圍
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-211487	1,280 ± 20	85.22 ± 0.23	1,315 ± 22	663calAD - 684calAD (30.8%) 744calAD - 772calAD (37.4%)	656calAD - 708calAD (50.5%) 735calAD - 775calAD (44.9%)
IAAA-211488	2,440 ± 20	73.77 ± 0.22	2,457 ± 24	749calBC - 687calBC (28.6%) 666calBC - 640calBC (11.0%) 569calBC - 481calBC (28.7%)	755calBC - 681calBC (31.1%) 670calBC - 608calBC (17.6%) 595calBC - 453calBC (41.2%) 447calBC - 416calBC (5.5%)
IAAA-211489	3,880 ± 30	61.70 ± 0.19	3,903 ± 25	2461calBC - 2401calBC (42.5%) 2383calBC - 2347calBC (25.8%)	2467calBC - 2336calBC (85.4%) 2328calBC - 2299calBC (10.1%)
IAAA-211490	1,190 ± 20	86.27 ± 0.24	1,255 ± 22	684calAD - 744calAD (63.0%) 793calAD - 799calAD (3.6%) 814calAD - 817calAD (1.7%)	674calAD - 779calAD (76.2%) 787calAD - 829calAD (17.8%) 859calAD - 869calAD (1.4%)
IAAA-211491	2,440 ± 20	73.77 ± 0.21	2,486 ± 22	756calBC - 733calBC (11.0%) 697calBC - 680calBC (8.3%) 671calBC - 664calBC (3.2%) 650calBC - 607calBC (20.7%) 596calBC - 546calBC (25.1%)	770calBC - 539calBC (95.4%)
IAAA-211492	1,360 ± 20	84.38 ± 0.23	1,351 ± 22	650calAD - 675calAD (68.3%)	645calAD - 686calAD (82.9%) 743calAD - 773calAD (12.6%)
IAAA-211493	4,810 ± 30	54.92 ± 0.18	4,835 ± 26	3646calBC - 3629calBC (39.2%) 3556calBC - 3538calBC (29.1%)	3653calBC - 3618calBC (48.0%) 3587calBC - 3528calBC (47.5%)
IAAA-211494	900 ± 20	89.45 ± 0.24	928 ± 22	1046calAD - 1084calAD (33.5%) 1094calAD - 1103calAD (6.4%) 1123calAD - 1160calAD (28.4%)	1035calAD - 1170calAD (95.4%)

[参考値]





第 62 図 暦年較正年代グラフ (参考)

第2節 テフラ分析

藤根 久・鈴木正章（パレオ・ラボ）

1 はじめに

秋田市雄和田草川字大又地内に所在する大又Ⅱ遺跡の調査において、遺構の埋土からテフラが検出された。ここでは、このテフラ試料について火山ガラスと鉱物組成、火山ガラスの屈折率測定を行い、テフラの同定を行った。

2 試料と方法

分析試料は、SD01の埋土から採取されたテフラ試料1点である（第36表）。

第36表 分析試料とその特徴

分析No.	遺構名	グリッド	層位	取上げNo.	堆積物の色調	予想されるテフラ
1	SD01	LR54・55・LS54・55	B③層	552	にぶい黄褐色（10YR 5/4）、砂質テフラ	To-a

試料は、以下の方法で処理した。

湿潤重量 30g 程度を秤量した後、1φ（0.5mm）、2φ（0.25mm）、3φ（0.125mm）、4φ（0.063mm）の4枚の篩を重ね、湿式篩分けをした。

4φ篩残渣について、重液（テトラプロモエタン、比重 2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。軽鉱物については、ガムクロラルで封入してプレパラートを作製し、軽鉱物組成と火山ガラスの形態分類を行った。火山ガラスの形態は、町田・新井（2003）の分類基準に従って、バブル型平板状（b1）、バブル型Y字状（b2）、軽石型繊維状（p1）、軽石型スポンジ状（p2）、急冷破砕型フレーク状（c1）、急冷破砕型塊状（c2）に分類した。重鉱物については、ガムクロラルで封入してプレパラートを作製し、斜方輝石（Opx）、単斜輝石（Cpx）、角閃石（Ho）、磁鉄鉱（Mg）を同定・計数した。

4φ軽鉱物中の火山ガラスは、横山ほか（1986）に従い、温度変化型屈折率測定装置（株式会社古澤地質製、MAIOT）を用いて屈折率測定を行った。

3 結果

以下に、試料の特徴、鉱物組成、火山ガラスの形態分類、屈折率の測定結果について述べる。

第37表 テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果

分析No.	処理重量（g）	砂粒分の粒度組成（重量g）				軽・重鉱物組成（重量g）	
		1φ	2φ	3φ	4φ	軽鉱物	重鉱物
1	12.06	0.00	0.10	1.75	1.34	0.12	0.01

[分析 No. 1（SD01）]

分析試料は、にぶい黄褐色（10YR 5/4）の砂質テフラである。篩分けした結果、3φ篩残渣が最も多い。4φ篩残渣の重液分離では、軽鉱物の割合が非常に高い（第37表）。

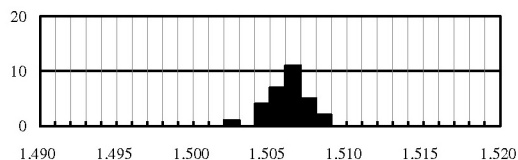
軽鉱物では、火山ガラスが多く含まれ、長石（Pl）や石英（Qu）、雲母（Bi）を伴う。火山ガラスは、軽石型ガラス（p1、p2）が多く、バブル型ガラス（b1、b2）を伴う。重鉱物では、斜方輝石（Opx）が多く、単斜輝石（Cpx）や磁鉄鉱（Mg）を伴う。また、角閃石（Ho）も少量含む（第38表）。

火山ガラスの屈折率は、範囲 1.5029-1.5083（平均値 1.5061）であった（第 63 図）。

第38表 4φ 篩残渣中の鉱物組成

分類群 分析No.	石英 (Qtz)	長石 (Pl)	雲母 (Bi)	不明 (Opq)	火山ガラス						ガラス 合計	軽鉱物 合計	重鉱物					重鉱物 の合計
					バブル(泡)型		軽石型		急冷破砕型				斜方輝石 (Opx)	単斜輝石 (Cpx)	角閃石 (Ho)	磁鉄鉱 (Mg)	不明 (Opq)	
					平板状 (b1)	Y字状 (b2)	繊維状 (p1)	スポンジ状 (p2)	フレーク状 (c1)	塊状 (c2)								
1	2	21	2	56	16	41	24	88			169	250	106	39	9	73	23	250

分析No. 対称



範囲(range)	平均 (mean)	個数
1.5029 - 1.5083	1.5061	30

第63図 火山ガラスの屈折率測定結果

4 考察

SD01 のテフラ試料は、軽石型の火山ガラスが特徴的に多く、バブル型ガラスを含んでいた。また、重鉱物では、斜方輝石 (opx) と単斜輝石 (cpx) を特徴的に含んでいた。火山ガラスの屈折率は、1.503-1.508 範囲を示した。以上の分析結果から、このテフラは十和田 a テフラ (To-a) と同定される。

十和田 a テフラ (To-a) は、AD915 年に十和田火山から噴火したテフラである。降下軽石 (pfa)、降下火山灰 (afa)、火砕流堆積物 (pf1) からなり、南側 300km、東側 80km の、10,000km² の範囲に及ぶ。テフラは、斜方輝石 (opx)、単斜輝石 (cpx)、黒曜石 (ob) を特徴的に伴う。火山ガラスは、主に軽石型ガラスで構成され、火山ガラスの屈折率は 1.500-1.508 である。また、単斜輝石の屈折率 (γ) は 1.706-1.708 である (町田・新井, 2003)。

引用文献

町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス. 336p, 東京大学出版会.
 横山卓雄・檀原 徹・山下 透 (1986) 温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定. 第四紀研究, 25, 21-30.

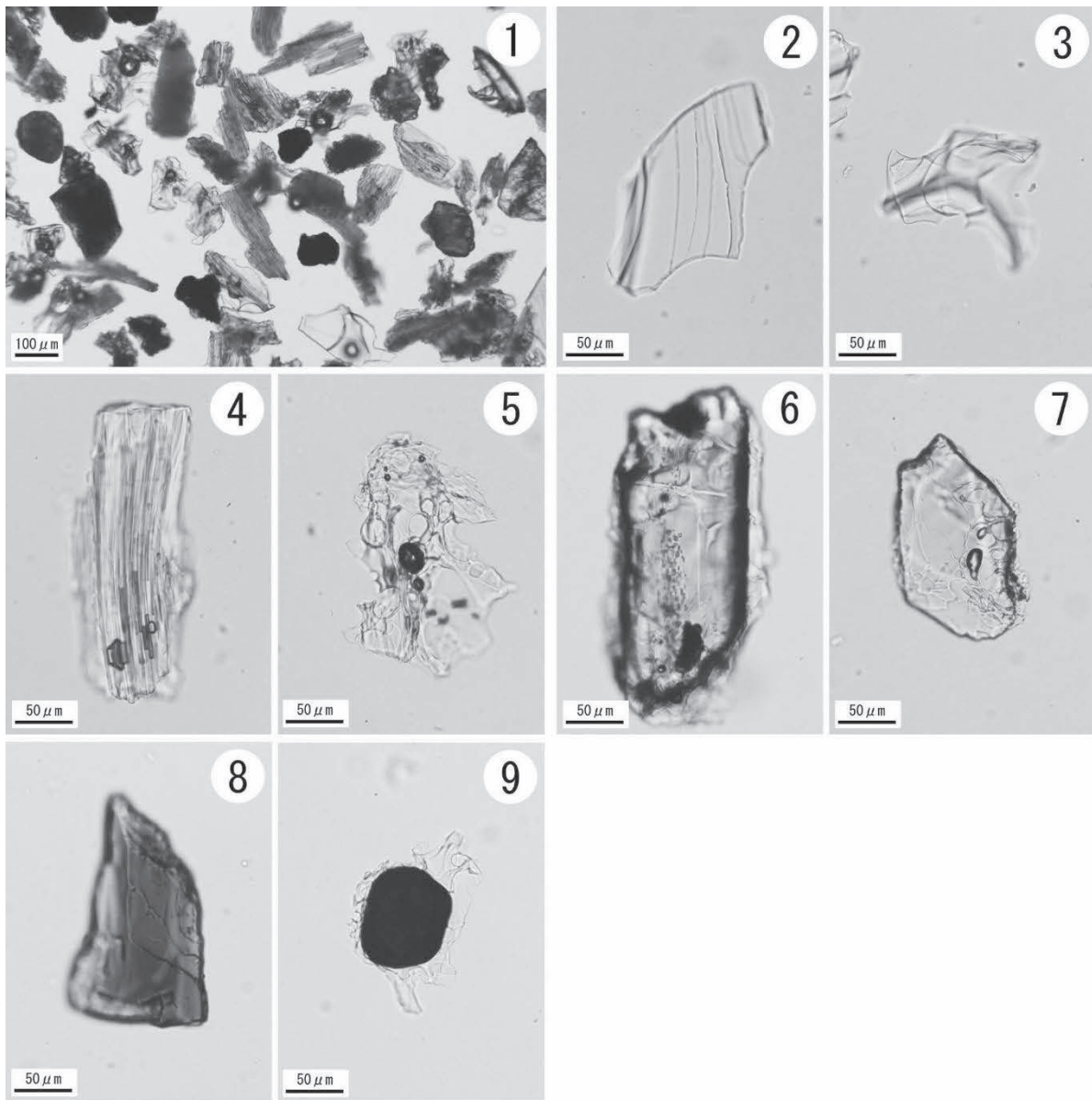


写真2 4φ残渣中のテフラ粒子の偏光顕微鏡写真

- 1. 分析試料 (4φ残渣中の軽鋳物) 2. バブル型平板状ガラス (b1)
- 3. バブル型Y字状ガラス (b2) 4. 軽石型繊維状ガラス (p1)
- 5. 軽石型スポンジ状ガラス (p2) 6. 斜方輝石 (Opx)
- 7. 単斜輝石 (Cpx) 8. 角閃石 (Ho) 9. 磁鉄鉱 (Mg)



1 調査区全景（南東から）



2 調査区全景（真上から、写真上が北方向）



3 A区 SA01・SD01 全景 (西から)



4 A区 SA01・SD01 g-g' 土層断面 (北東から)



5 A区 SA01・SD01 LL-LN間 柱痕跡検出 (北西から)



6 SD01 出土赤褐色土器 集合写真 (右奥:A層、左奥:B層、手前:C・D層)



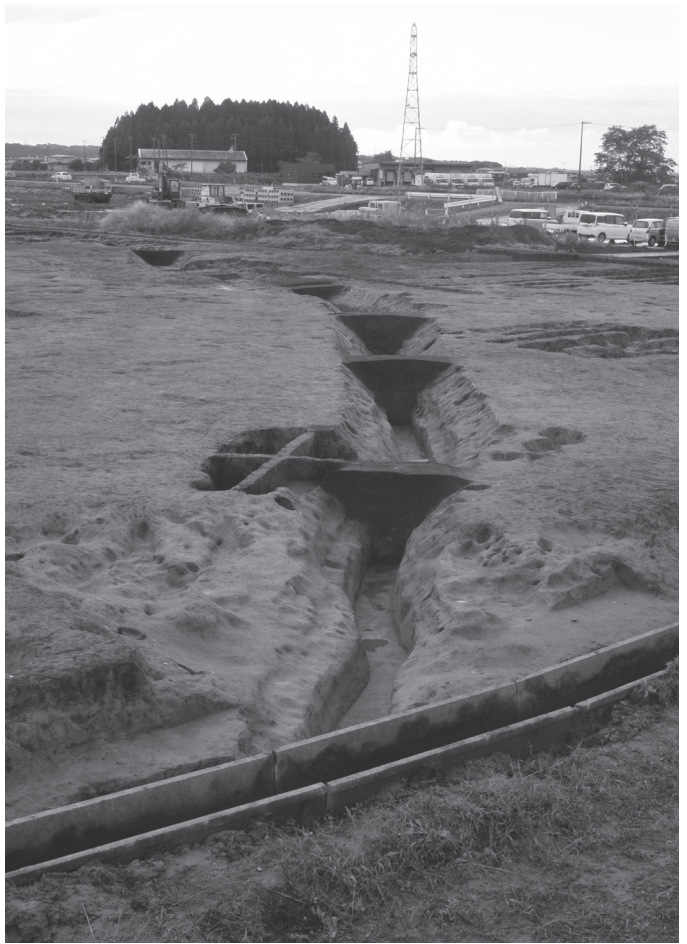
7 大又Ⅱ遺跡周辺の空中写真① 国土地理院（平成21年（2009）撮影：CT020094-C18-13）



8 大又Ⅱ遺跡周辺の空中写真② 国土地理院（昭和23年（1948）撮影：USA-M1072-25）



9 A区 SD01 検出状況 (東から)



10 A区 SA01・SD01 完掘状況 (東から)



11 B区 SD01 検出状況 (西から)



12 B区 SA01・SD01 完掘状況 (西から)



13 A区 SA01・SD01 b-b' 土層断面 (西から)



14 A区 SA01・SD01 LJ-LL間 完掘状況 (東から)



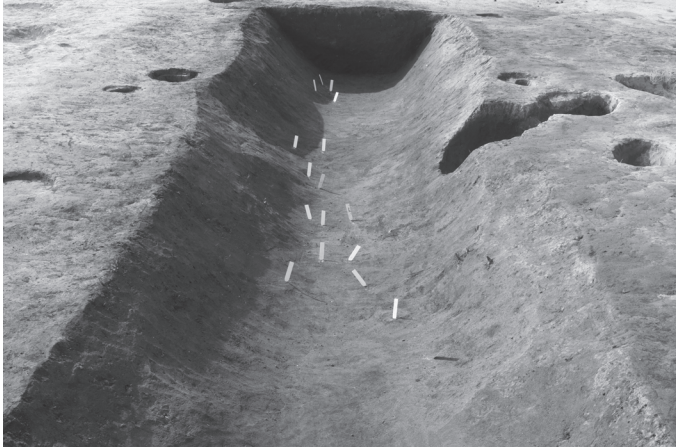
15 B区 SA01・SD01 完掘状況 (東から)



16 A区 SD01 A層 鉄滓出土状況 (西から)



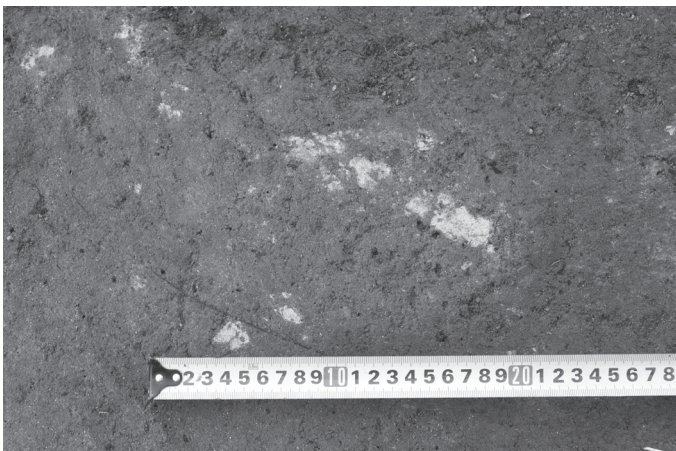
17 A区 SD01 A層 フイゴ羽口 (No. 21) 出土状況 (南から)



18 A区 SD01 LN-LP間 B層十和田 a 火山灰検出状況 (北西から)



19 B区 SD01 ML-MN間 B層 十和田 a 火山灰検出状況 (東から)



20 A区 SD01 B層 十和田 a 火山灰近景 (北から)



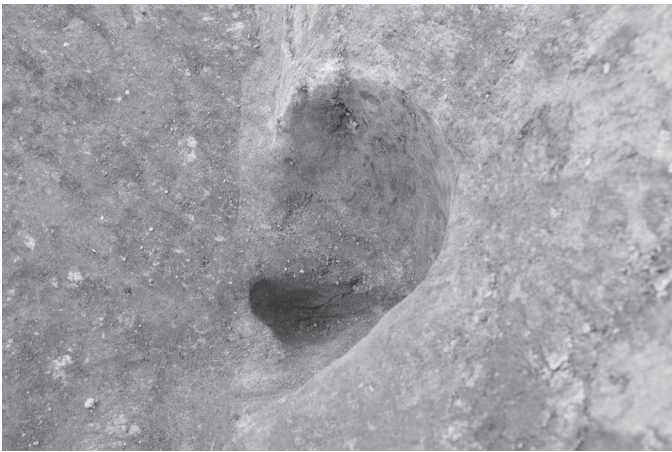
21 B区 SD01 B層 十和田 a 火山灰近景 (北から)



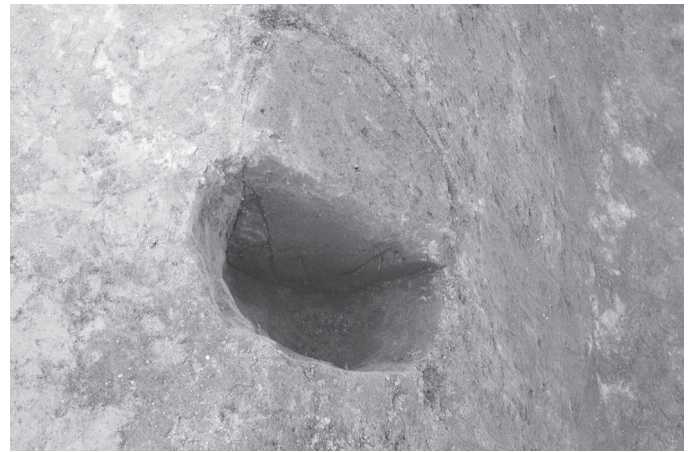
22 A区 SD01 o-o' ベルト 遺物 (No. 43) 出土状況 (東から)



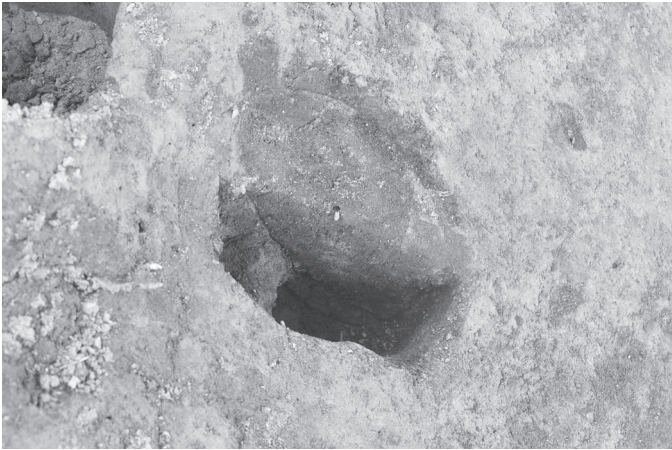
23 A区 SD01 LL-LN間 C・D層 検出状況 (東から)



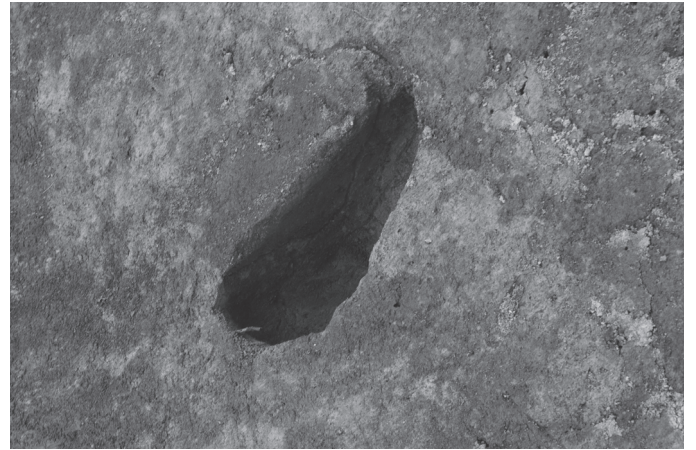
24 A区 S P065 土層断面 (東から)



25 A区 S P074 土層断面 (東から)



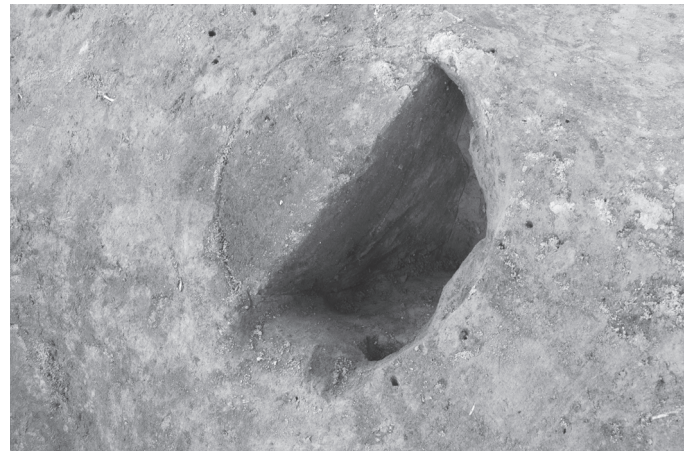
26 A区 S P080 土層断面 (東から)



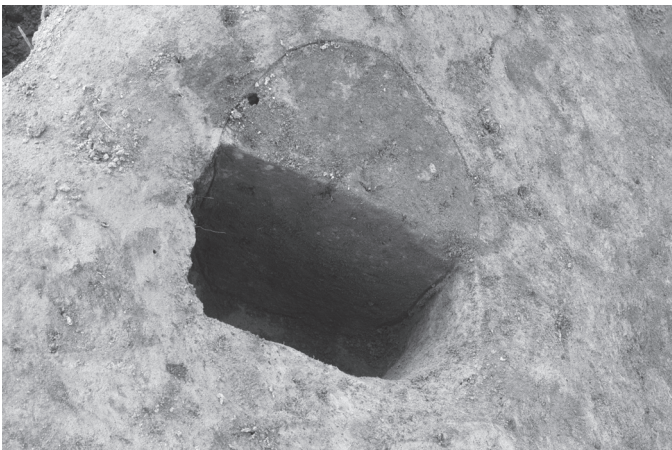
27 A区 S P094 土層断面 (東から)



28 A区 S P097 土層断面 (東から)



29 A区 S P098 土層断面 (東から)



30 A区 S P136 土層断面 (東から)



31 A区 S P137 土層断面 (東から)



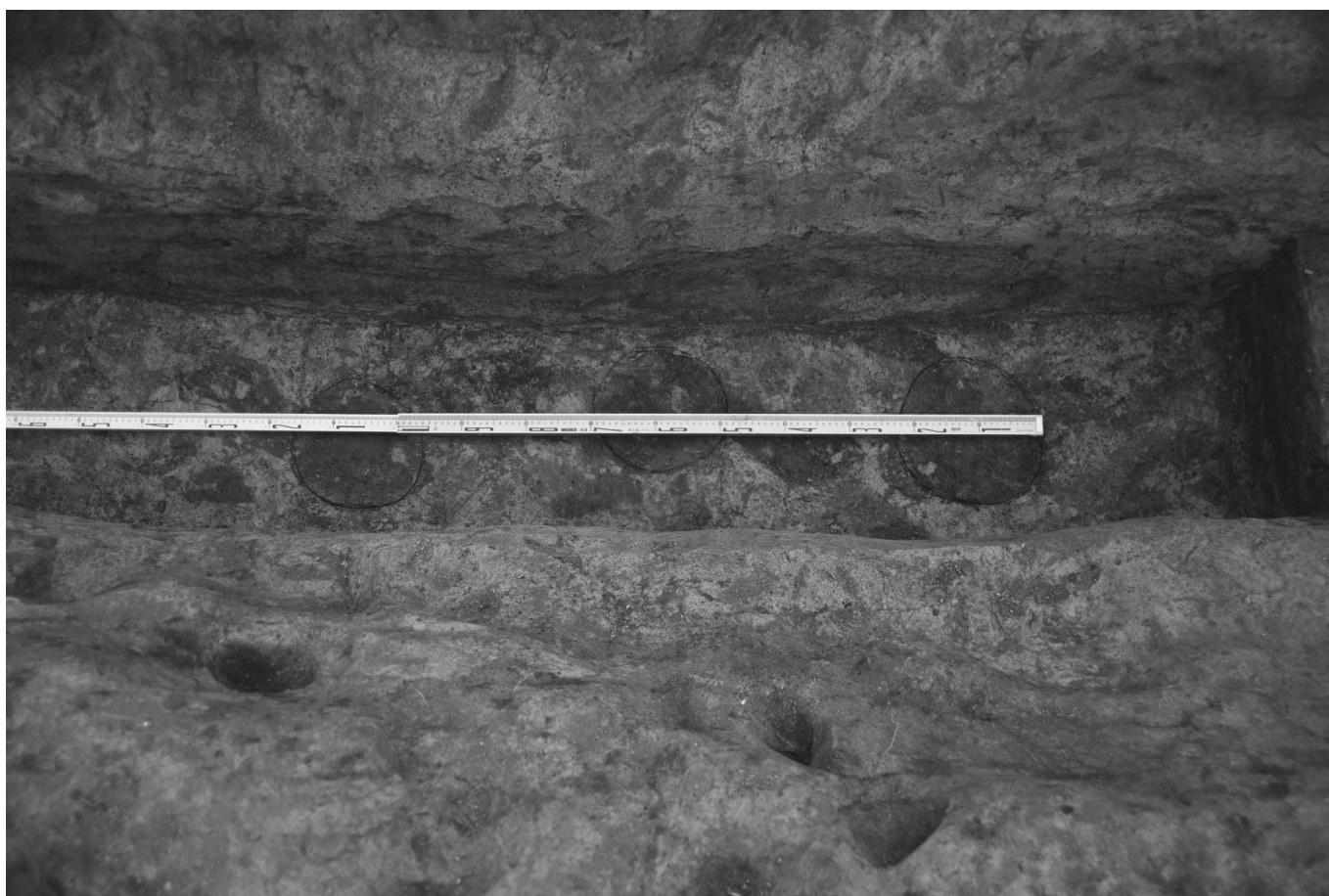
32 B区 SA01・SD01 MO-MP間 G層検出 (東から)



33 A区 SD01 LP-LR間 工具痕検出 (南東から)



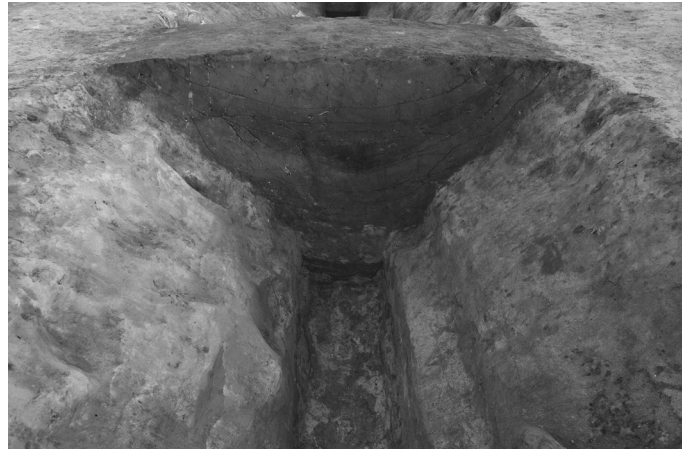
34 A区 SA01・SD01 a-a' 土層断面 (西から)



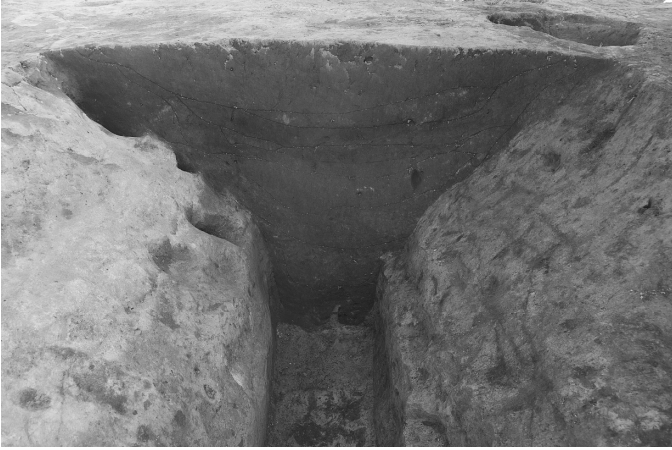
35 SA01 LL-LN間 柱痕跡検出 (北から)



36 A区 SA01・SD01 c-c' 土層断面 (西から)



37 A区 SA01・SD01 d-d' 土層断面 (西から)



38 A区 SA01・SD01 f-f' 土層断面 (西から)



39 A区 SA01・SD01 i-i' 土層断面 (西から)



40 A区 SA01・SD01 j-j' 土層断面 (西から)



41 A区 SA01・SD01 k-k' 土層断面 (東から)



42 A区 SA01・SD01 l-l' 土層断面 (東から)



43 A区 SA01・SD01 m-m' 土層断面 (西から)



44 A区 SA01・SD01 n-n' 土層断面 (東から)



46 A区 SA01・SD01 p-p' 土層断面 (西から)



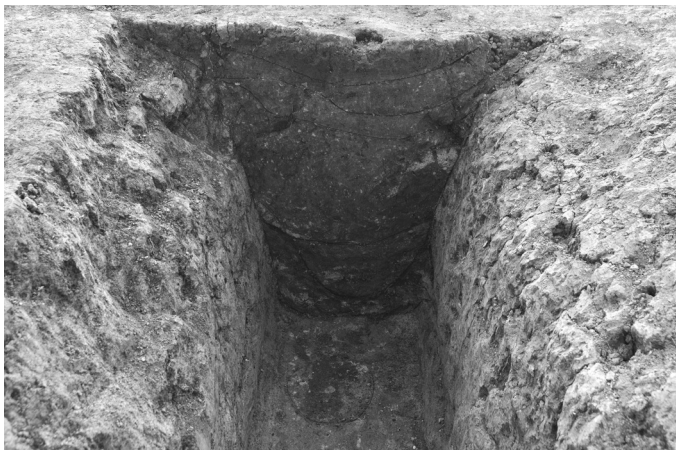
45 A区 SA01・SD01 o-o' 土層断面 (西から)



47 B区 SA01・SD01 q-q' 土層断面 (東から)



48 B区 SA01・SD01 r-r' 土層断面 (東から)



49 B区 SA01・SD01 s-s' 土層断面 (東から)



50 B区 SA01・SD01 t-t' 土層断面 (東から)



51 A区 SA01 P1 カ-カ' 土層断面 (南から)



52 A区 SA01 P2 キ-キ' 土層断面 (南から)



53 A区 SA01 P3 ク-ク' 土層断面 (南から)



54 A区 SA01 P4 コ-コ' 土層断面 (東から)



55 A区 SA01 サ-サ' 土層断面 (南東から)